

中 央 区 政 世 論 調 査

報 告 書

第 54 回 令和 6 年 5 月実施



は　じ　め　に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析した上での確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、「区長への手紙」、「区政への提案」など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で54回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「男女共同参画社会」「防犯対策」「スポーツ」「地域のコミュニティ活動」「築地魚河岸」「受動喫煙防止対策」「デジタル技術を活用した区民サービス」「広報」「環境」「伝統と文化」「施策の要望・評価」の16項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきますが、多くの皆さまに参考といただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和6年9月

中央区企画部広報課

I	調査のあらまし	1
1	調査の目的	3
2	調査の項目	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	3
5	地域区分図（地区別回収結果）	4
6	この報告書の見方	5
7	調査方法略歴	7
II	回答者の属性	9
1	性別	11
2	年齢	11
3	職業	11
4	居住地域	12
5	同居家族	12
6	家族構成	12
7	家族の状況	13
8	住居形態	13
9	国籍	14
10	ライフステージ（7分類）	14
III	地域別にみた回答者の属性	15
1	年齢	17
2	職業	17
3	同居家族	18
4	住居形態	18
5	ライフステージ	19
IV	調査結果の分析	21
【1	定住性】	23
(1)	居住年数	23
(2)	愛着心	26
(3)	定住意向	29

目 次

【2 防災対策】	32
（1）家庭での災害に対する備え	32
（2）在宅避難の認知度	39
（3）防災拠点・防災拠点運営委員会の認知度	41
（4）避難した際に心配なこと	47
（5）災害情報を得る手段として有効だと思うもの	51
【3 健康診査】	54
（1）健康診査の受診状況	54
（2）健康診査を受けなかった理由	57
【4 高齢者施策】	61
（1）要介護時における暮らし方	61
（2）区に望む高齢者保健福祉サービス	65
（3）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	68
【5 子育て支援】	70
（1）子育てに関する悩みの相談	70
（2）重要と考える子育て支援策	74
（3）さらに充実を図る必要がある子育て支援策	78
（4）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	82
【6 男女共同参画社会】	85
（1）男女の地位の平等感	85
（2）ワーク・ライフ・バランスの現在の状況	98
【7 防犯対策】	102
（1）不安に感じる犯罪	102
（2）防犯のために行っていること	106
（3）区に特に力を入れてほしい施策	110
【8 スポーツ】	114
（1）過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	114
（2）過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	119
（3）過去1年間にウォーキングや散歩をした場所	123
【9 地域のコミュニティ活動】	126
（1）5類感染症移行後のコミュニティ活動	126
（2）コミュニティに求めるもの	128

【10 築地魚河岸】	131
(1) 「築地魚河岸」への来場経験	131
(2) 「築地魚河岸」の利用目的	134
(3) 「築地魚河岸」に対する印象やイメージ	135
【11 受動喫煙防止対策】	137
(1) 「中央区たばこルール」の認知度	137
【12 デジタル技術を活用した区民サービス】	140
(1) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス	140
【13 広報】	144
(1) 広報紙の閲覧状況	144
(2) 区政情報を得る手段	147
(3) 区政情報の望ましい入手方法	151
【14 環境】	156
(1) 区内のみどり	156
(2) 環境を守るための取り組み	158
(3) 企業の責任としての取り組み	160
【15 伝統と文化】	163
(1) 中央区ならではの伝統と文化	163
(2) 伝統と文化を身近に感じているか	164
【16 施策の要望・評価】	165
(1) 区の施策の満足度と重要度	165
(2) 区の施策への要望	172
V 結果の数表	177
VI 使用した調査票	197

I 調査のあらまし

I 調査のあらまし

1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

2 調査の項目

今回の調査では、次の16項目について調査した。

- | | |
|--------------|------------------------|
| (1) 定住性 | (9) 地域のコミュニティ活動 |
| (2) 防災対策 | (10) 築地魚河岸 |
| (3) 健康診査 | (11) 受動喫煙防止対策 |
| (4) 高齢者施策 | (12) デジタル技術を活用した区民サービス |
| (5) 子育て支援 | (13) 広報 |
| (6) 男女共同参画社会 | (14) 環境 |
| (7) 防犯対策 | (15) 伝統と文化 |
| (8) スポーツ | (16) 施策の要望・評価 |

3 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満18歳以上の個人 |
| (2) 対象者 | 2,000人 |
| (3) 抽出方法 | 層化無作為抽出法
令和6年4月1日現在の住民基本台帳に登録された
満18歳以上の個人153,770人から抽出 |
| (4) 調査方法 | [配布] 郵送配布
[回収] 郵送回収またはインターネット回答 |
| (5) 調査時期 | 令和6年5月8日(水)～5月29日(水) |
| (6) 調査機関 | 株式会社ケー・デー・シー |

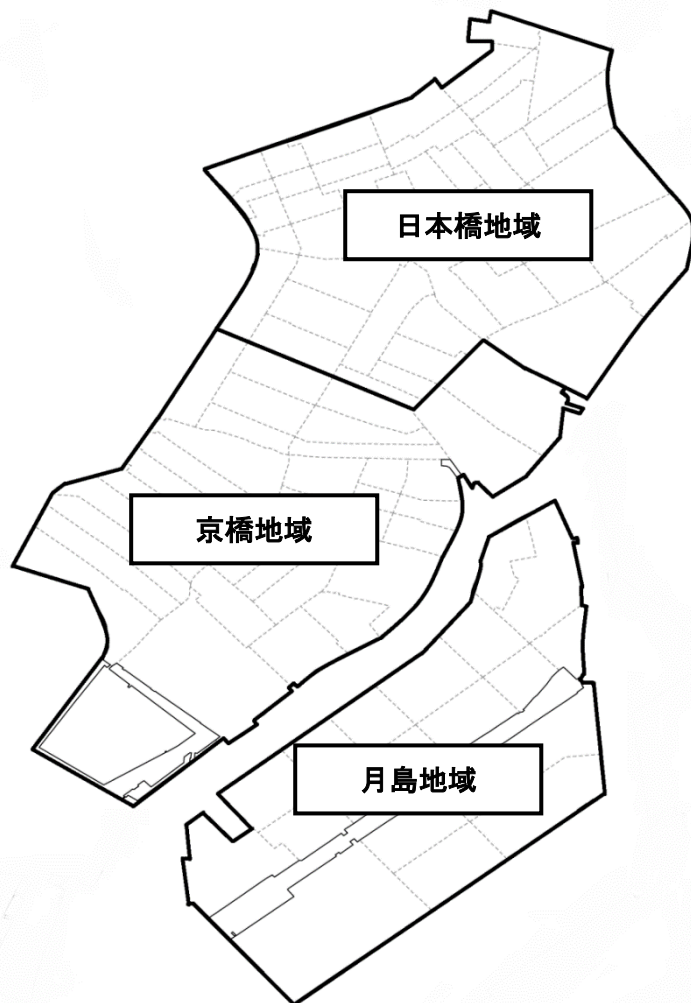
4 回収結果

標本数	有効回収数	有効回収率
2,000	875	43.8%

回収方法	有効回収数	有効回収率
郵送回収	545	62.3%
インターネット回答	330	37.7%
合 計	875	100.0%

5 地域区分図（地区別回収結果）

対象者の抽出および集計にあたっては、地域特性を把握するため、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。



地域名	該当町丁名	満 18 歳以上 人口 (母集団)	構成比	割当 標本数	有効 回収数	回収率
京橋地域	八重洲 2 丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川	37,520 人	24.4%	488	204	41.8%
日本橋地域	日本橋本石町、日本橋室町、日本橋本町、日本橋小舟町、日本橋小伝馬町、日本橋大伝馬町、日本橋堀留町、日本橋富沢町、日本橋人形町、日本橋小網町、日本橋蛸殻町、日本橋箱崎町、日本橋馬喰町、日本橋横山町、東日本橋、日本橋久松町、日本橋浜町、日本橋中洲、八重洲 1 丁目、日本橋、日本橋茅場町、日本橋兜町	47,678 人	31.0%	620	262	42.3%
月島地域	佃、月島、勝どき、豊海町、晴海	68,572 人	44.6%	892	388	43.5%
無回答		—	—	—	21	—
合 計		153,770 人	100.0%	2,000	875	43.8%

(注) 満 18 歳以上人口（母集団）は、令和 6 年 4 月 1 日現在

6 この報告書の見方

(1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超え
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問(性別、性／年齢別など)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに(上位10項目)や(5項目)などと書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。
- ⑨性別、性／年齢別のグラフでは、性別の質問で「回答しない」と回答された方が少ないため、「回答しない」のグラフは省略している。

(2) ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」(58.0%)が最も高いが、「独身期」(23.1%)や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」(15.4%)もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身(18～39歳、学生など：親と同居含む)
- ②家族形成期 = 子どものいない夫婦(18～39歳)、
子どもあり(一番上が小学校入学前)
- ③家族成長前期 = 子どもあり(一番上が小・中学生)
- ④家族成長後期 = 子どもあり(一番上が高・大学生)
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり
(一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など)
- ⑥高齢期 = 65歳以上で子どもあり
(一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など)
独身(65歳以上)、子どものいない夫婦(65歳以上)
- ⑦その他 = 独身(40～64歳)、子どものいない夫婦(40～64歳)

(3) 標本誤差

標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)および回答比率(P)によって異なる。

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数(サンプル数)
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,000	±1.90	±2.53	±2.90	±3.10	±3.16
875	±2.03	±2.70	±3.10	±3.31	±3.38
800	±2.12	±2.83	±3.24	±3.46	±3.54
500	±2.12	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が875で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.31%以内(56.69～63.31%)である」とみることができる。

7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

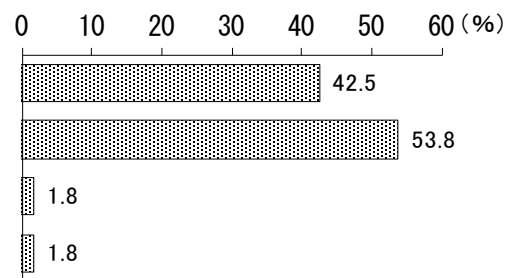
調査年	調査方法	説明	対象とした年齢
平成12年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成16年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成17年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成18年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成19年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成20年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成21年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成22年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成23年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成24年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成25年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成26年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成27年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成28年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成29年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成30年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和元年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和2年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和3年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和4年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和5年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収またはインターネット回答	満18歳以上
令和6年	郵送法	郵送配布－郵送回収またはインターネット回答	満18歳以上

Ⅱ 回答者の属性

Ⅱ 回答者の属性

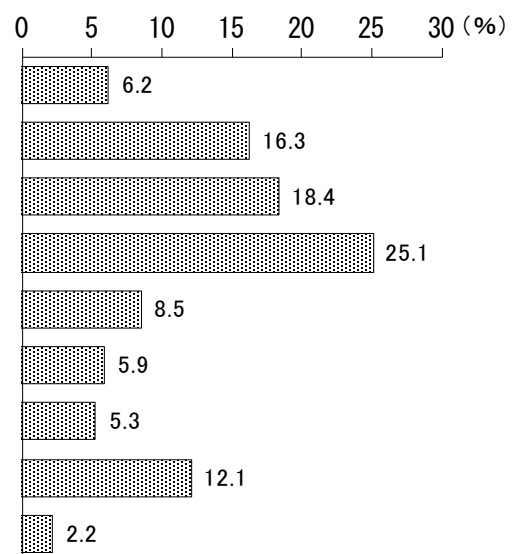
1 性別

	基数	構成比
1 男性	372	42.5%
2 女性	471	53.8
3 回答しない	16	1.8
(無 回 答)	16	1.8
合 計	875	100.0



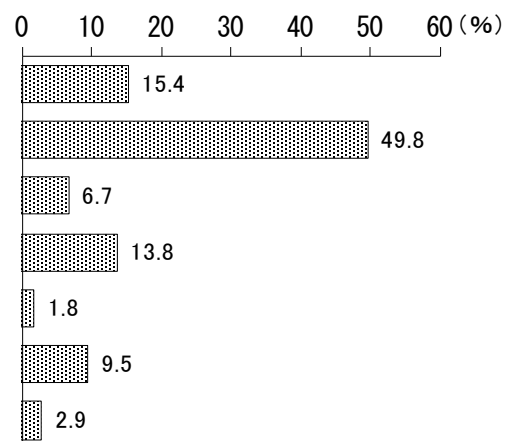
2 年齢

	基数	構成比
1 18～29歳	54	6.2%
2 30歳代	143	16.3
3 40歳代	161	18.4
4 50歳代	220	25.1
5 60～64歳	74	8.5
6 65～69歳	52	5.9
7 70～74歳	46	5.3
8 75歳以上	106	12.1
(無 回 答)	19	2.2
合 計	875	100.0



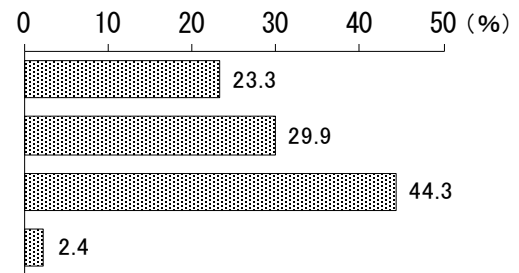
3 職業

	基数	構成比
1 自営業（家族従業を含む）	135	15.4%
2 勤め人	436	49.8
3 アルバイト・パートタイマー	59	6.7
4 無職（主婦・主夫）	121	13.8
5 無職（学生）	16	1.8
6 無職（その他）	83	9.5
(無 回 答)	25	2.9
合 計	875	100.0



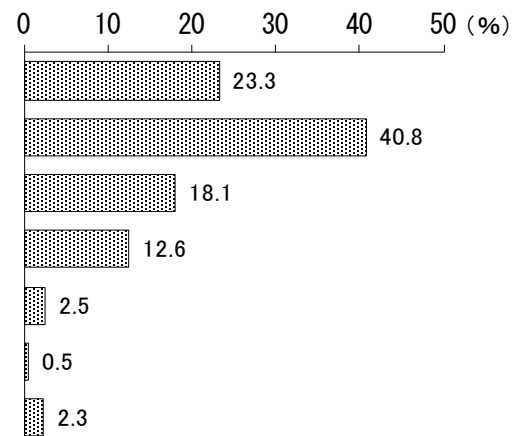
4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	204	23.3%
2 日本橋地域	262	29.9
3 月島地域	388	44.3
(無 回 答)	21	2.4
合 計	875	100.0



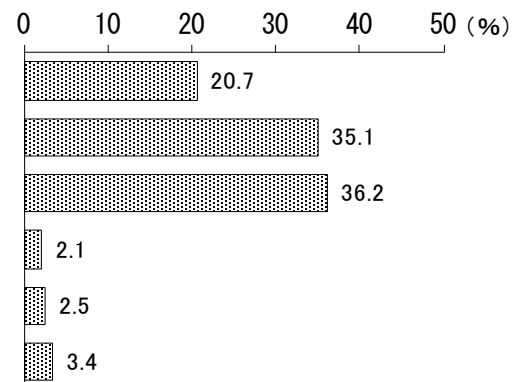
5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	204	23.3%
2 2人	357	40.8
3 3人	158	18.1
4 4人	110	12.6
5 5人	22	2.5
6 6人以上	4	0.5
(無 回 答)	20	2.3
合 計	875	100.0



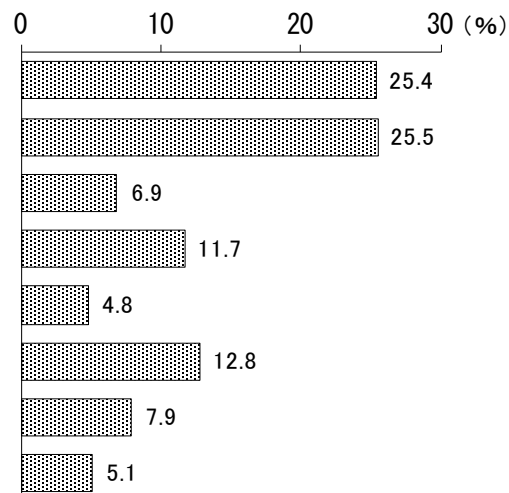
6 家族構成

	基数	構成比
1 単身 (本人のみ)	181	20.7%
2 夫婦のみ (1世代世帯)	307	35.1
3 親と子 (2世代世帯)	317	36.2
4 親と子と孫 (3世代世帯)	18	2.1
5 その他の世帯	22	2.5
(無 回 答)	30	3.4
合 計	875	100.0



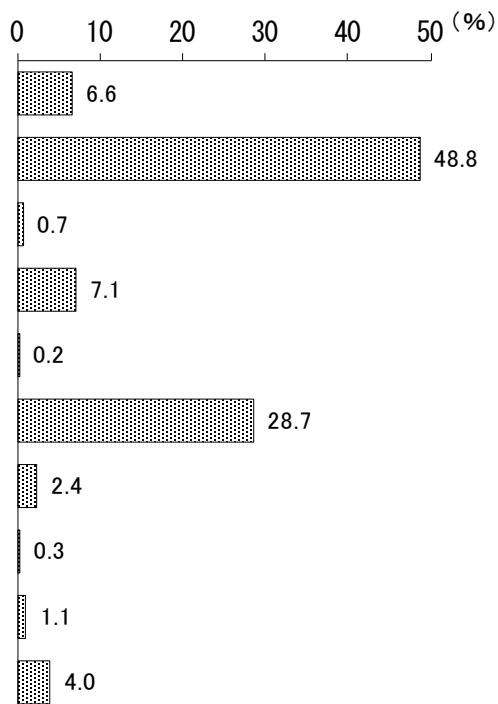
7 家族の状況

	基数	構成比
1 独身	222	25.4%
2 子どものいない夫婦	223	25.5
3 一番上の子どもが小学校入学前	60	6.9
4 一番上の子どもが小・中学生	102	11.7
5 一番上の子どもが高校・大学生	42	4.8
6 一番上の子どもが学校卒業	112	12.8
7 その他	69	7.9
(無 回 答)	45	5.1
合 計	875	100.0



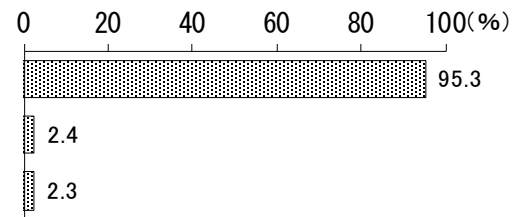
8 住居形態

	基数	構成比
1 持家 一戸建	58	6.6%
2 持家 分譲マンション	427	48.8
3 借家 一戸建	6	0.7
4 借家 公共住宅（区立、区営、都営、公社、都市再生機構（旧公団））	62	7.1
5 借家 民間木造アパート	2	0.2
6 借家 民間鉄筋アパート、マンション	251	28.7
7 借家 社宅、官舎、寮	21	2.4
8 借家 間借り、住込み	3	0.3
9 その他	10	1.1
(無 回 答)	35	4.0
合 計	875	100.0



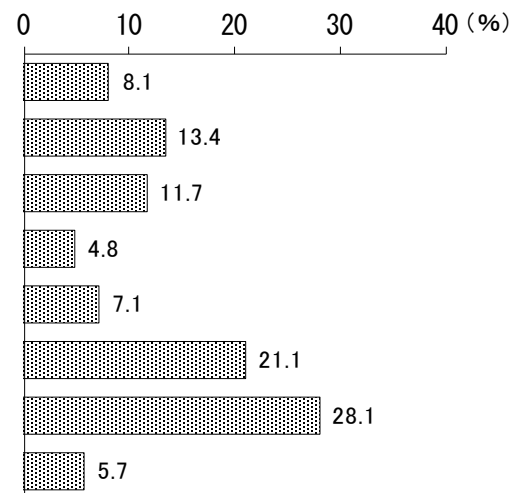
9 国籍

	基数	構成比
1 日本	834	95.3%
2 日本以外（外国籍）	21	2.4
（無 回 答）	20	2.3
合 計	875	100.0



10 ライフステージ（7分類）

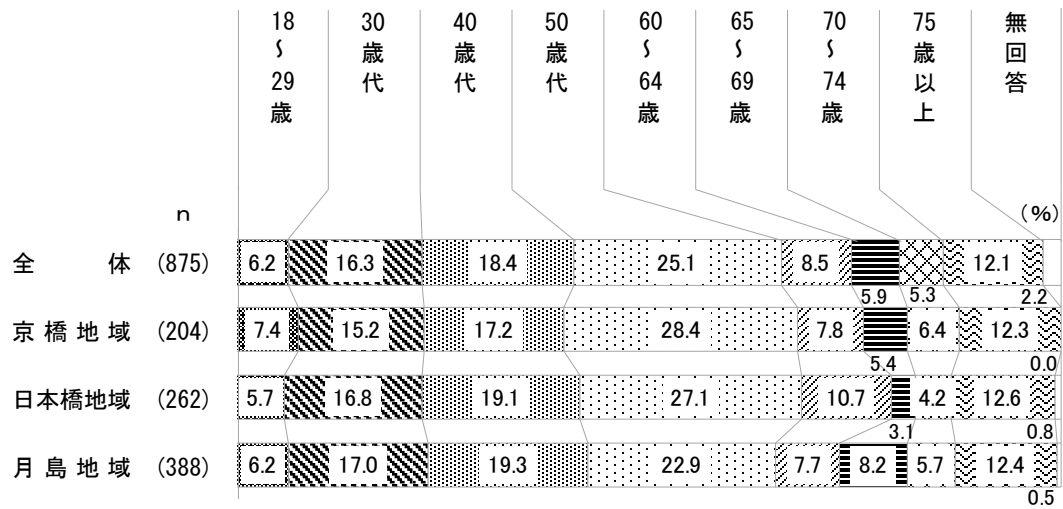
	基数	構成比
1 独身期	71	8.1%
2 家族形成期	117	13.4
3 家族成長前期	102	11.7
4 家族成長後期	42	4.8
5 家族成熟期	62	7.1
6 老齢期	185	21.1
7 その他	246	28.1
（無 回 答）	50	5.7
合 計	875	100.0



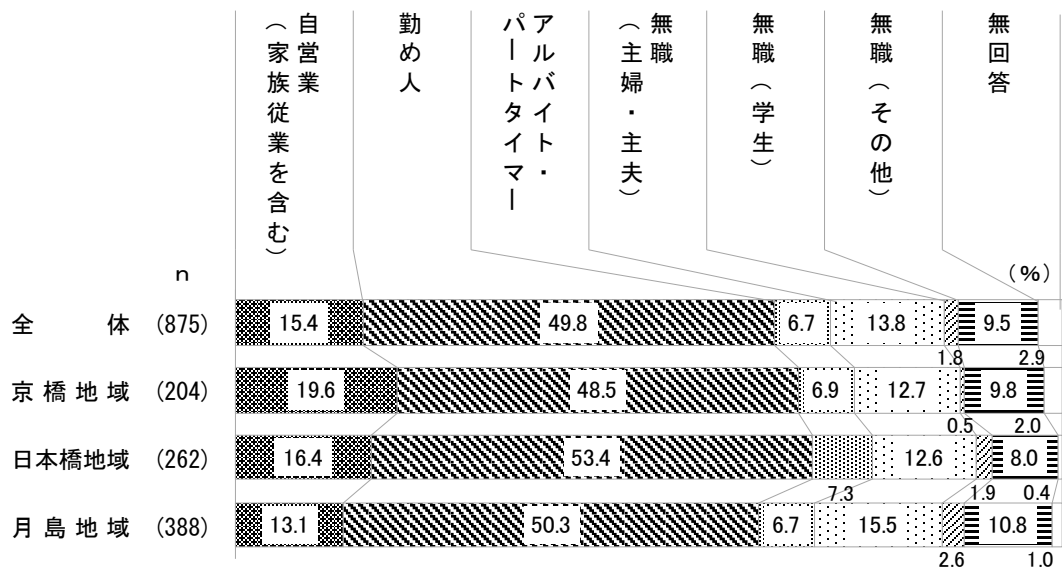
Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

1 年齢

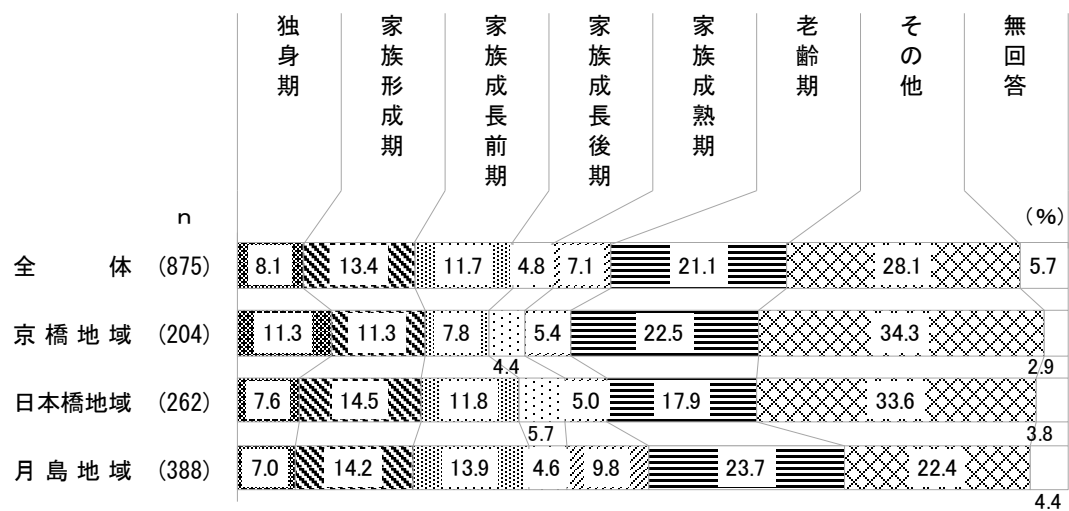


2 職業



持	持	借	機都公	民	マ民	社	間	そ	無
---	---	---	-----	---	----	---	---	---	---

5 ライフステージ



Ⅳ 調査結果の分析

Ⅳ 調査結果の分析

【1 定住性】

(1) 居住年数

◇『長期居住者』が3割、『中期居住者』が約4割、『短期居住者』が3割近く

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

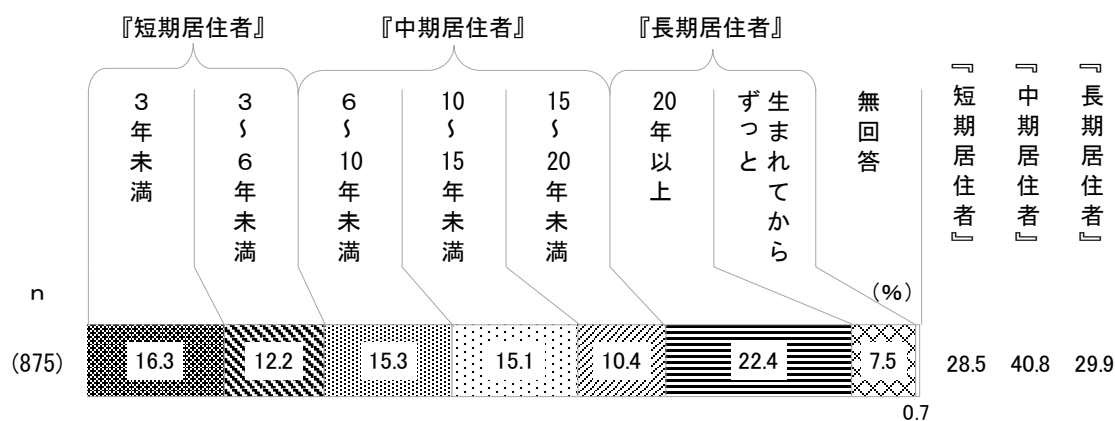
n = 875

1	3年未満	16.3%	5	15～20年未満	10.4
2	3～6年未満	12.2	6	20年以上	22.4
3	6～10年未満	15.3	7	生まれてからずっと	7.5
4	10～15年未満	15.1		(無回答)	0.7

居住年数は、「20年以上」(22.4%)が最も高くなっており、「生まれてからずっと」(7.5%)と合わせた『長期居住者』(29.9%)は3割となっている。

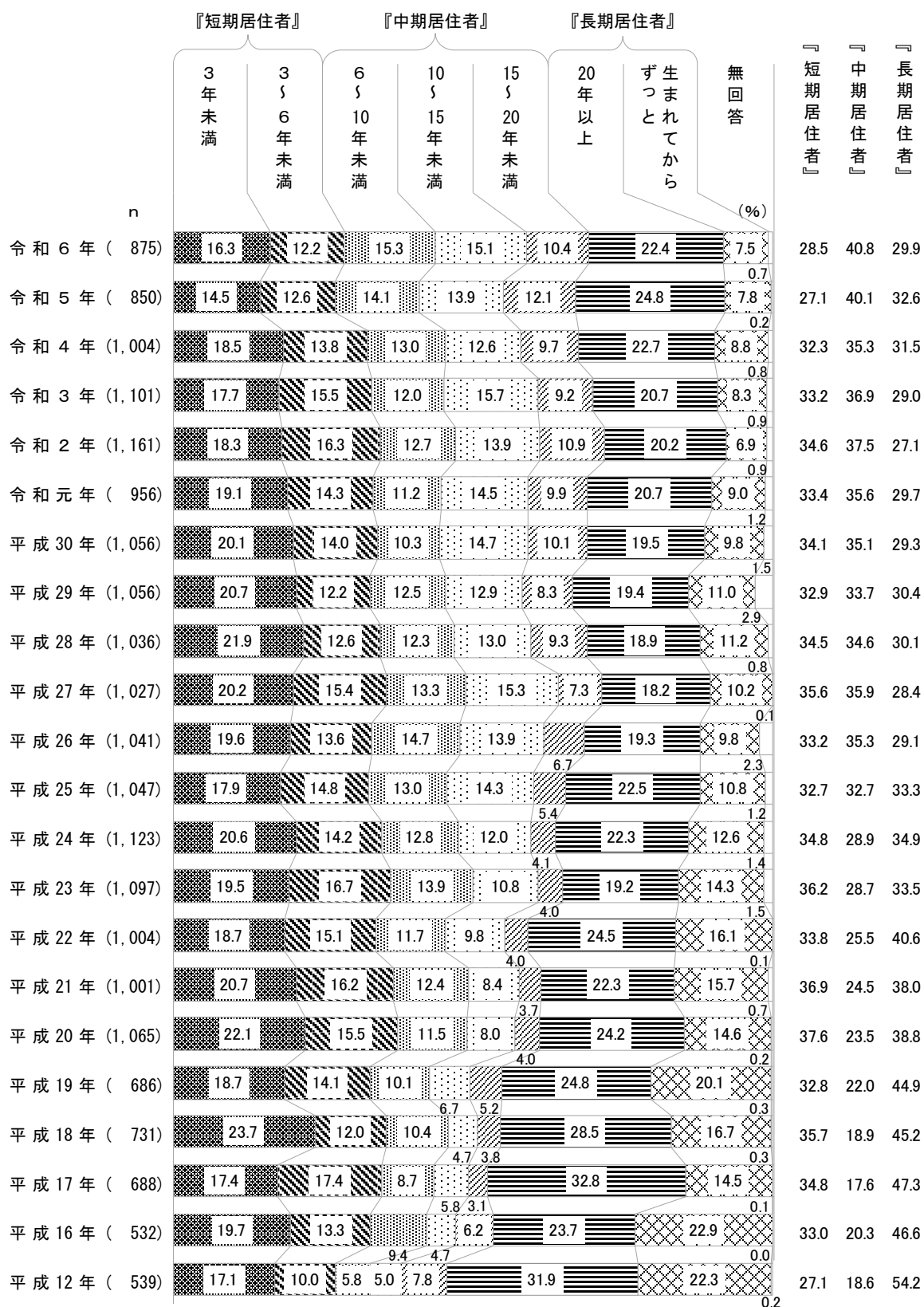
また、「6～10年未満」(15.3%)と「10～15年未満」(15.1%)、「15～20年未満」(10.4%)を合わせた『中期居住者』(40.8%)は約4割となっている。「3年未満」(16.3%)と「3～6年未満」(12.2%)を合わせた『短期居住者』(28.5%)は3割近くとなっている。(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



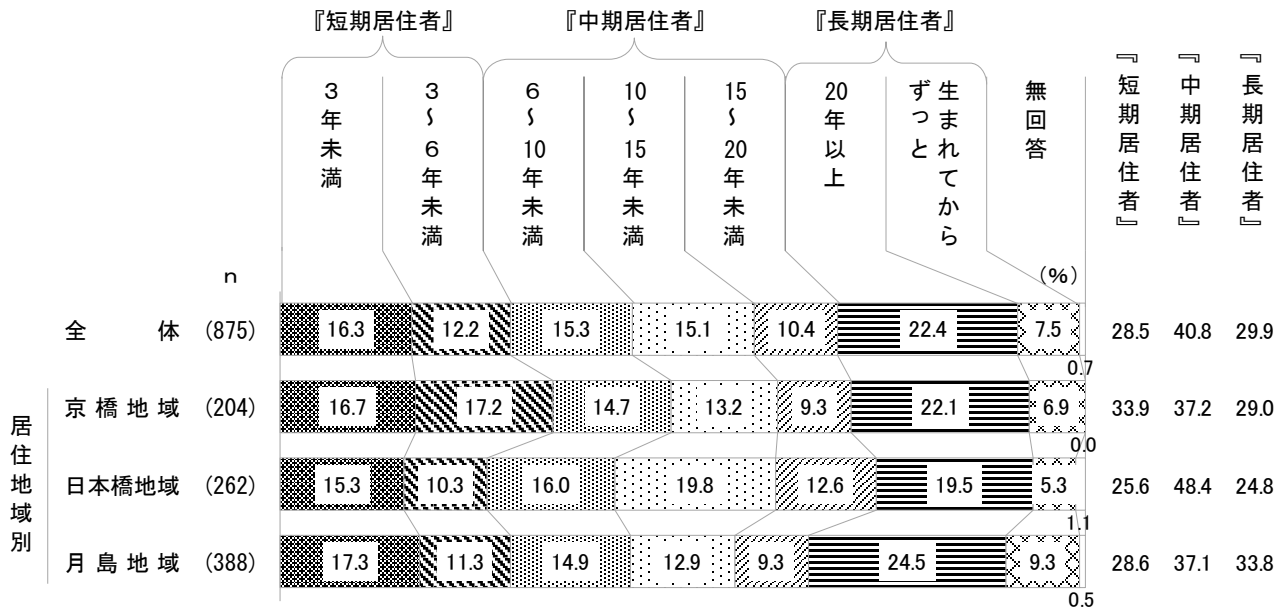
昨年の調査結果と比較すると、『長期居住者』は2.7ポイント減少し、『短期居住者』は1.4ポイント増加している。(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数－過年度比較



居住地地域別でみると、『短期居住者』は京橋地区で3割を超えている。『中期居住者』は日本橋地域で5割近くとなっている。『長期居住者』は月島地域で3割を超えている。(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数—居住地地域別



(2) 愛着心

◇愛着を『感じる』人が8割台半ば

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。

(○は1つ)

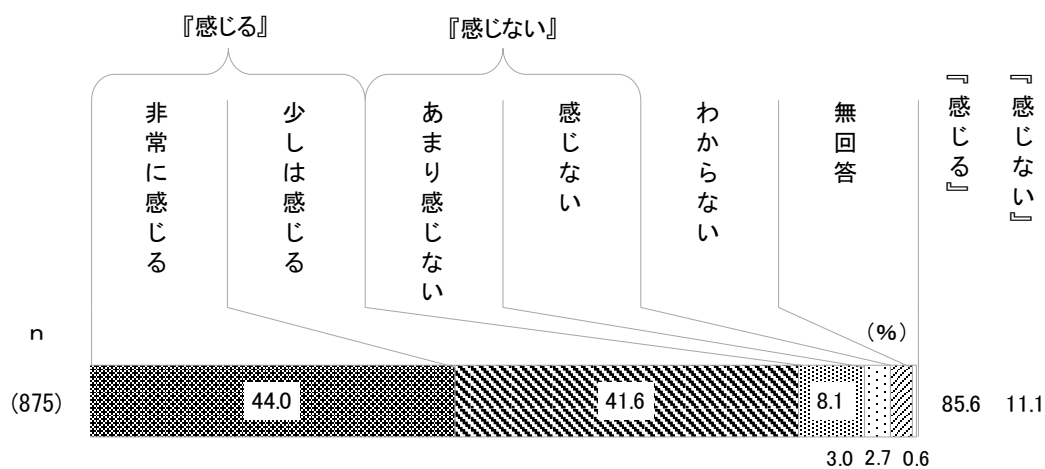
n = 875

1	非常に感じる	44.0%	4	感じない	3.0
2	少しは感じる	41.6	5	わからない	2.7
3	あまり感じない	8.1		(無回答)	0.6

愛着心は、「非常に感じる」(44.0%)が最も高くなっており、「少しは感じる」(41.6%)と合わせた『感じる』(85.6%)は8割台半ばとなっている。

一方、「あまり感じない」(8.1%)と「感じない」(3.0%)を合わせた『感じない』(11.1%)は1割を超えている。(図表1-2-1)

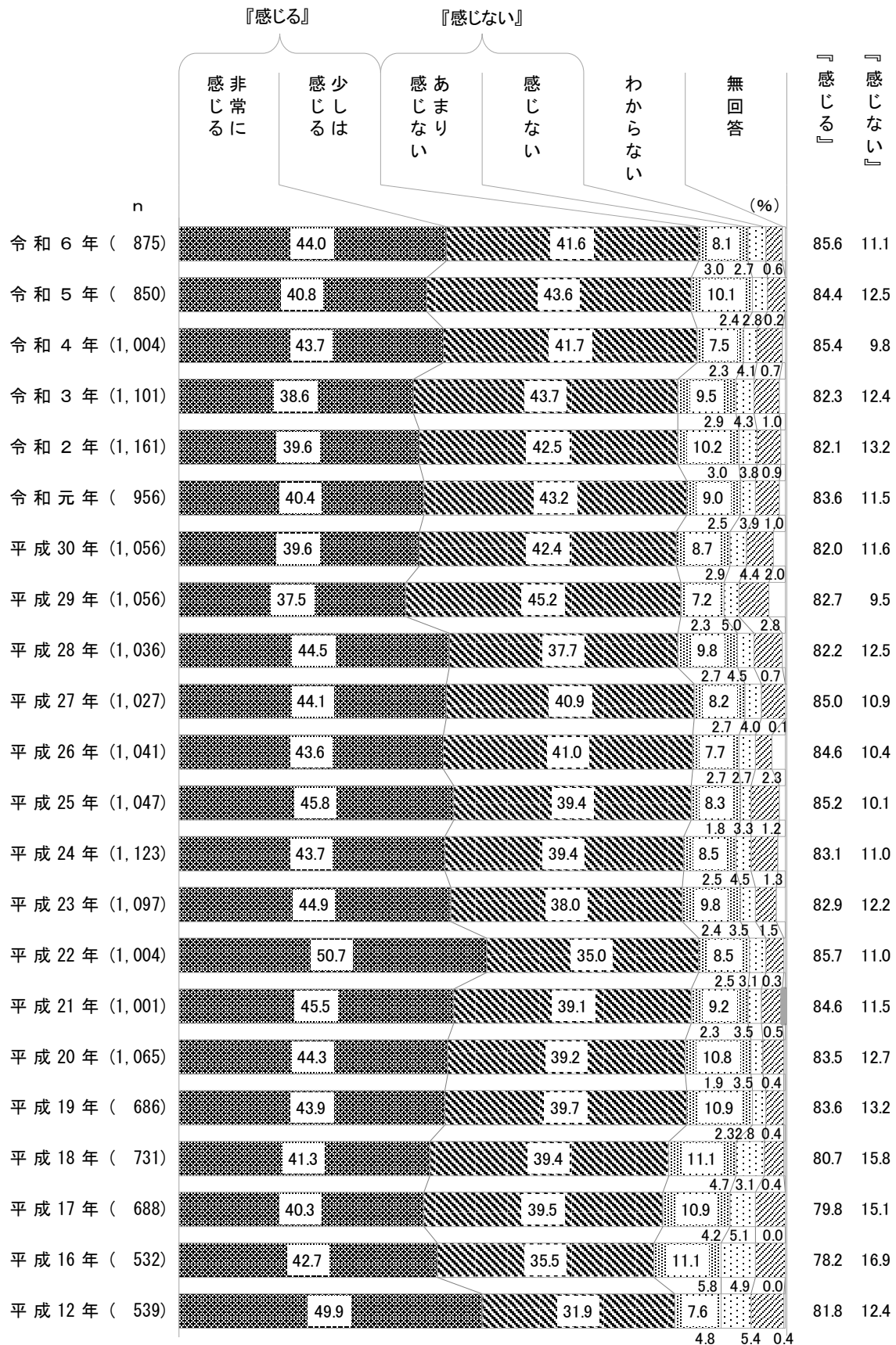
図表1-2-1 愛着心



過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成18年以降 8 割台で推移している。

(図表 1－2－2)

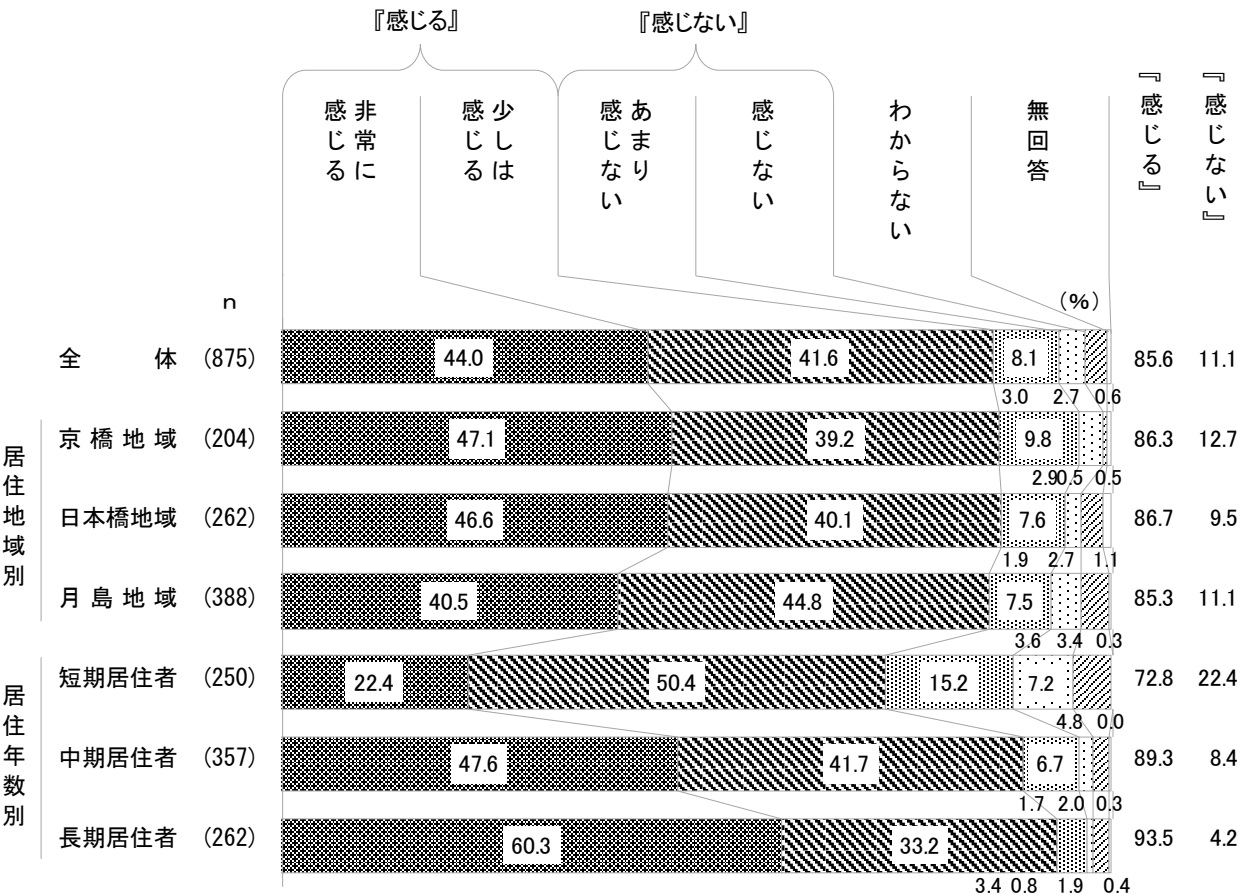
図表 1－2－2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、『感じる』は全ての地域で8割台半ばとなっている。

居住年数別でみると、『感じる』は長期居住者で9割を超え、中期居住者で約9割となっている。
(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別



(3) 定住意向

◇『定住意向』が約9割

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

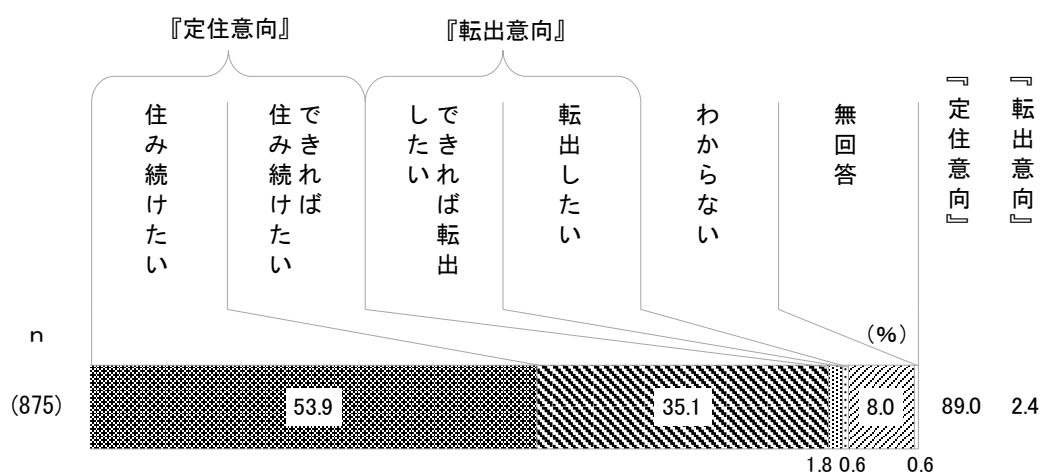
n = 875

1	住み続けたい	53.9%	4	転出したい	0.6
2	できれば住み続けたい	35.1	5	わからない	8.0
3	できれば転出したい	1.8		(無回答)	0.6

定住意向は、「住み続けたい」(53.9%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(35.1%)と合わせた『定住意向』(89.0%)は約9割となっている。

一方、「できれば転出したい」(1.8%)と「転出したい」(0.6%)を合わせた『転出意向』(2.4%)は1割に満たない。(図表1-3-1)

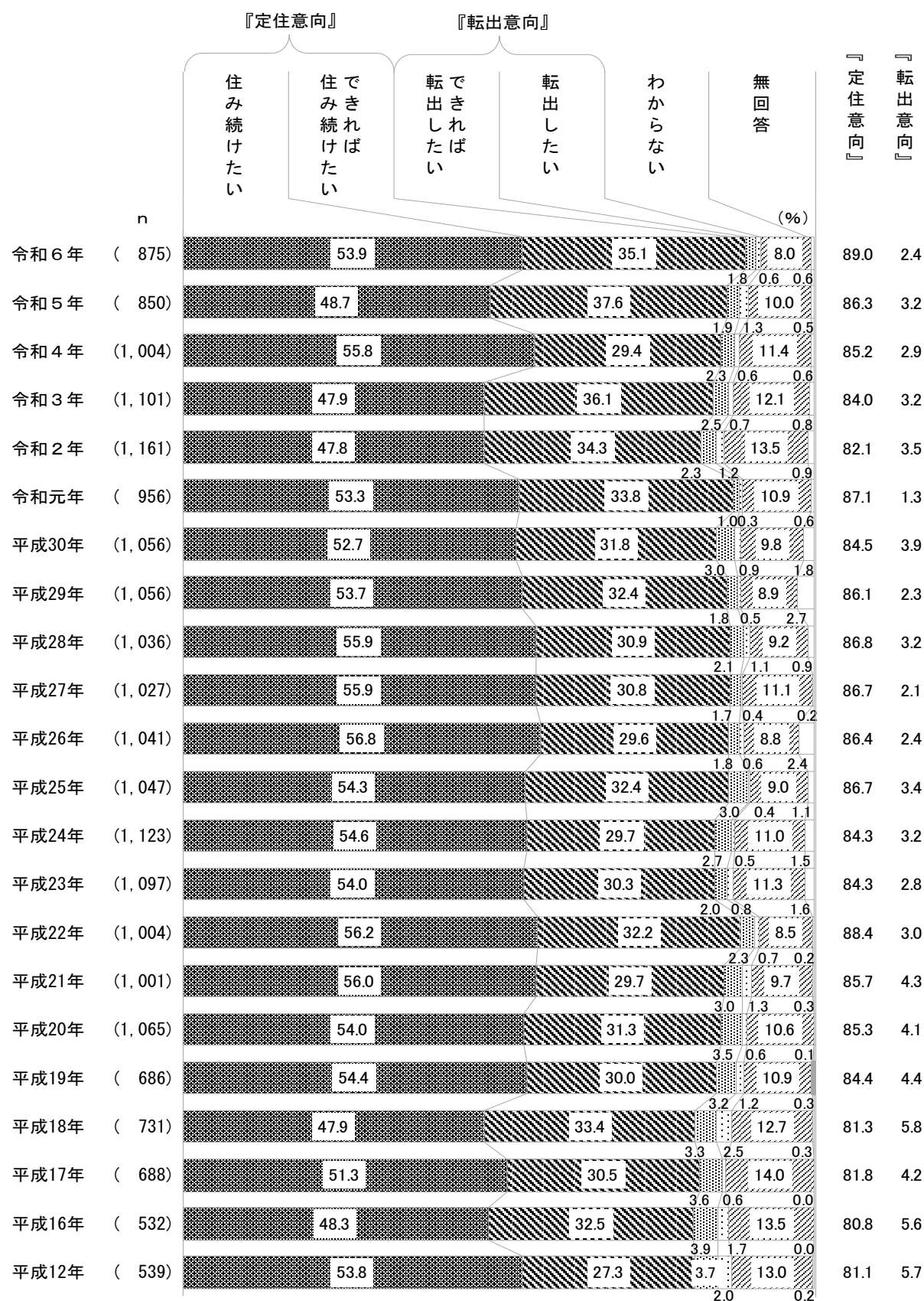
図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は平成12年以降 8 割台で推移している。

(図表 1－3－2)

図表 1－3－2 定住意向－過年度比較



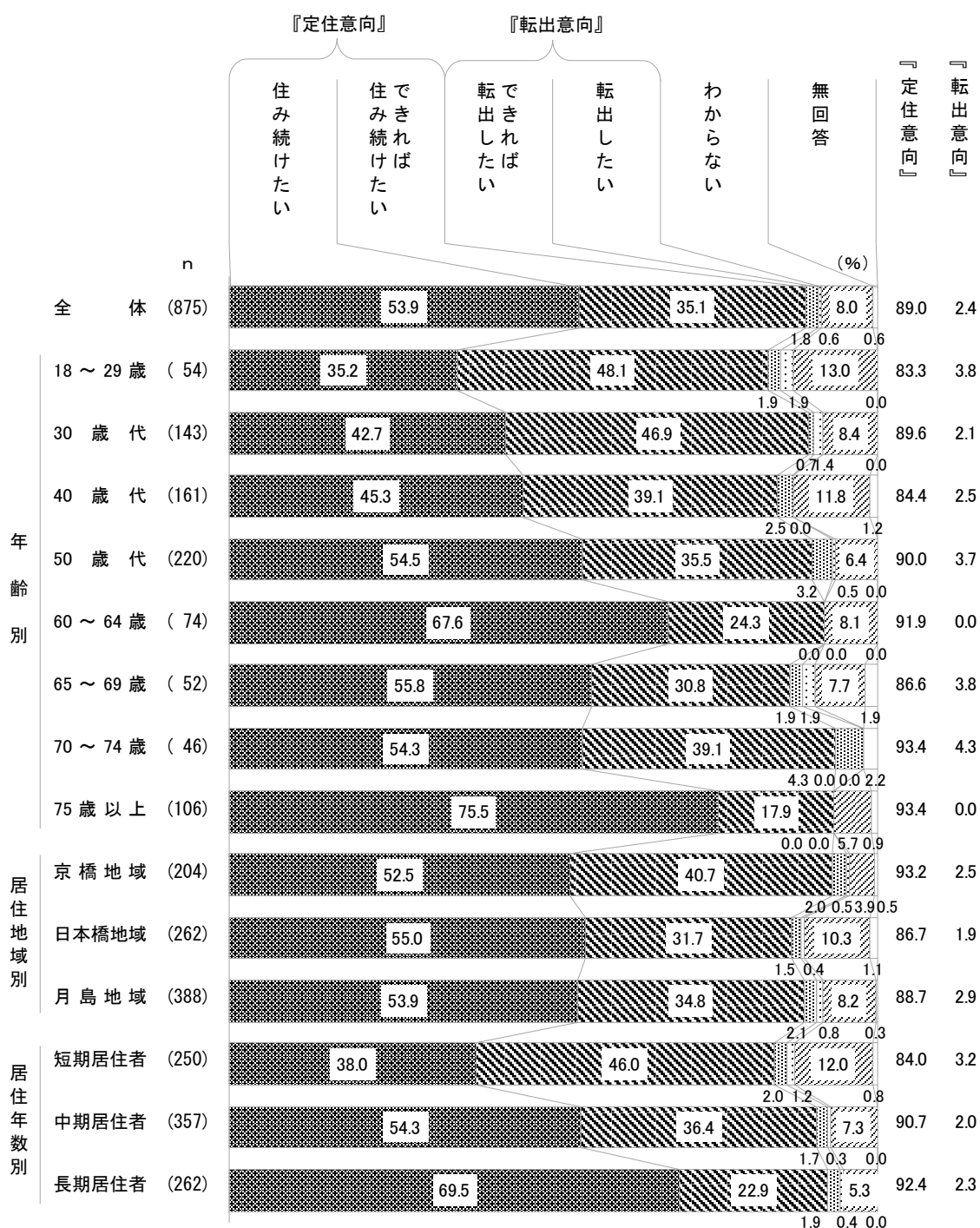
年齢別でみると、『定住意向』は65～69歳、70～74歳、75歳以上で9割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は京橋地域と日本橋地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は長期居住者で9割を超え高くなっている。

(図表1-3-3)

図表1-3-3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



【2 防災対策】

(1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が7割近く

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

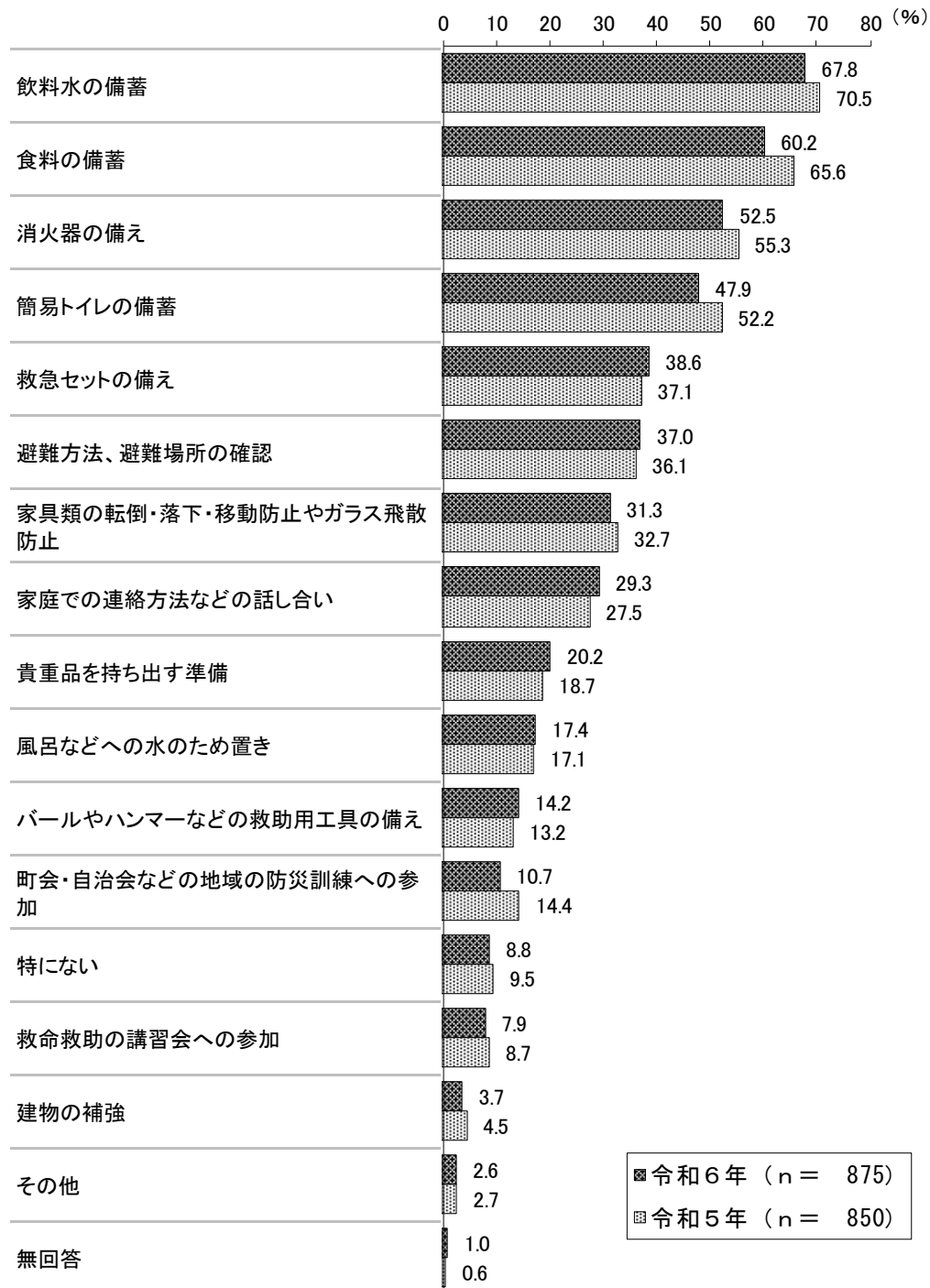
n = 875

1	食料の備蓄	60.2%
2	飲料水の備蓄	67.8
3	簡易トイレの備蓄	47.9
4	家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止	31.3
5	消火器の備え	52.5
6	救急セットの備え	38.6
7	バールやハンマーなどの救助用工具の備え	14.2
8	貴重品を持ち出す準備	20.2
9	風呂などへの水のため置き	17.4
10	救命救助の講習会への参加	7.9
11	町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	10.7
12	避難方法、避難場所の確認	37.0
13	家庭での連絡方法などの話し合い	29.3
14	建物の補強	3.7
15	その他	2.6
16	特にない	8.8
	(無回答)	1.0

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(67.8%)が7割近くと最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(60.2%)、「消火器の備え」(52.5%)、「簡易トイレの備蓄」(47.9%)、「救急セットの備え」(38.6%)、「避難方法、避難場所の確認」(37.0%)などとなっている。一方、「特にない」(8.8%)は1割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「救急セットの備え」は1.5ポイント増加している。一方、「食料の備蓄」は5.4ポイント、「簡易トイレの備蓄」は4.3ポイント、「消火器の備え」は2.8ポイントそれぞれ減少している。(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え（複数回答）

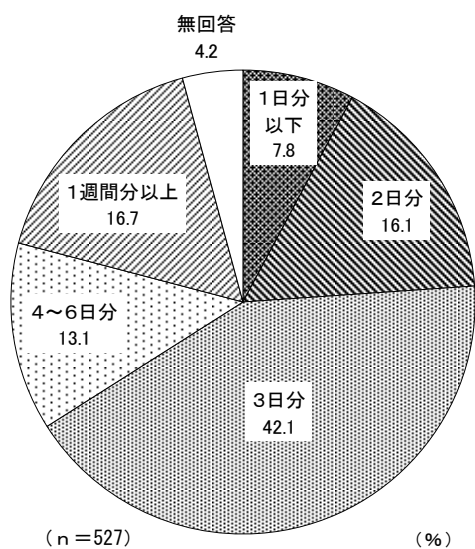


食料の備蓄日数は、「3日分」(42.1%)が4割を超えて最も高く、平均備蓄日数は4.05日分となっている。(図表2-1-2)

飲料水の備蓄日数は、「3日分」(35.6%)が3割台半ばで最も高く、平均備蓄日数は4.61日分となっている。(図表2-1-3)

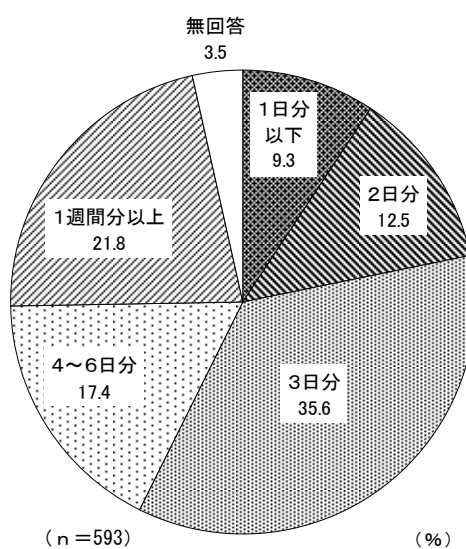
簡易トイレの備蓄日数は、「1週間分以上」(28.9%)が3割近くで最も高く、平均備蓄日数は5.52日分となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-2 食料の備蓄日数



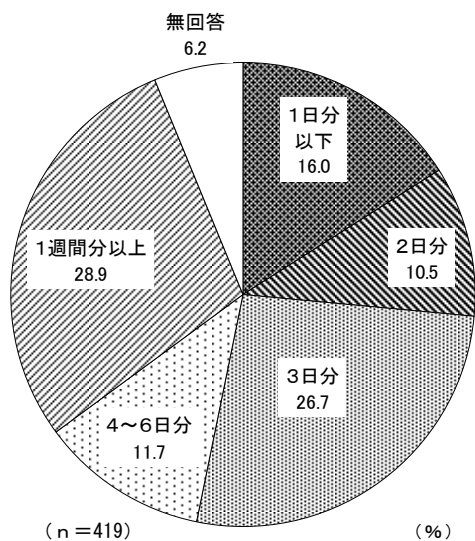
平均備蓄日数：4.05日

図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



平均備蓄日数：4.61日

図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



平均備蓄日数：5.52日

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」と「食料の備蓄」が引き続き上位２項目となっている。（図表２－１－５）

図表２－１－５ 家庭での災害に対する備え一過年度比較

(%)

調 査 年	n	飲料 水の 備蓄	食料 の 備蓄	消 火 器 の 備え	簡 易 ト イ レ の 備蓄	救 急 セ ッ ト の 備え	避 難 方 法 、 避 難 場 所 の 確 認	家 具 類 の 転 倒 ・ 落 下 ・ 移 動 防 止 や ガ ラ ス 飛 散 防 止	家 庭 で の 連 絡 方 法 な ど の 話 し 合 い	貴 重 品 を 持 ち 出 す 準 備	風 呂 な ど へ の 水 の た め 置 き	バ ー ル や ハ ン マ ー な ど の 救 助 工 具 の 備え	町 会 ・ 自 治 会 な ど の 地 域 の 防 災 訓 練 へ の 参 加	特 に な い	救 命 救 助 の 講 習 会 へ の 参 加	建 物 の 補 強	そ の 他	無 回 答	備 え 消 火 器 ・ 救 急 セ ッ ト な ど の
令和６年	875	67.8	60.2	52.5	47.9	38.6	37.0	31.3	29.3	20.2	17.4	14.2	10.7	8.8	7.9	3.7	2.6	1.0	※
令和５年	850	70.5	65.6	55.3	52.2	37.1	36.1	32.7	27.5	18.7	17.1	13.2	14.4	9.5	8.7	4.5	2.7	0.6	※
令和４年	1,004	72.0	67.1	※	49.7	※	38.4	36.3	26.8	22.0	20.5	13.5	13.0	9.8	9.1	5.6	2.6	0.9	47.3
令和３年	1,101	71.3	66.3	※	46.6	※	38.3	34.2	27.2	22.4	20.7	11.7	11.3	8.7	6.7	4.6	1.8	1.7	50.6
令和２年	1,161	69.1	65.1	※	40.1	※	34.4	33.0	27.6	20.2	17.6	11.6	13.6	11.8	9.3	4.2	2.1	1.3	45.4
令和元年	956	67.1	59.5	※	41.0	※	35.7	36.6	29.6	21.2	19.5	12.9	15.5	11.0	12.6	4.6	2.6	1.3	49.5
平成30年	1,056	63.4	54.2	※	37.4	※	33.0	36.6	27.5	18.8	18.2	11.0	15.2	12.5	11.4	5.0	2.3	1.8	46.6
平成29年	1,056	66.3	58.0	※	38.7	※	32.2	35.9	30.9	21.1	20.5	12.5	15.4	11.9	10.9	4.7	1.2	2.7	47.7
平成28年	1,036	66.4	57.0	※	33.2	※	36.0	33.5	32.7	19.6	23.5	12.5	16.0	11.1	12.7	4.5	2.6	1.1	44.8
平成27年	1,027	63.5	57.7	※	33.9	※	35.3	35.2	29.9	23.8	20.4	11.3	16.6	14.4	10.5	5.6	2.5	0.5	47.0
平成26年	1,041	67.0	60.7	※	36.4	※	37.7	37.9	33.5	22.1	25.5	12.5	16.8	10.2	14.2	4.0	2.5	3.4	50.1
平成25年	1,047	67.1	60.6	※	30.0	※	36.9	37.0	34.7	24.7	28.5	13.1	18.6	8.8	11.2	4.8	3.1	1.5	49.5
平成24年	1,123	67.7	58.9	※	23.5	※	35.5	40.1	36.2	26.2	27.0	13.1	16.5	9.0	11.0	4.2	2.2	1.8	51.6
平成23年	1,097	63.1	51.0	※	19.3	※	30.5	36.7	35.1	31.6	28.4	8.5	11.5	7.1	6.2	2.3	1.9	2.0	39.5
平成22年	1,004	42.8	37.3	※	※	※	26.7	※	21.2	17.5	21.8	6.7	16.6	19.9	7.2	5.8	1.9	2.0	39.5
平成21年	1,001	41.0	36.4	※	※	※	24.3	21.0	23.1	13.4	19.9	4.7	14.2	20.3	7.5	3.0	0.9	1.4	37.2
平成20年	1,065	41.1	24.8	※	※	※	29.6	23.6	26.1	11.0	19.5	4.2	14.3	20.5	6.5	2.1	1.6	1.9	31.7
平成19年	686	42.6	26.5	※	※	※	24.3	21.3	16.9	12.8	22.6	14.0	4.5	6.0	1.6	0.7	25.8	0.7	36.7

＊ 太枠内が今回の調査の選択肢。

＊ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

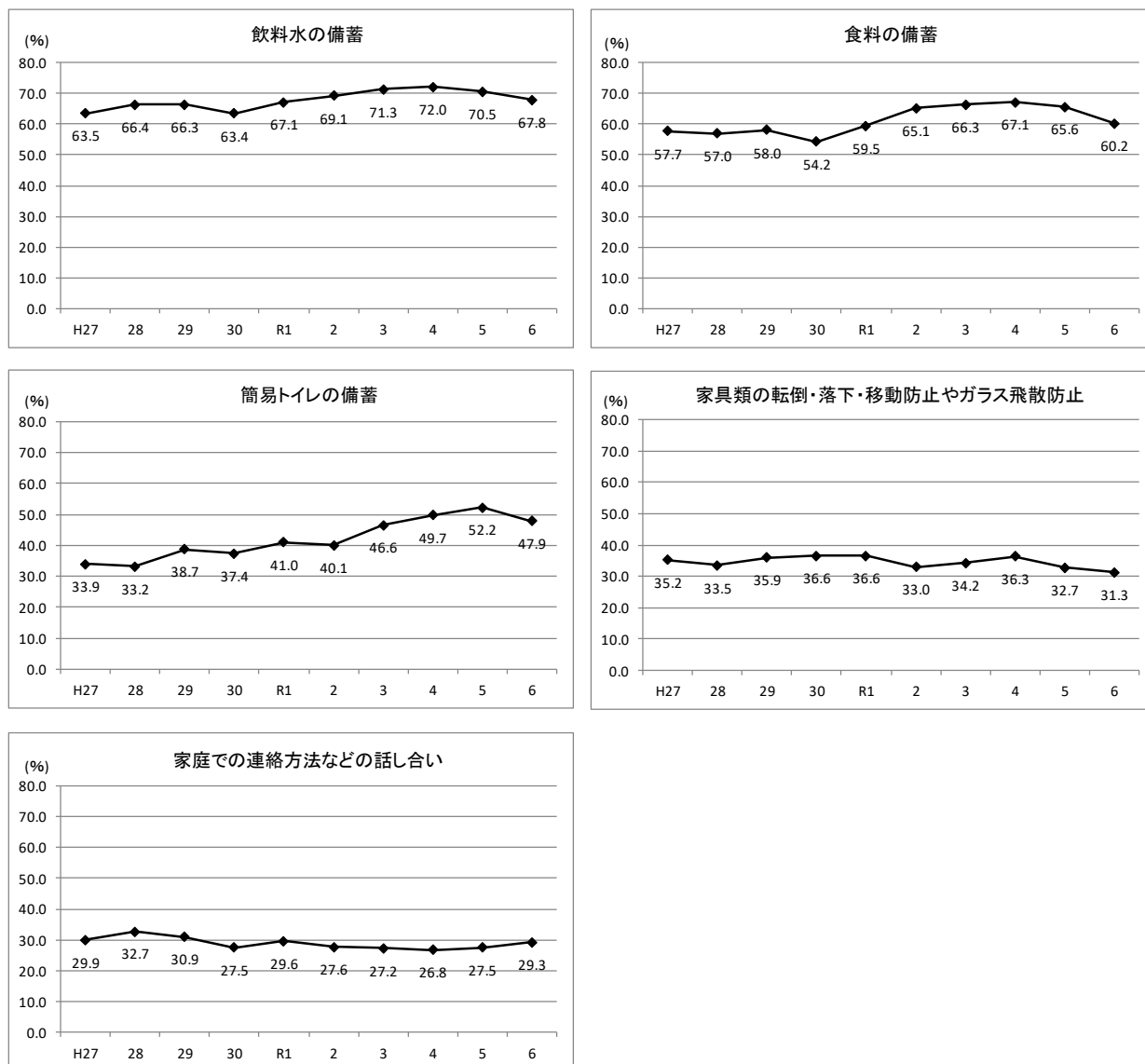
＊ 「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」の選択肢は、令和２年以前は「家具類の転倒防止」としていた。

＊ 「消火器の備え」、「救急セットの備え」の選択肢は、令和４年以前は「消火器・救急セットなどの備え」としていた。

「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」、「簡易トイレの備蓄」、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」、「家庭での連絡方法などの話し合い」について過去の調査結果と比較すると、「家庭での連絡方法などの話し合い」は増加傾向にあり、「飲料水の備蓄」、「食料の備蓄」、「簡易トイレの備蓄」、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」は減少傾向にある。

(図表 2－1－6)

図表 2－1－6 家庭での災害に対する備え一過年度比較



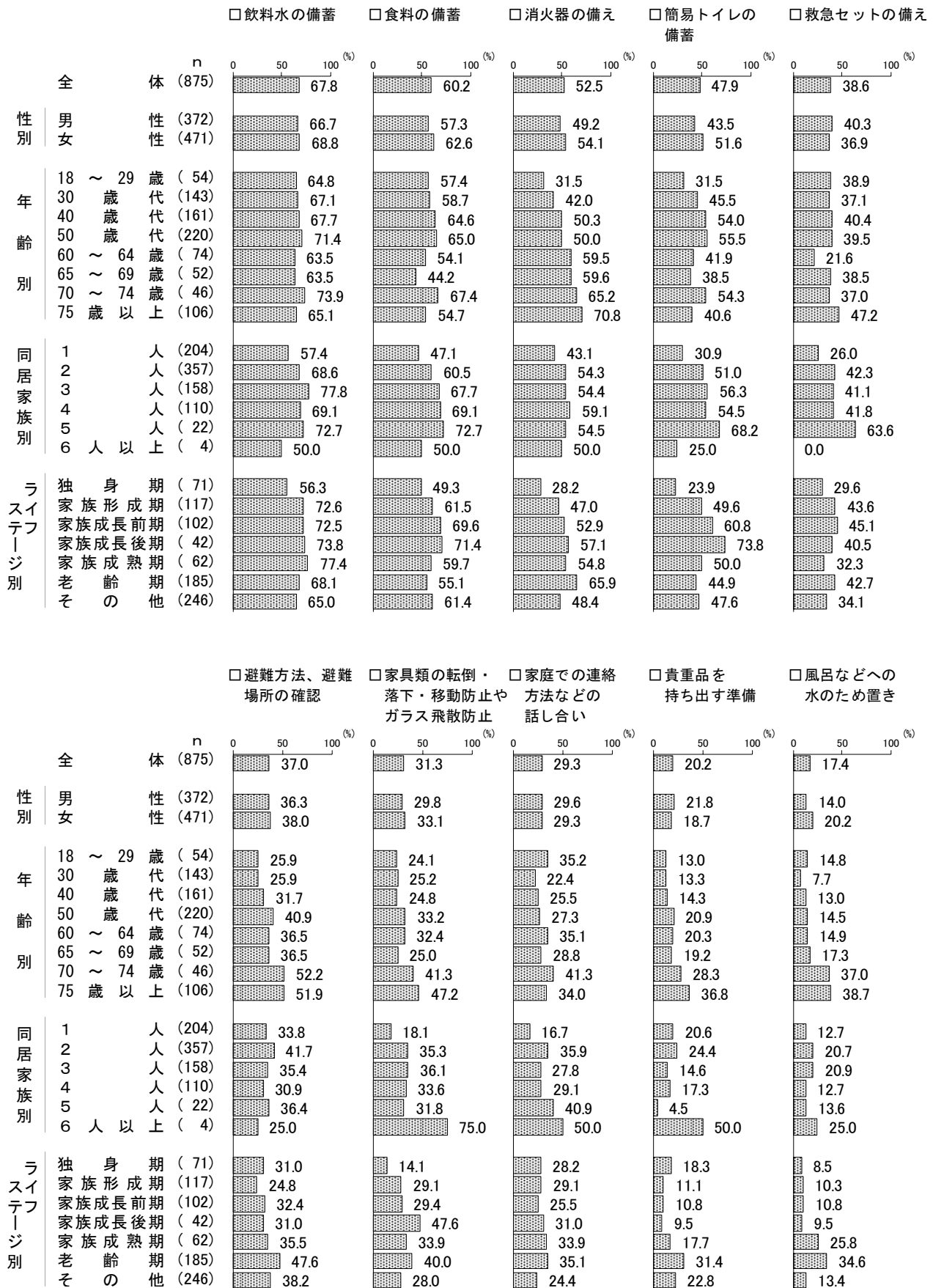
性別でみると、男性の方が女性よりも「救急セットの備え」で3.4ポイント、「貴重品を持ち出す準備」で3.1ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で8.1ポイント、「風呂などへの水のため置き」で6.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「飲料水の備蓄」は50歳代、70～74歳で7割を超えて高くなっている。「食料の備蓄」は70～74歳で7割近くと高くなっている。「消火器の備え」は75歳以上で約7割台と高くなっている。

同居家族別でみると、「飲料水の備蓄」は同居家族3人で8割近くと高くなっている。「食料の備蓄」は同居家族5人で7割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「飲料水の備蓄」は家族成熟期で8割近くと高くなっている。「食料の備蓄」は家族成長後期で7割を超えて高くなっている。(図表2-1-7)

図表 2-1-7 家庭での災害に対する備え－性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別
(上位10項目)



(2) 在宅避難の認知度

◇「知っている」が4割超

問5 区では発災後も自宅の安全が確保できる場合には「在宅避難」を推奨しています。あなたは、このことを知っていますか。(〇は1つ)

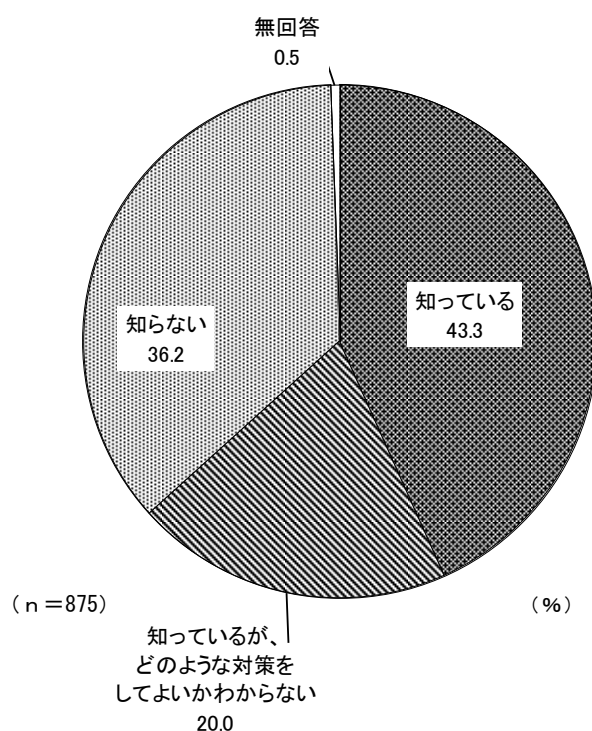
n = 875

1	知っている	43.3%
2	知っているが、どのような対策をしてよいかわからない	20.0
3	知らない	36.2
	(無回答)	0.5

在宅避難の認知度は、「知っている」(43.3%)が4割を超えて最も高くなっている。「知っているが、どのような対策をしてよいかわからない」(20.0%)は2割、「知らない」(36.2%)は3割台半ばとなっている。

(図表2-2-1)

図表2-2-1 在宅避難の認知度



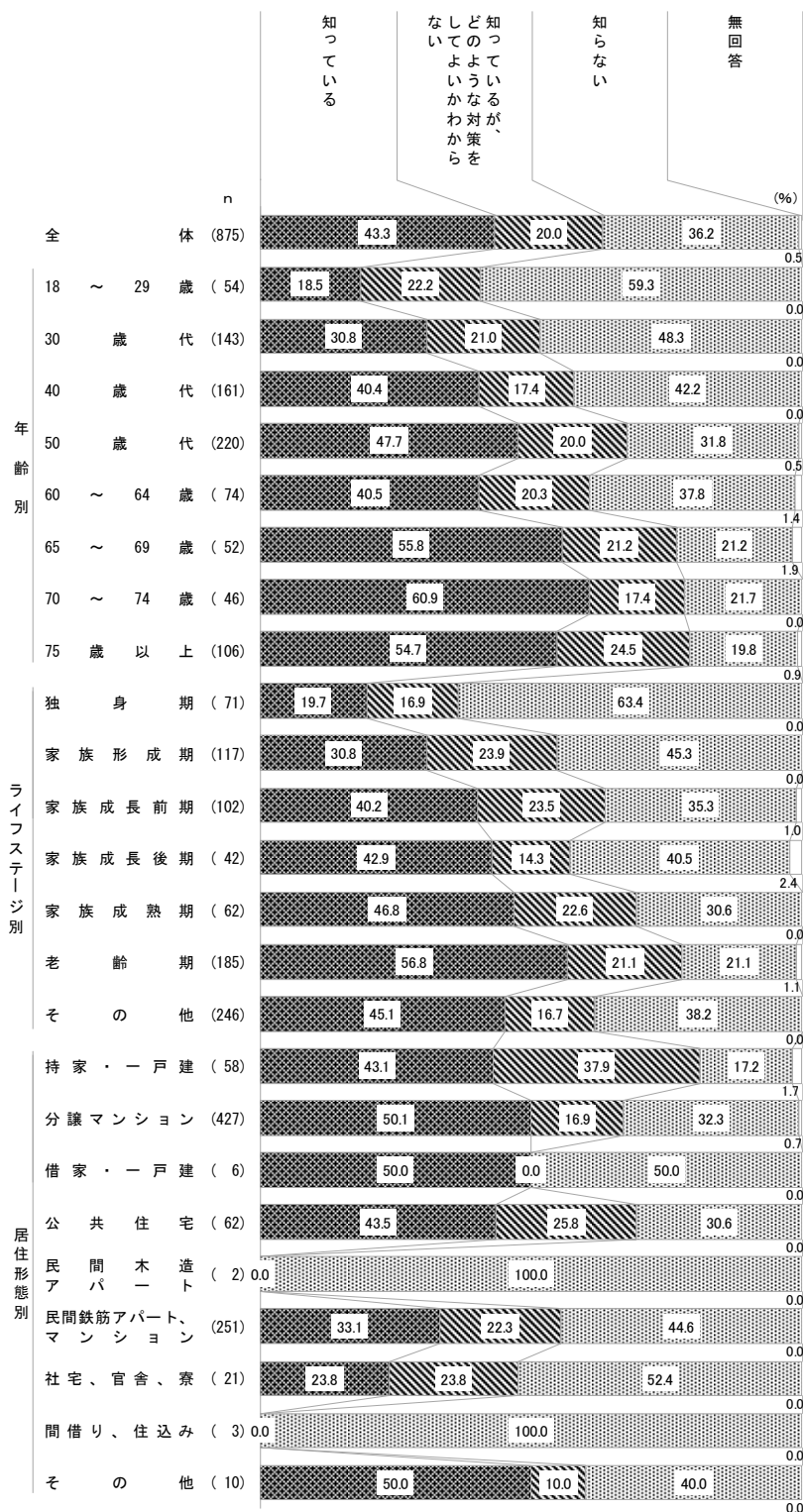
年齢別でみると、「知っている」は70～74歳で約6割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「知っている」は老齢期で6割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「知っている」は分譲マンションで5割と高くなっている。

(図表 2-2-2)

図表 2-2-2 在宅避難の認知度一年齢別・ライフステージ別・居住形態別



(3) 防災拠点・防災拠点運営委員会の認知度

◇「知っているし、場所も知っている」が5割台半ば

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、災害時に火災や倒壊などにより自宅で継続して生活できない人が避難生活する場所として、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所のほか救護所などの機能を持っています。また、「防災拠点」を運営するため、町会・自治会や防災区民組織が中心となり「防災拠点運営委員会」をつくり、災害に備えた協力体制をとっています。

あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。

(○は1つ)

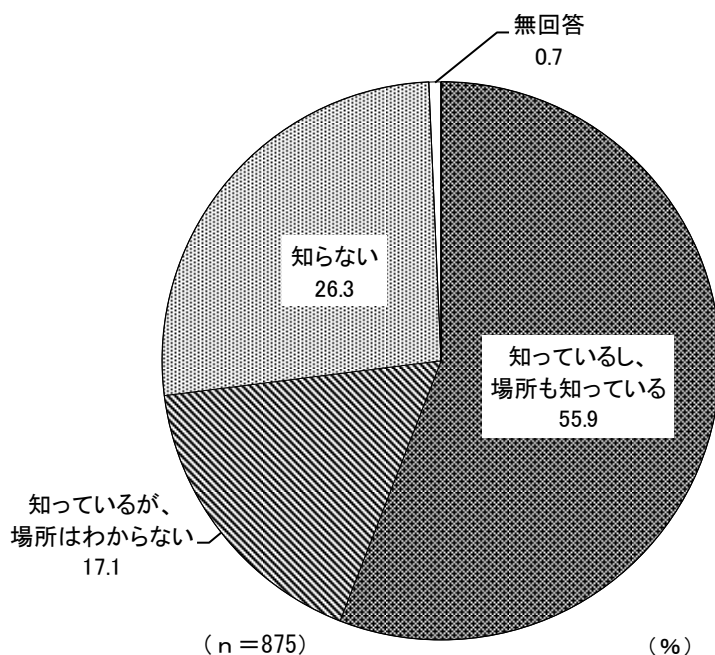
n = 875

1	知っているし、場所も知っている	55.9%	3	知らない	26.3
2	知っているが、場所はわからない	17.1		(無回答)	0.7

防災拠点の認知度は、「知っているし、場所も知っている」が5割台半ばで最も高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(17.1%)は2割近く、「知らない」(26.3%)は2割台半ばとなっている。

(図表2-3-1)

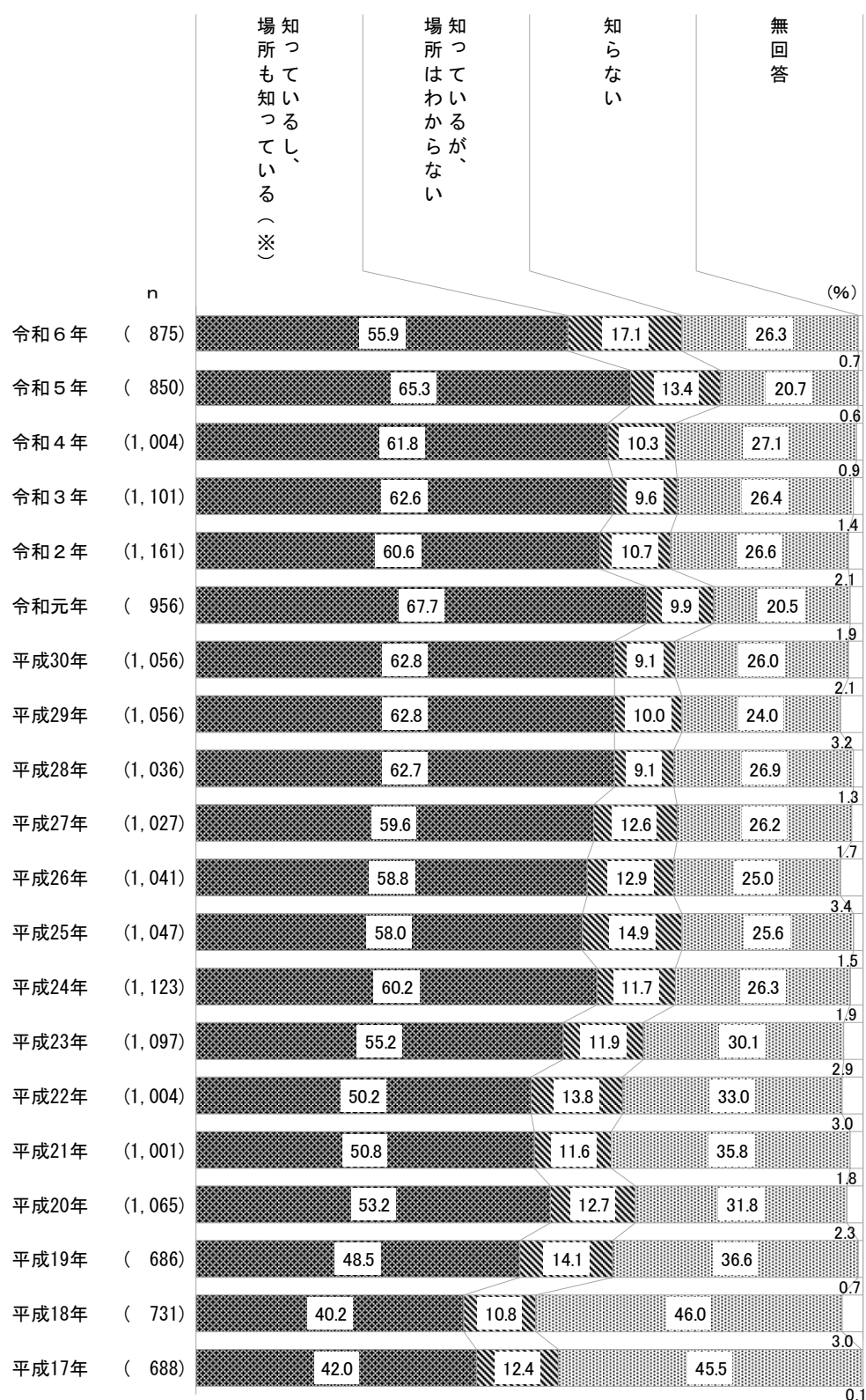
図表2-3-1 防災拠点の認知度



前回の調査結果と比較すると、「知っているし、場所も知っている」は9.4ポイント減少している。

(図表2-3-2)

図表2-3-2 防災拠点の認知度一過年度比較



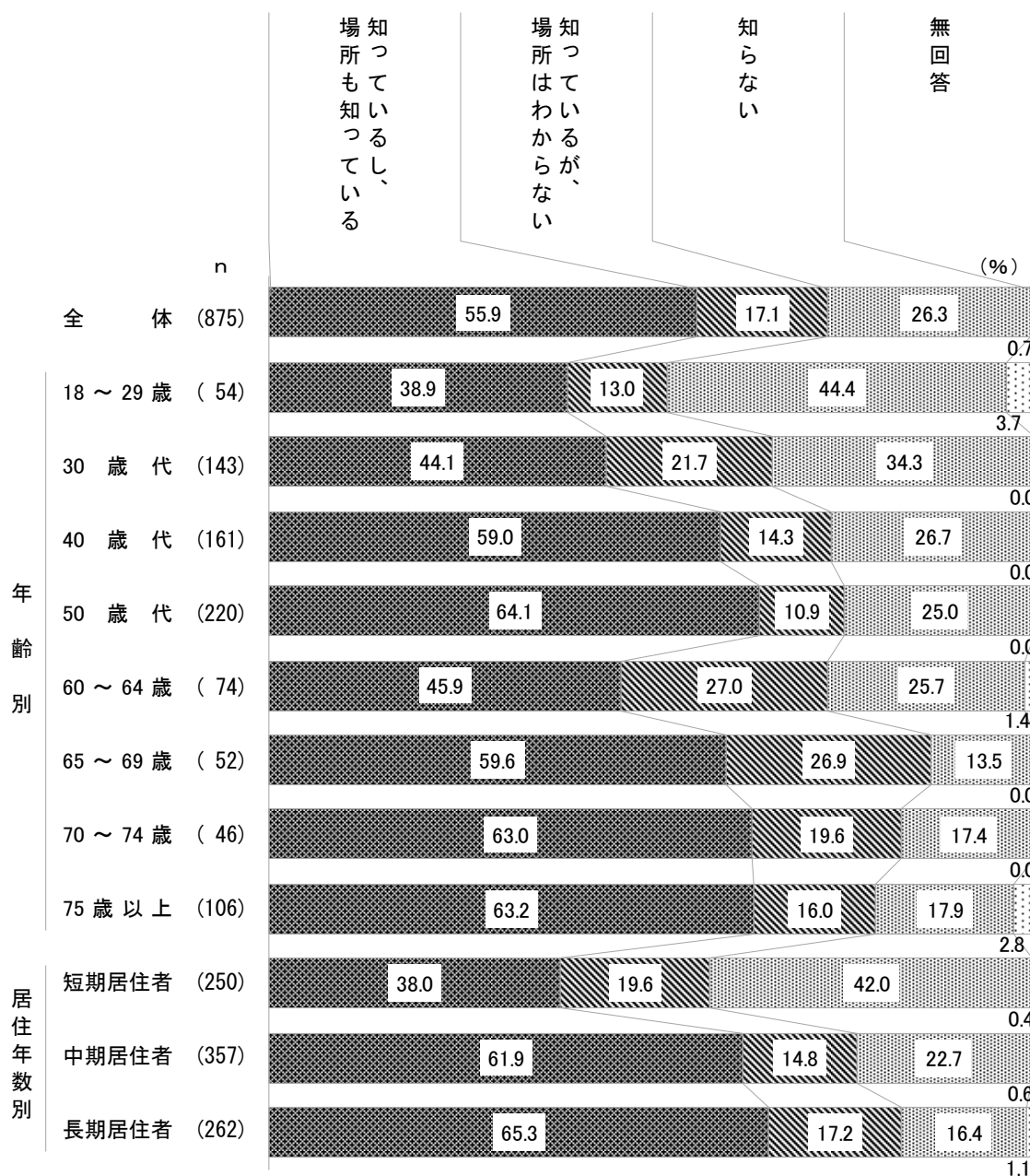
※「知っているし、場所も知っている」は、令和5年以前は「知っている」としていた。

年齢別でみると、「知っているし、場所も知っている」は50歳代、70～74歳、75歳以上で6割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、「知っているし、場所も知っている」は中期居住者、長期居住者で6割を超えて高くなっている。

(図表 2-3-3)

図表 2-3-3 防災拠点の認知度一年齢別・居住年数別



◇「知らない」が6割台半ば

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、災害時に火災や倒壊などにより自宅で継続して生活できない人が避難生活する場所として、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所のほか救護所などの機能を持っています。また、「防災拠点」を運営するため、町会・自治会や防災区民組織が中心となり「防災拠点運営委員会」をつくり、災害に備えた協力体制をとっています。

あなたは、ご自分の地域の「防災拠点運営委員会」を知っていますか。

(○は1つ)

n = 875

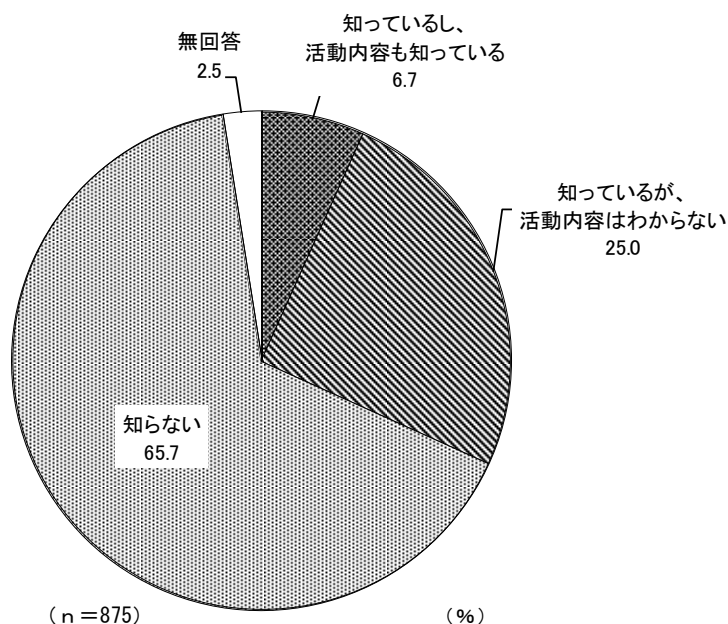
防災拠点運営委員会

1	知っているし、活動内容も知っている	6.7%	3	知らない	65.7
2	知っているが、活動内容はわからない	25.0		(無回答)	2.5

防災拠点運営委員会の認知度は、「知らない」が6割台半ばで最も高くなっている。「知っているし、活動内容も知っている」(6.7%)は1割未満、「知っているが、活動内容はわからない」(25.0%)は2割台半ばとなっている。

(図表2-3-4)

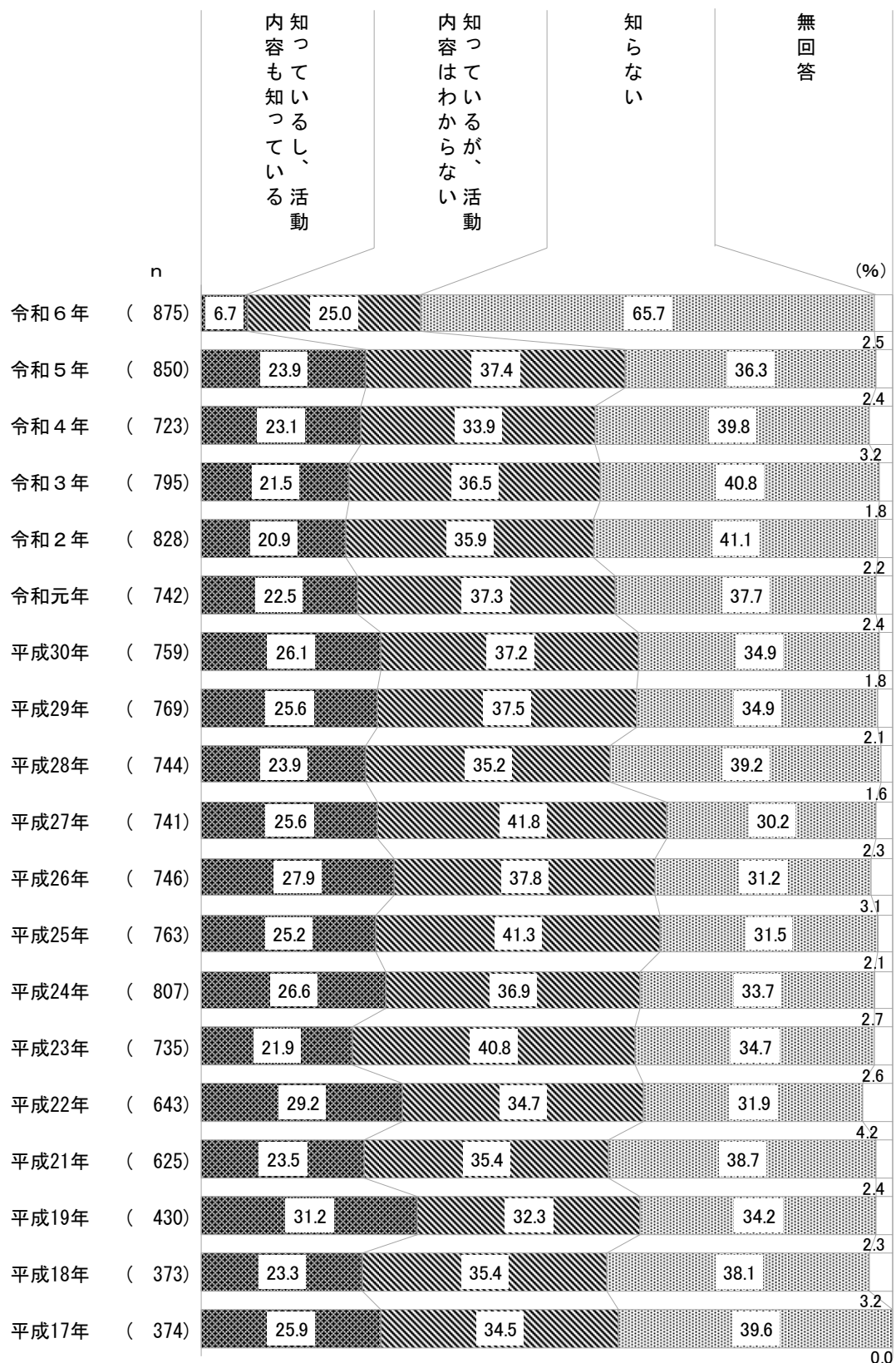
図表2-3-4 防災拠点運営委員会の認知度



回答の条件が異なるため、比較することができないが、参考として掲載する。

(図表 2－3－5)

図表 2－3－5 防災拠点運営委員会の認知度一過年度比較



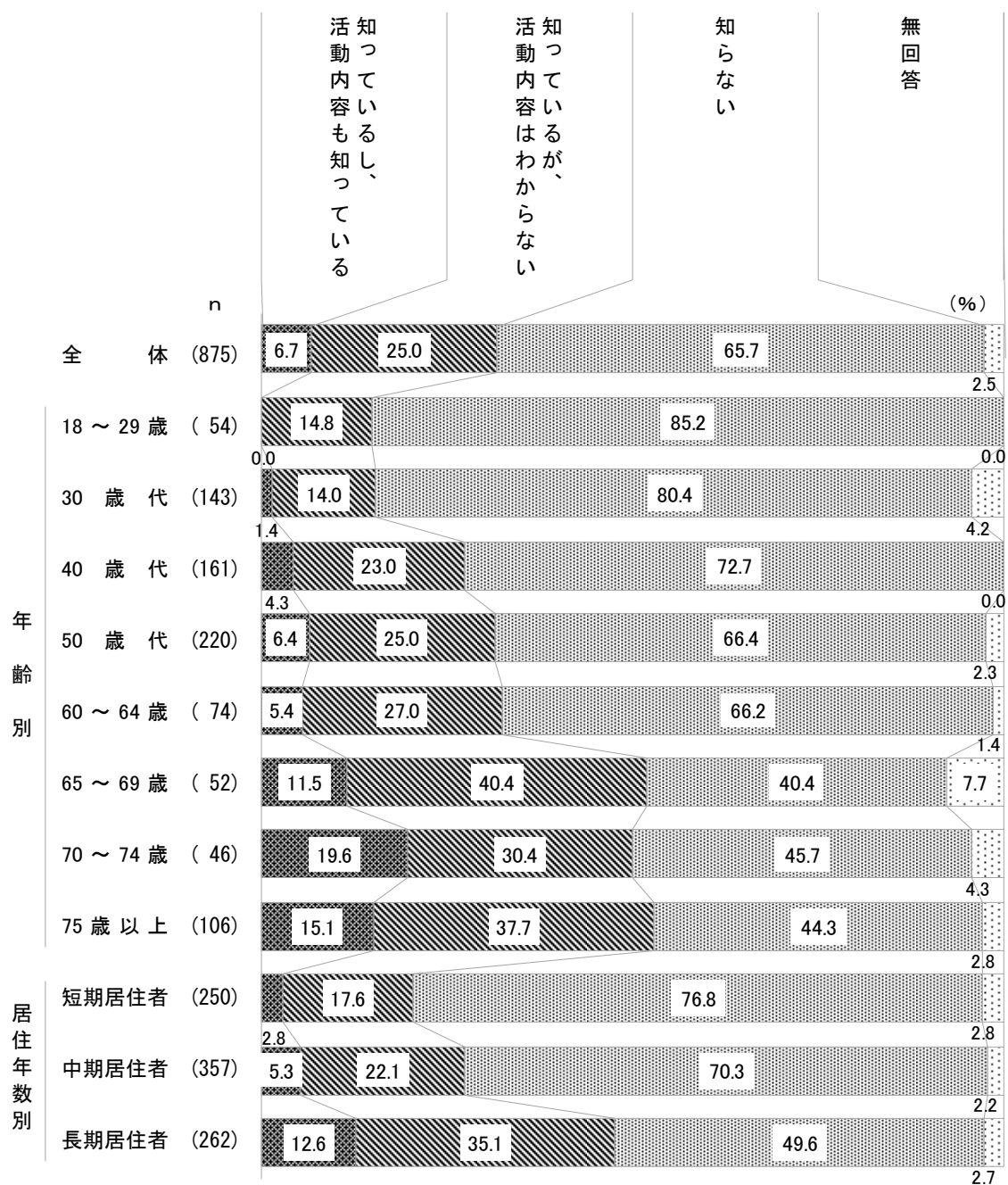
※令和 4 年以前は防災拠点を「知っている」または「知っているが、場所はわからない」とお答えの方のみ回答している設問。

年代別でみると、「知らない」は18～29歳で8割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、「知っているが、活動内容はわからない」は長期居住者で3割台半ばとなっている。

(図表 2－3－6)

図表 2－3－6 防災拠点運営委員会の認知度一年齢別・居住年数別



(4) 避難した際に心配なこと

◇「トイレ」が8割超

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

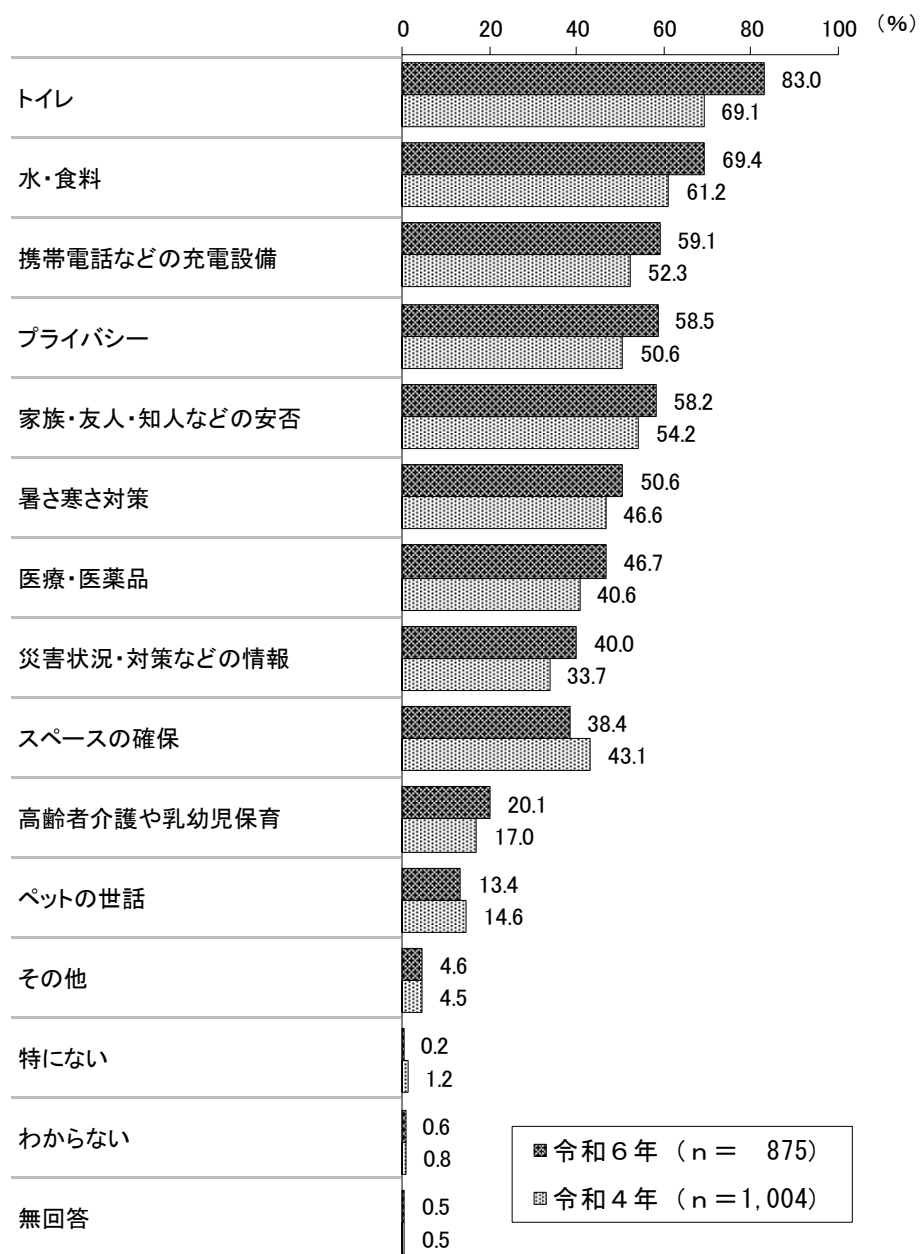
n = 875

1	水・食料	69.4%
2	トイレ	83.0
3	プライバシー	58.5
4	家族・友人・知人などの安否	58.2
5	災害状況・対策などの情報	40.0
6	携帯電話などの充電設備	59.1
7	医療・医薬品	46.7
8	高齢者介護や乳幼児保育	20.1
9	スペースの確保	38.4
10	暑さ寒さ対策	50.6
11	ペットの世話	13.4
12	その他	4.6
13	特にない	0.2
14	わからない	0.6
	(無回答)	0.5

災害時に特に気がかりなことは、「トイレ」(83.0%)が8割を超えて最も高くなっている。次いで、「水・食料」(69.4%)、「携帯電話などの充電設備」(59.1%)、「プライバシー」(58.5%)、「家族・友人・知人などの安否」(58.2%)などとなっている。

令和4年の調査結果と比較すると、「トイレ」は13.9ポイント、「水・食料」は8.2ポイント、「プライバシー」は7.9ポイント増加している。一方、「スペースの確保」は4.7ポイント減少している。
(図表2-4-1)

図表2-4-1 避難した際に心配なこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「トイレ」と「水・食料」が引き続き上位２項目となっている。（図表２－４－２）

図表２－４－２ 避難した際に心配なこと－過年度比較

調査年	n																避難スペースの確保や厚さ寒さ対策
		トイレ	水・食料	携帯電話などの充電設備	プライバシー	家族・友人・知人などの安否	暑さ寒さ対策	医療・医薬品	災害状況・対策などの情報	スペースの確保	高齢者介護や乳幼児保育	ペットの世話	その他	特にない	わからない	無回答	
令和６年	875	83.0	69.4	59.1	58.5	58.2	50.6	46.7	40.0	38.4	20.1	13.4	4.6	0.2	0.6	0.5	※
令和４年	1,004	69.1	61.2	52.3	50.6	54.2	46.6	40.6	33.7	43.1	17.0	14.6	4.5	1.2	0.8	0.5	※
令和２年	1,161	70.6	61.0	48.7	52.9	50.6	51.1	40.0	31.9	48.5	19.1	11.8	6.8	1.0	0.6	1.6	※
令和元年	956	74.9	64.9	43.7	45.5	55.0	51.7	37.8	33.5	38.9	19.8	10.3	4.6	1.3	0.5	1.4	※
平成30年	1,056	77.0	65.5	※	42.5	55.7	43.9	37.8	34.3	36.9	21.4	13.0	6.3	1.0	0.9	1.5	※
平成29年	1,056	74.5	63.4	※	42.3	58.1	46.4	39.5	35.0	36.2	20.2	12.0	5.2	1.1	0.5	2.8	※
平成28年	1,036	78.5	69.3	※	48.1	56.2	47.6	41.2	35.6	38.8	24.8	11.3	6.2	0.5	0.5	0.8	※
平成27年	1,027	75.5	67.7	※	38.3	61.1	46.1	42.7	35.9	31.5	24.0	10.3	5.4	1.4	1.5	0.4	※
平成26年	1,041	72.8	64.6	※	38.9	62.4	46.2	45.9	40.1	31.8	23.2	10.1	4.3	1.7	0.7	2.4	※
平成25年	1,047	76.6	66.5	※	40.4	62.6	47.7	43.9	37.5	30.3	20.7	12.0	4.5	1.3	0.6	0.8	※
平成24年	1,123	74.1	65.4	※	37.1	64.8	44.5	38.7	38.3	29.0	19.9	13.7	4.1	0.7	0.6	1.4	※
平成23年	1,097	77.8	72.3	※	45.7	55.1	53.2	43.4	37.9	33.2	21.2	13.3	4.9	0.8	0.3	1.2	※
平成22年	1,004	74.9	67.5	※	27.0	56.8	36.7	43.1	33.2	37.6	24.3	11.1	3.1	0.6	1.0	0.9	※
平成21年	1,001	79.6	69.5	※	34.6	50.2	39.8	41.1	33.0	40.1	24.0	11.3	2.5	0.7	1.1	0.6	※
平成20年	1,065	78.4	72.1	※	29.8	60.4	40.3	46.9	34.2	41.4	26.2	10.6	2.7	0.0	0.0	0.9	※
平成19年	686	74.9	74.2	※	25.9	62.0	※	48.4	40.7	※	24.1	10.8	1.7	0.9	2.0	0.3	45.5

＊ 太枠内が今回の調査の選択肢。

＊ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

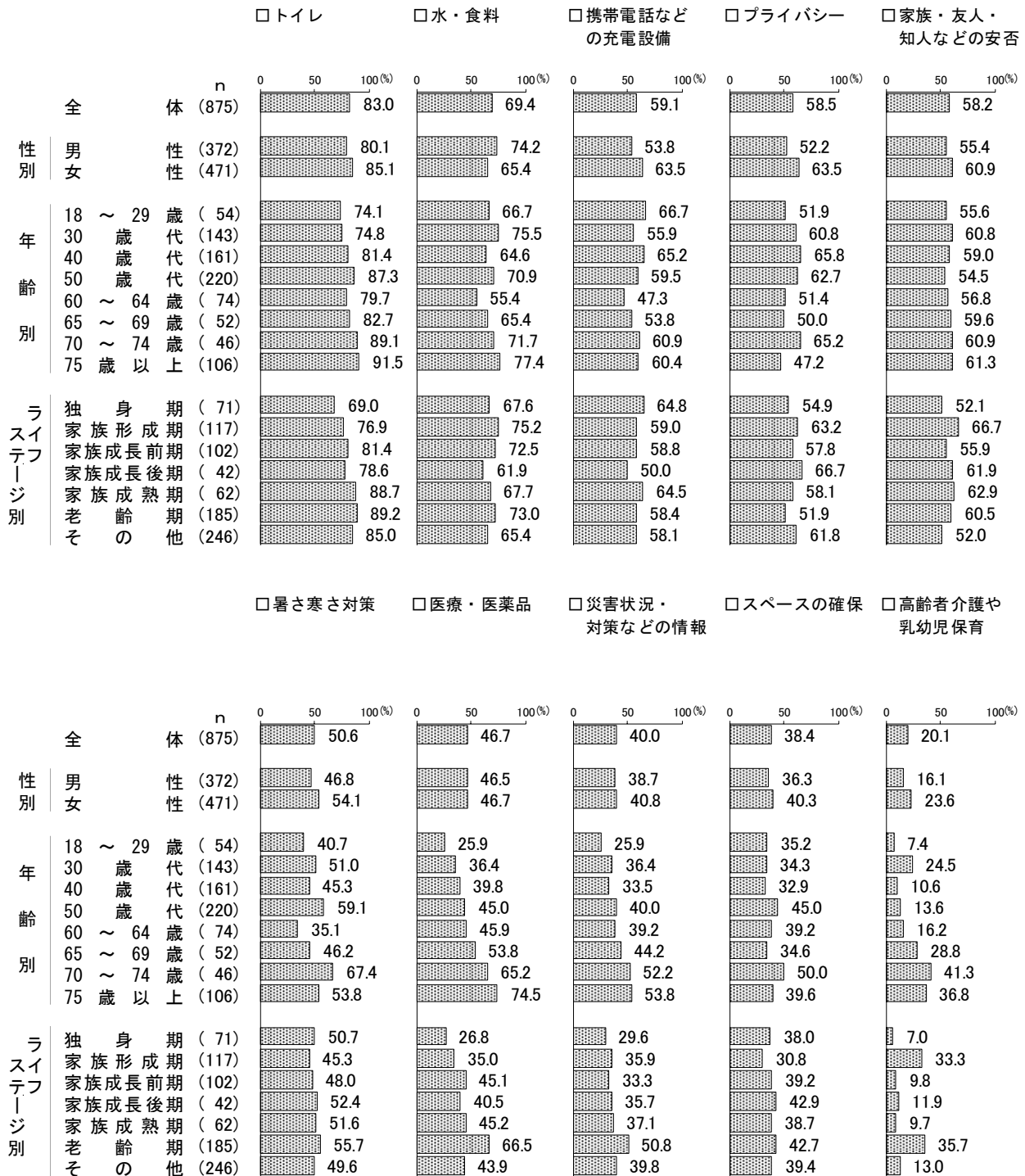
＊ 「スペースの確保」の選択肢は、平成22年まで「避難スペースの確保」としていた。

性別でみると、男性の方が女性よりも「水・食料」で8.8ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「プライバシー」で11.3ポイント、「携帯電話などの充電設備」で9.7ポイント、「高齢者介護や乳幼児保育」で7.5ポイント、「暑さ寒さ対策」で7.3ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「トイレ」は75歳以上で9割を超えて高くなっている。「水・食料」は75歳以上で8割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「トイレ」は老齢期で約9割と高くなっている。（図表2-4-3）

図表2-4-3 避難した際に心配なことー性別・年齢別・ライフステージ別



(5) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が5割台半ば

問8 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 875

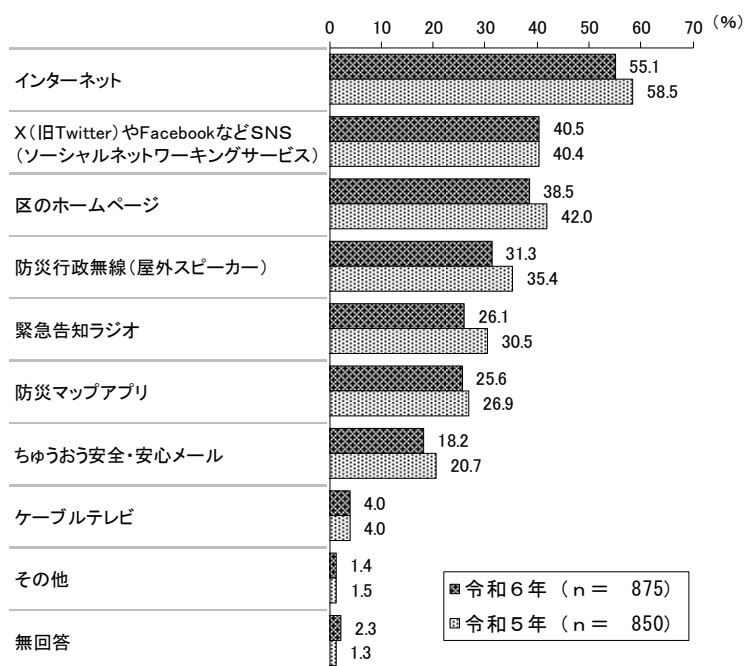
1	区のホームページ	38.5%
2	防災マップアプリ	25.6
3	ちゅうおう安全・安心メール	18.2
4	インターネット	55.1
5	X (旧Twitter) やFacebookなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)	40.5
6	防災行政無線 (屋外スピーカー)	31.3
7	緊急告知ラジオ※	26.1
8	ケーブルテレビ	4.0
9	その他	1.4
	(無回答)	2.3

(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(55.1%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「X (旧Twitter) やFacebookなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)」(40.5%)、「区のホームページ」(38.5%)、「防災行政無線 (屋外スピーカー)」(31.3%)、「緊急告知ラジオ」(26.1%) などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「緊急告知ラジオ」は4.4ポイント、「防災行政無線（屋外スピーカー）」は4.1ポイント、「区のホームページ」は3.5ポイント減少している。（図表２－５－１）

図表２－５－１ 災害情報を得る手段として有効だと思うもの（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「インターネット」は平成27年以降５割以上で推移している。（図表２－５－２）

図表２－５－２ 災害情報を得る手段として有効だと思うもの一過年度比較

調査年	n	インターネット	X(旧Twitter)やFacebookなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)	区のホームページ	防災行政無線(屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
令和6年	875	55.1	40.5	38.5	31.3	26.1	25.6	18.2	4.0	1.4	2.3
令和5年	850	58.5	40.4	42.0	35.4	30.5	26.9	20.7	4.0	1.5	1.3
令和4年	1,004	61.0	42.3	31.4	27.9	30.1	23.2	19.7	3.0	0.9	2.5
令和3年	1,101	53.0	39.0	42.6	33.8	28.7	27.2	22.2	3.8	2.5	2.3
令和2年	1,161	56.2	40.7	35.8	33.0	32.6	24.7	22.0	3.9	1.3	2.5
令和元年	956	51.4	36.3	28.7	38.1	36.1	25.2	20.6	3.8	1.9	3.9
平成30年	1,056	54.6	38.9	29.9	37.2	37.3	19.0	18.4	6.0	1.8	3.2
平成29年	1,056	52.0	38.9	26.9	38.8	42.0	※	19.0	4.6	1.8	3.0
平成28年	1,036	52.7	38.3	27.5	40.6	40.2	※	18.5	6.9	2.4	2.2
平成27年	1,027	50.1	31.6	28.6	39.6	42.7	※	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	30.5	25.4	40.7	45.6	※	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	29.5	26.7	47.3	47.3	※	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	27.6	22.1	44.5	48.8	※	15.0	7.2	3.0	3.9

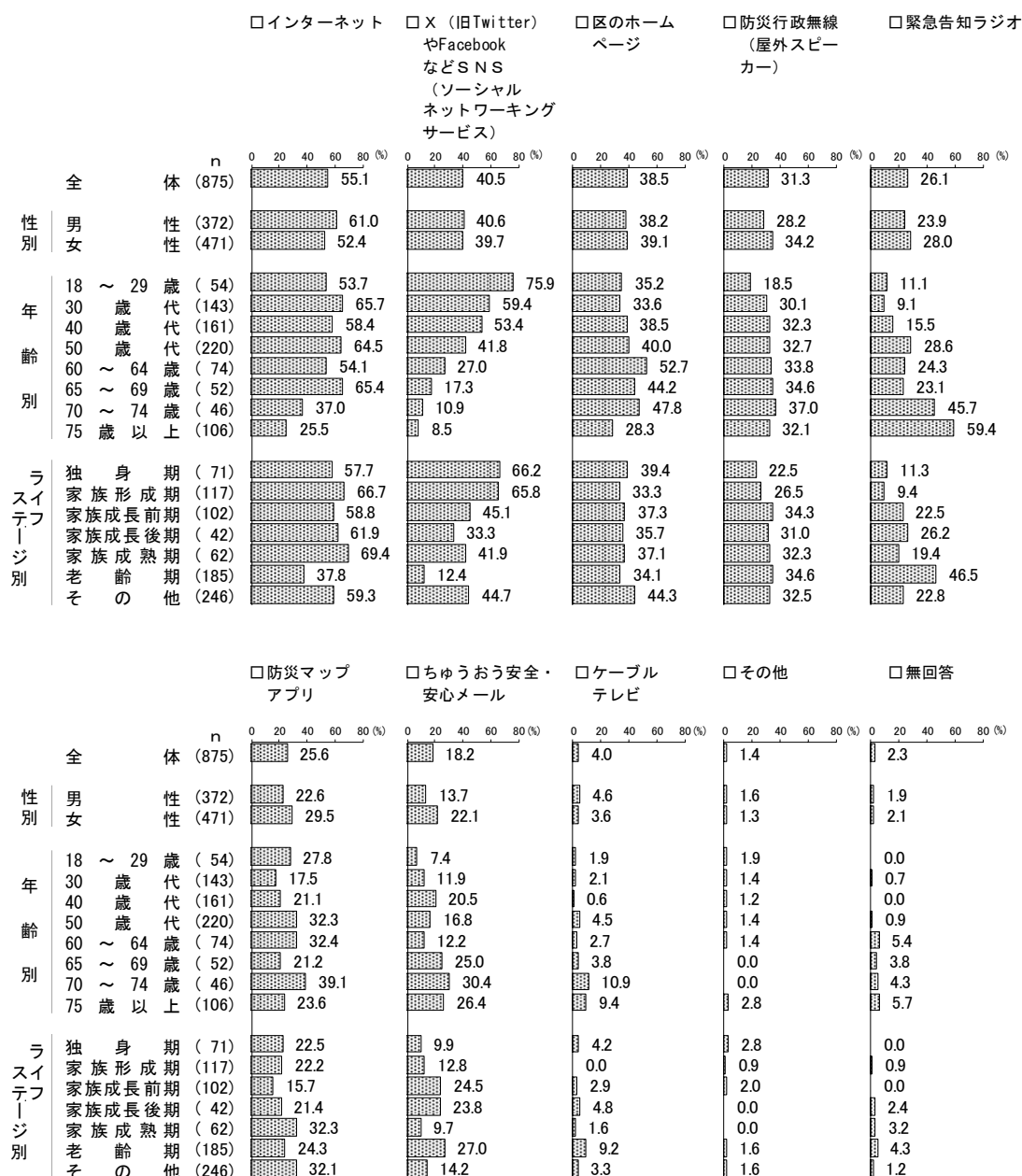
※ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

性別でみると、男性の方が女性よりも「インターネット」で8.6ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「ちゅうおう安全・安心メール」で8.4ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「インターネット」は30歳代、50歳代、65～69歳で6割台半ばと高くなっている。「X（旧Twitter）やFacebookなどSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」はおおむね年代が下がるほど割合が高くなっており、18～29歳で7割台半ばと高くなっている。「緊急告知ラジオ」は75歳以上で約6割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「インターネット」は家族成熟期で約7割と高くなっている。「X（旧Twitter）やFacebookなどSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」は独身期、家族形成期で6割台半ばと高くなっている。「緊急告知ラジオ」は老齢期で5割近く高くなっている。（図表2-5-3）

図表2-5-3 災害情報を得る手段として有効だと思うもの－性別・年齢別・ライフステージ別



【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

(1) 健康診査の受診状況

◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が4割台半ば

問9 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（○はいくつでも）

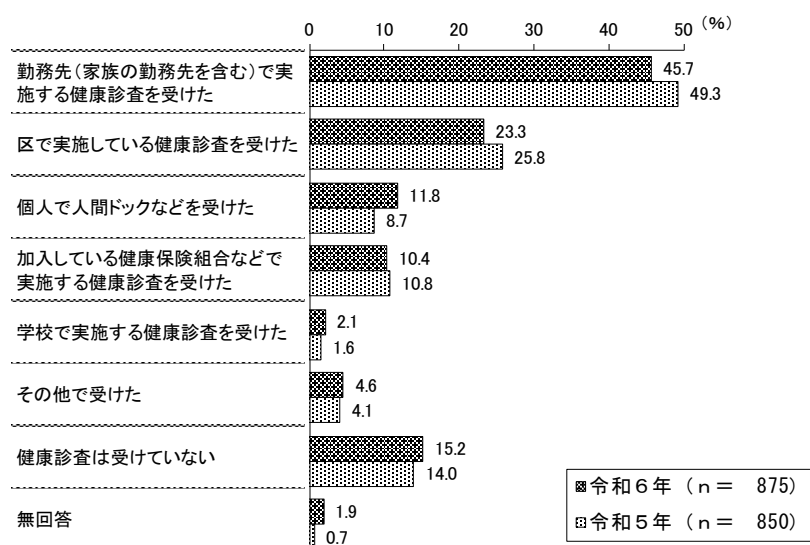
n = 875

1 区で実施している健康診査を受けた	23.3%
2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	45.7
3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	10.4
4 個人で人間ドックなどを受けた	11.8
5 学校で実施する健康診査を受けた	2.1
6 その他で受けた	4.6
7 健康診査は受けていない	15.2
（無回答）	1.9

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（45.7%）が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（23.3%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（11.8%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（10.4%）などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」（15.2%）は1割台半ばとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は3.6ポイント減少している。（図表3-1-1）

図表3-1-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位２項目となっている。（図表３－１－２）

図表３－１－２ 健康診査の受診状況一過年度比較

（％）

調 査 年	n	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
令和６年	875	45.7	23.3	11.8	10.4	2.1	4.6	15.2	1.9
令和５年	850	49.3	25.8	8.7	10.8	1.6	4.1	14.0	0.7
令和４年	1,004	47.7	25.7	8.4	8.4	2.0	3.9	15.8	0.3
令和３年	1,101	47.3	21.8	9.8	8.1	1.7	3.9	18.5	0.7
令和２年	1,161	45.0	19.0	7.2	10.2	1.1	3.5	21.3	0.9
令和元年	956	44.2	25.3	8.9	10.0	1.8	4.8	16.5	0.6
平成30年	1,056	44.7	25.7	8.8	9.8	1.3	3.4	16.1	0.6
平成29年	1,056	42.9	24.6	8.5	8.6	2.2	4.5	17.8	1.8
平成28年	1,036	42.5	27.2	9.0	8.9	1.5	4.2	17.2	0.6
平成27年	1,027	40.9	27.3	7.8	8.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	8.1	6.8	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	9.6	8.9	1.0	4.0	19.0	1.9

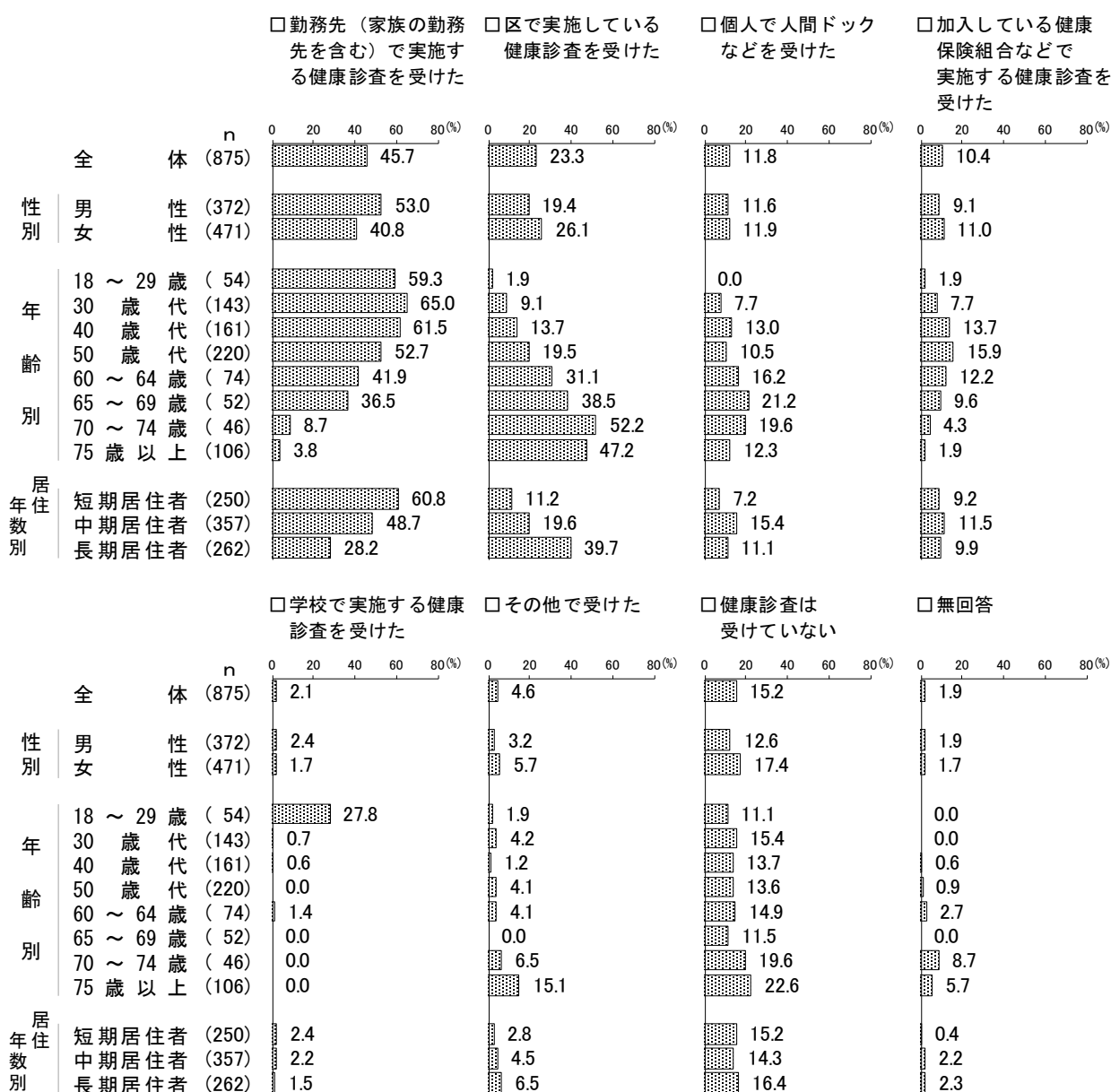
＊ 「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は、平成25年は「加入している健康保険で実施する健康診査を受けた」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「区で実施している健康診査を受けた」で6.7ポイント、「健康診査は受けていない」で4.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」で12.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代と40歳代で6割台と高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は70～74歳で5割を超え、75歳以上で5割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で約6割と高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で4割と高くなっている。（図表3－1－3）

図表3－1－3 健康診査の受診状況－性別・年齢別・居住年数別



(2) 健康診査を受けなかった理由

◇「面倒である」が2割台半ば

(問9で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問9-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

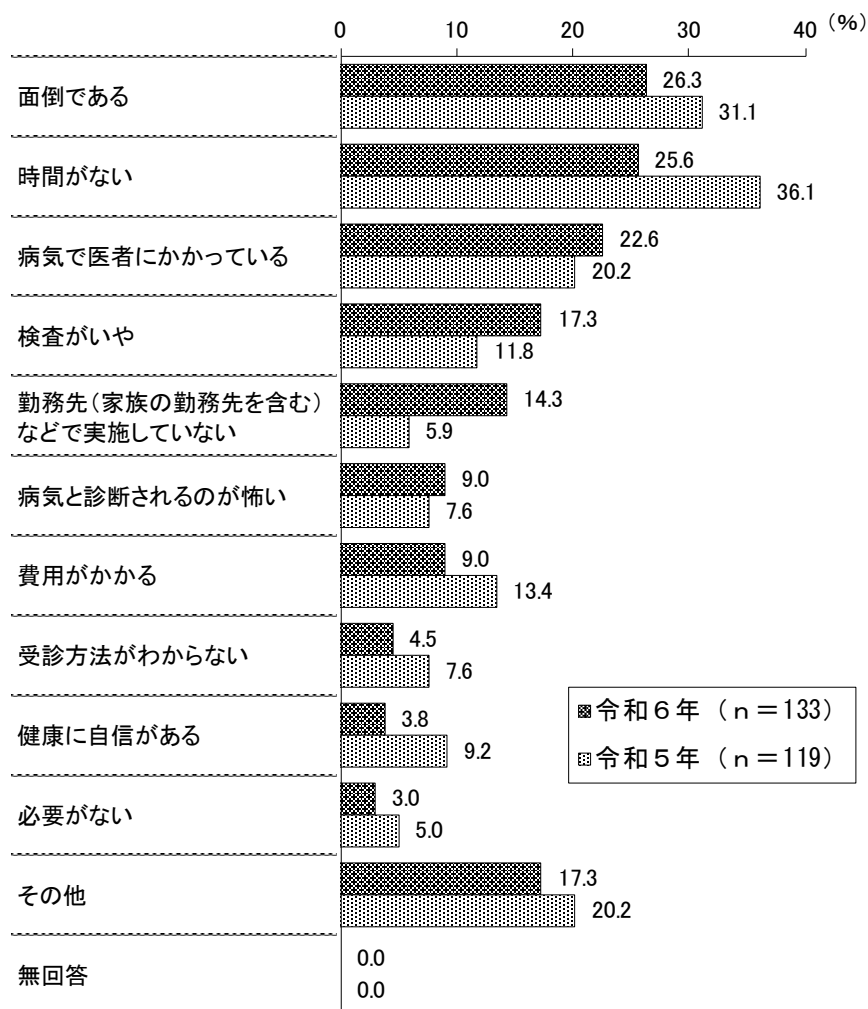
n = 133

1 勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	14.3%
2 受診方法がわからない	4.5
3 必要がない	3.0
4 時間がない	25.6
5 面倒である	26.3
6 健康に自信がある	3.8
7 病気で医者にかかっている	22.6
8 検査がいや	17.3
9 病気と診断されるのが怖い	9.0
10 費用がかかる	9.0
11 その他	17.3
(無回答)	0.0

問9で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「面倒である」(26.3%)が2割台半ばで最も高くなっている。次いで、「時間がない」(25.6%)、「病気で医者にかかっている」(22.6%)などとなっている。また、「その他」の回答として、「毎年受けているが、今年は受けていない。」、「高齢のため難しい」などがあげられている。

昨年の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」は8.4ポイント、「検査がいや」は5.5ポイント増加している。一方、「時間がない」は10.5ポイント、「健康に自信がある」は5.4ポイント減少している。（図表3－2－1）

図表3－2－1 健康診査を受けなかった理由（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「面倒である」と「時間がない」、「病気で医者にかかっている」が引き続き上位３項目となっている。（図表３－２－２）

図表３－２－２ 健康診査を受けなかった理由－過年度比較

（％）

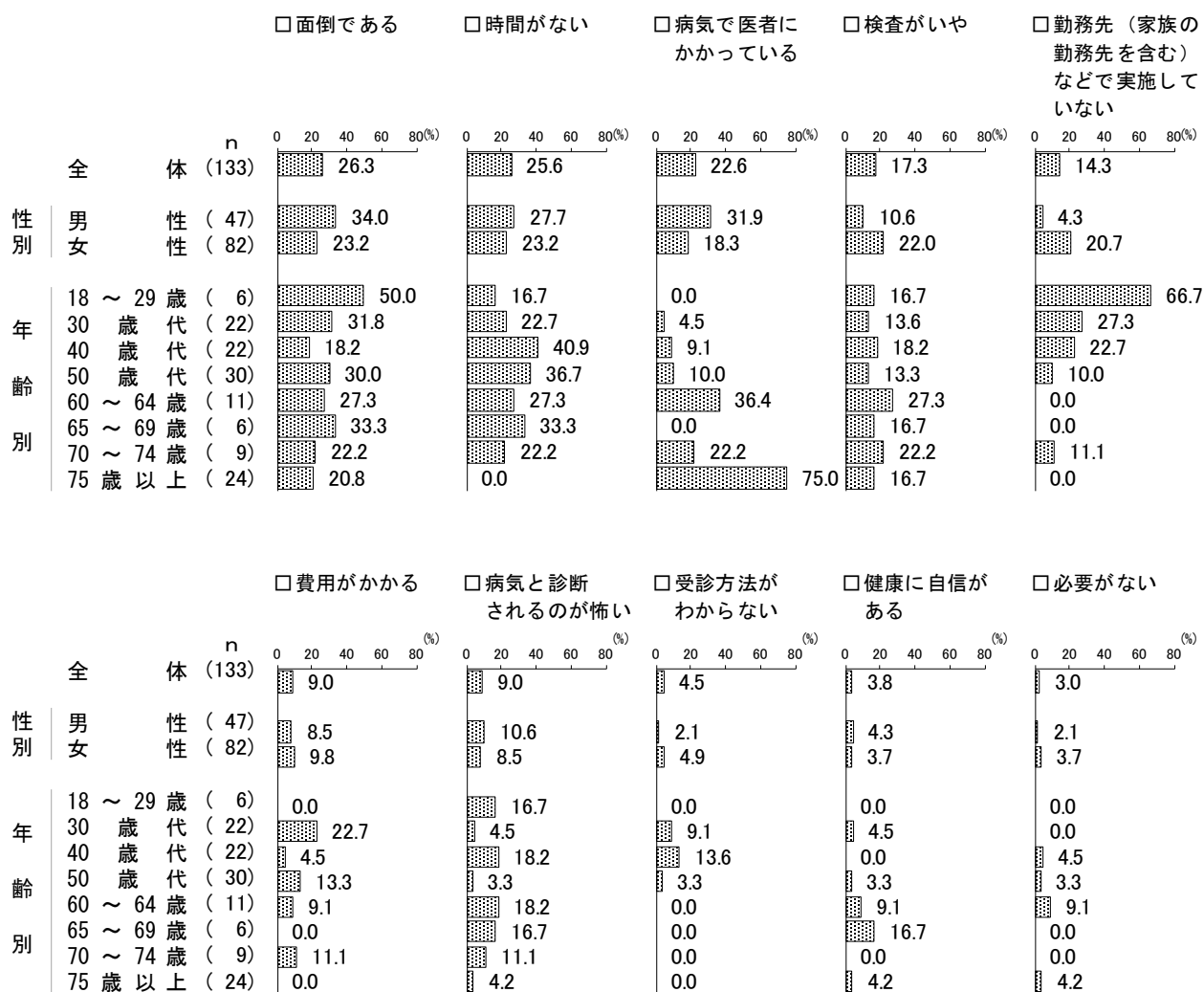
調 査 年	n	面倒である	時間がない	病気で医者にかかっている	検査がいや	勤務先（家族の勤務先を含む） などで実施していない	費用がかかる	病気と診断されるのが怖い	受診方法がわからない	健康に自信がある	必要がない	その他	無回答
令和６年	133	26.3	25.6	22.6	17.3	14.3	9.0	9.0	4.5	3.8	3.0	17.3	0.0
令和５年	119	31.1	36.1	20.2	11.8	5.9	13.4	7.6	7.6	9.2	5.0	20.2	0.0
令和４年	159	15.1	27.7	23.9	7.5	11.3	5.0	4.4	7.5	5.7	6.3	28.3	0.6
令和３年	204	20.1	20.6	20.6	10.8	11.8	8.3	6.9	3.9	6.4	3.9	28.9	0.0
令和２年	247	18.6	28.7	17.4	11.3	10.5	6.9	7.7	4.5	7.3	4.0	31.6	0.8
令和元年	158	22.2	33.5	20.3	11.4	10.8	9.5	10.8	4.4	7.6	7.0	13.3	0.6
平成30年	170	13.5	28.2	25.3	4.1	13.5	9.4	3.5	5.9	7.1	6.5	14.7	1.2
平成29年	188	21.3	26.1	22.3	12.8	10.1	12.2	10.1	5.9	8.0	6.9	17.0	2.1
平成28年	178	19.1	27.5	16.9	14.6	14.6	12.9	6.2	4.5	8.4	6.7	16.9	1.1
平成27年	192	23.4	32.3	15.6	14.1	9.9	14.6	9.9	6.3	9.4	7.3	12.0	3.1
平成26年	220	14.5	29.1	18.2	12.3	15.0	14.1	6.8	6.4	4.1	5.9	18.2	0.0
平成25年	199	17.1	34.7	16.6	7.5	12.6	9.5	6.0	6.5	7.0	7.5	19.1	0.5

性別でみると、男性の方が女性よりも「病気で医者にかかっている」で13.6ポイント、「面倒である」で10.8ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」で16.4ポイント、「検査がいや」が11.4ポイント、高くなっている。

年齢別でみると、「時間がない」は40歳代で約4割と高くなっている。「病気で医者にかかっている」は75歳以上で7割台半ばと高くなっている。

(図表3-2-3)

図表3-2-3 健康診査を受けなかった理由－性別・年齢別



【4 高齢者施策】

(1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が4割近く

問10 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

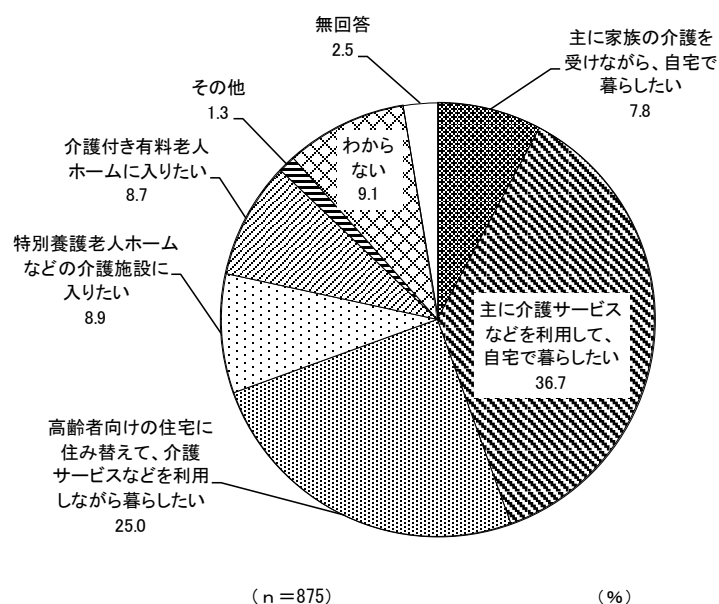
(もっとも近い考え1つに○)

n = 875

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	7.8%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	36.7
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	25.0
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	8.9
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	8.7
6	その他	1.3
7	わからない	9.1
	(無回答)	2.5

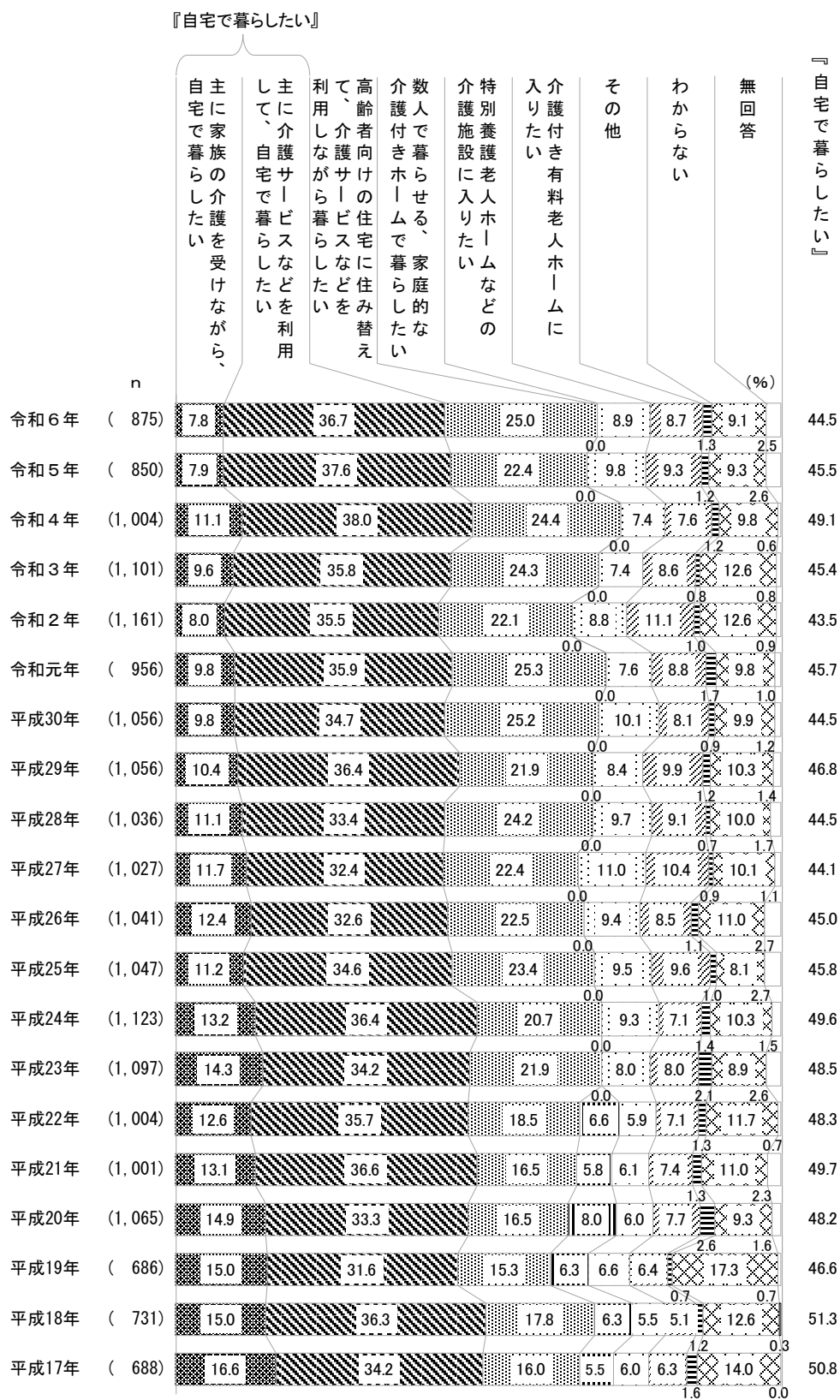
要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(36.7%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(25.0%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」(8.9%)、「介護付き有料老人ホームに入りたい」(8.7%) などとなっている。(図表4-1-1)

図表4-1-1 要介護時における暮らし方



過去の調査結果と比較すると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は平成17年以降3割台で推移している。（図表4-1-2）

図表4-1-2 要介護時における暮らし方一過年度比較

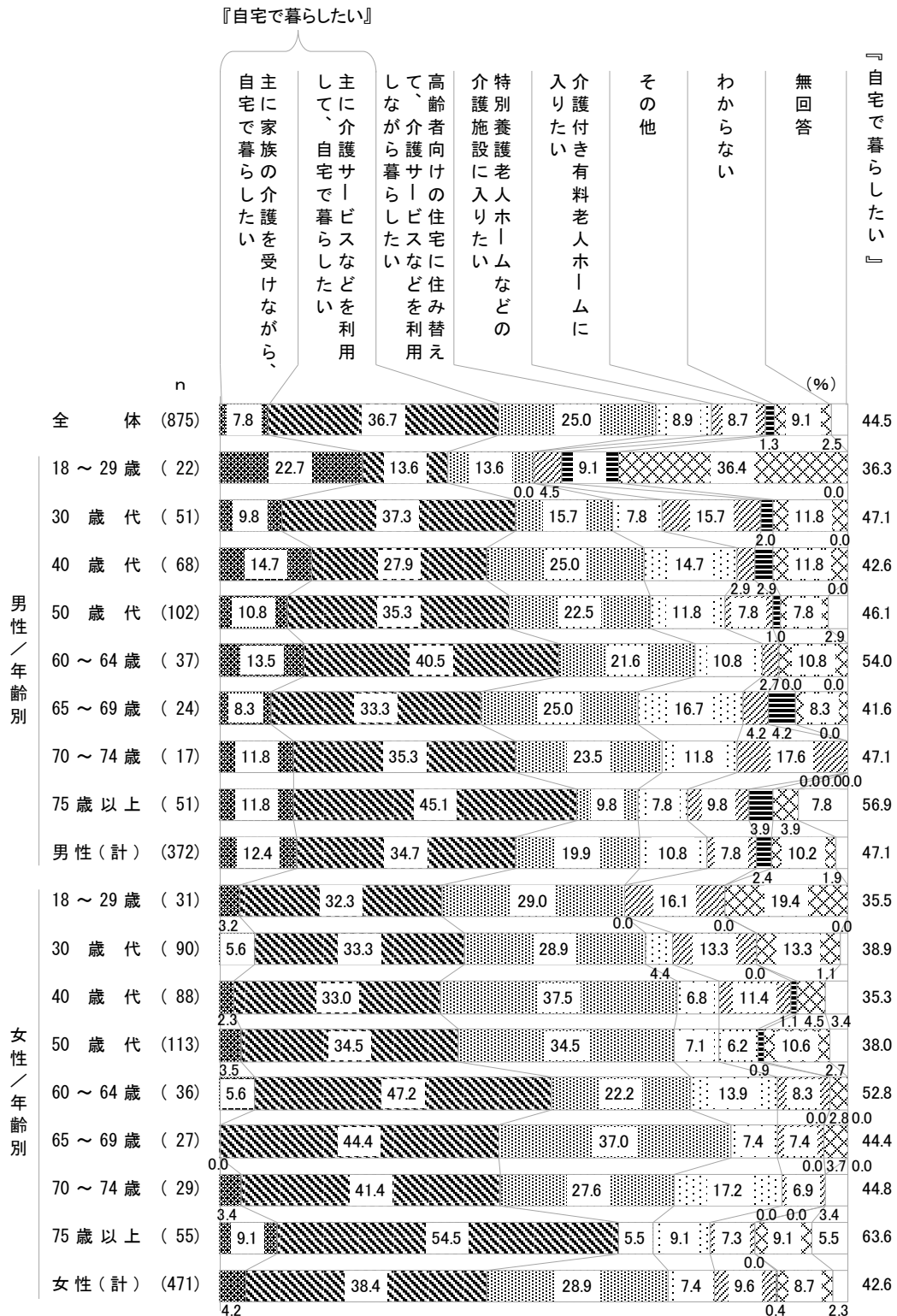


* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

性／年齢別でみると、『自宅で暮らしたい』は女性の75歳以上で6割を超え、男性75歳以上6割近く、男性60～64歳で5割台半ばと高くなっている。「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は女性75歳以上で5割台半ばと高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の40歳代で4割近くと高くなっている。

(図表4-1-3)

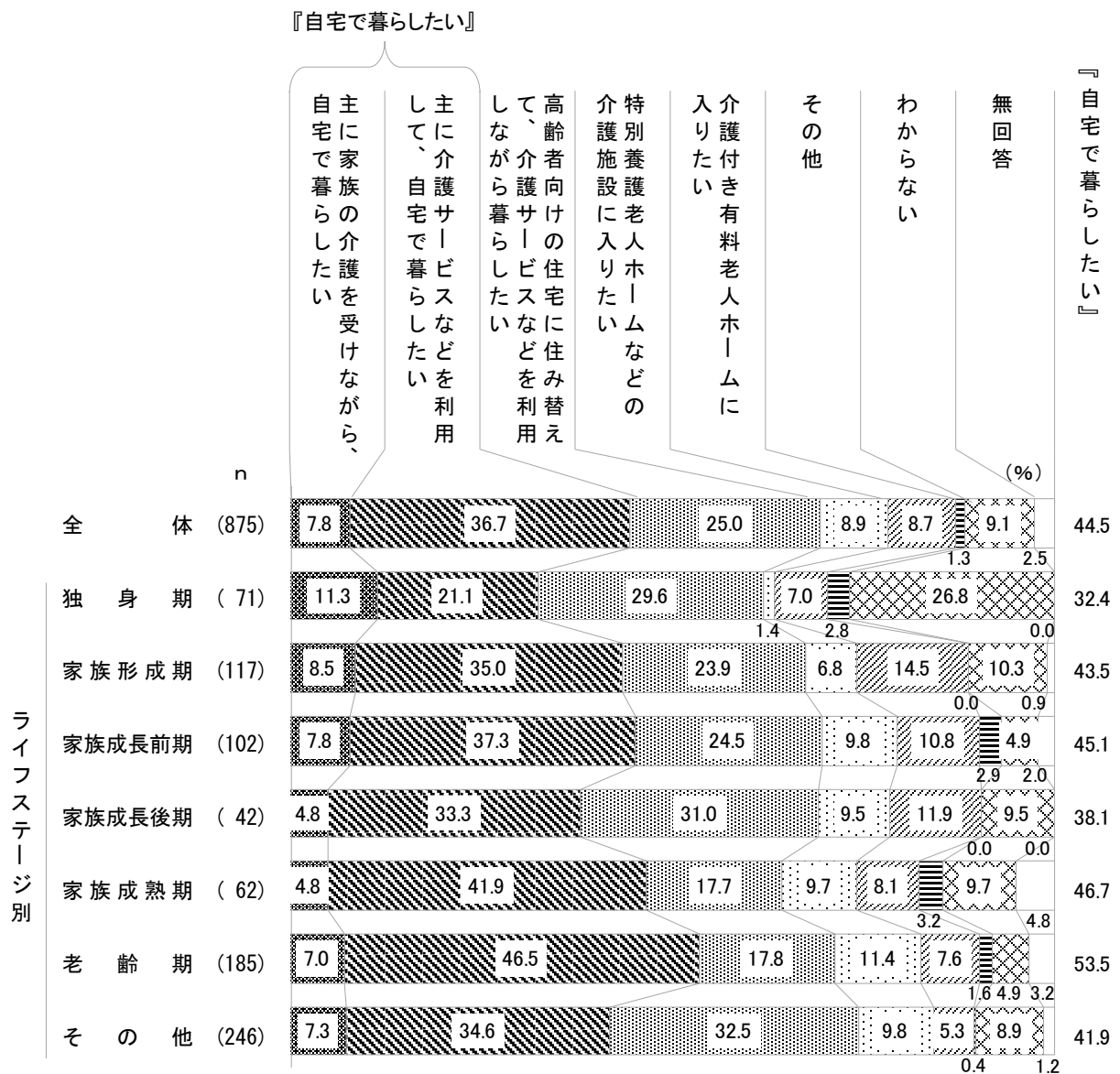
図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別でみると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は家族成熟期、老齢期で4割を超えて高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は家族成長後期、その他で3割を超えて高くなっている。

(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方－ライフステージ別



(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が6割近く

問11 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

n = 875

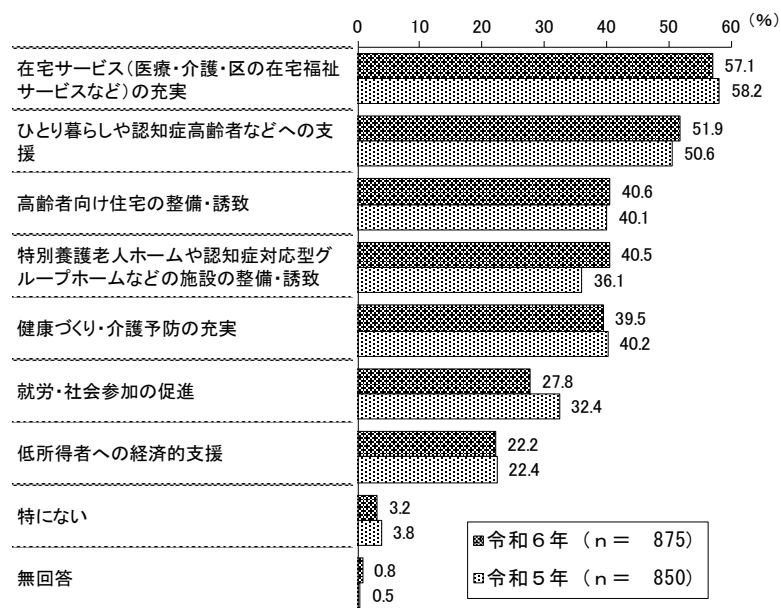
1	健康づくり・介護予防の充実	39.5%
2	就労・社会参加の促進	27.8
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	57.1
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	40.5
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	40.6
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	51.9
7	低所得者への経済的支援	22.2
8	特にない	3.2
	（無回答）	0.8

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（57.1%）が6割近くと最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（51.9%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（40.6%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（40.5%）、「健康づくり・介護予防の充実」（39.5%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」は4.4ポイント増加している。

（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」が引き続き上位２項目となっている。

（図表４－２－２）

図表４－２－２ 区に望む高齢者保健福祉サービス－過年度比較

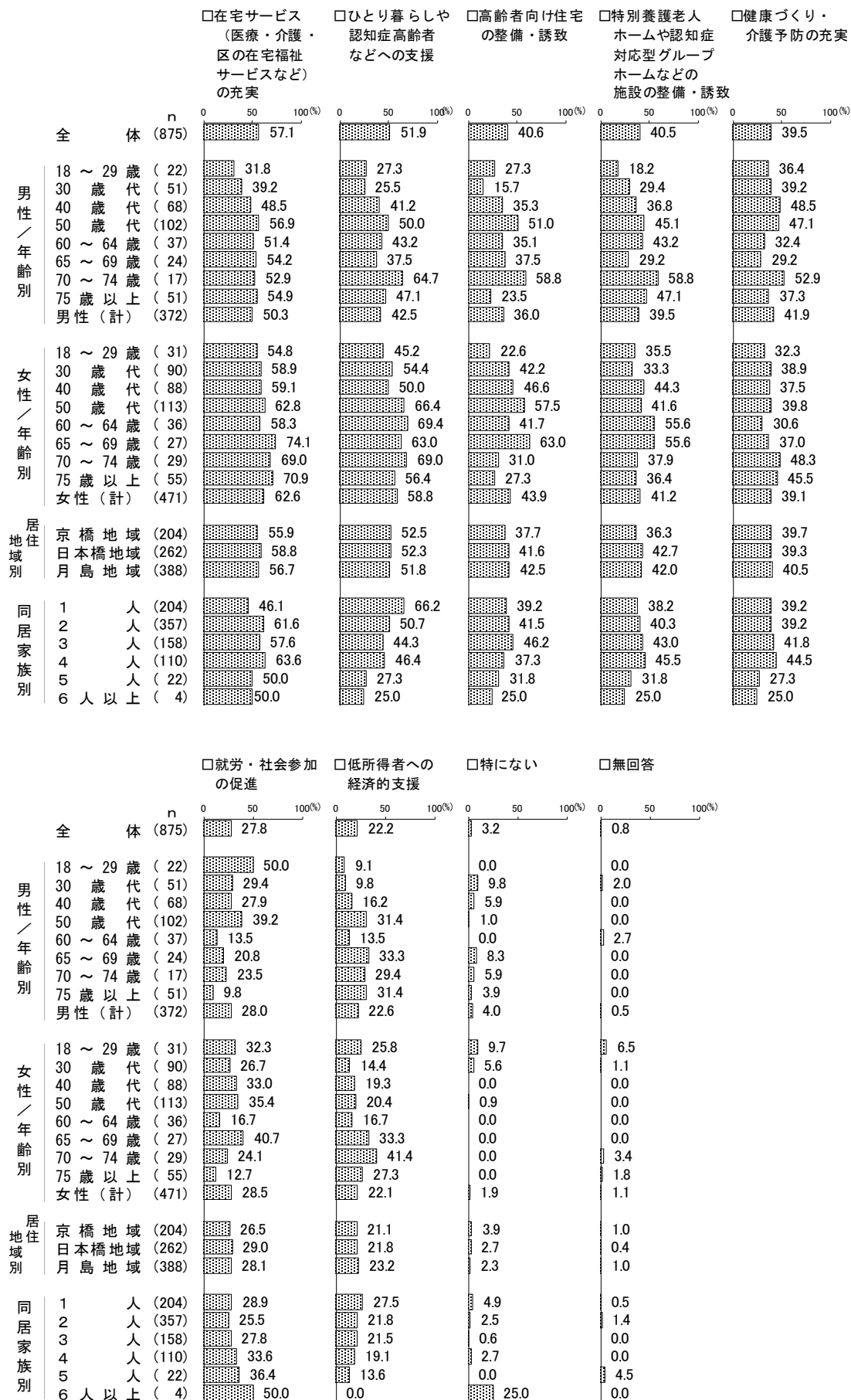
調 査 年	n	(%)								
		在宅福祉サービス（医療・介護・区の充実）	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	高齢者向け住宅の整備・誘致	特別養護老人ホームなどの認知症対応型グループホームなどの施設整備・誘致	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	低所得者への経済的支援	特にない	無回答
令和６年	875	57.1	51.9	40.6	40.5	39.5	27.8	22.2	3.2	0.8
令和５年	850	58.2	50.6	40.1	36.1	40.2	32.4	22.4	3.8	0.5
令和４年	1,004	52.1	49.1	39.1	34.8	35.7	25.5	21.4	3.9	1.1
令和３年	1,101	53.6	48.6	38.2	36.9	37.1	28.5	23.0	3.2	1.4
令和２年	1,161	51.8	46.3	39.5	36.3	35.4	28.3	23.3	4.2	1.1
令和元年	956	52.7	48.1	37.2	35.6	38.0	28.0	20.9	3.3	1.4
平成30年	1,056	49.5	44.4	41.1	37.5	41.3	27.1	21.3	2.9	1.2
平成29年	1,056	54.5	44.3	36.9	38.9	35.0	26.5	21.5	2.6	1.7
平成28年	1,036	50.8	46.1	40.5	40.7	37.2	28.3	23.4	2.8	2.0
平成27年	1,027	48.7	45.8	38.5	37.8	37.9	28.1	21.9	3.5	1.4
平成26年	1,041	54.9	47.0	39.1	39.9	39.9	28.1	24.7	2.2	3.1

性／年齢別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は女性の65～69歳で７割台半ばと高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は女性の60～64歳、70～74歳で約７割と高くなっている。「高齢者向け住宅の整備・誘致」は女性の65～69歳で６割を超え高くなっている。

居住地域別でみると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」はすべての地域で５割台となっている。

同居家族別でみると、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は同居家族１人で６割台半ばとなっている。次いで同居家族２人で約５割となっている。（図表４－２－３）

図表 4-2-3 区に望む高齢者保健福祉サービス一性／年齢別・居住地域別・同居家族別



(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問11-1 問11で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、328人から延べ331件の回答が寄せられた。問11の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■健康づくり・介護予防の充実(31件)

- ・ 高齢者向けの体力検査を実施してほしい。
- ・ みんなが適度に運動して健康でいられるようにしてほしい。
- ・ 健康づくりを通じて、コミュニティ参加と人間関係作りにつなげる取組の実施。
- ・ 健康づくりのためのジム、マッサージ等利用費に対する補助金を出してほしいです。
- ・ 公園にある健康器具を充実してほしい。

■就労・社会参加の促進(26件)

- ・ 住民の協力関係形成の土台となる近隣住民のコミュニティの形成。
- ・ 支援不要な老人が生きがいを感じ仲間と集える場所を作してほしい。
- ・ 働きたい人と働ける場所をつなげるマッチング。
- ・ 高齢者同士が交流できるようなコミュニティ作り。
- ・ 高齢者ができる仕事づくり。

■在宅サービス(医療・介護・区の在宅福祉サービスなど)の充実(26件)

- ・ タクシー券の配布、介護ベッド等の貸し出し、弁当宅配サービス。
- ・ 在宅サービスの充実と在宅が難しくなった時に、すぐ対応してくれる施設や病院。
- ・ 在宅における給食サービス。
- ・ 訪問介護の充実。
- ・ 訪問医療や看護サービスの提供を強化し、在宅での医療ケアを受けやすくする。
- ・ 介護サービスの提供を増やし、家族の負担を軽減する。

■特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致(41件)

- ・ 施設を増やして入居しやすくする。施設で働く方の環境改善(働きやすさ、給料含め)。
- ・ 高額な費用がかからない介護施設を充実させてほしい。
- ・ 介護施設の充実、自由に外出ができる施設。
- ・ 施設が少ない。入居の順番待ちの人数が多い。
- ・ 近隣の施設への見学会(それぞれの特徴、費用等、選択のための催し)。

■高齢者向け住宅の整備・誘致（31件）

- ・ 高齢者向けの支援サービス付きマンション。
- ・ 区営住宅等、単身、高齢者向け住宅の充実。
- ・ なるべく中央区内に住めるようにしたいので、住宅の整備などを充実してほしい。
- ・ 高齢者向けアパートやマンションの設置・整備。
- ・ 近場の高齢者向けサービス付き住宅は高額なものが多いので、低所得でも入居しやすいものがあると良いと思います。

■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（30件）

- ・ ひとり暮らしの方への見回りなど。
- ・ 独居高齢者見守りサービス。
- ・ 日常生活に不安のあるひとり暮らしの方の見守りネットワーク。
- ・ バリアフリーや高齢者や障害者に優しい街づくり。
- ・ 自宅に住む高齢者の見守り支援。理想は専任者のみならずご近所さん同士での見守り。

■低所得者への経済的支援（10件）

- ・ 公的年金以外の低所得者への区独自の年金受給。
- ・ 低所得者が利用できる施設。中央区は「高価」なイメージがあるので、高齢者施設があっても利用できないと感じている。利用しやすい施設があるのか他区の方がいいのかと考えてしまう。
- ・ 経済的支援、低所得者への住宅支援。
- ・ 物価の高騰の給付金等の支援。

■その他（136件）

- ・ 暮らしに不自由になったときに気軽に相談できる場所と、同じ状況の人と情報交換できる場は必要かなと思います。
- ・ 補助金制度をまとめたパンフレットの配布。
- ・ 介護タクシーなどの移動手段の充実。
- ・ 介護士や介護を取り扱う会社への補助・助成。
- ・ 若者世代が高齢者を支える構造を少しでも改善するような施策。
- ・ 行政が我々に提供するサービスを常時手の届く所に見せて頂きたい。調べる手間を減らしてほしい。
- ・ 区主催の高齢者健康教室は抽選のため年間を通して参加できるようにしてほしい。
- ・ 介護者不足にならないように、介護職の方の労働環境を良くしてほしい。
- ・ AIやIT、ロボットを活用し、介護者・要介護者の肉体的、精神的負担を軽減する策を考えてほしい。

【5 子育て支援】

(1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が約3割

問12 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 875

1	配偶者・パートナー	29.4%
2	その他の親族	14.2
3	職場の人	4.3
4	隣近所の人、知人、友人	7.5
5	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の保護者の仲間	3.1
6	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の先生	2.9
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	1.5
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	2.2
9	その他	2.5
10	特に相談しない	11.3
11	子育てを経験していない	41.1
	(無回答)	10.3

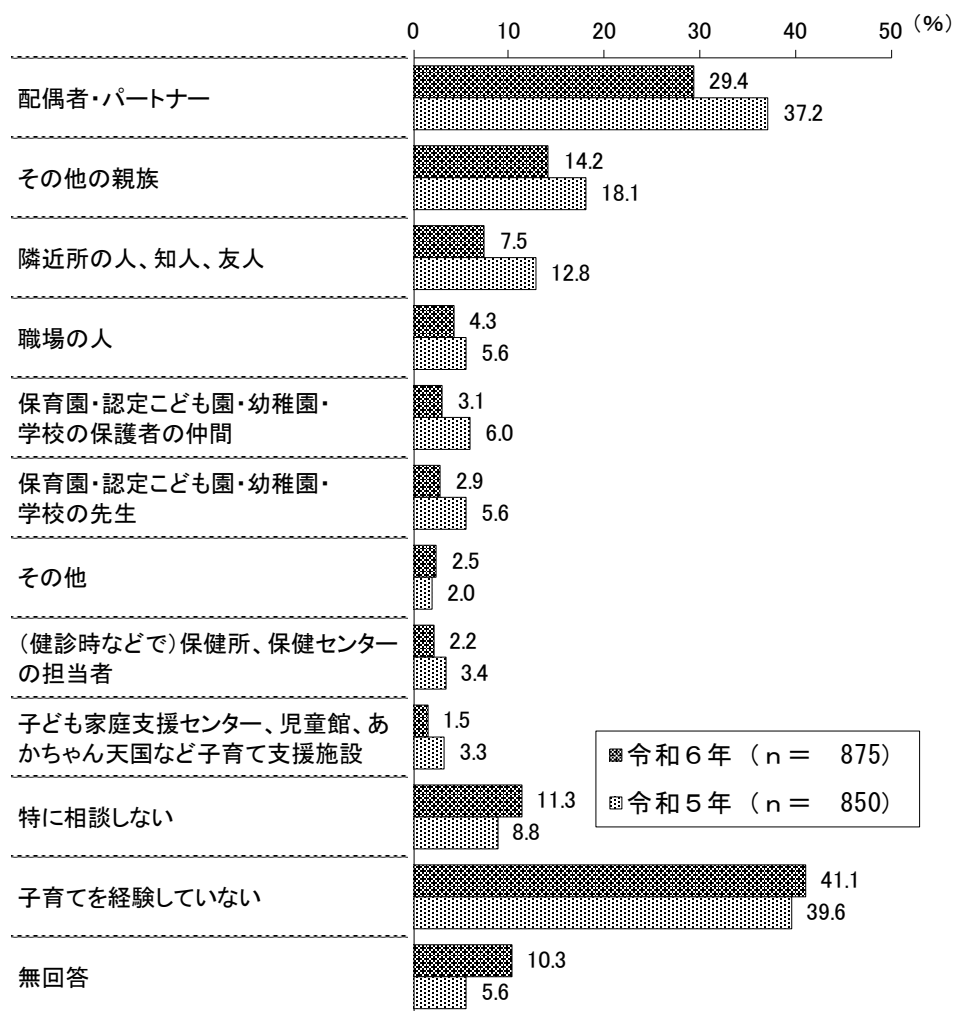
(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(29.4%)が約3割と最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(14.2%)、「隣近所の人、知人、友人」(7.5%)、「職場の人」(4.3%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「配偶者・パートナー」は7.8ポイント、「隣近所の人、知人、友人」は5.3ポイント、「その他の親族」は3.9ポイント減少している。

(図表5-1-1)

図表5-1-1 子育てに関する悩みの相談（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」と「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。
(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談－過年度比較

(%)

調査年	n	配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	職場の人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	タ（健診時などで）保健所、保健センターの担当者	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答	区役所など行政機関
令和6年	875	29.4	14.2	7.5	4.3	3.1	2.9	2.2	1.5	2.5	11.3	41.1	10.3	※
令和5年	850	37.2	18.1	12.8	6.0	5.6	5.6	3.4	3.3	2.0	8.8	39.6	5.6	※
令和4年	1,004	32.2	16.8	8.8	3.7	2.1	1.6	2.4	1.7	1.8	9.4	42.4	7.7	※
令和3年	1,101	37.3	19.7	9.0	3.8	3.6	1.6	1.0	1.5	0.6	7.4	41.6	5.6	※
令和2年	1,161	35.3	18.2	7.8	3.3	3.5	3.3	1.4	1.0	1.3	8.2	41.9	6.5	※
令和元年	956	34.3	20.2	9.2	3.1	3.3	2.3	1.7	1.0	1.0	8.4	39.3	7.9	※
平成30年	1,056	35.0	18.8	7.9	3.7	3.7	2.8	1.3	1.6	0.9	7.9	39.7	8.5	※
平成29年	1,056	33.5	20.0	8.5	4.8	4.0	2.6	1.8	1.9	0.5	6.4	38.8	10.2	※
平成28年	1,036	33.9	17.4	9.4	3.2	4.2	2.6	1.5	1.5	1.9	9.2	37.8	8.8	※
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	5.7	4.4	4.2	2.7	1.9	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	4.9	2.2	3.6	2.2	1.2	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	4.6	2.7	3.2	2.1	2.5	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	5.1	2.2	2.4	1.3	1.5	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	5.7	3.0	2.6	1.5	0.9	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	4.9	3.1	3.1	1.8	1.2	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	3.8	2.5	3.0	2.5	※	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	4.2	1.3	2.9	2.7	※	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	8.0	2.2	5.0	※	※	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

※ 太枠内が今回の調査の選択肢。

※ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

※ 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。

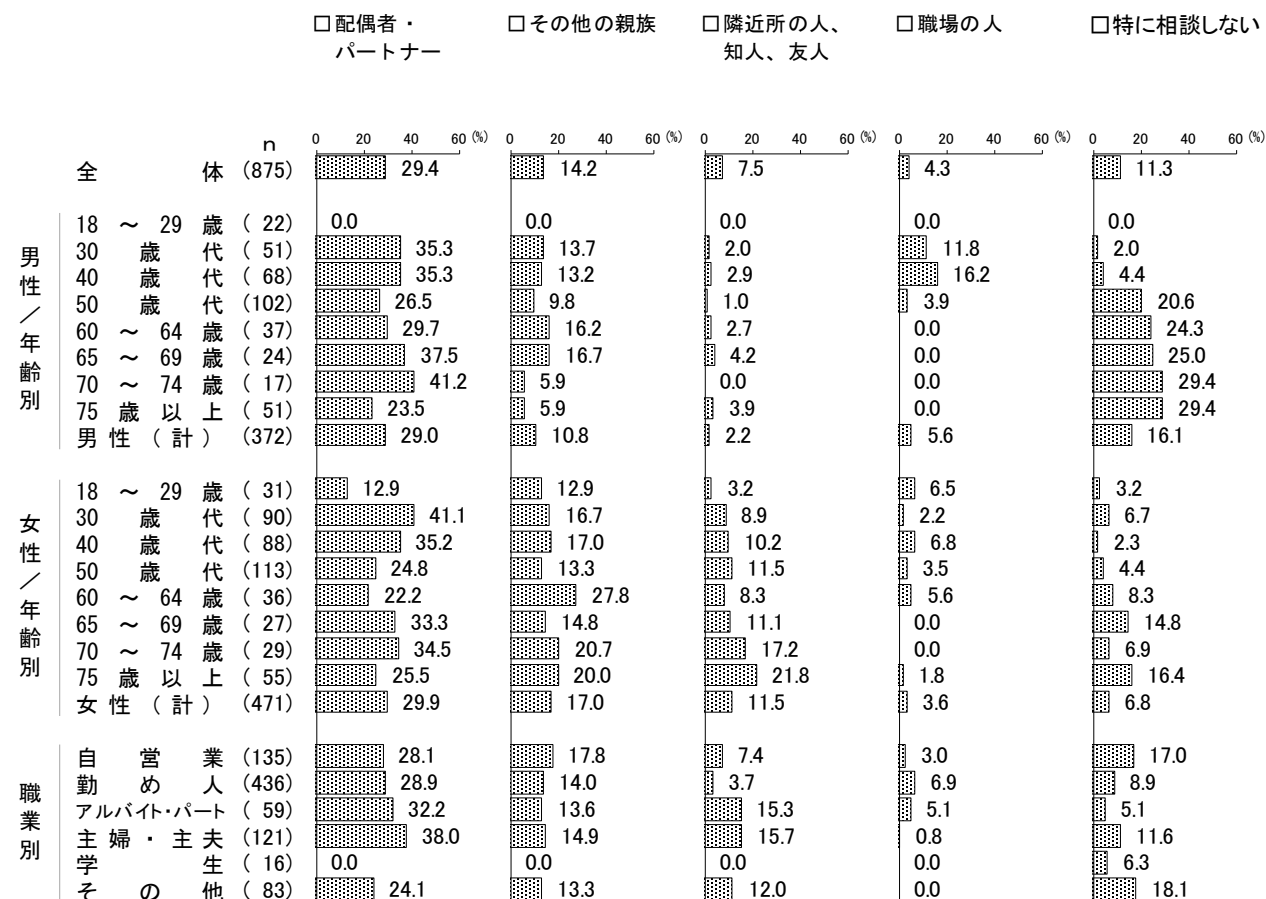
※ 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別でみると、「配偶者・パートナー」は男性の70～74歳で4割を超えて高くなっている。「その他の親族」は女性の60～64歳で3割近くと高くなっている。

職業別でみると、「配偶者・パートナー」は主婦・主夫で4割近くと高くなっている。「その他の親族」は自営業で2割近くと高くなっている。

(図表5－1－3)

図表5－1－3 子育てに関する悩みの相談－性／年齢別・職業別（上位4項目+特に相談しない）



(2) 重要と考える子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が約4割

問13 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。

(○は2つまで)

n = 875

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所※・幼稚園などの施設整備	28.1%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	39.4
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	4.7
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	8.3
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	12.6
6	情報の提供や相談サービス	3.9
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	11.8
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	2.1
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	19.4
10	児童虐待防止対策	7.2
11	経済的な支援	14.9
12	特にない	9.0
	(無回答)	10.5

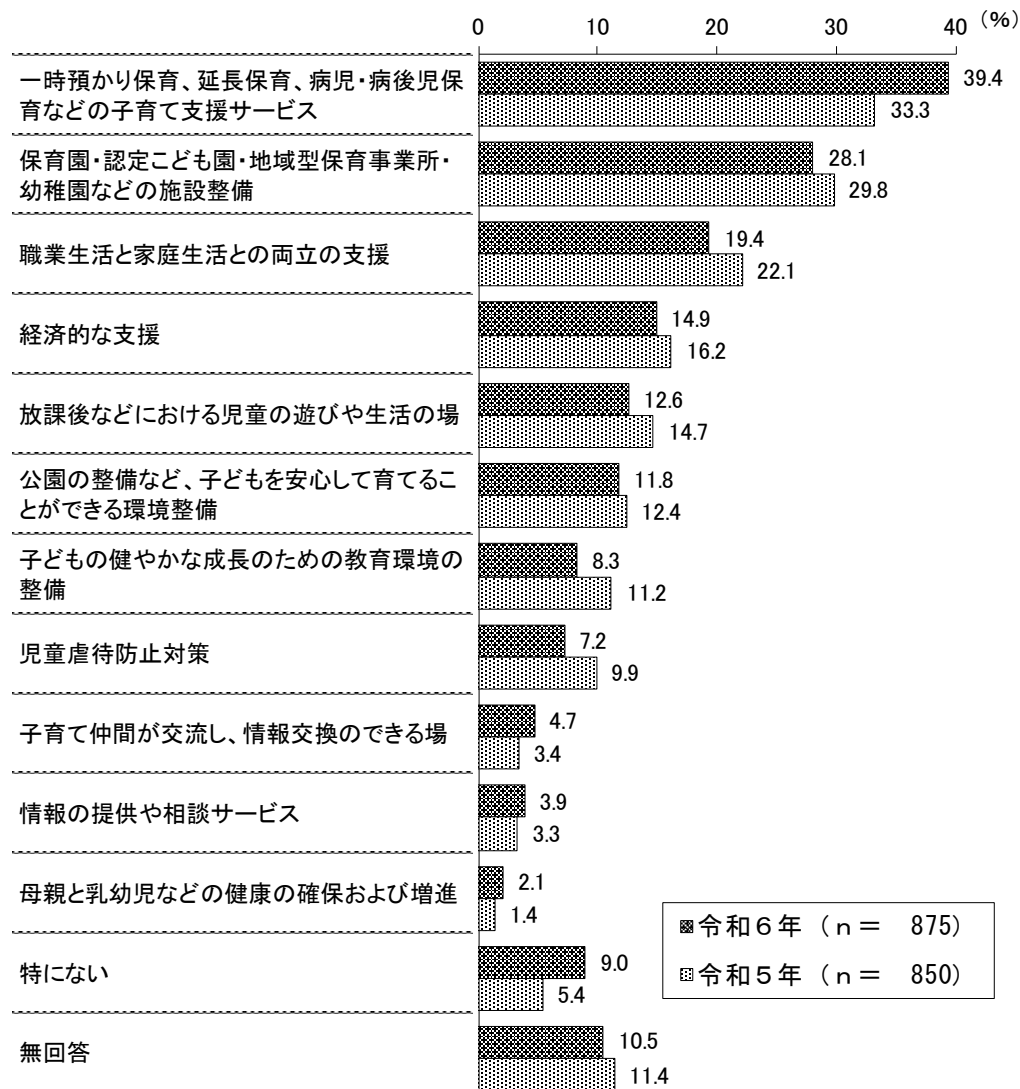
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

重要と考える子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(39.4%)が約4割で最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(28.1%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(19.4%)、「経済的な支援」(14.9%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(12.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は6.1ポイント増加している。(図表5-2-1)

図表5-2-1 重要と考える子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」と「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が引き続き上位2項目となっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 重要と考える子育て支援策一過年度比較

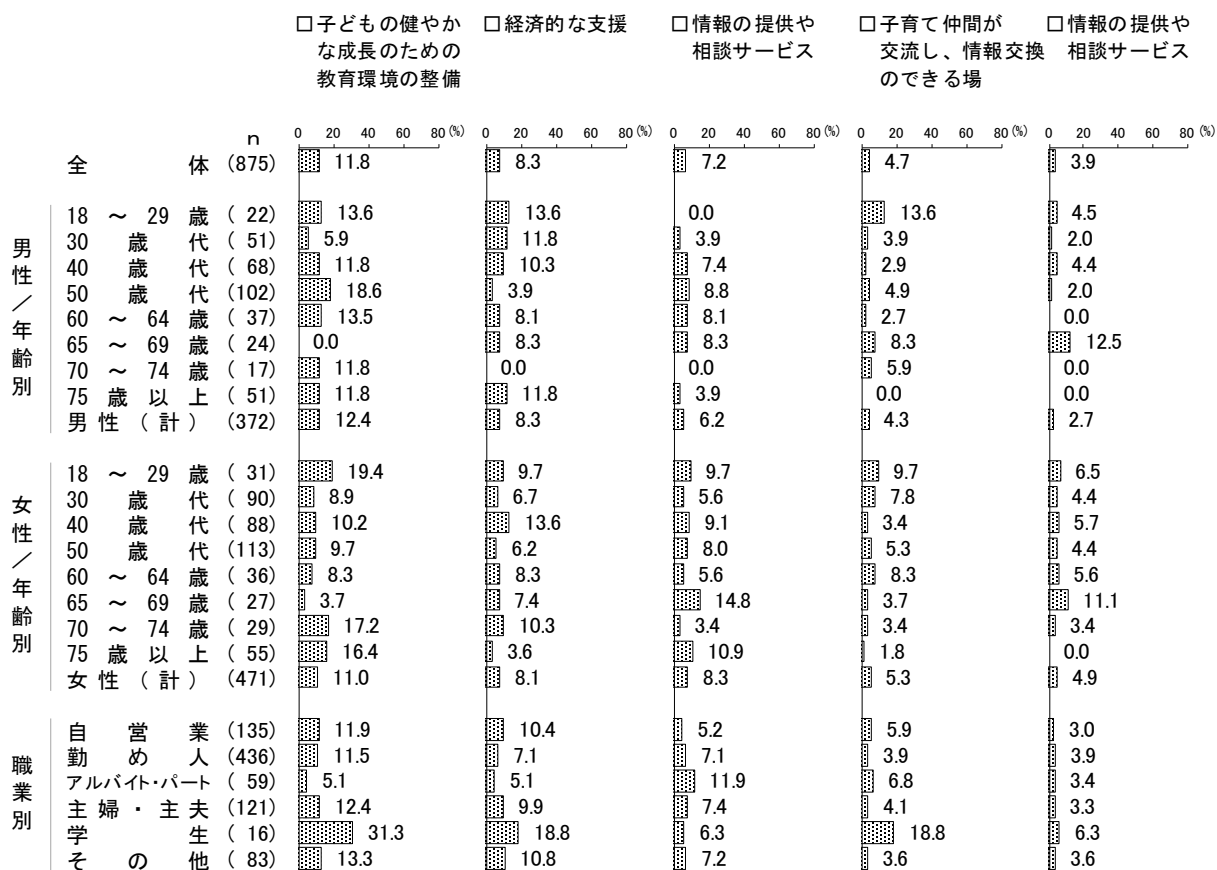
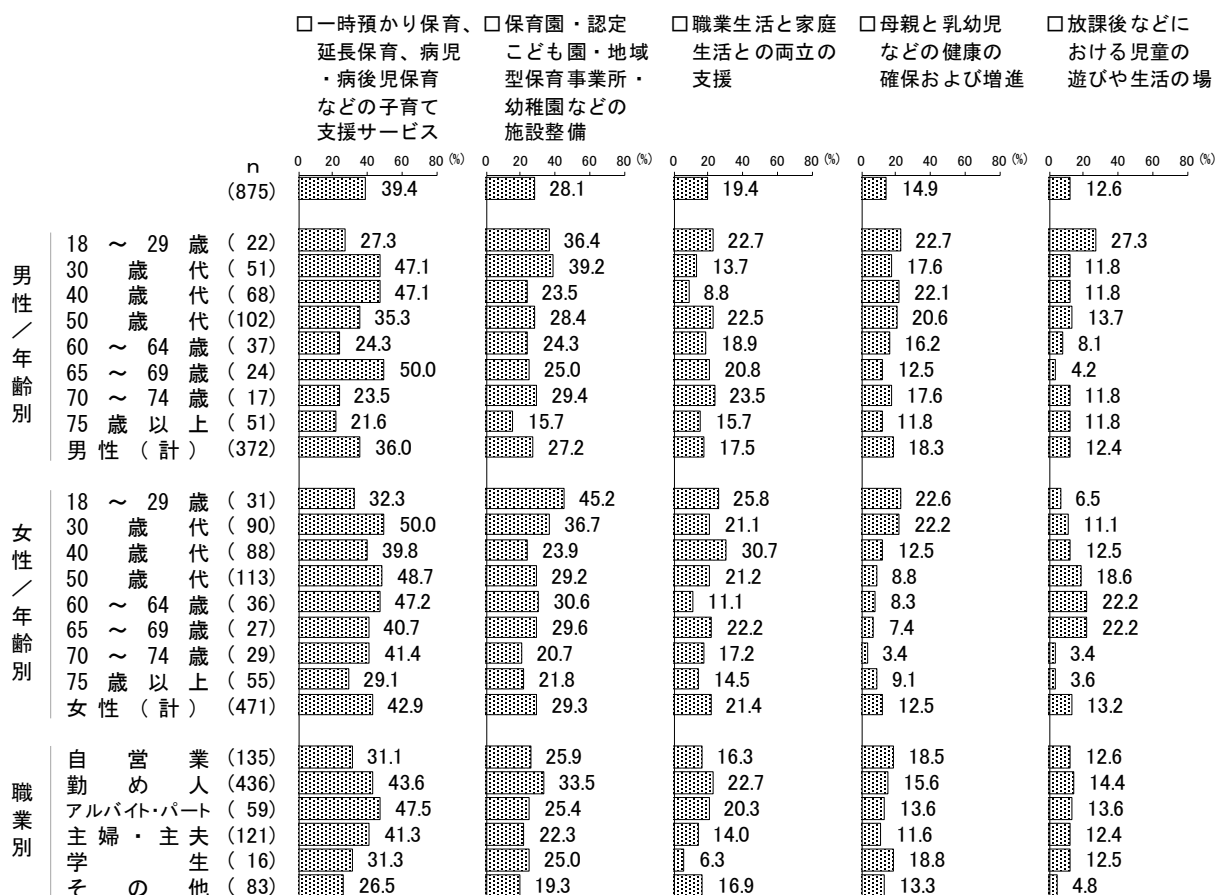
調査年	n	援児一時預かり保育、延長保育、病後児保育などの子育て支援サービス	整備保育事業所・幼稚園などの施設整備	職業生活と家庭生活との両立の支援	経済的な支援	や放課後などにおける児童の遊び	備して育てることができると感じる環境整備	子どもの健康やかな成長のための教育環境の整備	児童虐待防止対策	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	情報の提供や相談サービス	お母さんと乳幼児などの健康の確保および増進	特にな	無回答	その他
令和6年	875	39.4	28.1	19.4	14.9	12.6	11.8	8.3	7.2	4.7	3.9	2.1	9.0	10.5	※
令和5年	850	33.3	29.8	22.1	16.2	14.7	12.4	11.2	9.9	3.4	3.3	1.4	5.4	11.4	※
令和4年	1,004	34.2	33.7	16.9	10.9	10.7	12.1	11.7	8.5	4.5	3.9	1.8	5.5	17.2	※
令和3年	1,101	35.1	36.4	16.6	11.5	12.6	15.4	9.5	8.6	4.2	4.0	1.5	4.4	14.7	※
令和2年	1,161	33.7	38.8	15.1	12.2	11.8	12.1	11.8	9.0	4.4	4.1	1.9	4.8	14.7	※
令和元年	956	37.0	34.5	16.7	7.5	11.7	10.6	9.3	11.6	4.9	3.8	1.8	4.4	17.4	※
平成30年	1,056	40.2	42.8	14.6	9.7	11.3	11.3	8.5	6.6	3.0	2.8	1.6	4.4	15.8	※
平成29年	1,056	36.4	42.6	16.6	8.3	12.6	11.5	10.4	6.8	3.5	2.7	1.1	4.1	16.1	※
平成28年	1,036	36.0	44.3	15.9	10.2	12.4	11.3	8.8	7.9	4.5	1.8	2.2	3.8	15.8	※
平成27年	1,027	38.9	41.1	19.7	10.4	※	17.7	14.3	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	42.5	40.6	14.4	8.0	※	12.3	11.9	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	43.7	46.2	12.4	9.0	※	12.4	10.7	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	※	53.7	28.6	15.9	※	15.3	17.2	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	※	52.4	30.5	15.5	※	14.7	19.7	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	※	59.4	31.9	15.4	※	15.7	19.9	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	※	42.9	30.0	26.1	※	13.2	15.4	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	※	39.6	31.4	22.3	※	18.6	20.2	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	※	34.1	30.3	24.6	※	20.6	20.6	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成23年から平成26年までは「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。
- * 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」の選択肢は、平成27年以前は「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」としていた。
- * 「職業生活と家庭生活との両立の支援」の選択肢は、平成27年以前は「職業生活と家庭生活との両立の推進」としていた。

性／年齢別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は男性の65～69歳、女性の30歳代で5割と高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所※・幼稚園などの施設整備」は女性の18～29歳で4割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」はアルバイト・パートタイマーで5割近くと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所※・幼稚園などの施設整備」は勤め人で3割を超えて高くなっている。(図表5-2-3)

図表５－２－３ 重要と考える子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が4割近く

問13 また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

n = 875

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所※・幼稚園などの施設整備	30.3%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	38.2
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	10.7
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	21.4
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	25.3
6	情報の提供や相談サービス	14.3
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	25.0
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	11.9
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	28.0
10	児童虐待防止対策	17.6
11	経済的な支援	21.4
12	特にない	9.9
	(無回答)	15.5

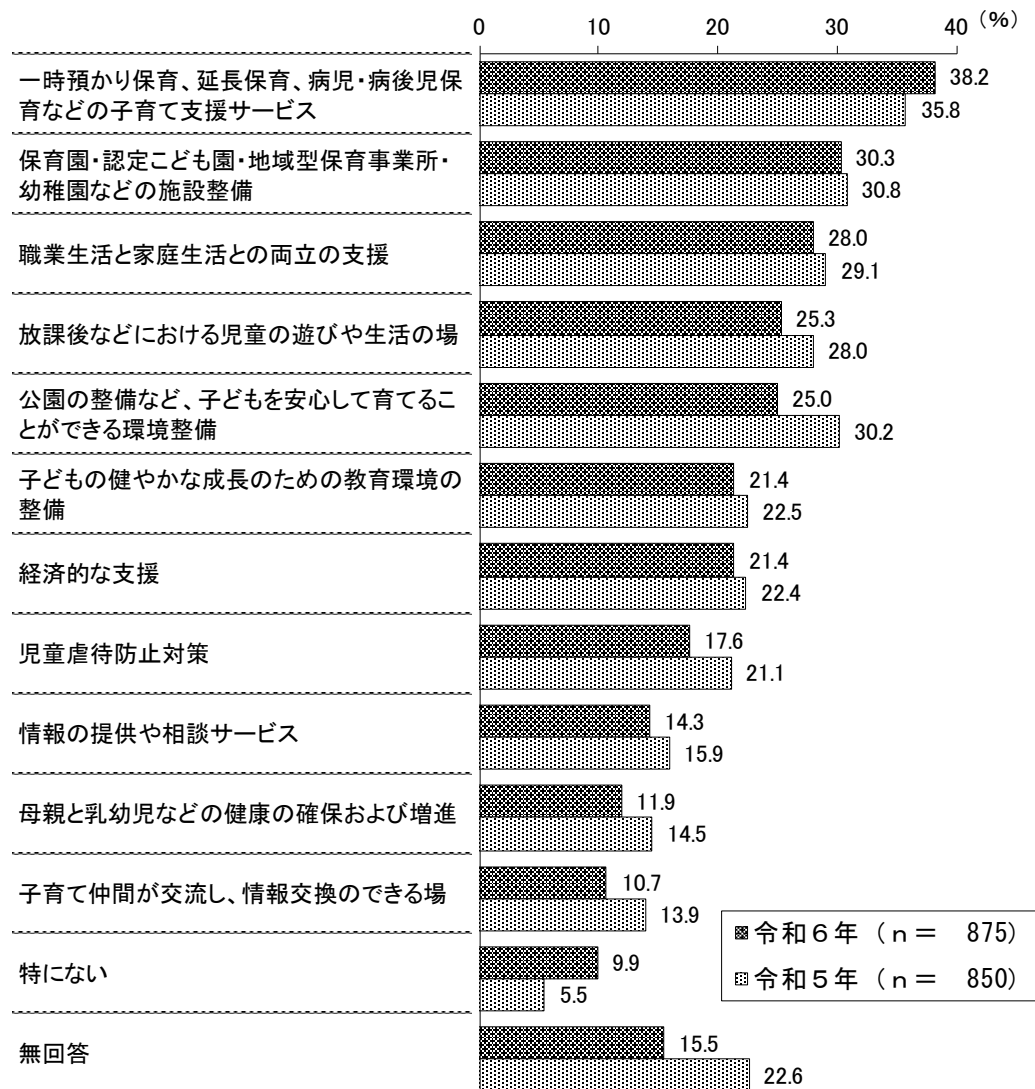
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

さらに充実を図る必要がある子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(38.2%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(30.3%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(28.0%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(25.3%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(25.0%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は2.4ポイント増加している。(図表5-3-1)

図表5-3-1 さらに充実を図る必要がある子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は引き続き第1位となっている。

(図表5-3-2)

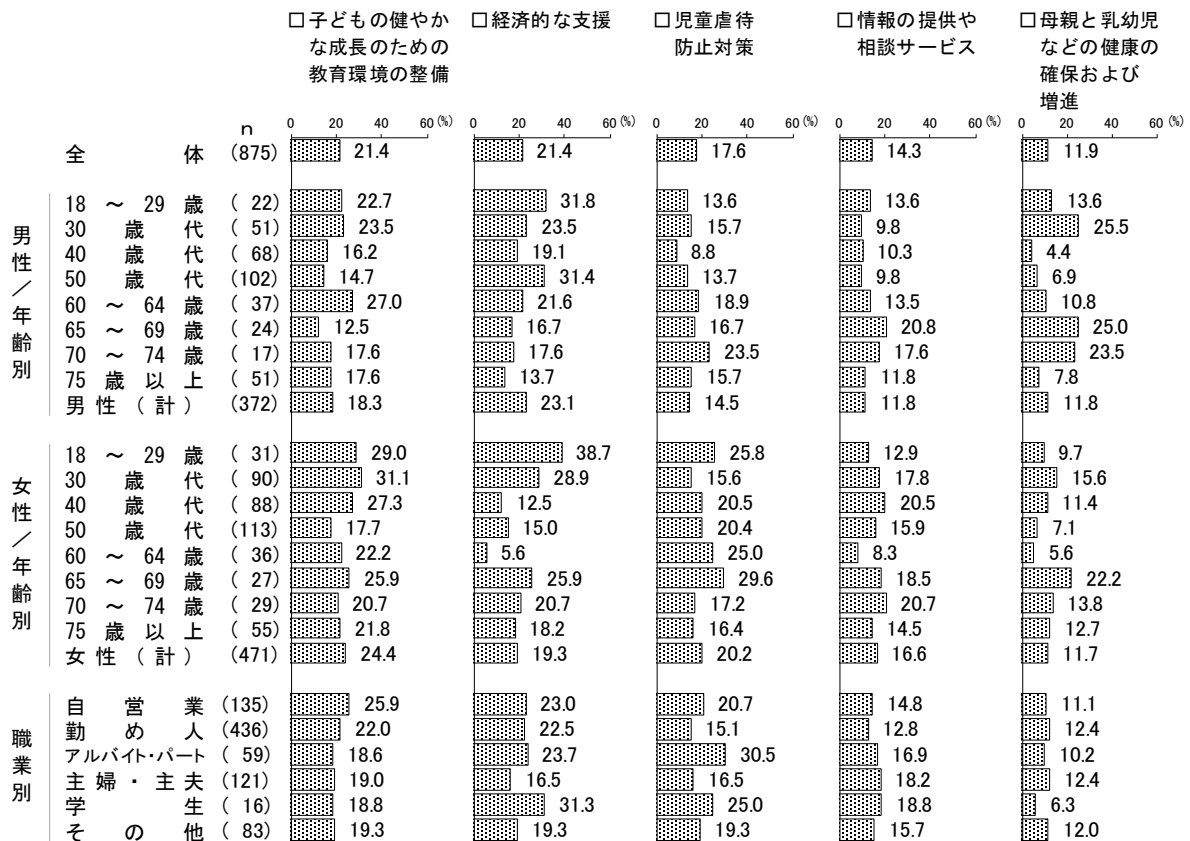
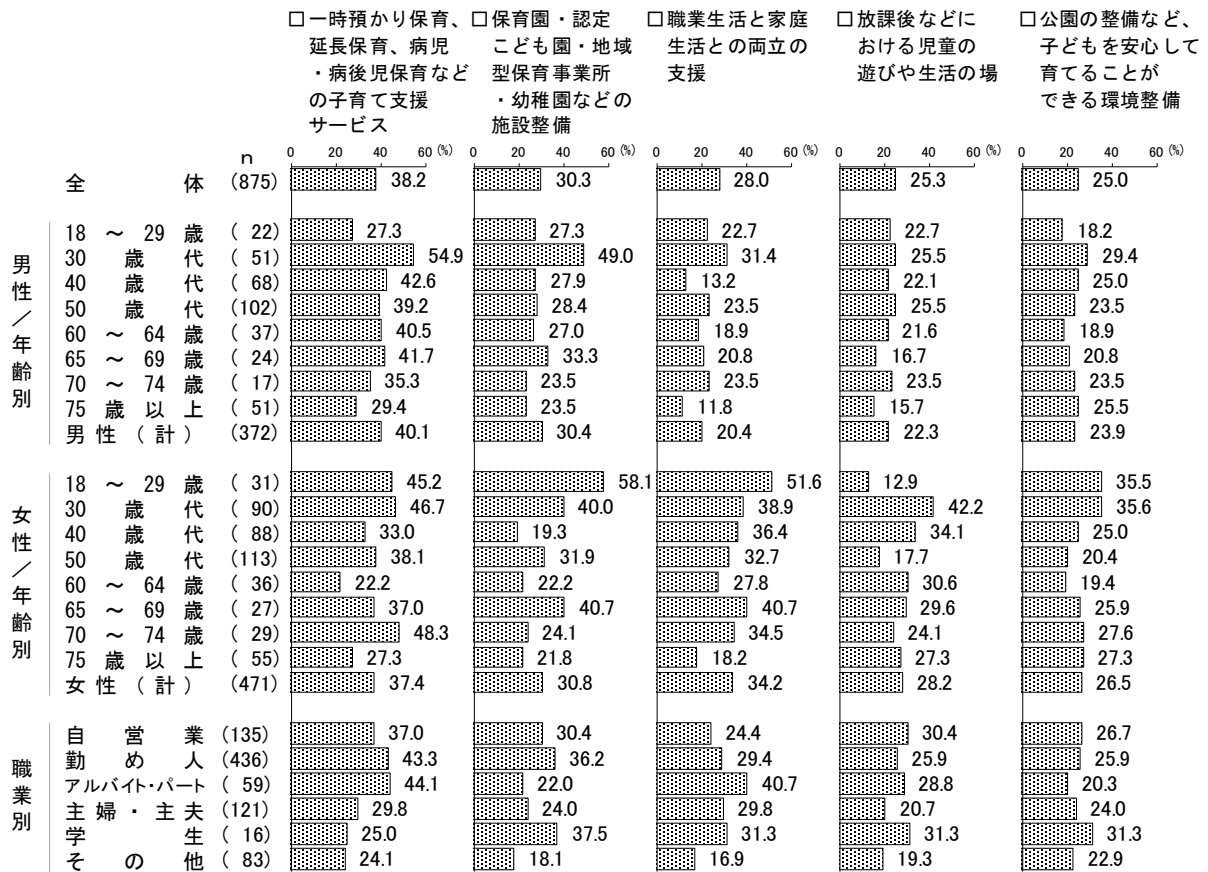
図表5-3-2 さらに充実を図る必要がある子育て支援策－過年度比較

調査年	n	(%)												
		一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	職業生活と家庭生活との両立の支援	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	公園の整備など、子どもを安心して育てることができ環境を整備	子どもの健全な成長のための教育環境の整備	経済的な支援	児童虐待防止対策	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	子育て仲間が交流し、情報交換の場	特になし	無回答
令和6年	875	38.2	30.3	28.0	25.3	25.0	21.4	21.4	17.6	14.3	11.9	10.7	9.9	15.5
令和5年	850	35.8	30.8	29.1	28.0	30.2	22.5	22.4	21.1	15.9	14.5	13.9	5.5	22.6
令和4年	1,004	29.5	25.5	25.9	24.1	27.8	21.7	18.8	17.8	14.0	11.7	12.0	5.4	30.6
令和3年	1,101	31.8	27.1	25.2	26.2	27.2	21.8	20.3	21.2	13.6	10.0	12.5	4.3	25.4
令和2年	1,161	33.9	29.2	27.6	28.3	28.9	23.4	20.5	21.2	12.9	11.5	10.5	5.2	23.5
令和元年	956	32.6	27.4	25.5	27.0	26.2	20.4	16.3	24.4	13.0	11.7	11.1	4.5	27.5
平成30年	1,056	33.6	30.6	26.8	27.7	27.3	19.4	17.4	16.3	13.3	10.4	13.1	4.8	24.2
平成29年	1,056	33.3	28.5	25.8	27.7	24.6	19.2	17.1	16.0	12.5	11.5	12.5	3.4	25.9
平成28年	1,036	36.2	32.4	28.3	26.4	26.7	20.7	16.4	20.0	13.8	11.1	12.2	3.7	26.3

性／年齢別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は男性の30歳代で5割台半ばと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は女性の18～29歳で6割近くと高くなっている。

職業別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」はアルバイト・パートタイマーで4割台半ばと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は勤め人で3割台半ばと高くなっている。(図表5-3-3)

図表5-3-3 さらに充実を図る必要がある子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問13ー1 あなたが問13で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、284人から回答が寄せられた。問12の重要と考える子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備 (23件)

- ・ 保育園の待機児童問題
- ・ 他の区と同様に、認可外保育施設の補助金を配布してほしい。
- ・ 主たる通勤者の駅に区立の保育園サービス施設があると良い。
- ・ 幼児教育、保育の無償化対象施設の拡大
- ・ 区民の小規模保育園をあちこちに作ってもらいたい

■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス (44件)

- ・ 病児保育体制の充実。これは有料の民間施設でもよいと思う。
- ・ 親と子も居場所、安心できる、安心として預けられるところがもっとあると良い。
- ・ 乳幼児の一時預かりです。子どもが小さい頃、自分の歯医者に行くにも預け先がなく、連れていったら、イスから息子が転落しました。
- ・ 現在、共働き世帯が増えています。子供が熱を出した時、引きとりは難しいと思います。熱を出した時の保育園から医療期間への預かりができると助かるのではないかと思います。
- ・ 当日の病児保育。区の指定業者のベビーシッターは発熱当日につかまらない。

■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場 (10件)

- ・ 地域で子供を守り育てる事をテーマに、子育て家庭と他の家庭が触れ合う様な、イベントや交流を促進してはどうかと考えます。ハードルは高いとも思いますが。
- ・ なんとなく母親向けになりがちですが父親同士の交流がしやすい仕掛けがあると良いと思います。
- ・ 全世代、交流できるような環境。
- ・ 子供のいる世帯、いない世帯が交流できるもの(ボランティア活動など)
- ・ 子ども～高齢者まで世代を問わず、相互に交流できるような拠点の整備

■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備（23件）

- ・ 中高生に対する金融や職業理解プログラムの実施。
- ・ 公共育の無料化。大学へ進学支援
- ・ 小・中・高校の授業料無償化
- ・ 小・中生に無料塾のサービスを提供できる場所と人材の確保、教育は学校だけでは不十分なので、フォローできる環境を作りだしてほしい。
- ・ 家庭の事情にかかわらず、安心して子どもたちが学習に取り組めるような施策に力を入れてほしい。

■放課後などにおける児童の遊びや生活の場（12件）

- ・ 子供が経済的な負担なくスポーツを楽しめる環境づくり
- ・ 小学校に就学すると子供の帰宅時間が早くなるため、1人で留守番が難しい子供のためにも、放課後の居場所を充実させてほしい。
- ・ 近くに子育て広場があると良い。支援センター、児童館共に遠い、気楽に子と遊ばせて、情報を得る場所がほしい。
- ・ 就学児だけではなく、小学校以上の子供にも居場所となるような施設やスペースの充実を検討頂けると良いのではないかと思います。
- ・ 世田谷区や品川区、江東区のように、親が就労している子の居場所確保はもちろんのこと、親が就労していない子たちも含めて安全安心に放課後を過ごせる居場所づくりにもっと注力してほしい。

■情報の提供や相談サービス（4件）

- ・ どのような施策やサービスが存在しているのか、その全体像と個々の施策やサービスの定期的な情報発信をしてほしい。
- ・ 救急医療の充実と医療体制の情報提供

■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（33件）

- ・ 特に道が狭い箇所での自転車の教育活動を徹底してほしい。子供が乗っている乗っていないにかかわらず、特に母親の電動自転車でのマナーが非常に悪く、大怪我につながるような乗り方が横行している。
- ・ 安心安全な公園・遊戯施設。球技など公園では禁止されているところが多いので、球技ができる施設。
- ・ 公園の清掃・管理。東日本橋児童遊園は小さな子供は絶対に連れて入れない。常にたばこの吸い殻が大量に捨ててあり、喫煙者しかいない。
- ・ サッカーのできる公園を増やしてほしい。
- ・ 中央区は自然が足りないため、緑豊かな大規模公園の整備

■母親と乳幼児などの健康の確保および増進（4件）

- ・産後安定するまでの入院ケアと金銭補助
- ・まず、妊娠時にかかる妊婦健診などの費用の負担が無ければ少子化が進む一方、妊娠だけでも大変なのに健診でお金がかかる、出産準備費用など誰にでもかかる費用をもう少し負担することが必要だと思う。子供は産めない、円安、税金も高くなっていく一方でそもそもの生活がままならない。

■職業生活と家庭生活との両立の支援（13件）

- ・仕事と両立できる環境があると安心して子供を産める。
- ・共働きでもお母さんだけに負担がかからないようになればいいと思う。
- ・共働きを想定したサービス提供が重要と考えます。

■児童虐待防止対策（6件）

- ・児童虐待はゼロにしてほしい
- ・子供は宝です。児童虐待は決して許せません
- ・児童虐待の悲惨な事件に悲痛を覚えます。繰り返されるたびに、なんとかならないものかと痛切に感じております。

■経済的な支援（25件）

- ・あらゆる支援金において、所得制限を設けないでほしい。
- ・年収の制限なく高校・大学の学費を援助して欲しい。
- ・1人親世帯に対しての経済的支援、育児環境支援
- ・低所得世帯への経済支援
- ・子ども手当の所得制限はセンスがない。経済的余裕のある家庭を支援から排除するから、どんどん2人目以降の子どもをつくらなくなっていくと思います。

■その他（87件）

- ・他と比較すれば良い方だとは思いますが、もっと子育てしやすい環境を整えるのは重要だと思います。
- ・子育て支援区域と、経済成長区域を分け、子育て支援区域では公園の整備・延長保育・夜間外来（子供に関連する科に限らず）などの発展・誘致に取り組んでほしい。
- ・これから高齢者がますます増えていくのは分かっているが、高齢者よりも、将来の子供たちが住みやすく、その保護者も少しでもゆとりある子育てができるように施設設備や子育て支援サービスを充実させてほしい。
- ・人間の素地を作り幼児・児童期に充実した教育環境を！
- ・日本語ができない子供に習慣、文化、宣伝活動施設などの案内とサポートをもっと充実してほしい。

【6 男女共同参画社会】

(※) 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

(1) 男女の地位の平等感

◇「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”で6割超え

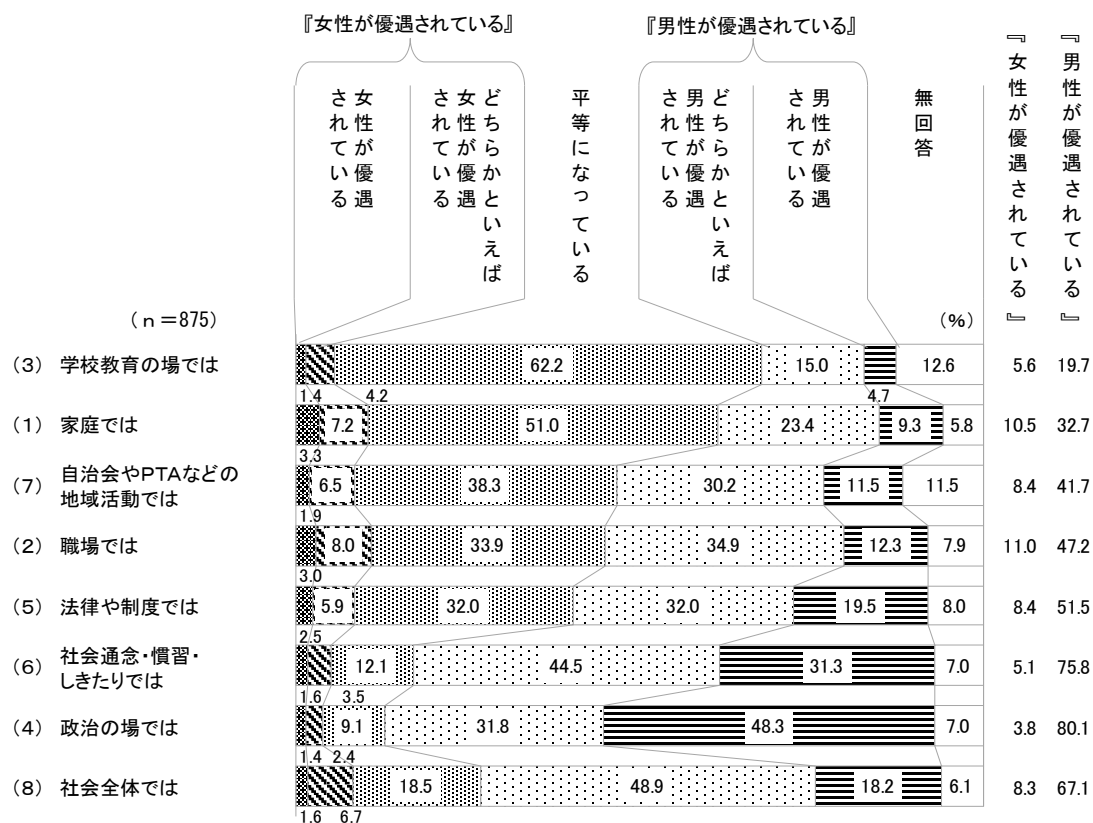
◇「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と感じるのは、“政治の場では”で8割

問14 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。 (○はそれぞれ1つずつ) (%)						
	1 女性が優遇されている	2 どちらかといえば 女性が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかといえば 男性が優遇されている	5 男性が優遇されている	無回答
n = 875						
(1) 家庭では	3.3	7.2	51.0	23.4	9.3	5.8
(2) 職場では	3.0	8.0	33.9	34.9	12.3	7.9
(3) 学校教育の場では	1.4	4.2	62.2	15.0	4.7	12.6
(4) 政治の場では	1.4	2.4	9.1	31.8	48.3	7.0
(5) 法律や制度では	2.5	5.9	32.0	32.0	19.5	8.0
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	1.6	3.5	12.1	44.5	31.3	7.0
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	1.9	6.5	38.3	30.2	11.5	11.5
(8) 社会全体では	1.6	6.7	18.5	48.9	18.2	6.1

男女の地位の平等感について、「平等になっている」と感じるのは、“学校教育の場では”（62.2％）で6割を超えて最も高く、次いで“家庭では”（51.0％）で5割を超えている。

「どちらかといえば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』と感じるのは、“政治の場では”（80.1％）で8割と最も高く、次いで“社会通念・慣習・しきたりでは”（75.8％）で7割台半ばとなっている。（図表6－1－1）

図表6－1－1 男女の地位の平等感

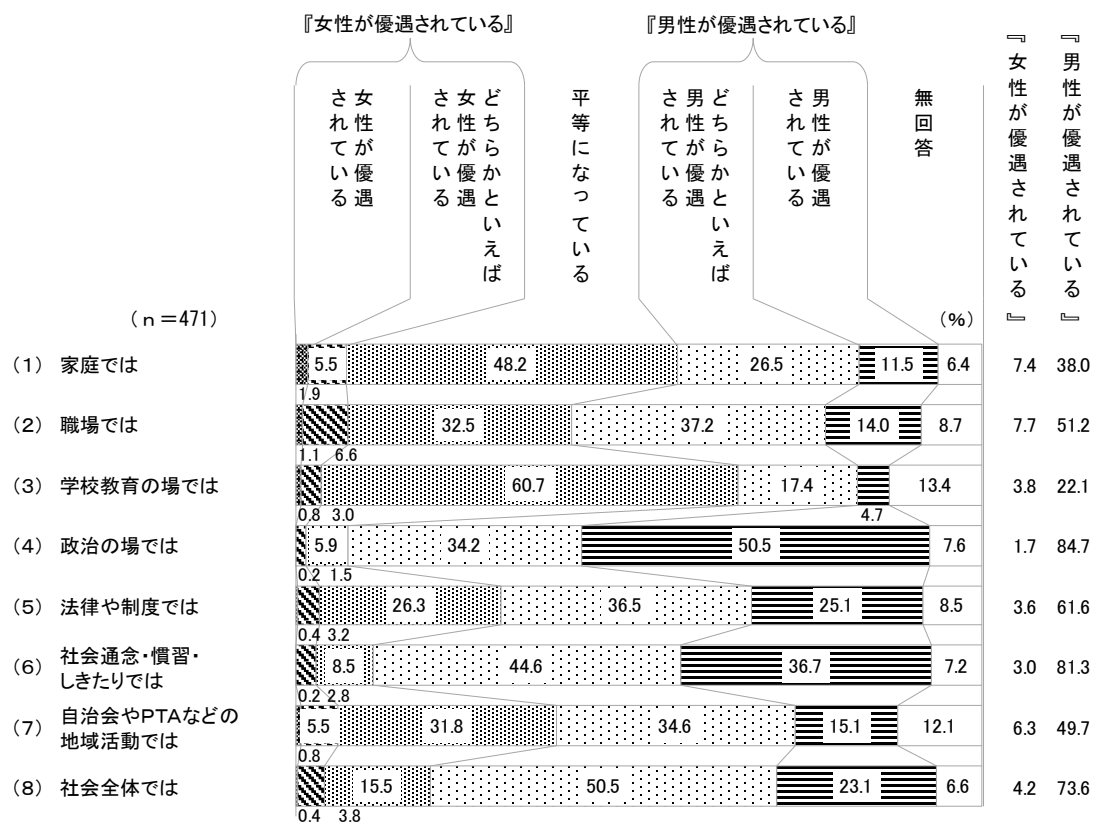


性別でみると、「平等になっている」と感じる割合は、男性の方が女性よりも“自治会やPTAなどの地域活動では”で15.5ポイント、“法律や制度では”で14.0ポイント高くなっている。

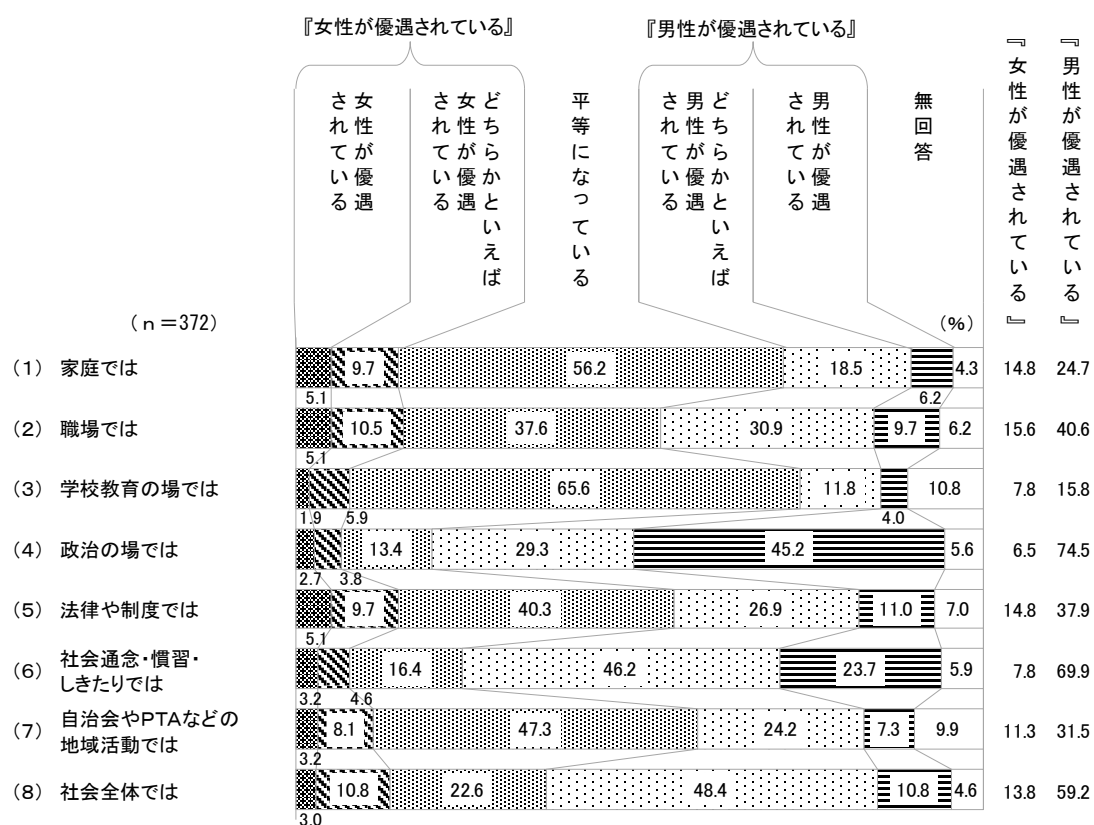
一方、『男性が優遇されている』と感じる割合は、女性の方が男性よりも“法律や制度では”で23.7ポイント、“自治会やPTAなどの地域活動では”で18.2ポイント高くなっている。

また、“社会全体では”でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が14.4ポイント高くなっている。（図表6－1－2、図表6－1－3）

図表 6-1-2 男女の地位の平等感—女性



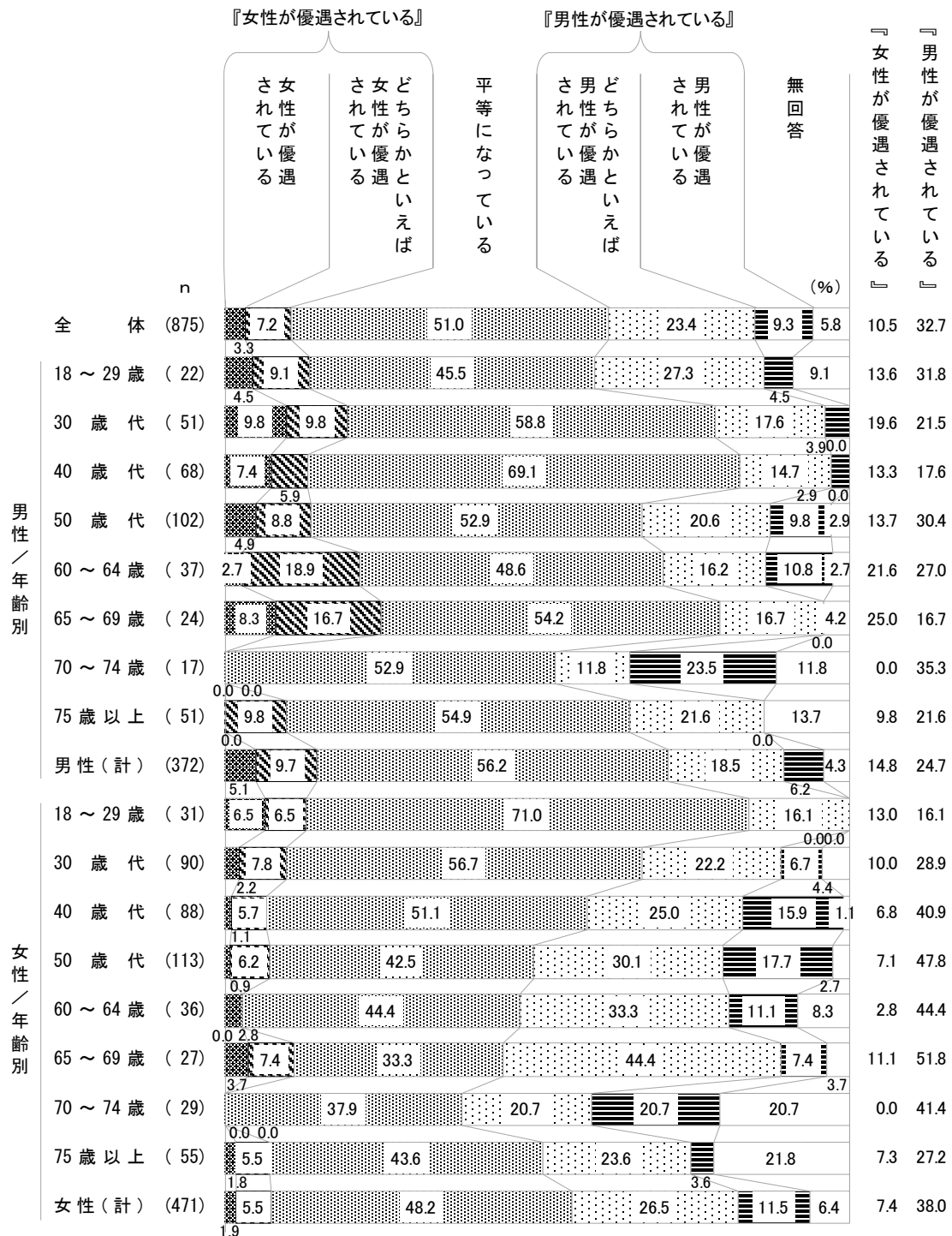
図表 6-1-3 男女の地位の平等感—男性



“家庭では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が13.3ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が8.0ポイント高くなっている。

“家庭では”について性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の65～69歳で5割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は女性の18～29歳で7割を超えて高くなっている。(図表6－1－4)

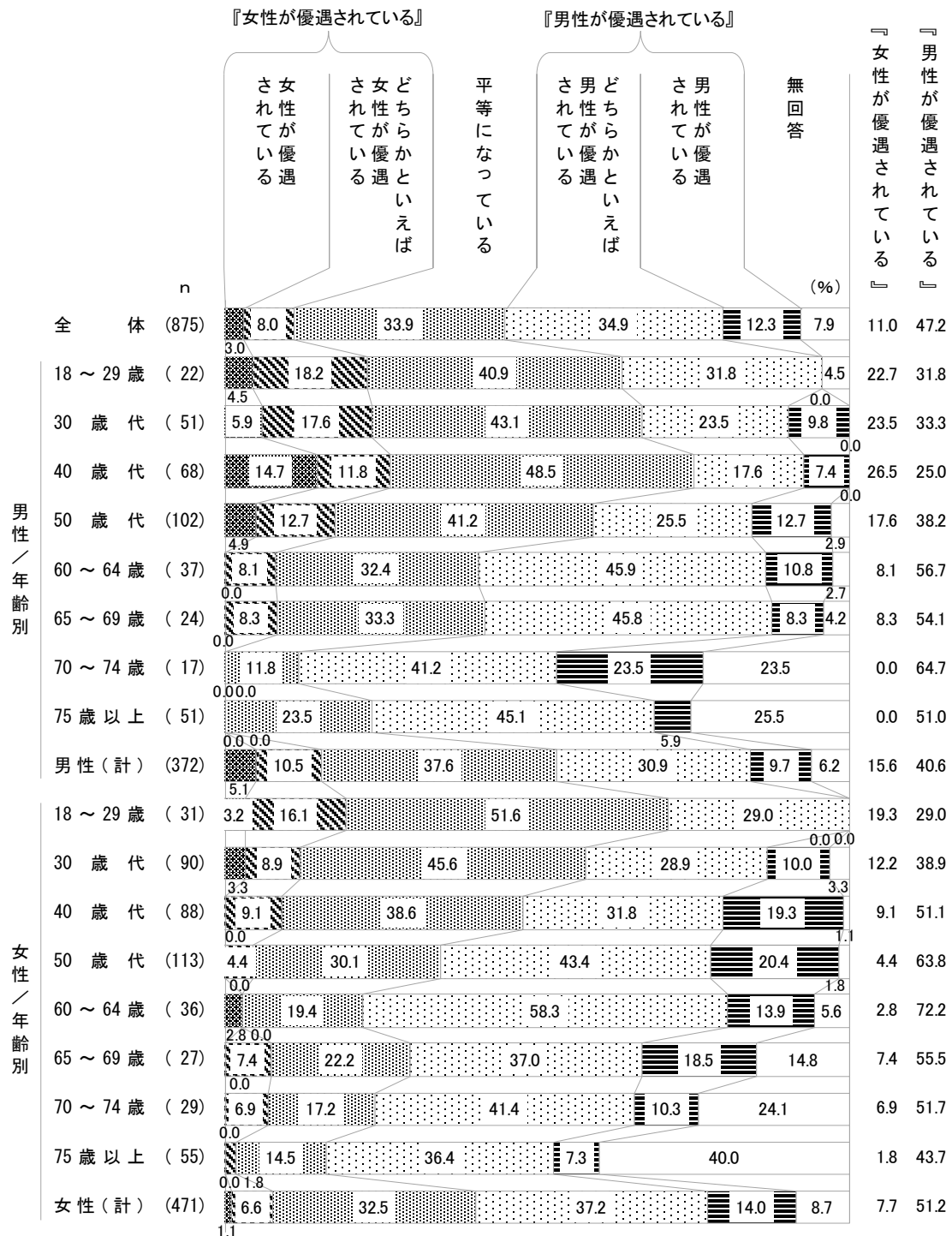
図表6－1－4 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「(1) 家庭では」



“職場では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が10.6ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で7割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は女性の18～29歳で5割を超えて高くなっている。（図表6－1－5）

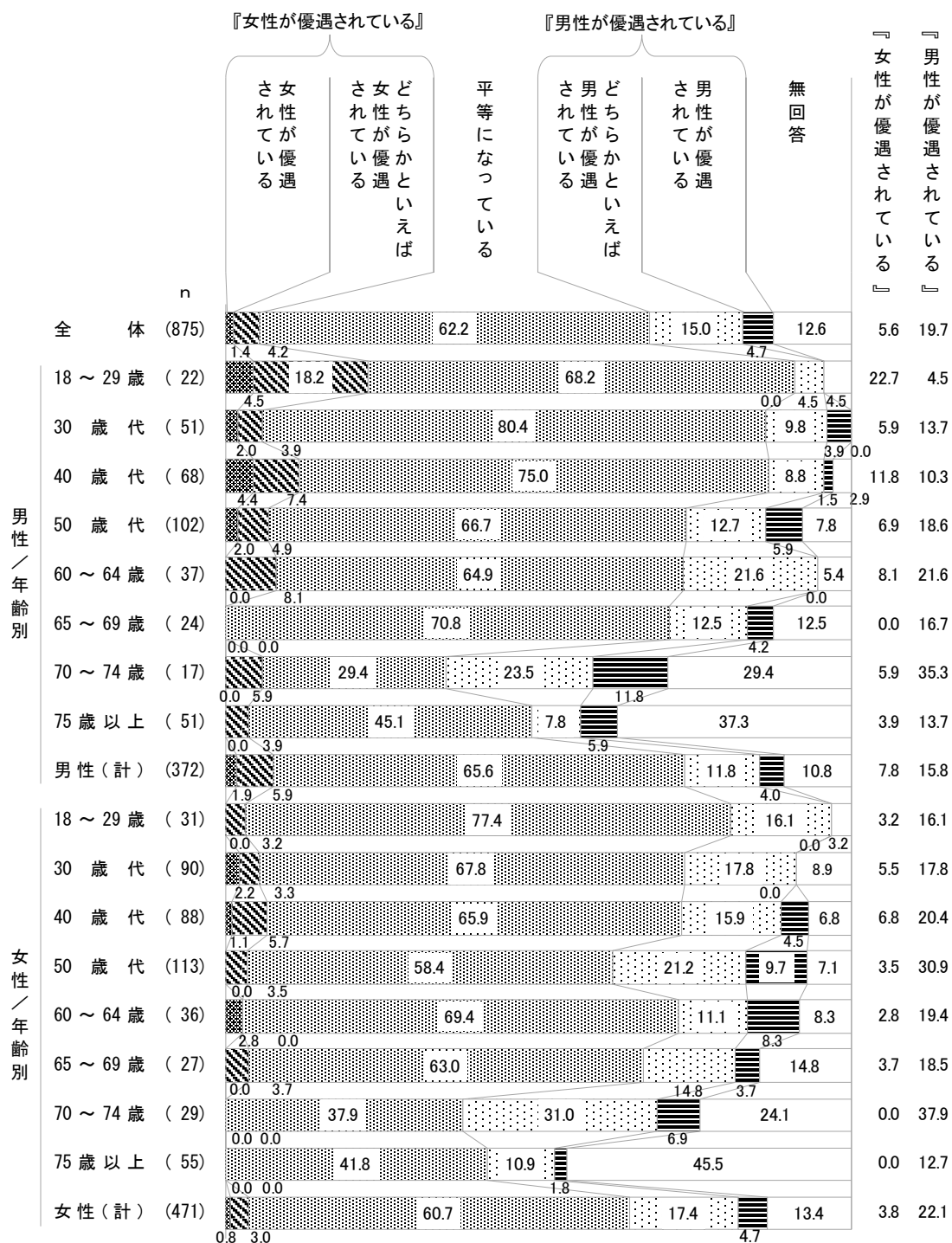
図表6－1－5 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「（2）職場では」



“学校教育の場では”について性別でみると、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が4.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「平等になっている」と感じる割合は男性の30歳代で8割と高くなっている。（図表6－1－6）

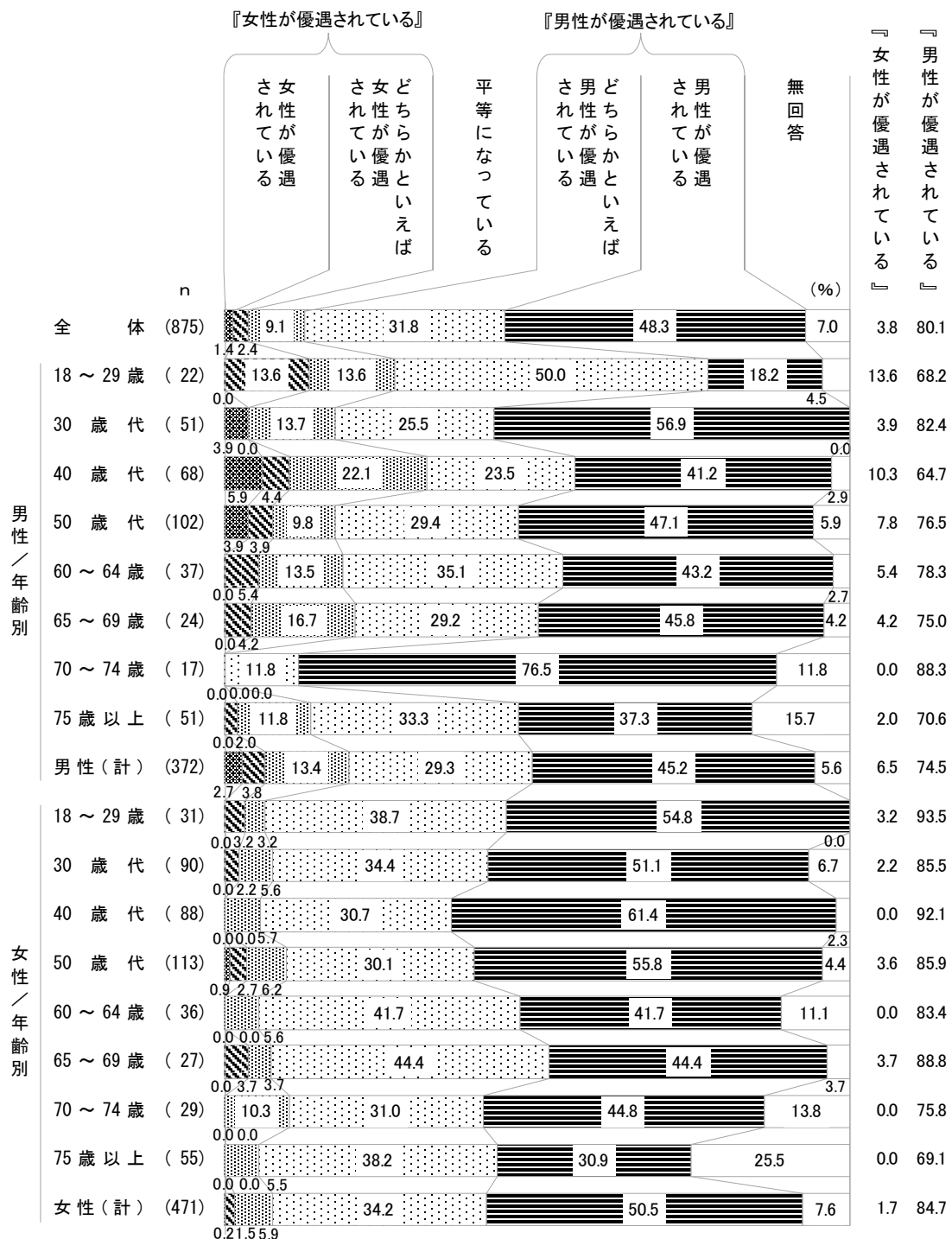
図表6－1－6 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「（3）学校教育の場では」



“政治の場では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が10.2ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が7.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の18～29歳で9割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の40歳代で2割を超えて高くなっている。(図表6－1－7)

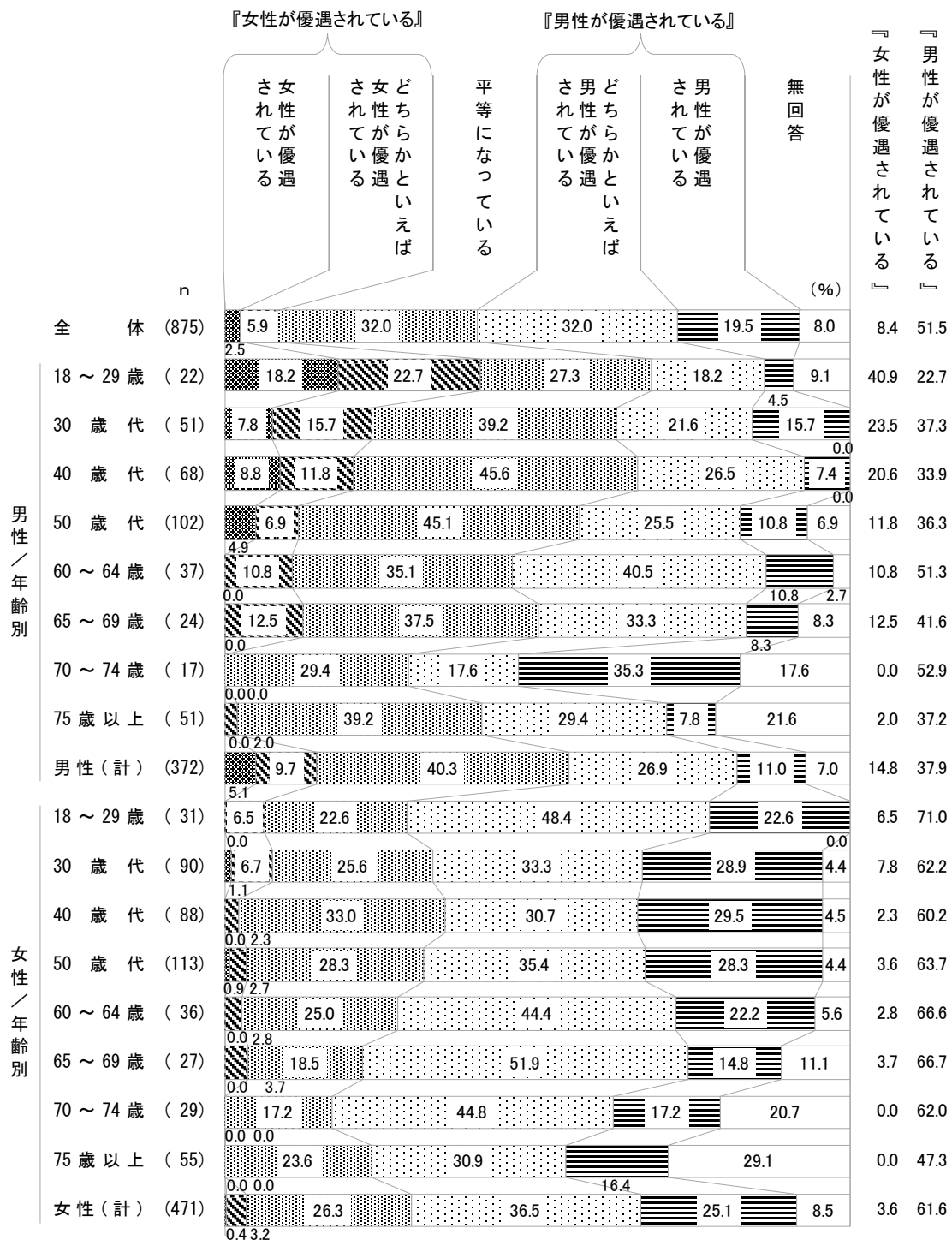
図表6－1－7 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「(4) 政治の場では」



“法律や制度では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が23.7ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が14.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の18～29歳で7割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の40歳代と50歳代で4割台半ばと高くなっている。(図表6－1－8)

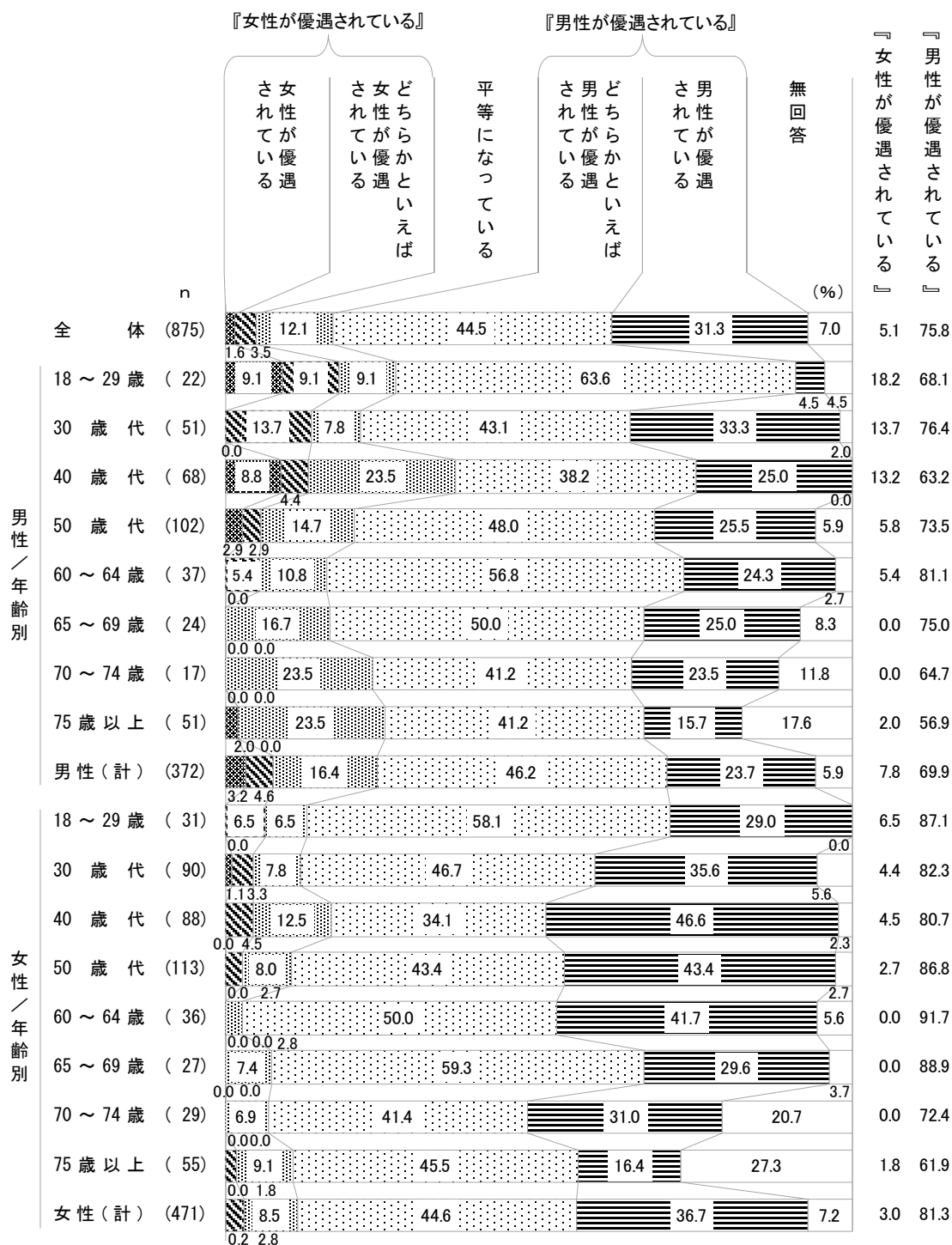
図表6－1－8 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「(5) 法律や制度では」



“社会通念・慣習・しきたりでは”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が11.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が7.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で9割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の40歳代、70～74歳、75歳以上で2割を超えて高くなっている。(図表6-1-9)

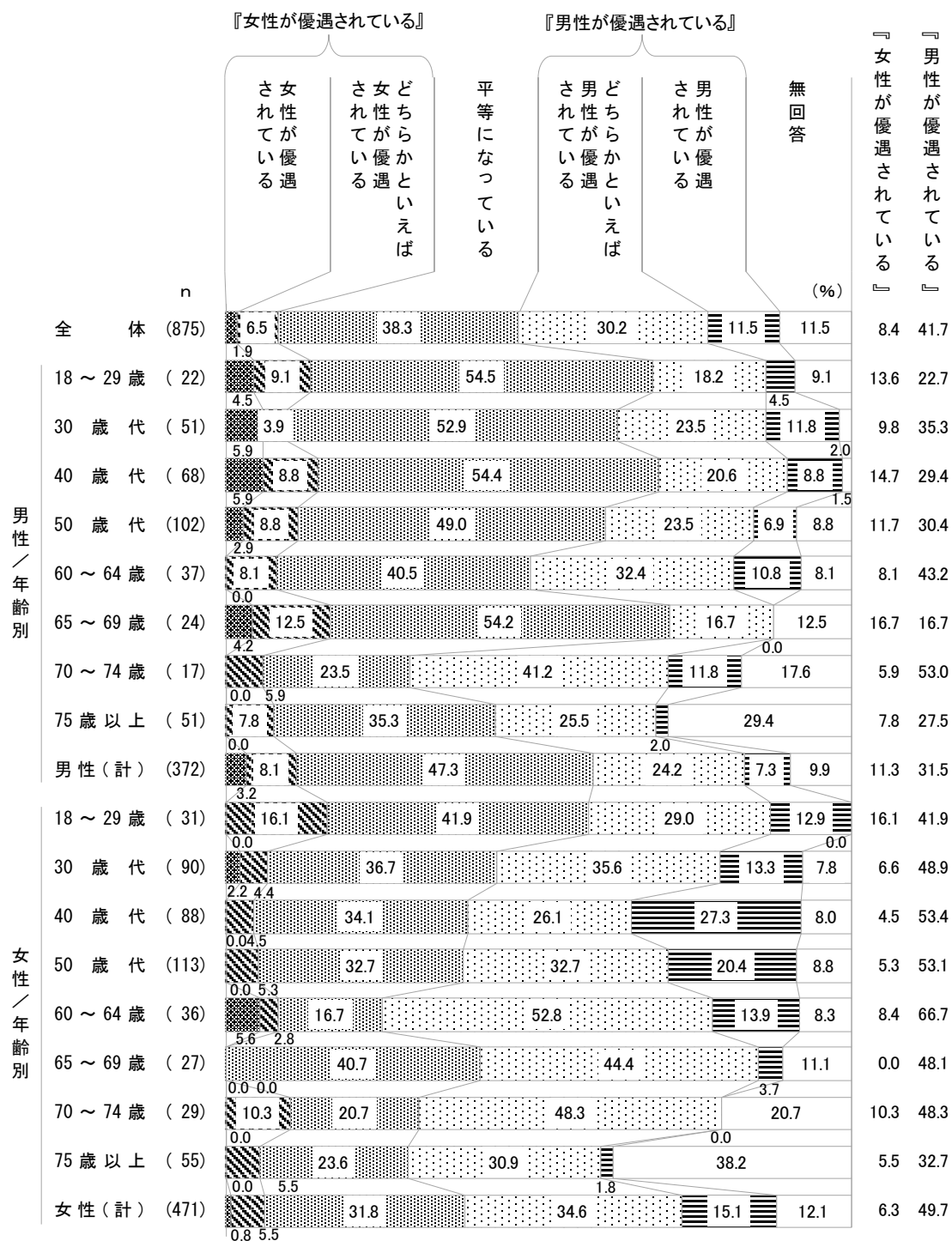
図表6-1-9 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(6) 社会通念・慣習・しきたりでは」



“自治体やPTAなどの地域活動では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が18.2ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が15.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の60～64歳で7割近くと高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の18～29歳、40歳代、65～69歳で5割台半ばと高くなっている。(図表6－1－10)

図表6－1－10 男女の地位の平等感－性別・性／年齢別「(7)自治体やPTAなどの地域活動では」

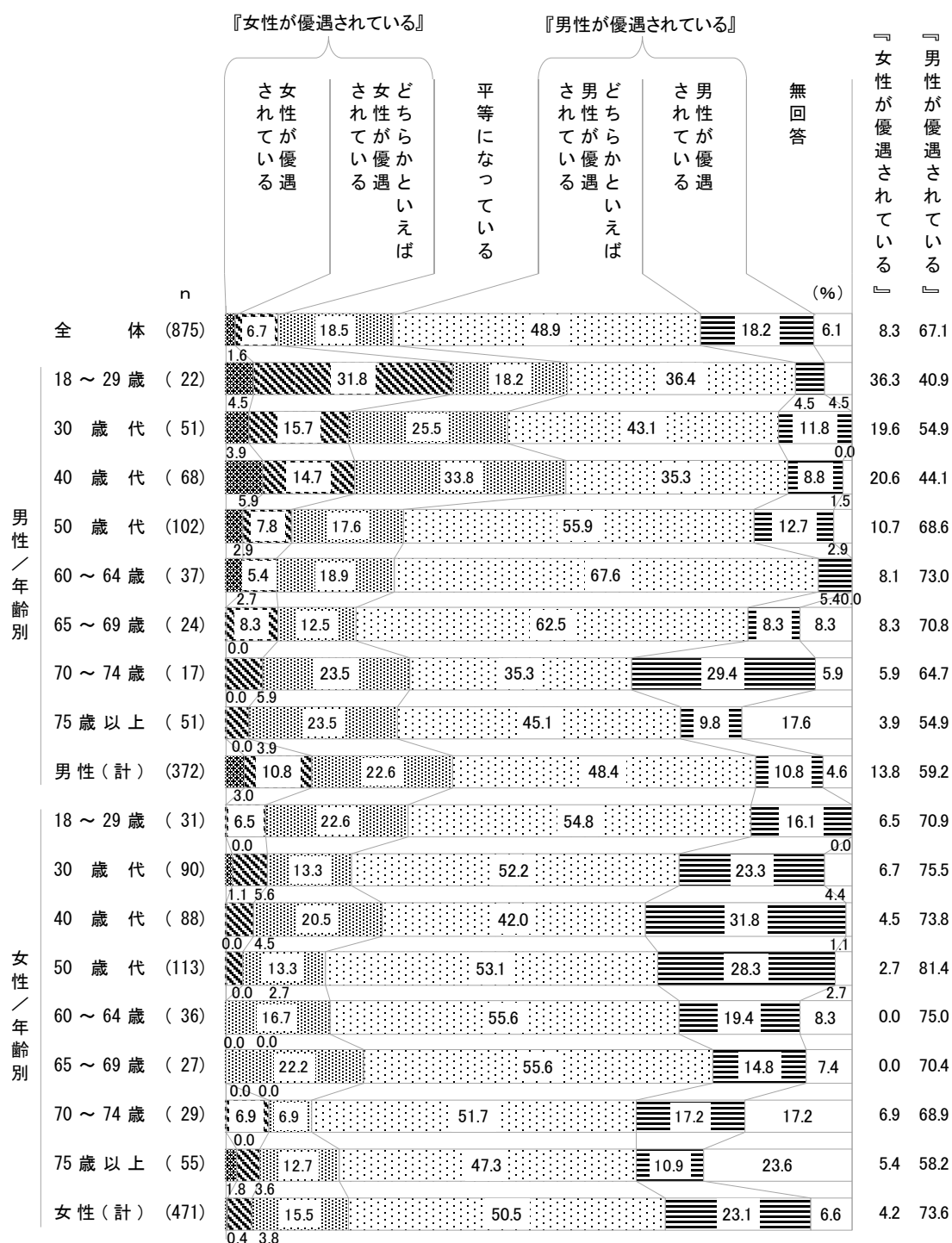


“社会全体では”について性別でみると、女性の方が男性よりも『男性が優遇されている』と感じる割合が14.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「平等になっている」と感じる割合が7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合は女性の50歳代で8割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は男性の40歳代で3割を超えて高くなっている。

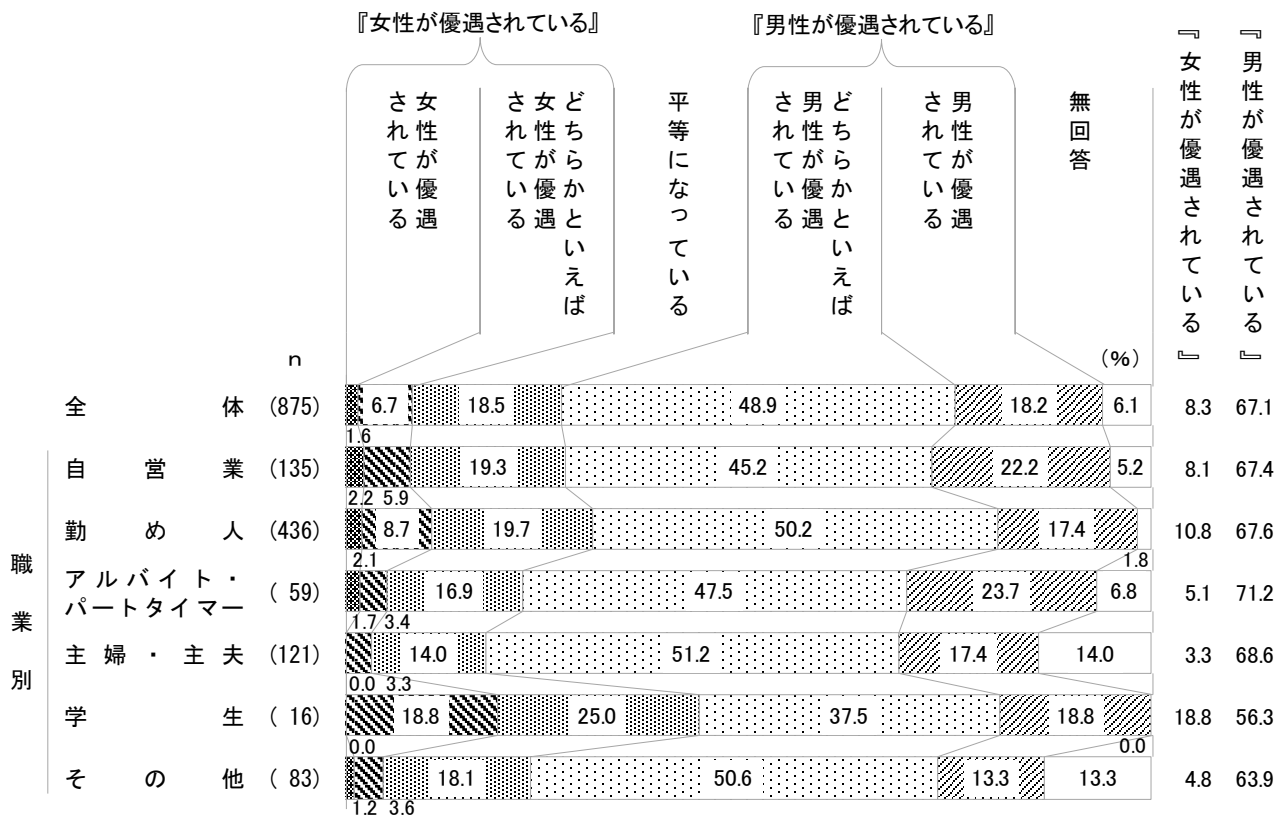
(図表6-1-11)

図表6-1-11 男女の地位の平等感—性別・性／年齢別「(8) 社会全体では」



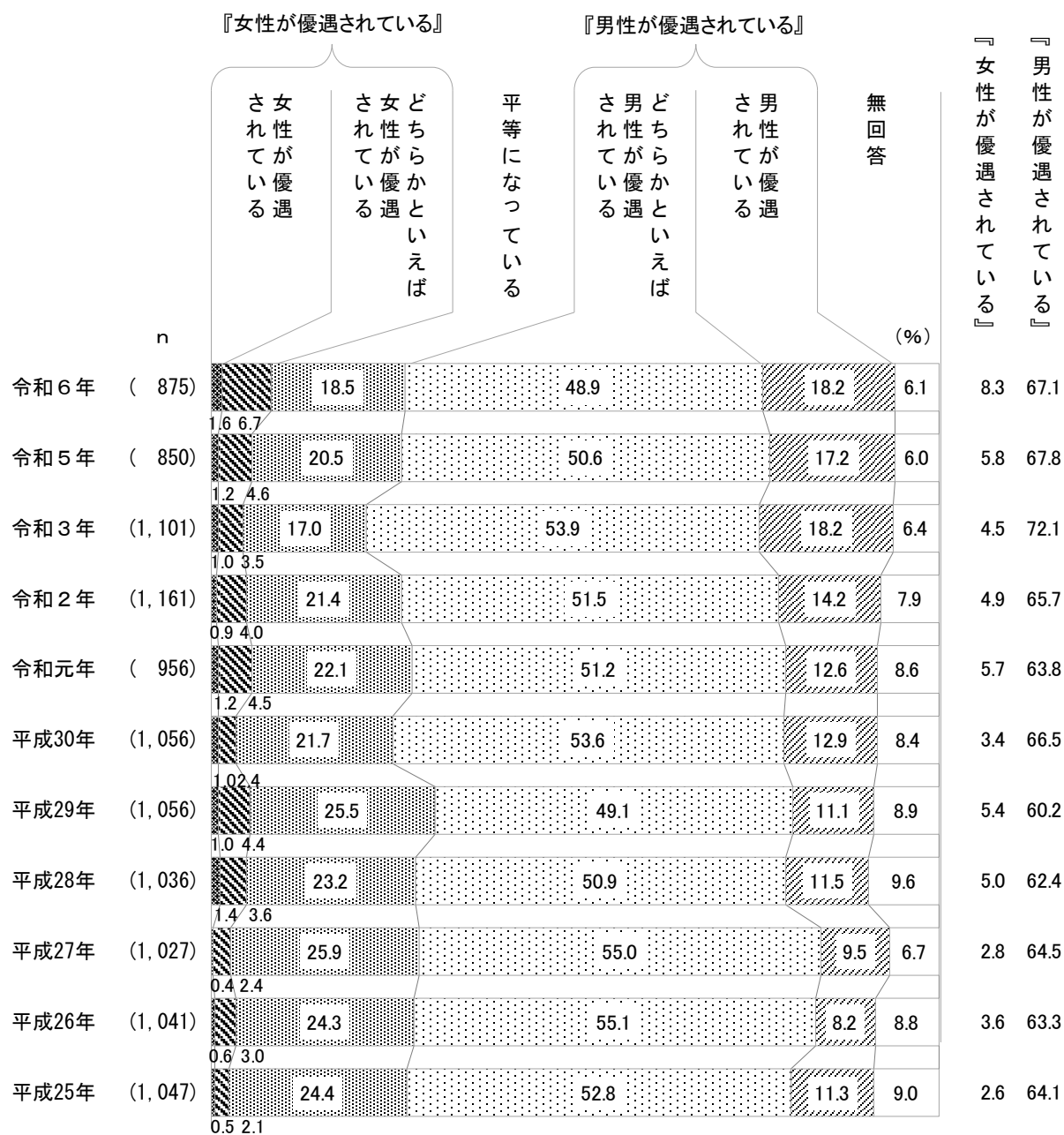
“社会全体では”について職業別でみると、『男性が優遇されている』と感じる割合はアルバイト・パートタイマーで7割を超えて高くなっている。「平等になっている」と感じる割合は学生で2割台半ばと高くなっている。(図表6-1-12)

図表6-1-12 男女の地位の平等感—職業別「(8) 社会全体では」



“社会全体では”について過去の調査と比較すると、『男性が優遇されている』と感じる割合は令和5年と比べて0.7ポイント減少している。(図表6-1-13)

図表6-1-13 男女の地位の平等感一過年度比較「(8) 社会全体では」



(2) ワーク・ライフ・バランスの現在の状況

◇「仕事と家庭生活を同じように両立させている」が2割台半ば

問15 あなた自身のワーク・ライフ・バランス※（「仕事」と「家庭生活」の調和）について、現状は次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

n = 875

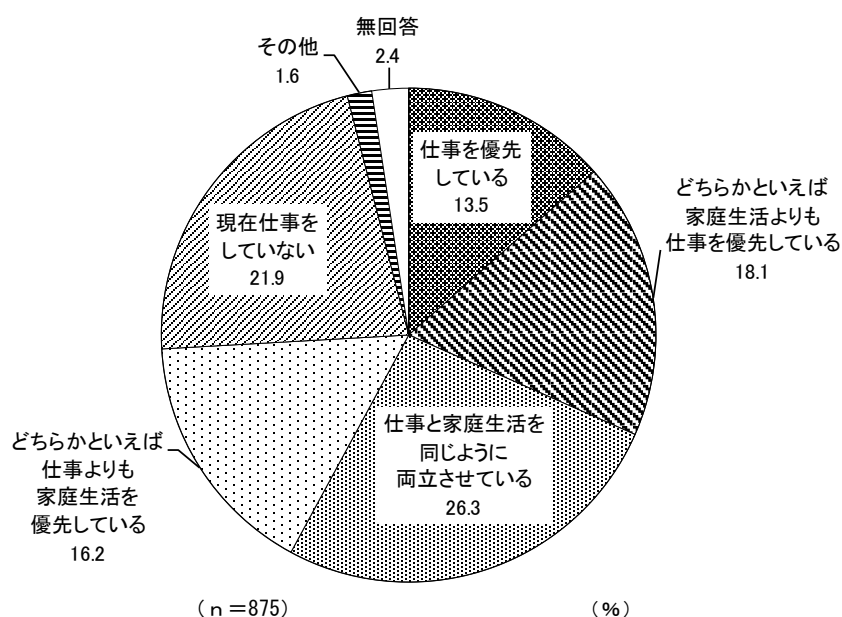
1	仕事を優先している	13.5%
2	どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している	18.1
3	仕事と家庭生活を同じように両立させている	26.3
4	どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している	16.2
5	現在仕事をしていない	21.9
6	その他	1.6
	(無回答)	2.4

(※) ワーク・ライフ・バランス 仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

ワーク・ライフ・バランスの現在の状況は、「仕事と家庭生活を同じように両立させている」(26.3%) が2割台半ばで最も高くなっている。次いで、「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」(18.1%)、「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」(16.2%) などとなっている。また、「現在仕事をしていない」(21.9%) は2割超えとなっている。

(図表6-2-1)

図表6-2-1 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況



過去の調査結果との比較は、平成30年以前とは選択肢が異なり単純に比較することはできないが、「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は令和5年と比べて3.7ポイント増加し、「仕事を優先している」が2.5ポイント減少している。(図表6-2-2)

図表6-2-2 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－過年度比較

(%)

調査年	n	仕事を優先している	どちらの仕事と生活を優先すれば家庭の生活	仕事と生活を同じように両立させている	どちらの家庭生活を優先すれば仕事よりも	現在仕事をしていない	その他	無回答
令和6年	875	13.5	18.1	26.3	16.2	21.9	1.6	2.4
令和5年	850	16.0	19.8	22.6	18.1	19.2	1.6	2.7
令和3年	1,101	15.9	19.7	27.1	13.3	20.7	0.9	2.5
令和2年	1,161	15.3	19.6	25.8	14.7	19.2	1.5	3.8
令和元年	956	15.4	21.1	23.4	13.6	22.4	0.7	3.3
平成30年	1,056	9.0	30.3	20.5	13.5	22.7	0.9	3.0
平成29年	1,056	8.1	29.8	23.9	11.2	20.6	1.5	4.8
平成28年	1,036	10.2	28.8	23.7	12.4	19.6	1.0	4.3
平成27年	1,027	9.7	30.1	20.6	12.8	21.0	2.2	3.5
平成26年	1,041	7.5	31.6	20.2	12.2	24.1	0.5	3.9
平成25年	1,047	9.1	31.6	20.2	11.3	21.0	1.6	5.2

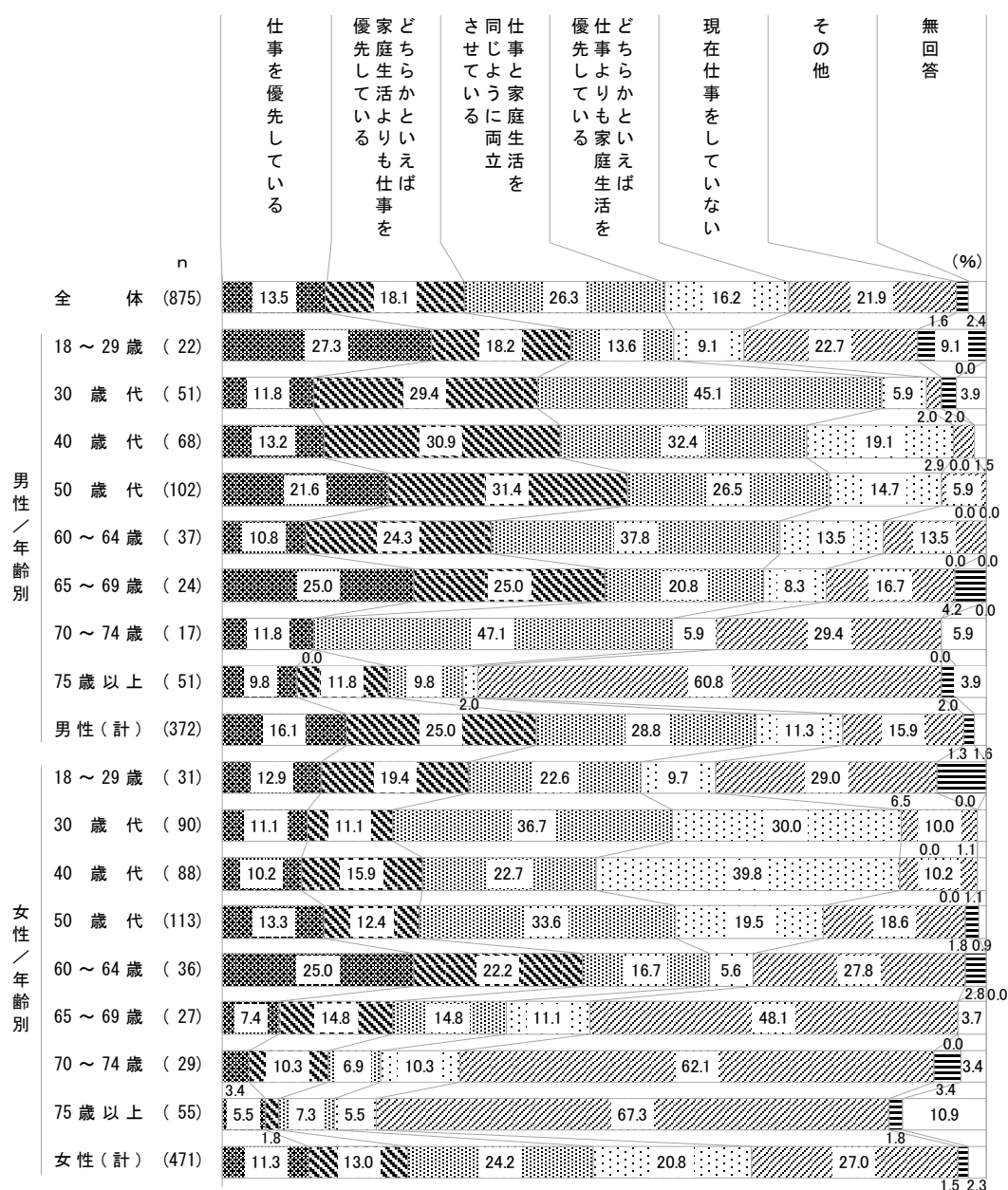
- * 「仕事を優先している」の選択肢は、平成30年以前は「仕事に専念している」としていた。
- * 「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」の選択肢は、平成30年以前は「どちらかといえば、仕事の方を優先している」としていた。
- * 「仕事と家庭生活を同じように両立させている」の選択肢は、平成30年以前は「仕事と生活を同じように両立させている」としていた。
- * 「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」の選択肢は、平成30年以前は「どちらかといえば仕事よりも、生活の方を優先させている」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「現在仕事をしていない」で11.1ポイント、「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」で9.5ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」で12.0ポイント、「仕事を優先している」で4.8ポイント、「仕事と家庭生活を同じように両立させている」で4.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事を優先している」は男性の18～29歳で3割近くと高くなっている。「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」は男性の50歳代で3割を超えて高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は男性の70～74歳で5割近くと高くなっている。

(図表6-2-3)

図表6-2-3 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－性別・性／年齢別

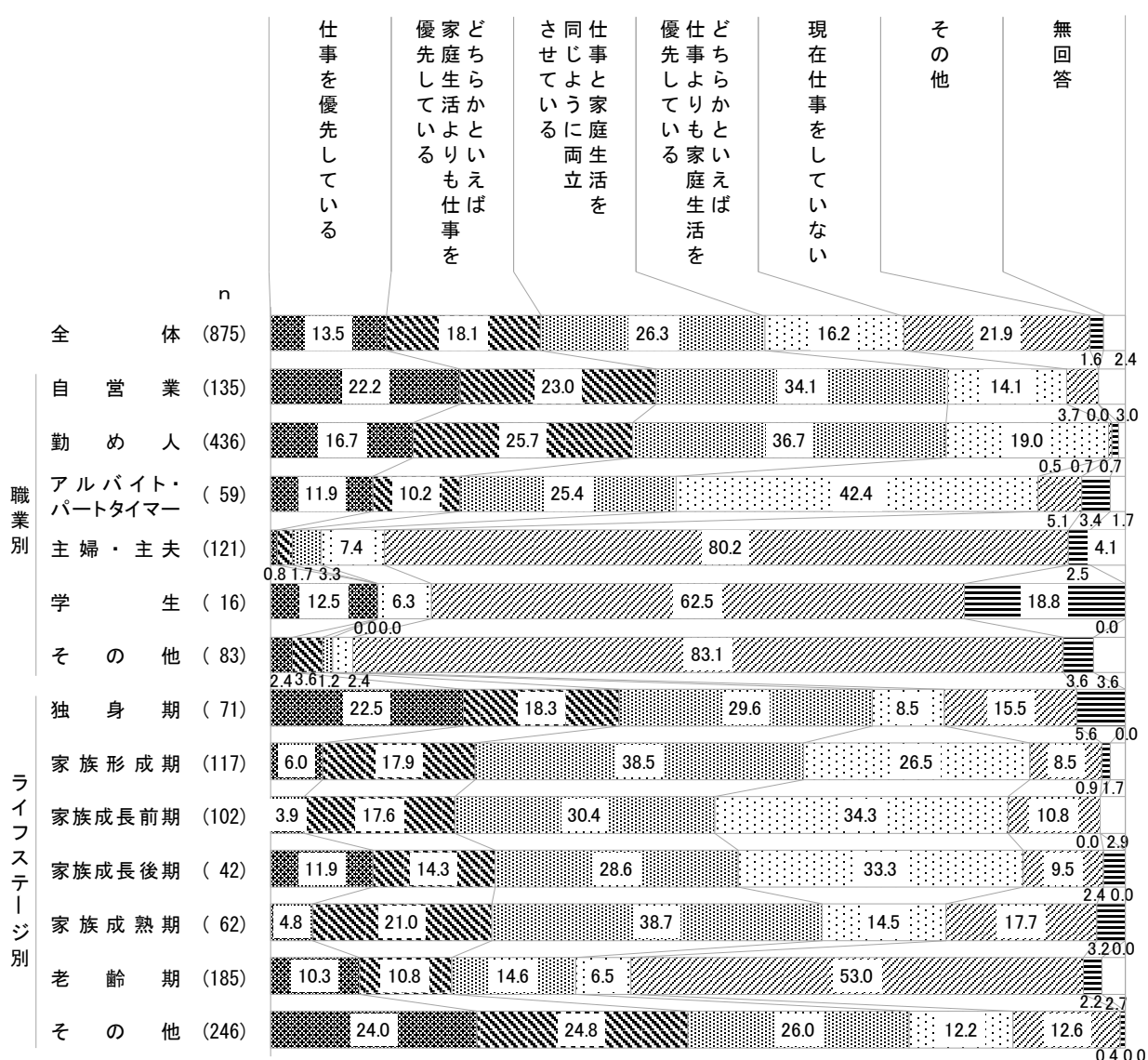


職業別でみると、「仕事を優先している」は自営業（家族従業を含む）で2割を超えて高くなっている。「どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している」は勤め人で2割台半ばと高くなっている。「どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している」はアルバイト・パートタイマーで4割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「仕事を優先している」は独身期で2割を超えて高くなっている。「仕事と家庭生活を同じように両立させている」は家族形成期と家族成熟期で4割近くと高くなっている。

(図表6-2-4)

図表6-2-4 ワーク・ライフ・バランスの現在の状況－職業別・ライフステージ別



【7 防犯対策】

（1）不安に感じる犯罪

◇特殊詐欺（振り込め詐欺など）が3割超え

問16 あなたの住む地域で不安に感じる具体的犯罪は何ですか。（○は2つまで）

n = 875

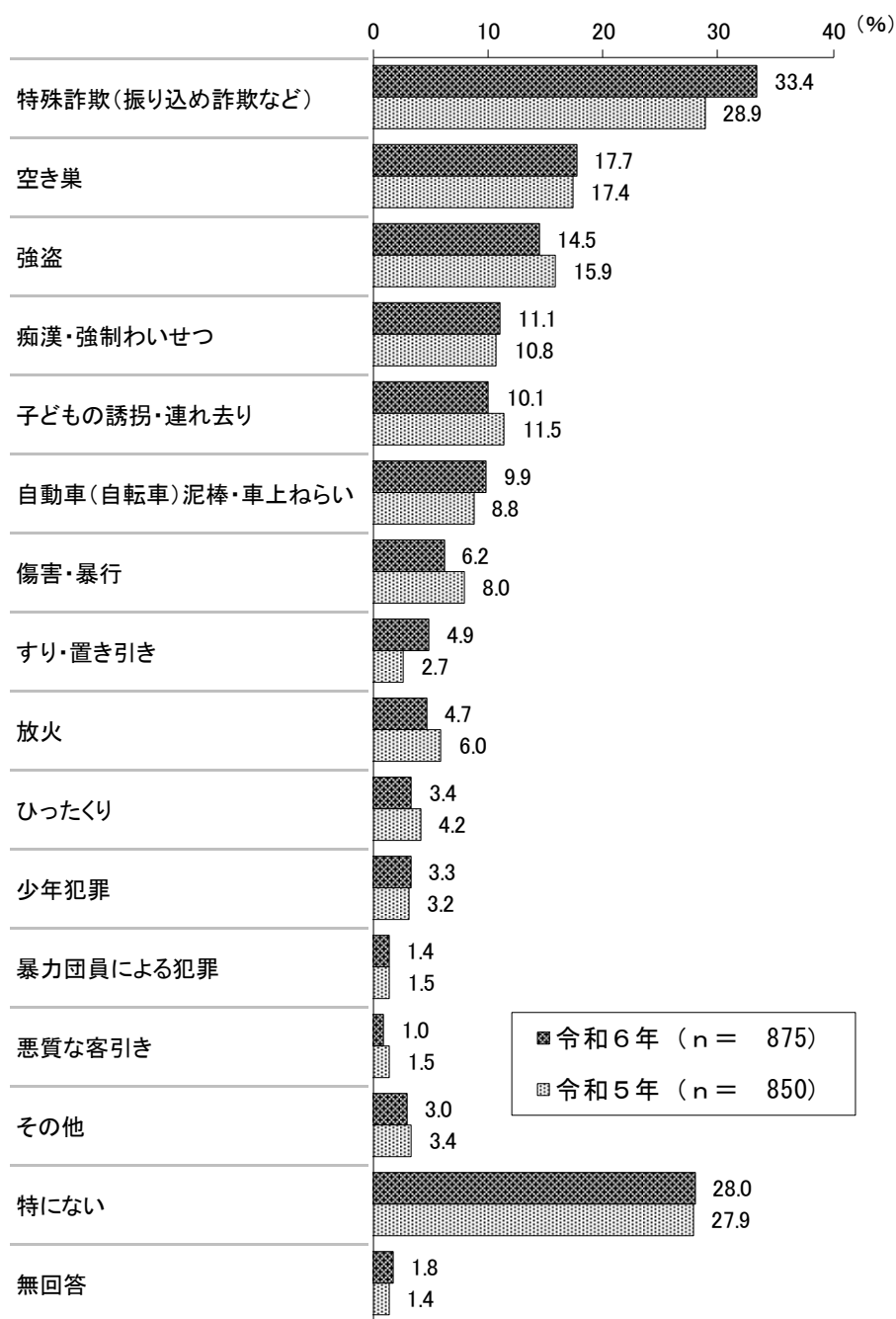
1	ひったくり	3.4%	9	痴漢・強制わいせつ	11.1
2	空き巣	17.7	10	少年犯罪	3.3
3	強盗	14.5	11	子どもの誘拐・連れ去り	10.1
4	すり・置き引き	4.9	12	暴力団員による犯罪	1.4
5	自動車（自転車）泥棒・車上ねらい	9.9	13	悪質な客引き	1.0
6	特殊詐欺（振り込め詐欺など）	33.4	14	その他	3.0
7	傷害・暴行	6.2	15	特にない	28.0
8	放火	4.7		（無回答）	1.8

不安に感じる犯罪は、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」（33.4%）が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「空き巣」（17.7%）、「強盗」（14.5%）、「痴漢・強制わいせつ」（11.1%）、「子どもの誘拐・連れ去り」（10.1%）などとなっている。一方、「特にない」（28.0%）は3割近くとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は4.5ポイント、「すり・置き引き」は2.2ポイント、「自動車（自転車）泥棒・車上ねらい」は1.1ポイント増加している。

（図表 7－1－1）

図表 7－1－1 不安に感じる犯罪（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和2年以降は「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」が第1位となっている。（図表7-1-2）

図表7-1-2 不安に感じる犯罪一過年度比較

(%)																	
調 査 年	n	特殊詐欺（振り込め詐欺 など）	空き巣	強盗	痴漢・強制わいせつ	子どもの誘拐・連れ去り	自動車（自転車）泥棒・ 車上ねらい	傷害・暴行	すり・置き引き	放火	ひったくり	少年犯罪	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
令和6年	875	33.4	17.7	14.5	11.1	10.1	9.9	6.2	4.9	4.7	3.4	3.3	1.4	1.0	3.0	28.0	1.8
令和5年	850	28.9	17.4	15.9	10.8	11.5	8.8	8.0	2.7	6.0	4.2	3.2	1.5	1.5	3.4	27.9	1.4
令和4年	1,004	18.6	17.0	7.3	12.0	10.7	9.6	5.3	1.9	6.2	6.5	3.5	1.4	1.0	3.4	36.0	1.9
令和3年	1,101	20.4	16.0	6.2	11.4	10.6	9.6	4.9	3.5	3.9	6.5	3.6	0.9	0.9	3.1	36.2	2.1
令和2年	1,161	19.8	17.7	8.7	14.4	11.0	9.2	5.9	3.7	3.9	7.1	2.4	0.7	1.3	4.0	32.3	2.2
令和元年	956	18.1	23.6	7.8	10.8	9.8	7.1	6.3	2.7	5.1	5.9	3.3	1.7	1.9	4.0	32.5	2.4
平成30年	1,056	16.8	22.1	4.7	9.0	14.1	8.4	7.5	2.9	6.9	8.4	3.5	1.2	1.7	4.1	32.1	2.3
平成29年	1,056	13.6	22.2	5.9	8.3	13.2	10.6	5.2	3.0	6.4	9.8	3.1	1.0	1.7	3.3	31.5	4.0
平成28年	1,036	12.4	21.7	6.4	10.0	14.0	12.2	6.0	2.7	5.2	6.0	3.6	2.0	1.4	3.8	33.4	3.2
平成27年	1,027	15.1	26.4	6.5	7.4	14.1	10.8	6.5	3.8	8.7	7.7	7.6	1.7	0.8	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	21.4	40.1	11.9	11.8	16.9	17.5	11.1	8.4	13.8	16.0	8.8	3.9	※	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	21.5	37.8	12.0	11.4	11.4	22.1	11.9	8.2	16.4	22.6	7.6	4.7	※	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	13.1	41.7	16.9	10.5	11.9	21.1	16.8	7.5	17.8	21.5	10.2	8.2	※	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	14.2	43.6	15.4	9.9	12.8	23.2	11.9	7.5	15.6	23.4	7.8	5.7	※	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	17.1	41.8	12.8	10.3	13.9	20.9	12.2	6.5	16.7	20.3	11.3	7.0	※	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	12.2	44.8	17.7	10.2	14.2	21.1	9.7	6.3	21.9	27.7	9.5	4.8	※	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	18.0	42.6	18.1	18.6	16.9	13.9	17.7	4.5	18.9	19.8	15.0	10.4	※	5.9	※	7.6
平成19年	686	18.4	43.7	20.6	15.9	16.5	16.0	14.0	5.0	22.6	20.6	16.3	8.7	※	1.9	※	5.4

※ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

※ 平成26年以前は、3つまで回答可能としていた。

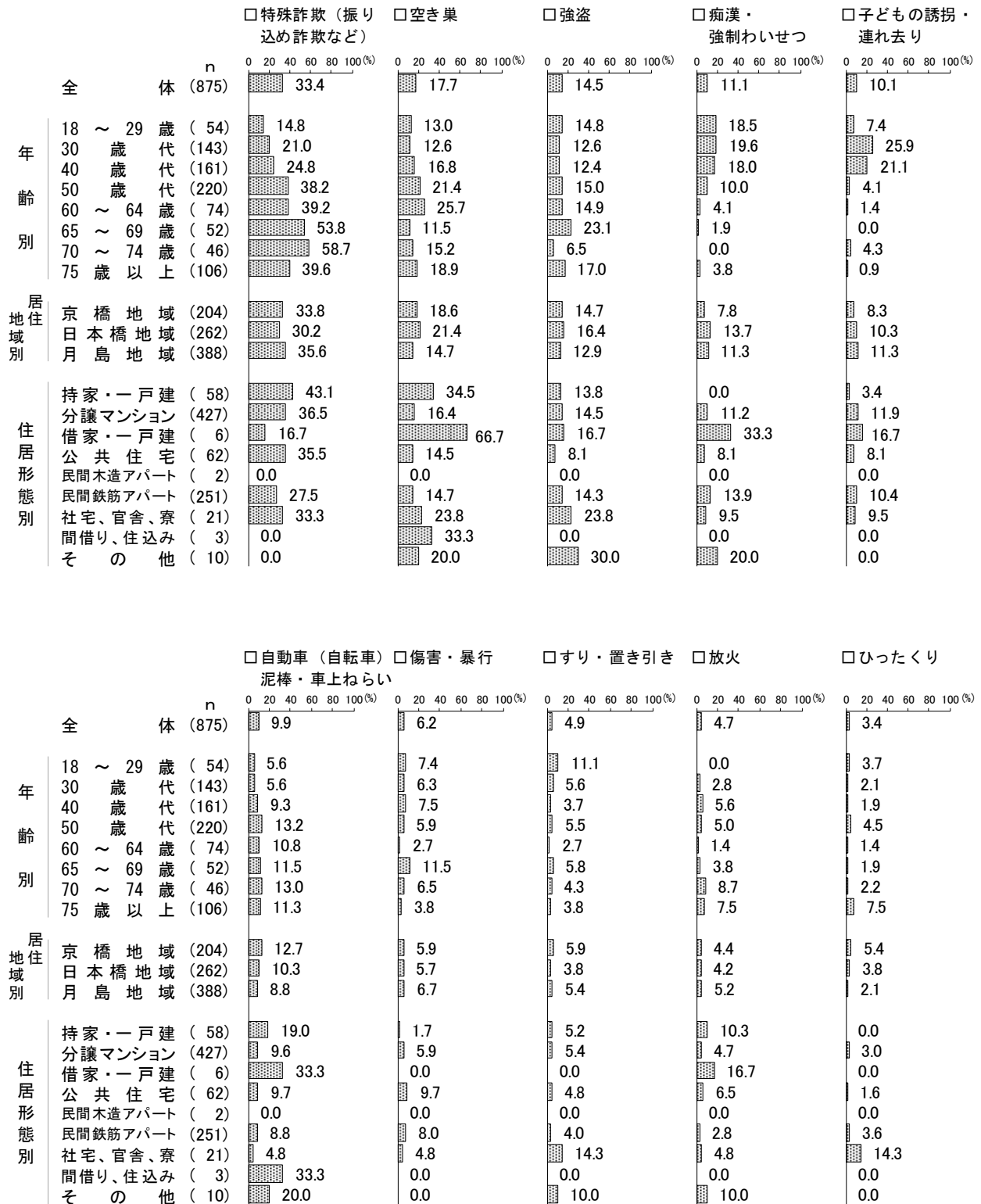
※ 「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」の選択肢は、令和4年以前は「振り込め詐欺」としていた。

年齢別でみると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は70～74歳で6割近くと高くなっている。「空き巣」は60～64歳で2割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は月島地域で3割台半ばと高くなっている。「空き巣」は日本橋地域で2割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「特殊詐欺（振り込め詐欺など）」は持家・一戸建で4割を超えて高くなっている。「空き巣」は借家・一戸建で7割近くと高くなっている。（図表7-1-3）

図表 7-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



(2) 防犯のためにやっていること

◇「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」が6割超え

問17 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。

(○はいくつでも)

n = 875

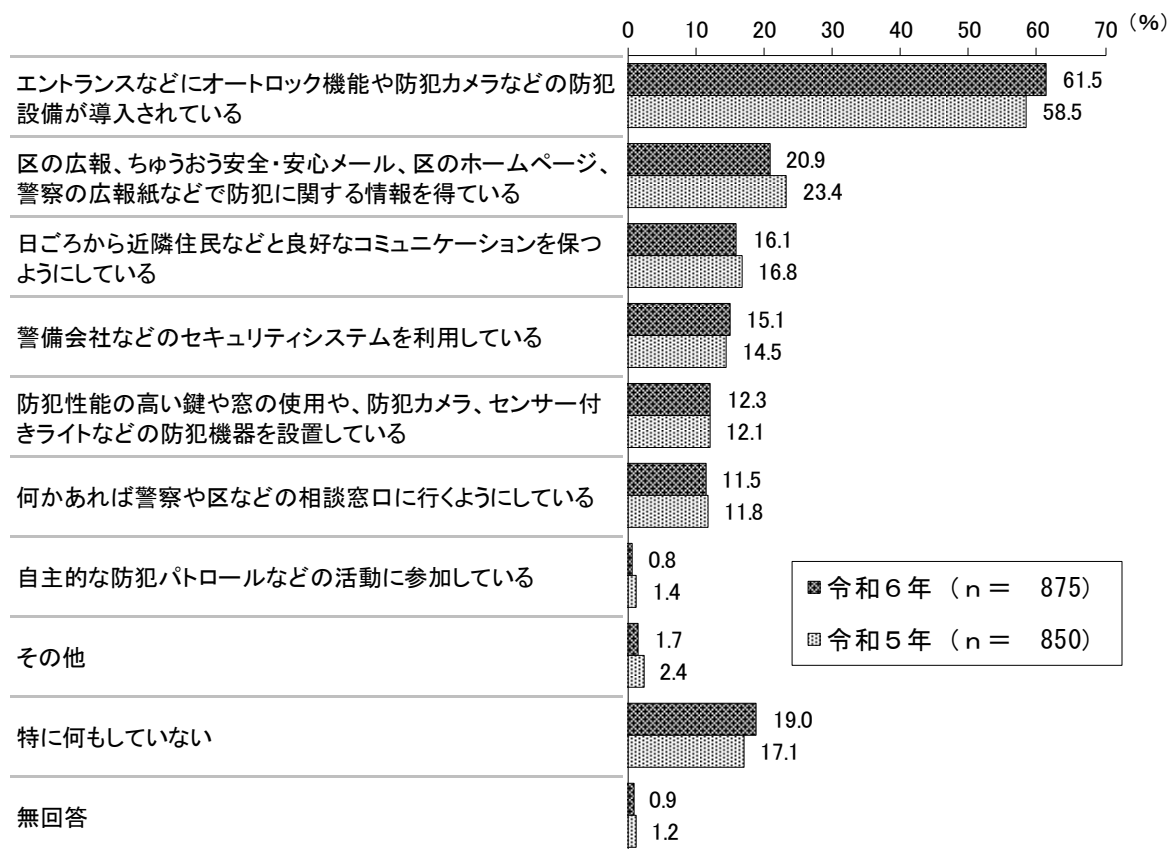
1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	0.8%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	20.9
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	11.5
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	16.1
5	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	12.3
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	15.1
7	エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	61.5
8	その他	1.7
9	特に何もしていない	19.0
	(無回答)	0.9

防犯のためにやっていることは、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」(61.5%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(20.9%)、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(16.1%)、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(15.1%)、「防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」(12.3%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(19.0%)は約2割となっている。

昨年の調査結果と比較すると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は3.0ポイント増加している。

(図表 7-2-1)

図表 7-2-1 防犯のために行っていること（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」と「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」が令和2年以降上位3項目となっている。(図表7-2-2)

図表7-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

調査年	n	(%)									
		れやエン て防トラ いるカメン スなどの 防犯設備 が導入さ 能	など、区 の広報、 ちゅう おう安全 ・安心メ ール	るミ日 ユゴ ニケ ーシ ョ ン を 保 つ よ う に 好 ま し て い 	を警 備会 社な ど の セ キ ユ リ テ イ シ ス テ ム を 利 用 し て い る	犯カ防 機メラ 器を、 設セ 置ン しサ イ 付 き ラ イ ト な ど の 防 犯	行何 くか よ う に ば 警 察 や 区 な ど の 相 談 窓 口 に	参自 加主 し的 てな 防 犯 バ ト ロ ー ル な ど の 活 動 に	そ 他	特 に 何 も し て い な い	無 回 答
令和6年	875	61.5	20.9	16.1	15.1	12.3	11.5	0.8	1.7	19.0	0.9
令和5年	850	58.5	23.4	16.8	14.5	12.1	11.8	1.4	2.4	17.1	1.2
令和4年	1,004	57.2	23.2	17.7	14.5	13.3	12.7	1.9	2.3	20.5	1.6
令和3年	1,101	58.2	25.1	16.8	13.9	11.7	12.1	1.1	2.6	17.1	2.5
令和2年	1,161	59.6	25.7	16.0	14.3	10.9	13.3	1.2	1.8	16.9	2.0
令和元年	956	※	21.1	20.5	16.7	16.3	13.7	1.6	2.4	40.5	2.4
平成30年	1,056	※	19.8	19.6	14.7	11.6	13.3	1.5	3.9	42.1	2.1
平成29年	1,056	※	21.3	19.1	14.6	15.9	13.2	1.4	3.0	38.0	3.6
平成28年	1,036	※	19.8	20.3	15.2	15.5	13.5	1.2	2.2	41.0	2.6
平成27年	1,027	※	20.0	20.1	14.2	14.1	13.0	1.6	3.0	41.6	1.9
平成26年	1,041	※	17.5	19.5	13.6	14.9	14.4	1.2	3.7	41.6	3.2
平成25年	1,047	※	18.4	22.3	11.9	16.1	15.2	2.1	3.9	36.8	4.7
平成24年	1,123	※	19.6	20.1	12.0	15.2	16.3	1.6	2.8	40.5	2.4
平成23年	1,097	※	17.7	22.0	11.9	14.8	15.3	1.8	3.2	39.7	3.4
平成22年	1,004	※	20.3	27.5	14.0	19.2	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1
平成21年	1,001	※	13.7	26.8	15.4	19.4	16.2	2.6	3.5	35.2	2.2
平成20年	1,065	※	12.7	29.8	14.1	19.7	17.2	3.4	3.3	36.2	2.3
平成19年	686	※	9.0	27.7	10.5	19.2	13.0	2.9	2.5	41.5	2.0

※ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

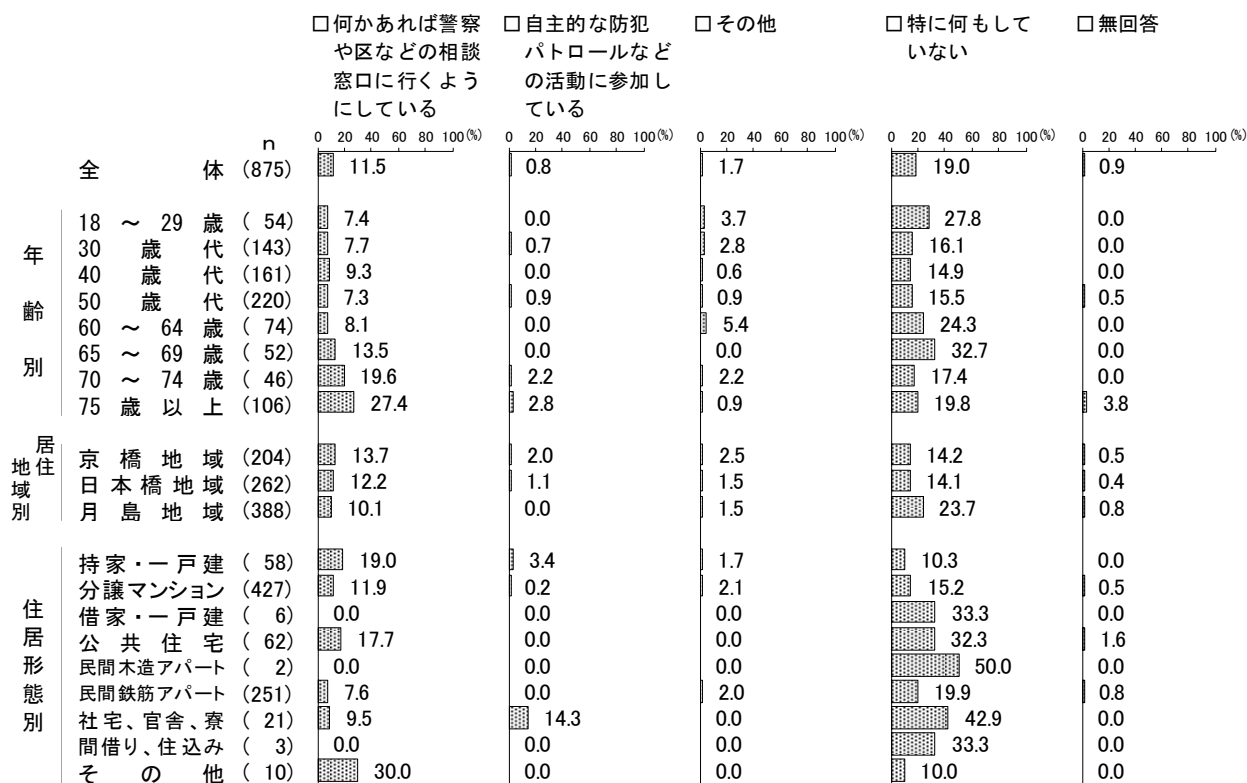
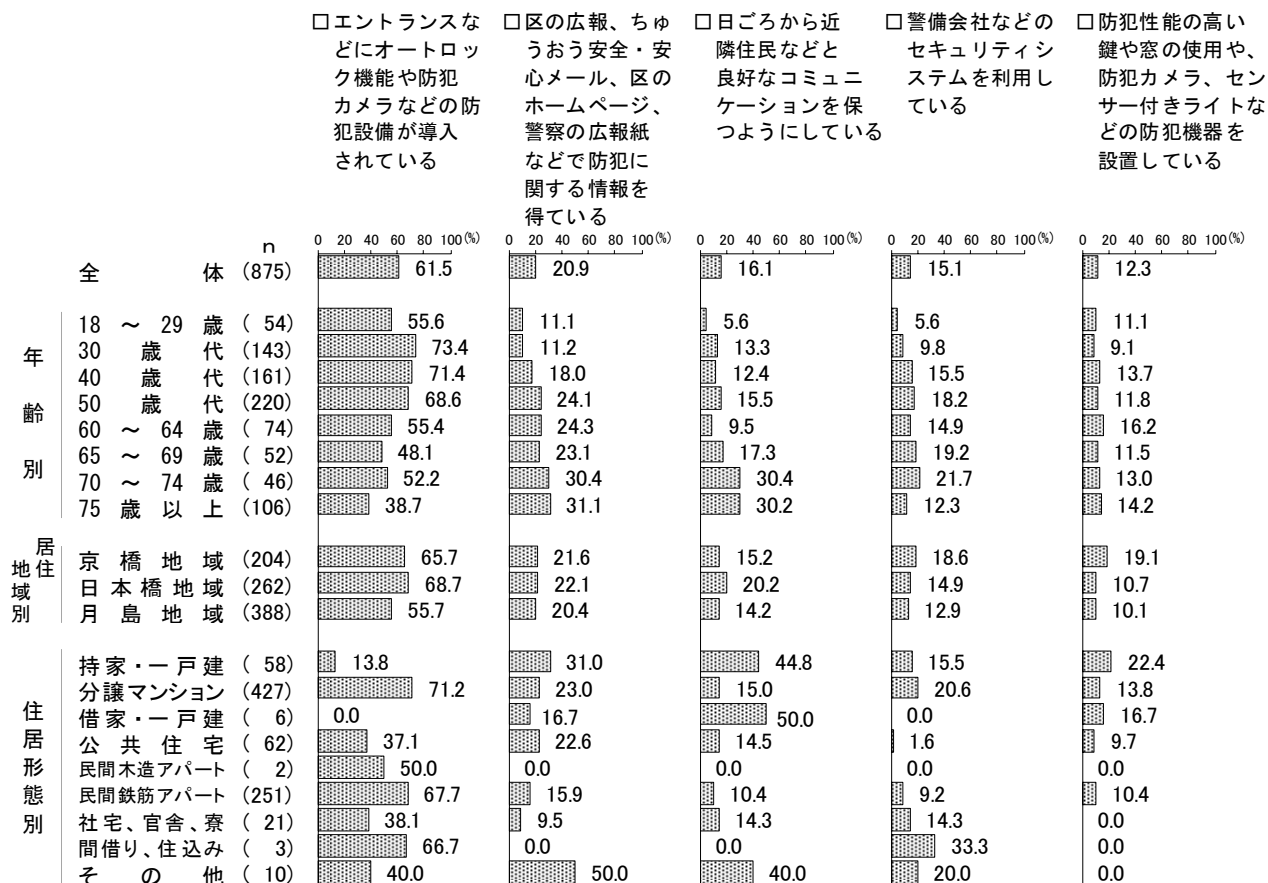
※ 「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

年齢別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は30歳代と40歳代で7割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は日本橋地域で7割近くと高くなっている。

住居形態別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は分譲マンションで7割を超えて高くなっている。(図表7-2-3)

図表 7-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



(3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が5割近く

問18 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

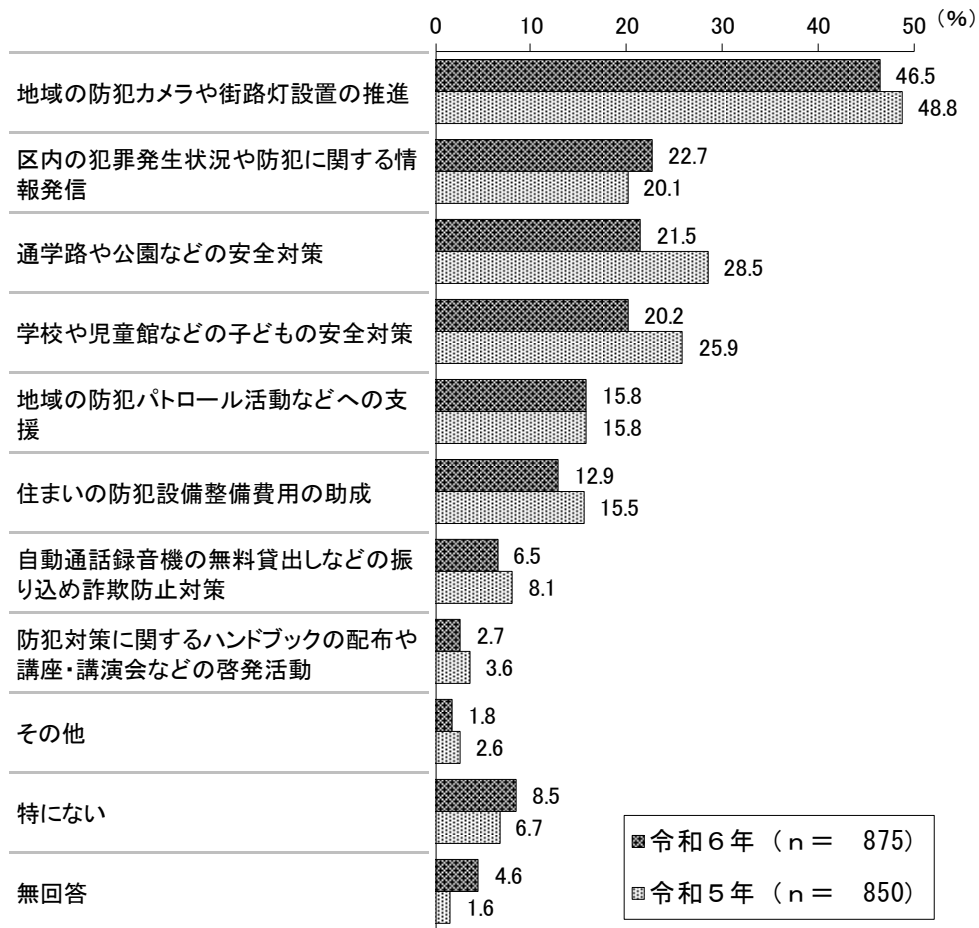
n = 875

1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	22.7%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	12.9
3	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	6.5
4	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	46.5
5	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	2.7
6	学校や児童館などの子どもの安全対策	20.2
7	通学路や公園などの安全対策	21.5
8	地域の防犯パトロール活動などへの支援	15.8
9	その他	1.8
10	特にない	8.5
	(無回答)	4.6

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(46.5%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(22.7%)、「通学路や公園などの安全対策」(21.5%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(20.2%)、「地域の防犯パトロール活動などへの支援」(15.8%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は2.6ポイント増加している。(図表7-3-1)

図表7-3-1 区に特に力を入れてほしい施策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は平成27年以降第1位となっている。(図表7-3-2)

図表7-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一過年度比較

調査年	n	(%)										
		地域防犯カメラや街路灯設置の推進	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	通学路や公園などの安全対策	学校や児童館などの子ども安全対策	地域への防犯パトロール活動	住まいの防犯設備整備費用の助成	自動通話の録音機能の無料貸出	防犯対策に関する啓発活動	その他	特になし	無回答
令和6年	875	46.5	22.7	21.5	20.2	15.8	12.9	6.5	2.7	1.8	8.5	4.6
令和5年	850	48.8	20.1	28.5	25.9	15.8	15.5	8.1	3.6	2.6	6.7	1.6
令和4年	1,004	47.0	19.9	24.0	19.5	14.0	14.6	5.7	2.2	1.5	10.9	1.4
令和3年	1,101	44.1	24.2	23.8	20.8	13.9	15.3	7.0	2.4	2.0	9.2	2.4
令和2年	1,161	45.9	22.0	22.7	21.7	12.6	15.2	7.9	1.1	2.2	10.0	2.6
令和元年	956	43.7	24.2	25.0	20.6	16.0	11.9	8.5	1.9	1.8	7.6	2.8
平成30年	1,056	51.1	20.1	26.9	20.4	17.0	14.2	※	2.7	2.7	6.4	2.1
平成29年	1,056	47.1	24.1	26.2	22.1	16.3	11.7	※	2.5	2.1	8.0	4.5
平成28年	1,036	46.9	24.0	25.5	22.0	18.8	11.5	※	2.2	1.2	8.5	3.1
平成27年	1,027	50.6	21.3	30.1	23.5	22.1	12.8	※	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	14.6	35.8	22.9	22.4	21.3	※	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	14.9	34.4	19.5	21.0	23.3	※	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	20.7	38.1	24.0	28.9	11.0	※	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	15.6	38.6	24.2	30.8	12.4	※	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	14.9	42.4	29.3	31.1	10.8	※	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	14.5	39.3	23.6	28.6	11.4	※	5.0	7.1	※	9.0

※ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

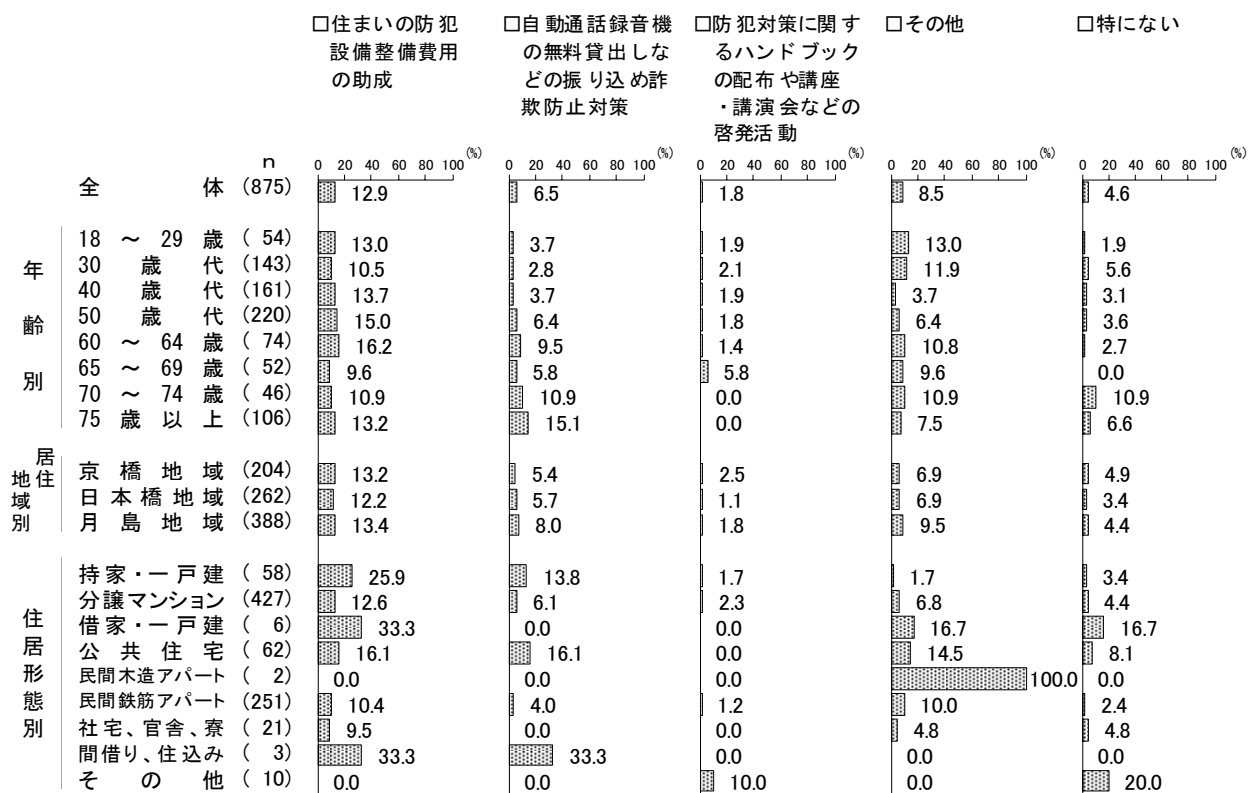
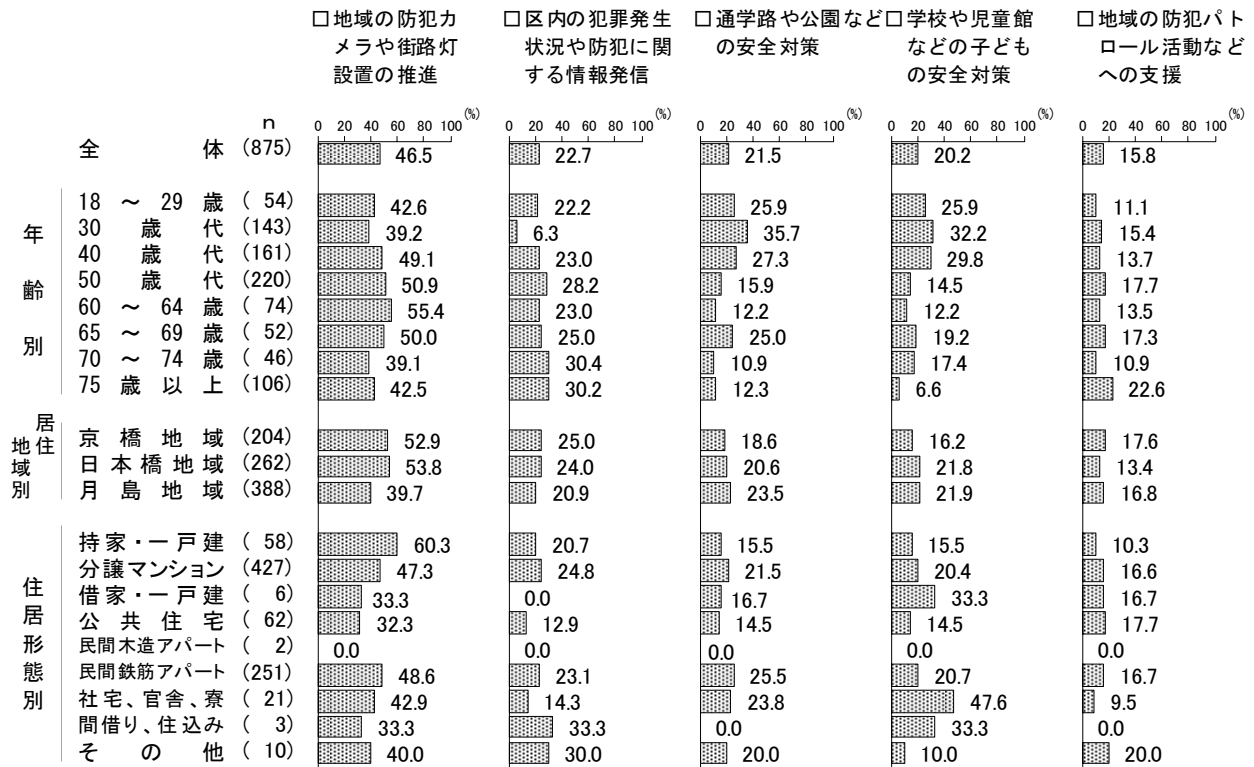
- ※ 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。
- ※ 「地域の防犯パトロール活動などへの支援」の選択肢は、平成29年と平成27年では「地域の防犯パトロール活動への支援」、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。
- ※ 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。
- ※ 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。
- ※ 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・講演会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

年齢別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は60～64歳で5割台半ばと高くなっている。「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は70～74歳と75歳以上で3割と高くなっている。

居住地域別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は京橋地域と日本橋地域で5割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は持家・一戸建てで6割と高くなっている。(図表7-3-3)

図表 7-3-3 区に特に力を入れてほしい施策一年齢別・居住地域別・住居形態別



【8 スポーツ】

(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が6割台半ば

問19 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。（○はいくつでも）

※ 運動の量や時間の条件はありません。

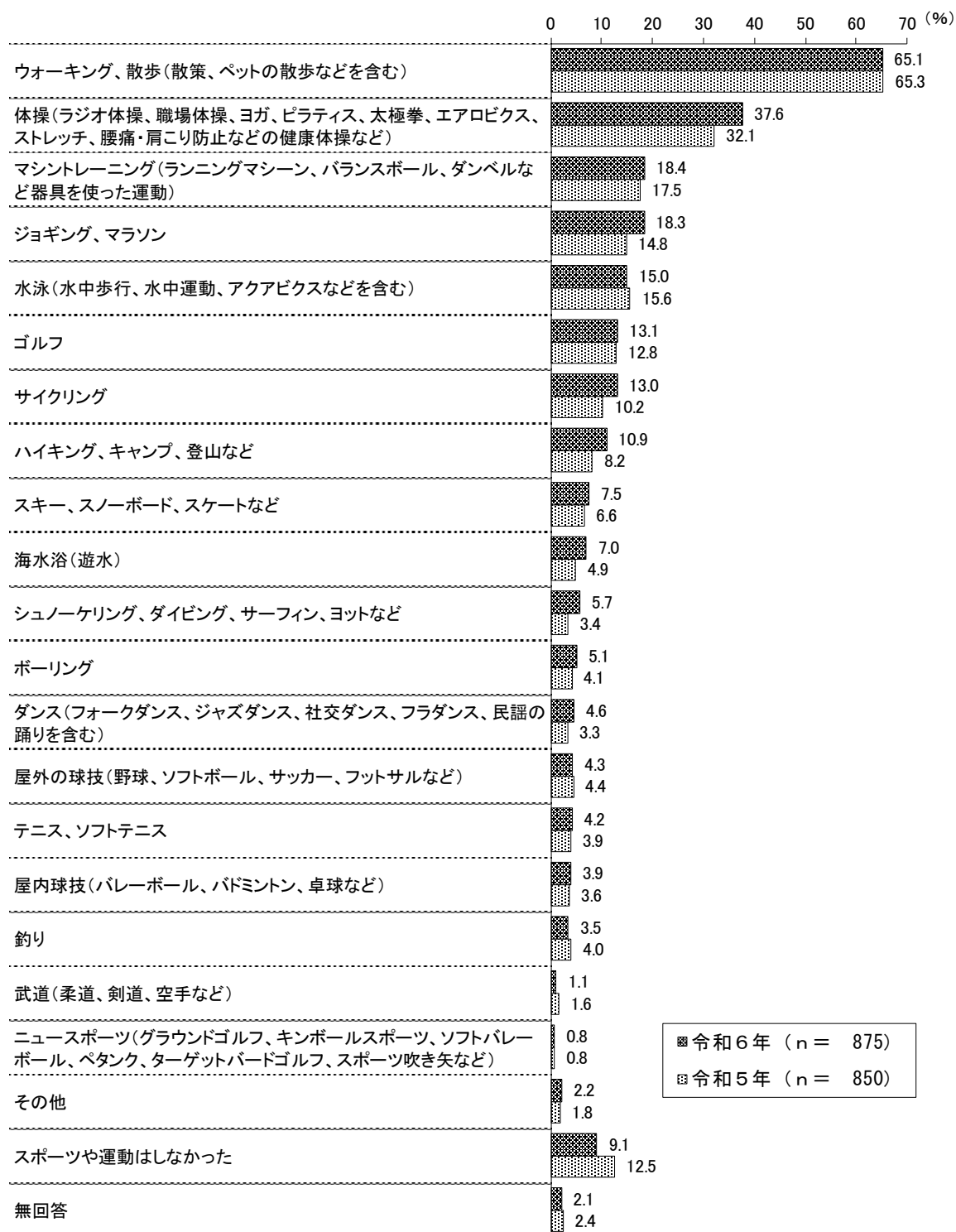
n = 875

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	15.0%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	37.6
3	ジョギング、マラソン	18.3
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	65.1
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	18.4
6	武道（柔道、剣道、空手など）	1.1
7	テニス、ソフトテニス	4.2
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	3.9
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	4.3
10	ゴルフ	13.1
11	ハイキング、キャンプ、登山など	10.9
12	スキー、スノーボード、スケートなど	7.5
13	海水浴（遊水）	7.0
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	5.7
15	釣り	3.5
16	ボーリング	5.1
17	サイクリング	13.0
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）	0.8
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	4.6
20	その他	2.2
21	スポーツや運動はしなかった （無回答）	9.1 2.1

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」（65.1%）が6割台半ばと最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」（37.6%）、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」（18.4%）、「ジョギング、マラソン」（18.3%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」は5.5ポイント、「ジョギング、マラソン」は3.5ポイント、「サイクリング」は2.8ポイント増加している。一方、「水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）」は0.6ポイント、「武道（柔道、剣道、空手など）」は0.5ポイント減少している。（図表8－1－1）

図表8－1－1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩」と「体操」が引き続き上位２項目となっている。（図表８－１－２）

図表８－１－２ 過去１年間に行ったスポーツや運動の種類－過年度比較

調 査 年	n	(%)																					無 回 答
		ウォーキング、散歩	体操	マシントレーニング	ジョギング、マラソン	水泳	ゴルフ	サイクリング	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	海水浴（遊水）	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	ボーリング	ダンス	屋外の球技	テニス、ソフトテニス	屋内球技	釣り	武道	ニュースポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	
令和６年	875	65.1	37.6	18.4	18.3	15.0	13.1	13.0	10.9	7.5	7.0	5.7	5.1	4.6	4.3	4.2	3.9	3.5	1.1	0.8	2.2	9.1	2.1
令和５年	850	65.3	32.1	17.5	14.8	15.6	12.8	10.2	8.2	6.6	4.9	3.4	4.1	3.3	4.4	3.9	3.6	4.0	1.6	0.8	1.8	12.5	2.4
令和４年	1,004	62.2	34.5	19.2	17.3	12.4	12.8	10.3	7.3	5.7	2.6	3.5	3.2	3.9	2.8	4.5	3.2	4.1	2.2	0.5	2.3	14.3	1.5
令和３年	1,101	66.1	38.2	17.4	20.3	12.0	12.5	12.0	6.8	3.7	2.5	2.3	3.5	3.5	3.0	3.2	3.3	4.0	0.8	0.3	2.5	12.8	0.7
令和２年	1,161	62.9	40.1	18.1	20.1	16.6	12.4	12.6	8.2	4.7	5.8	5.2	3.5	3.7	5.3	3.9	3.5	3.5	1.4	0.4	3.1	13.4	1.8
平成30年	1,056	57.5	37.9	20.3	18.8	17.0	12.2	13.7	11.6	6.2	7.2	6.0	6.6	5.7	4.5	3.6	4.3	3.5	1.1	0.9	1.2	11.9	2.0
平成29年	1,056	56.7	40.0	17.4	16.4	17.6	12.7	13.0	11.2	6.0	8.6	5.6	6.7	5.8	4.9	4.4	5.6	3.9	1.3	1.0	0.9	12.7	3.5
平成28年	1,036	58.3	36.2	18.8	20.6	21.9	14.3	15.9	11.3	6.9	11.0	7.4	8.7	5.3	5.5	5.4	5.3	4.7	1.4	1.5	1.0	12.6	3.4
平成27年	1,027	50.2	30.0	14.0	16.8	16.9	15.1	10.2	8.3	7.4	6.2	5.1	4.6	3.3	3.9	3.8	3.3	3.1	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	15.0	17.2	21.3	13.9	14.6	11.6	7.4	8.5	3.7	7.3	5.0	5.2	4.2	5.2	4.9	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	14.3	15.6	20.9	13.0	12.3	9.6	5.9	7.6	4.9	7.1	5.3	5.2	5.3	4.8	4.2	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	9.8	17.7	20.1	13.2	※	11.2	※	※	※	※	※	4.0	4.1	5.3	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

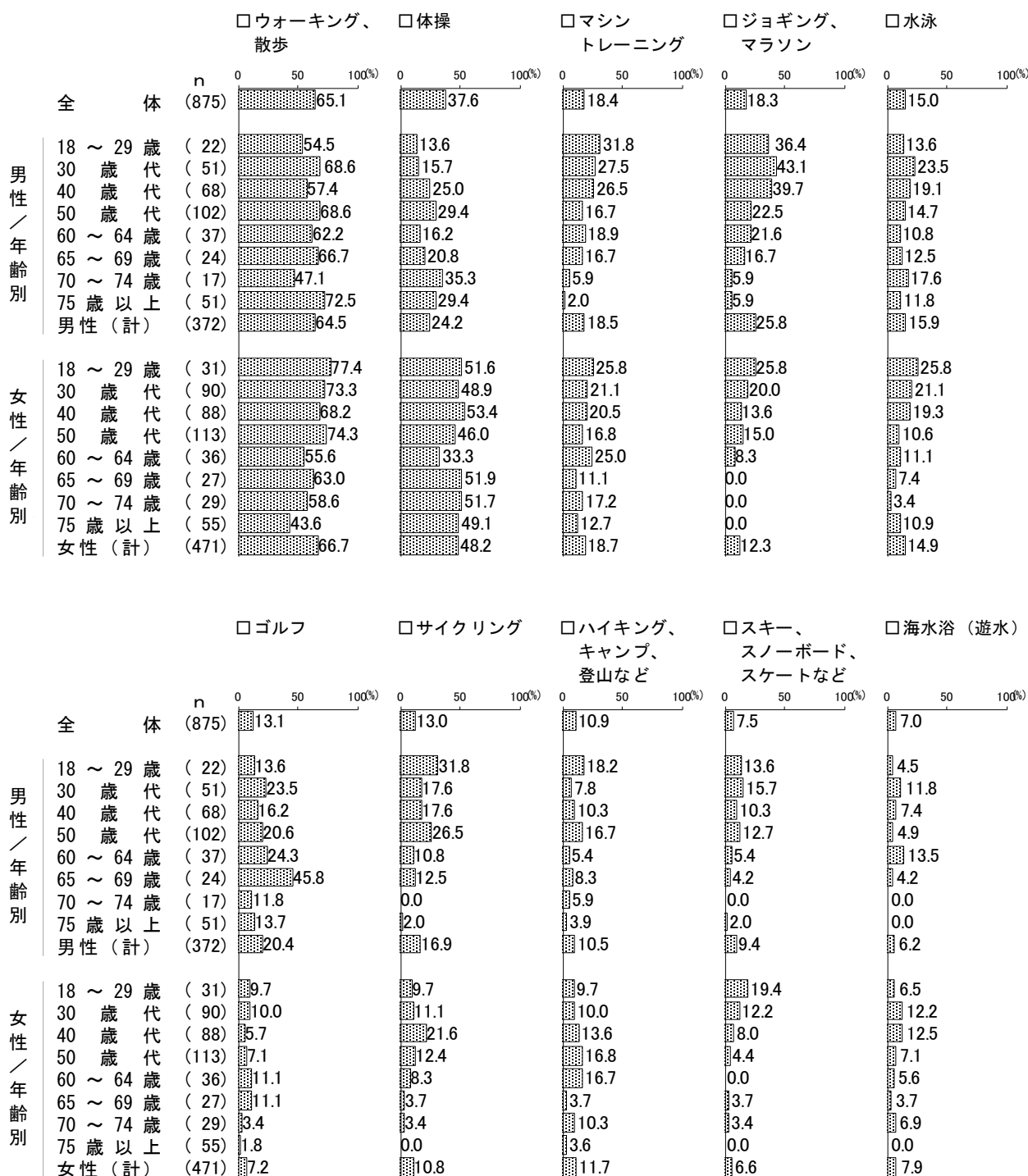
※ ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

※ 「ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）」の選択肢は、平成29年では「ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など）」としていた。

性／年齢別でみると、「ウォーキング、散歩」は男性の75歳以上、女性の18～29歳、30歳代、50歳代で7割を超えて高くなっている。「体操」は女性の18～29歳、40歳代、65～69歳、70～74歳で5割を超えて高くなっている。「マシントレーニング」は男性の18～29歳で3割を超えて高くなっている。

(図表8-1-3)

図表8-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類－性／年齢別（上位10項目）

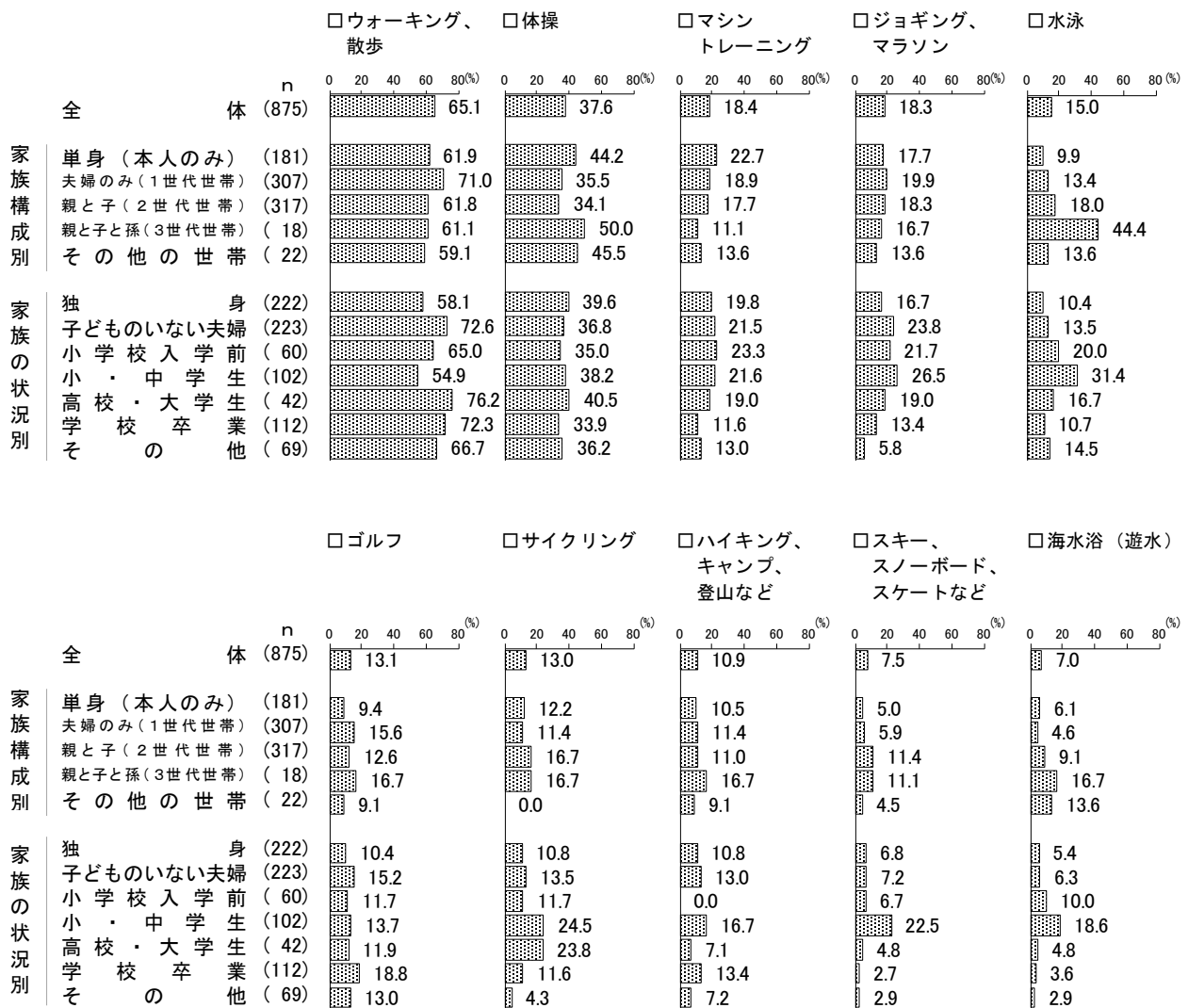


家族構成別でみると、「水泳」は親と子と孫（3世代世帯）で4割台半ばと高くなっている。

家族の状況別でみると、「水泳」が一番上の子どもが小・中学生の家族で3割を超えて高くなっている。「体操」が一番上の子どもが高校・大学生の家族で4割と高くなっている。

(図表8-1-4)

図表8-1-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—家族構成別・家族の状況別（上位10項目）



(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が3割超え

(問19で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

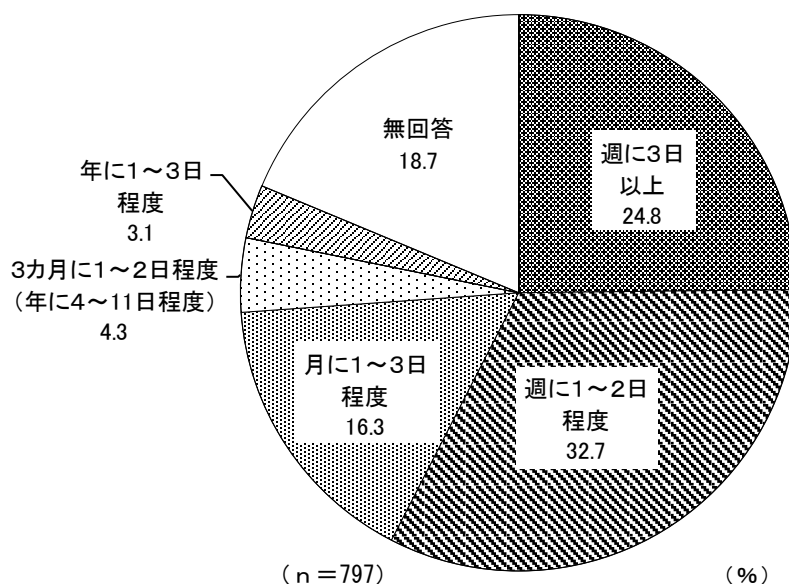
問19-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 797

1 週に3日以上	24.8%
2 週に1～2日程度	32.7
3 月に1～3日程度	16.3
4 3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)	4.3
5 年に1～3日程度	3.1
(無回答)	18.7

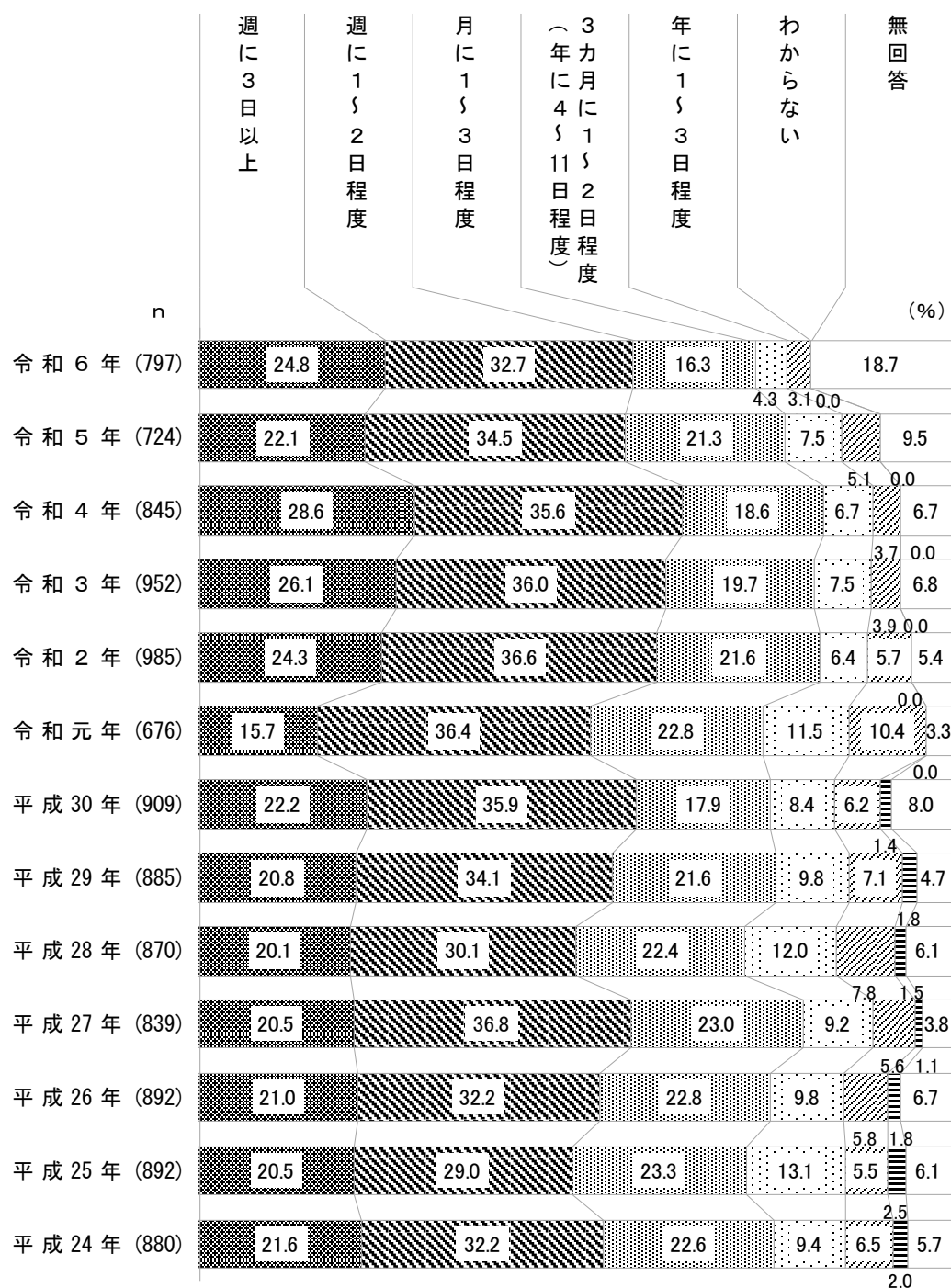
問19で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(32.7%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「週に3日以上」(24.8%)、「月に1～3日程度」(16.3%)、「3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(4.3%)などとなっている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和5年と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表8-2-2)

図表8-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度―過年度比較

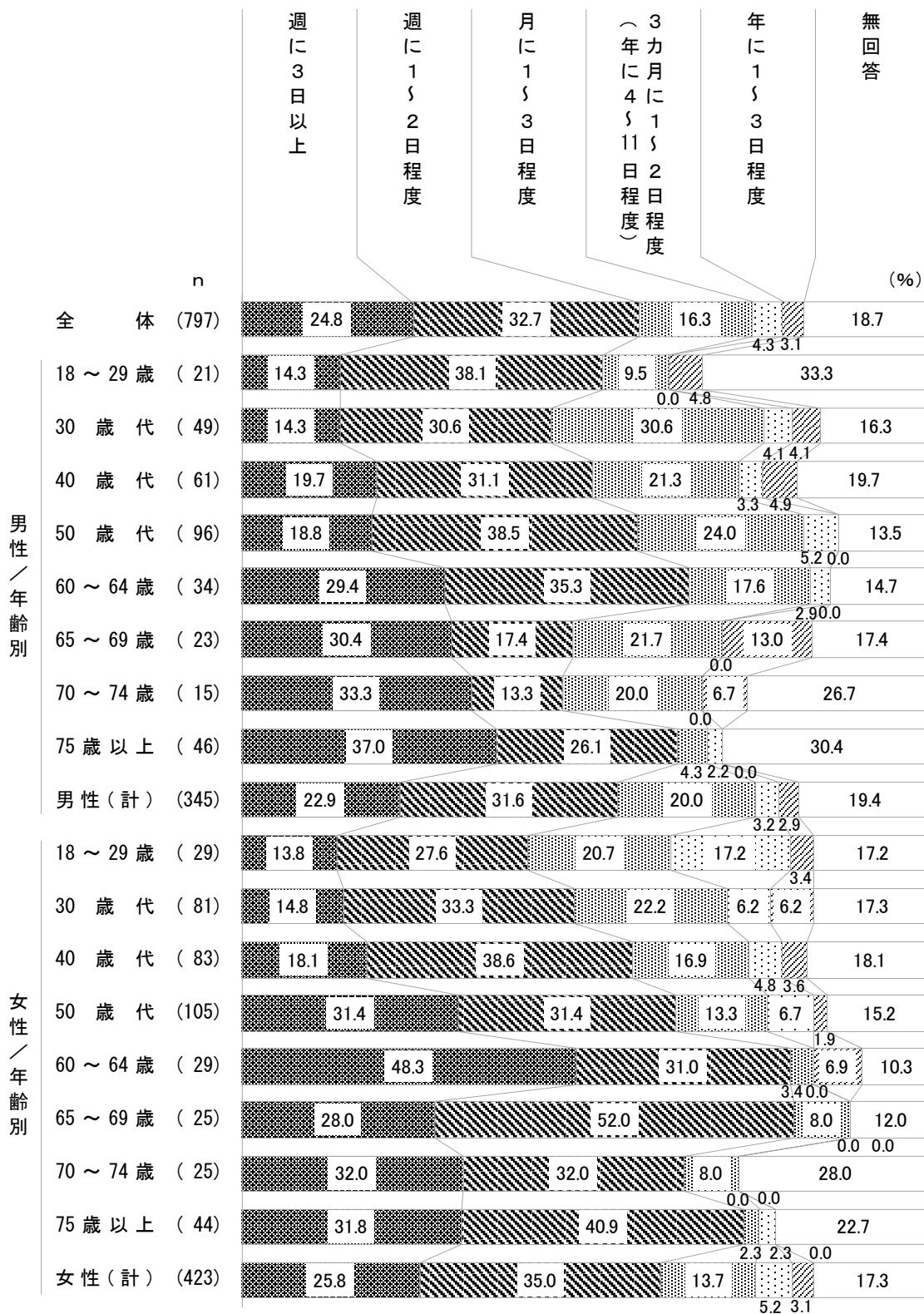


* 「わからない」は、令和元年調査から選択肢に含まれていない。

* 令和元年の調査では、「あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)」と全員に対してこの質問を聞いた。図表8-2-2における令和元年の比率は、「スポーツや運動はしなかった」と答えた数を除いて再計算した比率を示す。

性／年齢別でみると、「週に3日以上」は女性の60～64歳で5割近くと高くなっている。「週に1～2日程度」は女性の65～69歳で5割を超えて高くなっている。「月に1～3日程度」は男性の30歳代で約3割と高くなっている。（図表8－2－3）

図表8－2－3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－性／年齢別

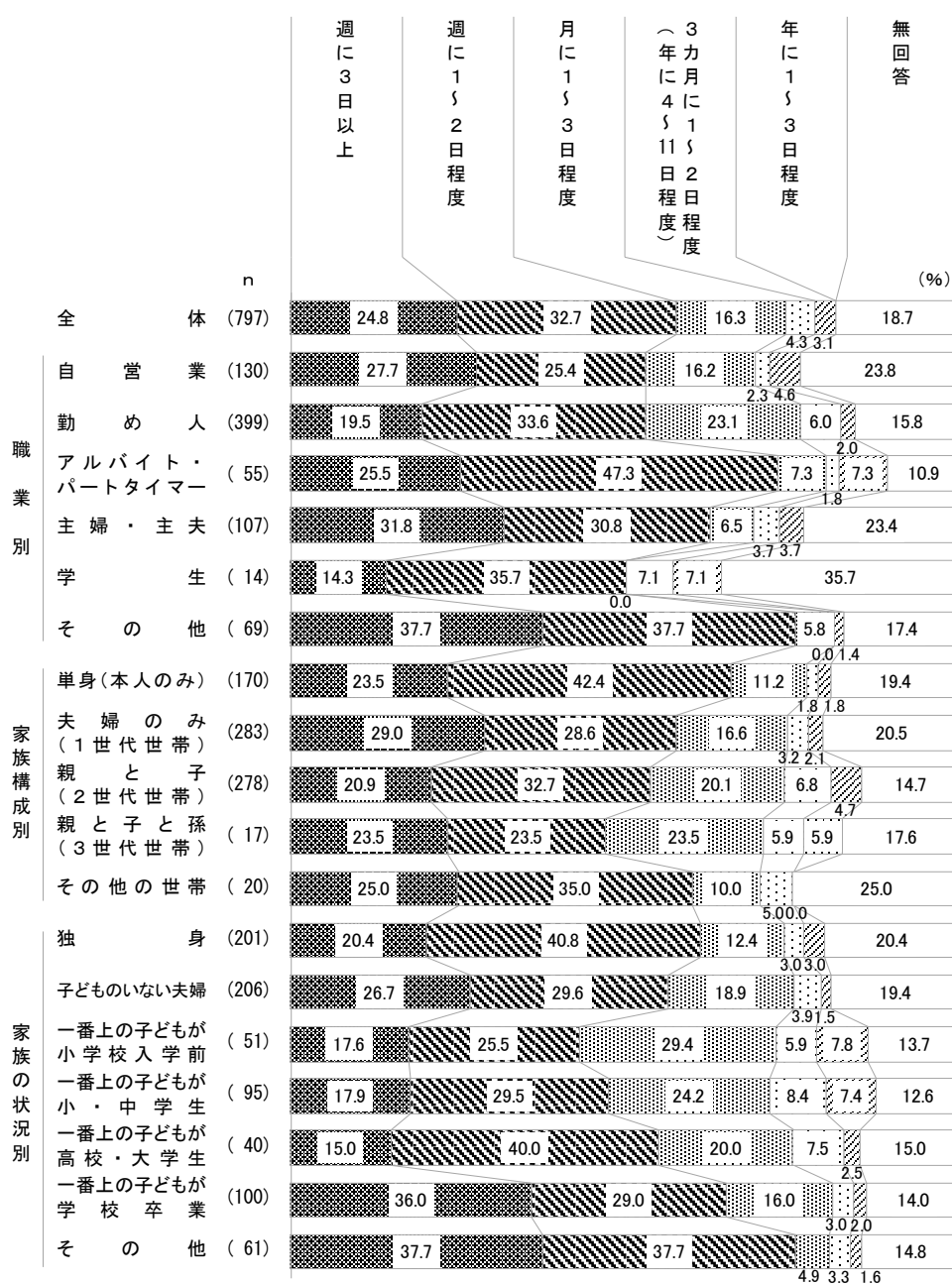


職業別でみると、「週に3日以上」は主婦・主夫で3割を超えて高くなっている。「週に1～2日程度」はアルバイト・パートタイマーで5割近くと高くなっている。

家族構成別でみると、「週に1～2日程度」は単身（本人のみ）で4割を超えてと高くなっている。

家族の状況別でみると、「週に3日以上」が一番上の子どもが学校卒業の家族で3割台半ばと高くなっている。「週に1～2日程度」は独身で約4割と高くなっている。（図表8－2－4）

図表8－2－4 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－職業別・家族構成別・家族の状況別



(3) 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所

◇「水辺や公園などの屋外空間」が約8割

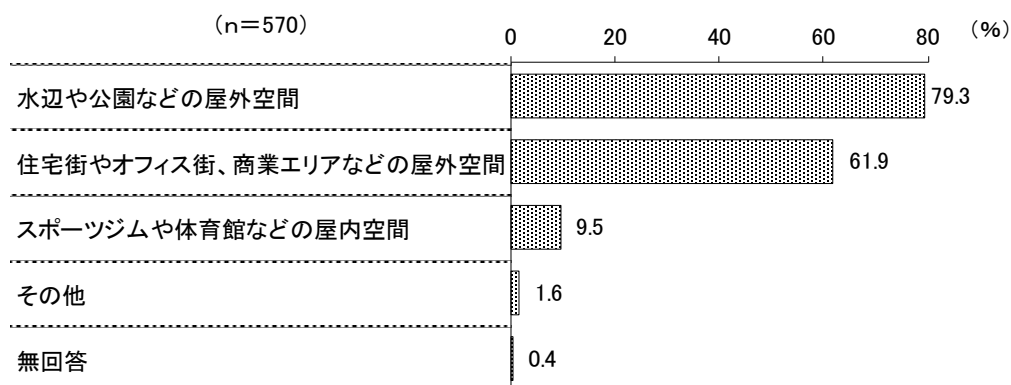
(問19で、「4 ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)」とお答えの方に)
問19-2 あなたは、この1年間に区内のどのような場所でウォーキングや散歩をしましたか。
(○はいくつでも)

n = 570

1 水辺や公園などの屋外空間	79.3%
2 住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間	61.9
3 スポーツジムや体育館などの屋内空間	9.5
4 その他	1.6
(無回答)	0.4

問19で、「ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)」をしたことがあると回答した方の、ウォーキングや散歩をした場所は「水辺や公園などの屋外空間」(79.3%)が約8割と最も高くなっている。次いで、「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」(61.9%)、「スポーツジムや体育館などの屋内空間」(9.5%)となっている。(図表8-3-1)

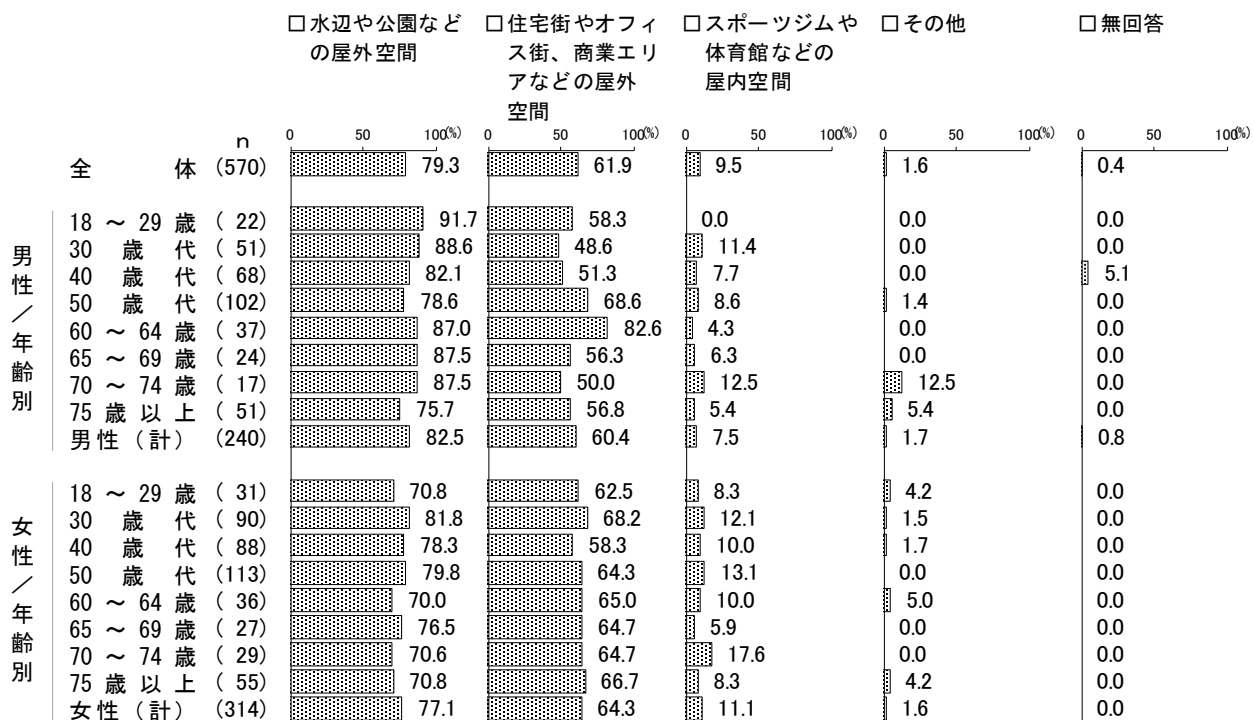
図表8-3-1 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所(複数回答)



性／年齢別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」は男性の18～29歳で9割を超えて高くなっている。「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」は男性の60～64歳で8割を超えて高くなっている。

(図表8-3-2)

図表8-3-2 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所－性／年齢別

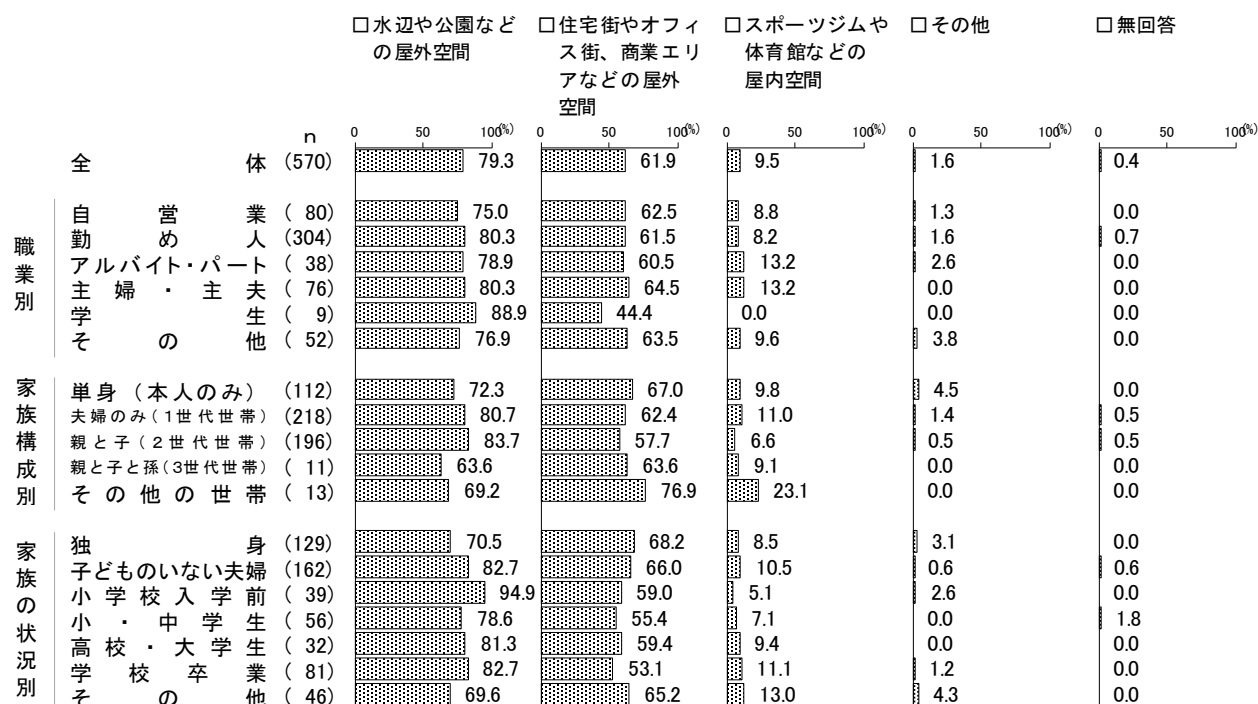


職業別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」は学生で9割近くと高くなっている。「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」は学生以外で6割台と高くなっている。

家族構成別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」は親と子（2世代世帯）で8割を超えて高くなっている。

家族の状況別でみると、「水辺や公園などの屋外空間」は小学校入学前の家族で9割台半ばと高くなっている。「住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間」は独身で7割近くと高くなっている。（図表8-3-3）

図表8-3-3 過去1年間にウォーキングや散歩をした場所－職業別・家族構成別・家族の状況別



【9 地域のコミュニティ活動】

(1) 5類感染症移行後のコミュニティ活動

◇「地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）」が約1割

問20 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後に、あなたが再開した、または新たに始めたコミュニティ活動は何ですか。（○は1つ）

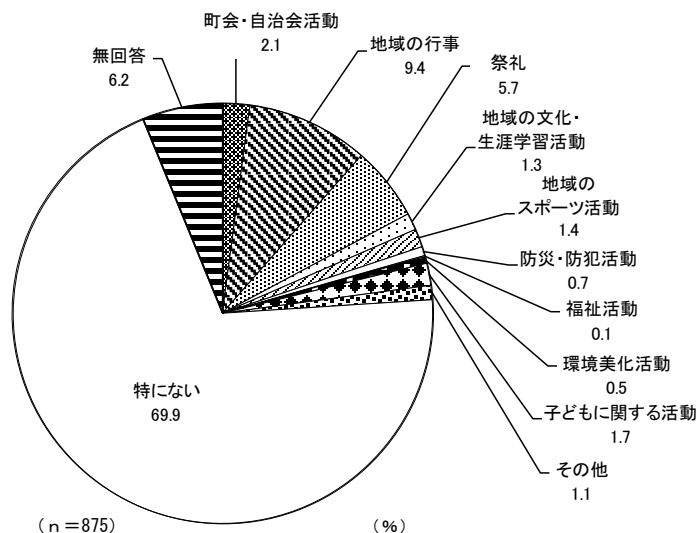
n = 875

1 町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など）	2.1%
2 地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）	9.4
3 祭礼（おみこし・山車への参加など）	5.7
4 地域の文化・生涯学習活動（伝統文化の普及啓発、団体での演奏など）	1.3
5 地域のスポーツ活動（体を動かす機会の提供、技術指導など）	1.4
6 防災・防犯活動（防災訓練、交通安全、地域の見回りなど）	0.7
7 福祉活動（子育ての手助け、高齢者の見守りへの協力など）	0.1
8 環境美化活動（まちかどクリーンデーへの参加、花壇・公園の清掃など）	0.5
9 子どもに関する活動（青少年対策地区委員会、PTA、読み聞かせなど）	1.7
10 その他	1.1
11 特にない	69.9
（無回答）	6.2

5類感染症移行後のコミュニティ活動は、「地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）」（9.4%）が約1割と最も高くなっている。次いで、「祭礼（おみこし・山車への参加など）」（5.7%）、「町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など）」（2.1%）、「子どもに関する活動（青少年対策地区委員会、PTA、読み聞かせなど）」（1.7%）などとなっている。一方、「特にない」（69.9%）は7割となっている。

（図表9-1-1）

図表9-1-1 5類感染症移行後のコミュニティ活動

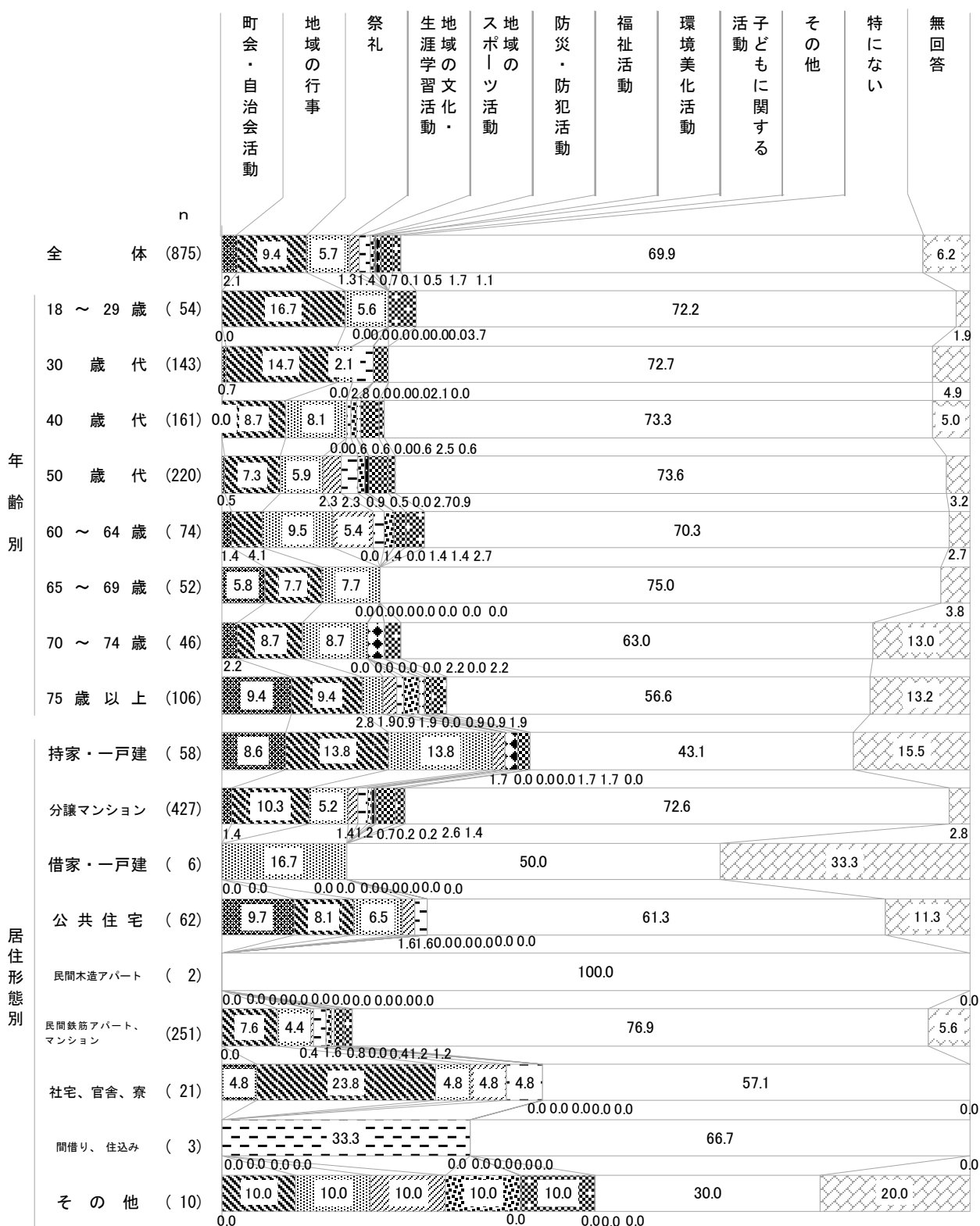


年齢別でみると、「特にない」は69歳以下の年代で7割台と高くなっている。

住居形態別でみると、「特にない」は民間鉄筋アパート、マンションで7割を超えて高くなっている。

(図表 9－1－2)

図表 9－1－2 5類感染症移行後のコミュニティ活動一年齢別・住居形態別



(2) コミュニティに求めるもの

◇「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」が3割超え

問21 新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行したことを踏まえ、あなたがコミュニティに求めるものは何ですか。(〇はいくつでも)

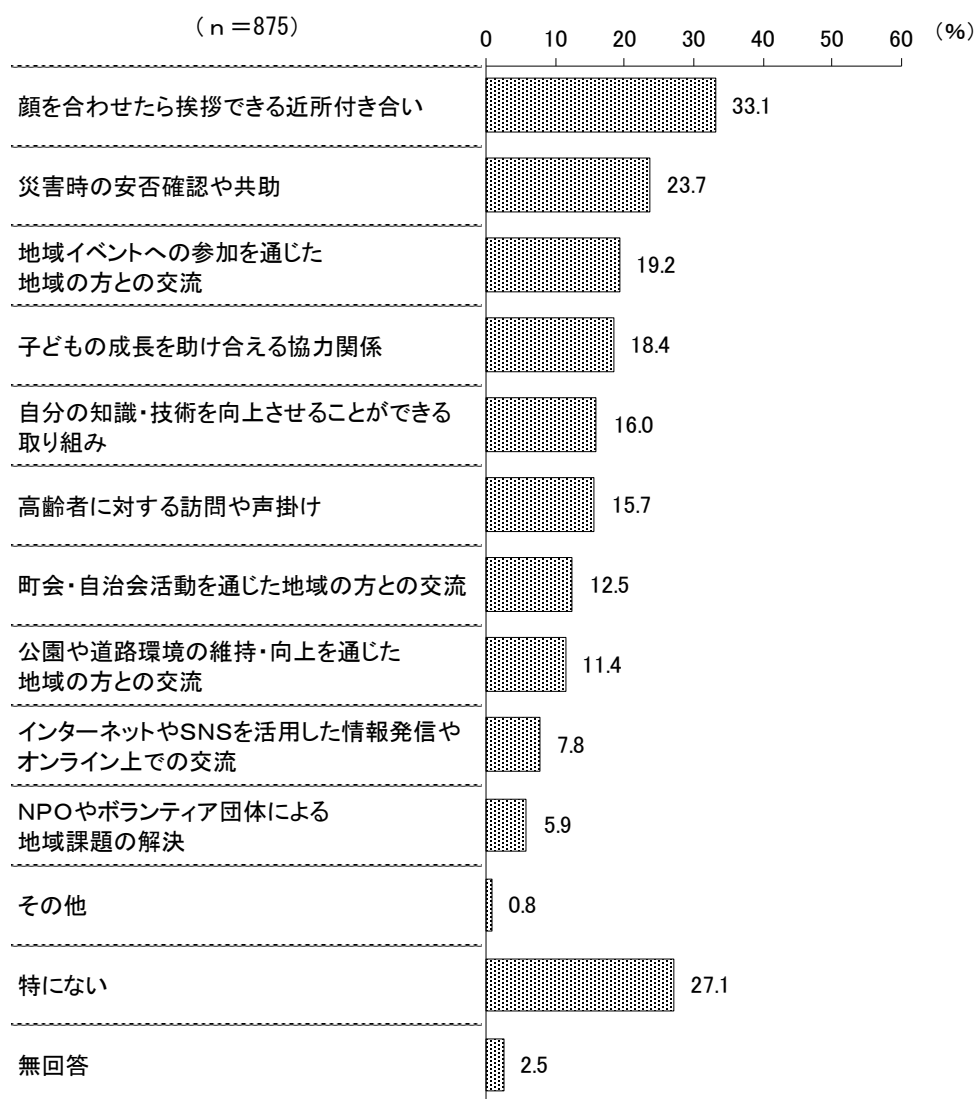
n = 875

1	顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い	33.1%
2	地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流	19.2
3	町会・自治会活動を通じた地域の方との交流	12.5
4	NPOやボランティア団体による地域課題の解決	5.9
5	インターネットやSNSを活用した情報発信やオンライン上での交流	7.8
6	自分の知識・技術を向上させることができる取り組み	16.0
7	災害時の安否確認や共助	23.7
8	高齢者に対する訪問や声掛け	15.7
9	公園や道路環境の維持・向上を通じた地域の方との交流	11.4
10	子どもの成長を助け合える協力関係	18.4
11	その他	0.8
12	特にない	27.1
	(無回答)	2.5

※ NPO Non-Profit OrganizationまたはNot-for-Profit Organizationの略称で、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。

コミュニティに求めるものは、「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」(33.1%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「災害時の安否確認や共助」(23.7%)、「地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流」(19.2%)、「子どもの成長を助け合える協力関係」(18.4%)などとなっている。(図表9-2-1)

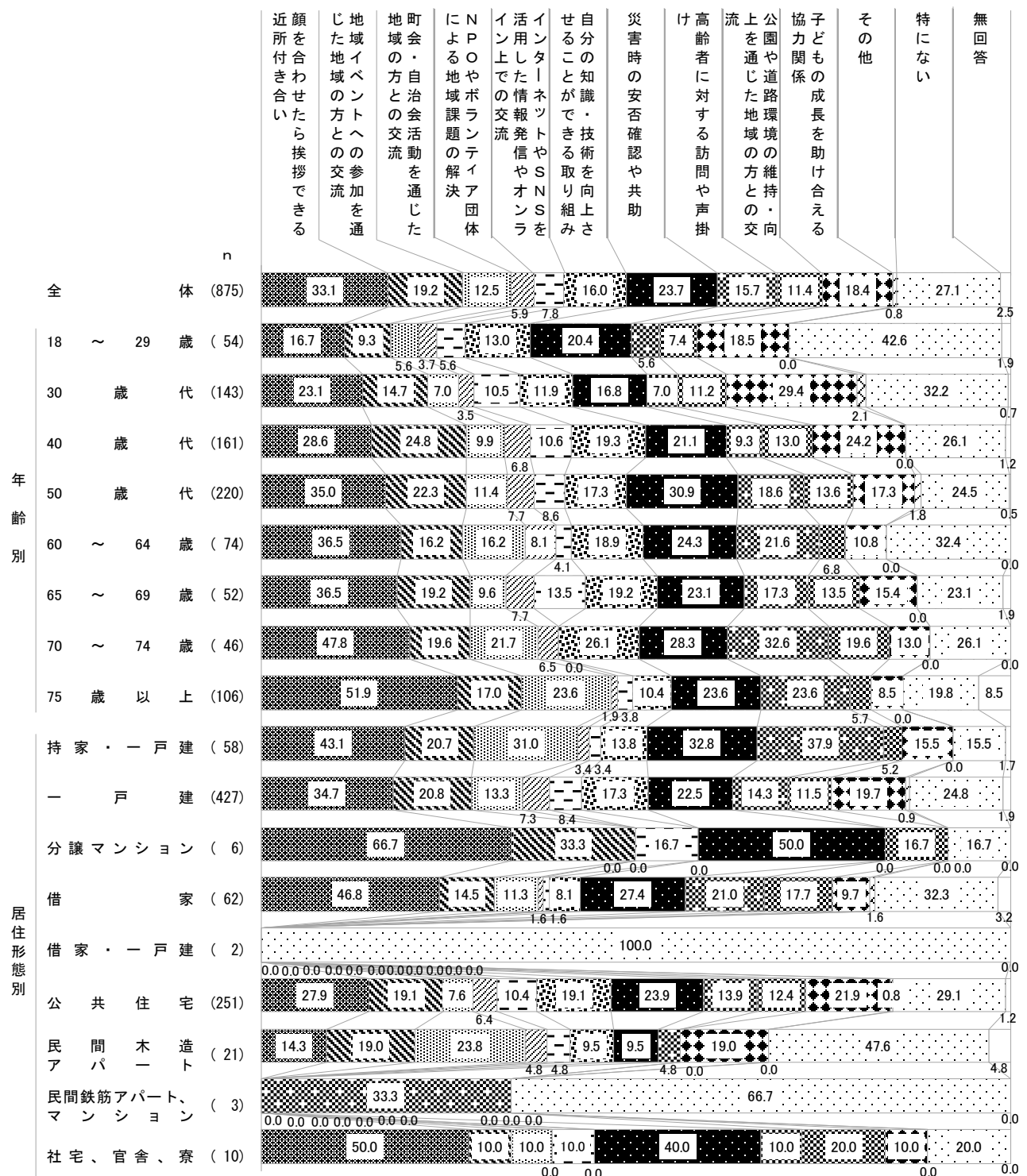
図表 9-2-1 コミュニティに求めるもの



年齢別でみると、「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」は75歳以上で5割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」は借家・一戸建で7割近くと高くなっている。(図表9-2-2)

図表9-2-2 コミュニティに求めるもの一年齢別・住居形態別



【10 築地魚河岸】

(※) 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

(1) 「築地魚河岸」への来場経験

◇『来場経験あり』が6割超え

問22 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

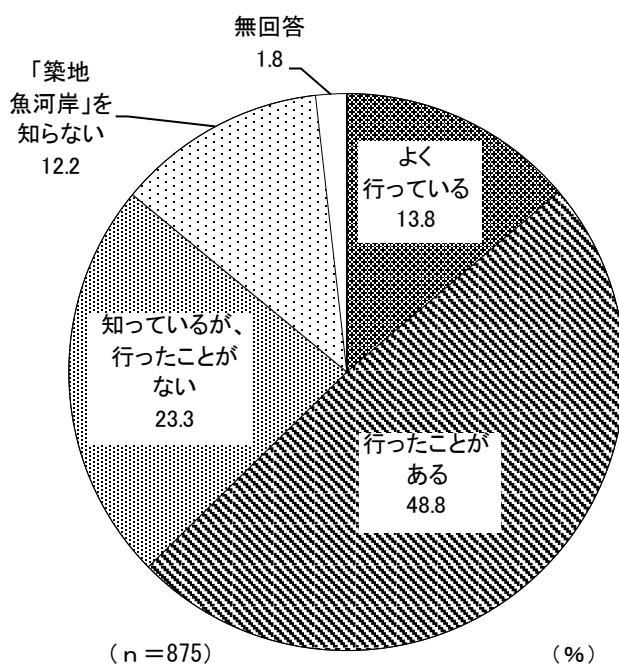
n = 875

1 よく行っている	13.8%	3 知っているが、行ったことがない	23.3
2 行ったことがある	48.8	4 「築地魚河岸」を知らない	12.2
		(無回答)	1.8

「築地魚河岸」への来場経験は、「よく行っている」(13.8%)と「行ったことがある」(48.8%)を合わせた『来場経験あり』(62.6%)が6割超えとなっている。

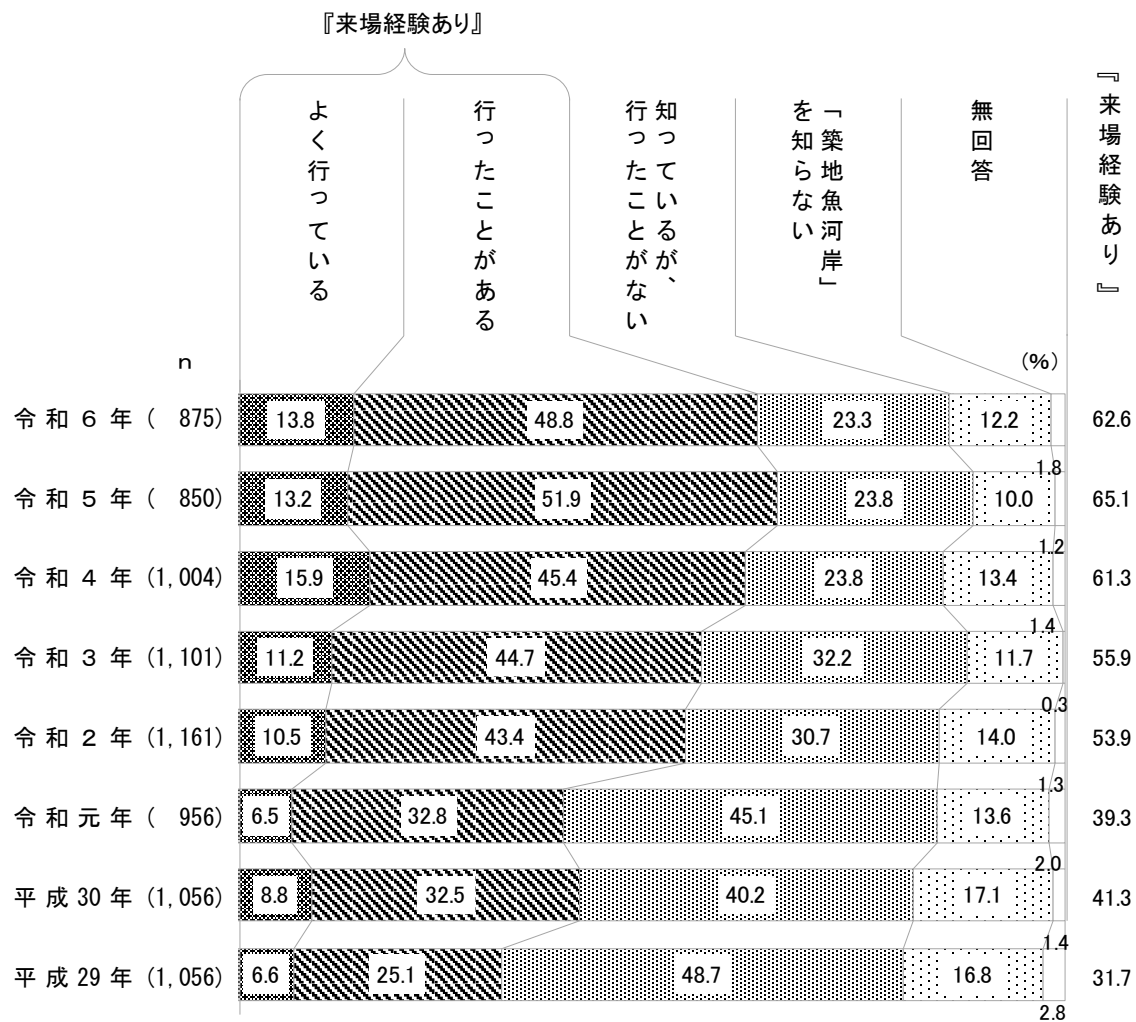
一方、「知っているが、行ったことがない」(23.3%)は2割超え、「『築地魚河岸』を知らない」(12.2%)は1割超えとなっている。(図表10-1-1)

図表10-1-1 「築地魚河岸」への来場経験



過去の調査結果と比較すると、『来場経験あり』は令和5年と比べて2.5ポイント減少している。
(図表10－1－2)

図表10－1－2 「築地魚河岸」への来場経験一過年度比較

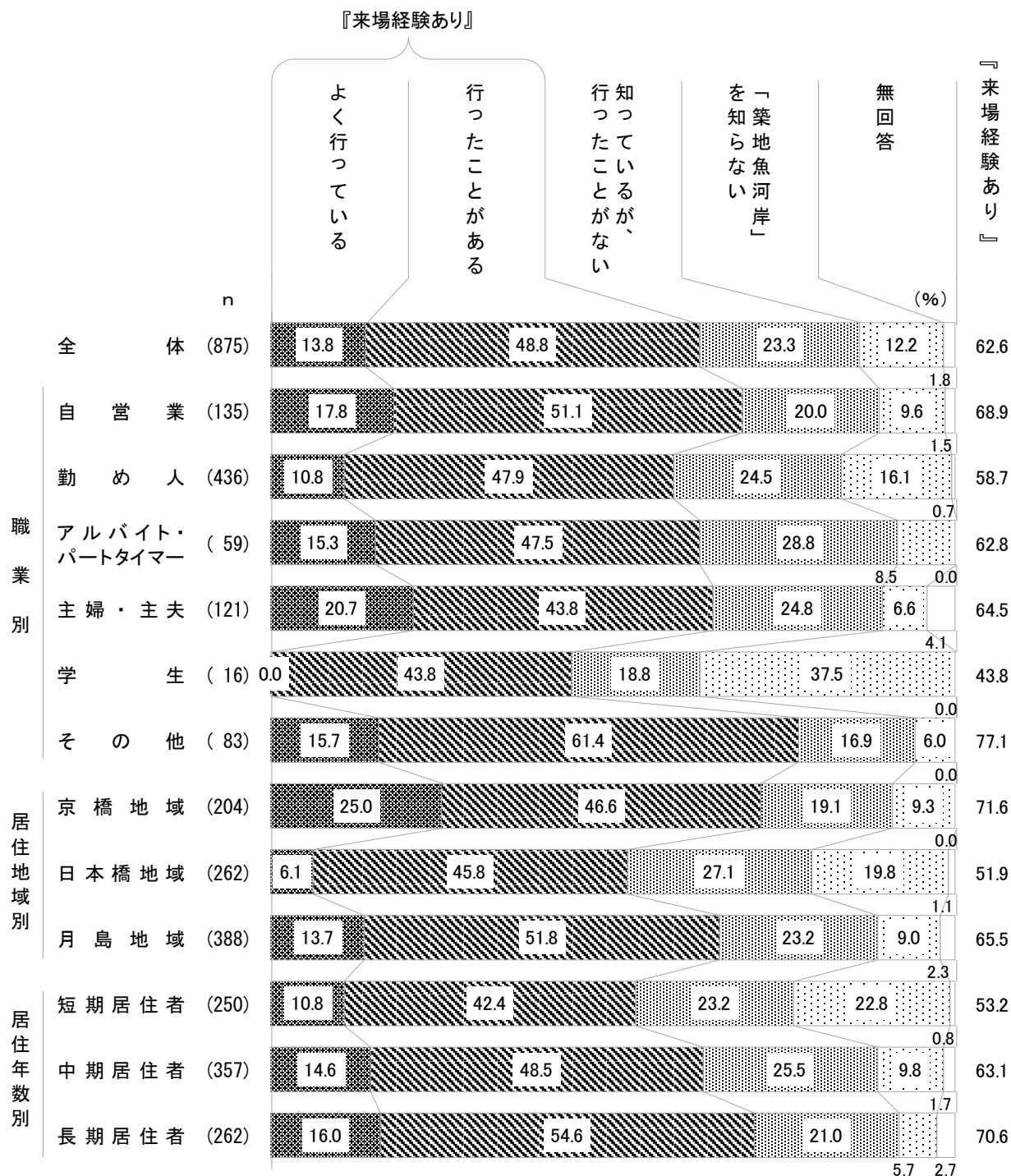


職業別でみると、『来場経験あり』は自営業（家族従業を含む）で7割近くと高くなっている。一方、『『築地魚河岸』を知らない』は学生で4割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、『来場経験あり』は京橋地域で7割を超えて高くなっている。一方、『『築地魚河岸』を知らない』は日本橋地域で2割と高くなっている。

居住年数別でみると、『来場経験あり』は長期居住者で約7割と高くなっている。一方、『『築地魚河岸』を知らない』は短期居住者で2割を超えて高くなっている。（図表10－1－3）

図表10－1－3 「築地魚河岸」への来場経験－職業別・居住地域別・居住年数別



(2)「築地魚河岸」の利用目的

◇「1階の店舗で買い物をするため」が7割近く

(問22で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

問22-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

n = 548

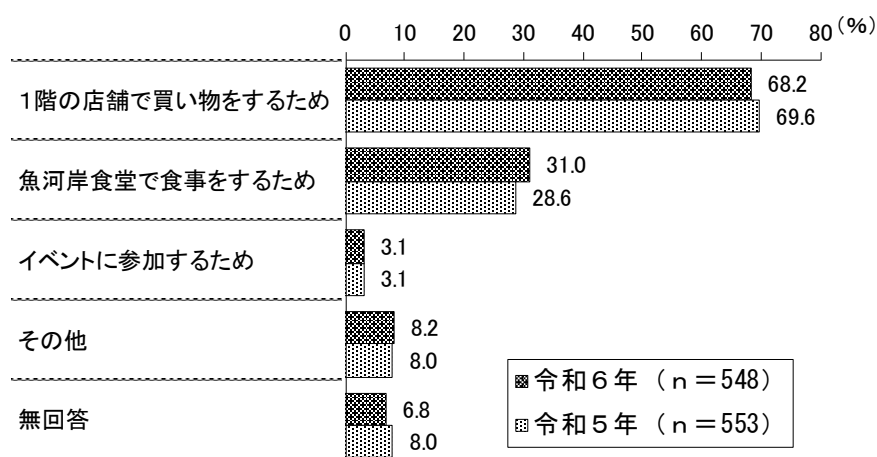
1	1階の店舗で買い物をするため	68.2%	3	イベントに参加するため	3.1
2	魚河岸食堂で食事をするため	31.0	4	その他	8.2
				(無回答)	6.8

問22で、「よく行っている」または「行ったことがある」と回答した方の、「築地魚河岸」への来場目的は、「1階の店舗で買い物をするため」(68.2%)が7割近くで最も高くなっている。次いで、「魚河岸食堂で食事をするため」(31.0%)、「イベントに参加するため」(3.1%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「魚河岸食堂で食事をするため」は2.4ポイント増加している。

(図表10-2-1)

図表10-2-1 「築地魚河岸」への来場目的(複数回答)



(3)「築地魚河岸」に対する印象やイメージ

◇＜1階の店舗について＞では、「新鮮なものが買える」が4割台半ば

◇＜魚河岸食堂について＞では、「混雑している（イメージがある）」が4割超え

◇＜その他＞では、「いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない」が3割台半ば

（問22で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に）

問22－2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。（○はいくつでも）

n = 752

＜1階の店舗について＞

1	プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる	24.1%
2	新鮮なものが買える	44.5
3	スーパーでは買えないような珍しいものが買える	28.6
4	同じようなものを扱う店が多く、どこで買っていいかわからない	16.2
5	近くのスーパーなどとの違いを感じない	4.5
6	一般の人でも気軽に利用できる施設であることを知らない	5.2
7	混雑している（イメージがある）	41.4

＜魚河岸食堂について＞

1	おいしい料理が食べられる	29.8
2	食堂があることを知らない	5.5
3	混雑している（イメージがある）	41.9

＜その他＞

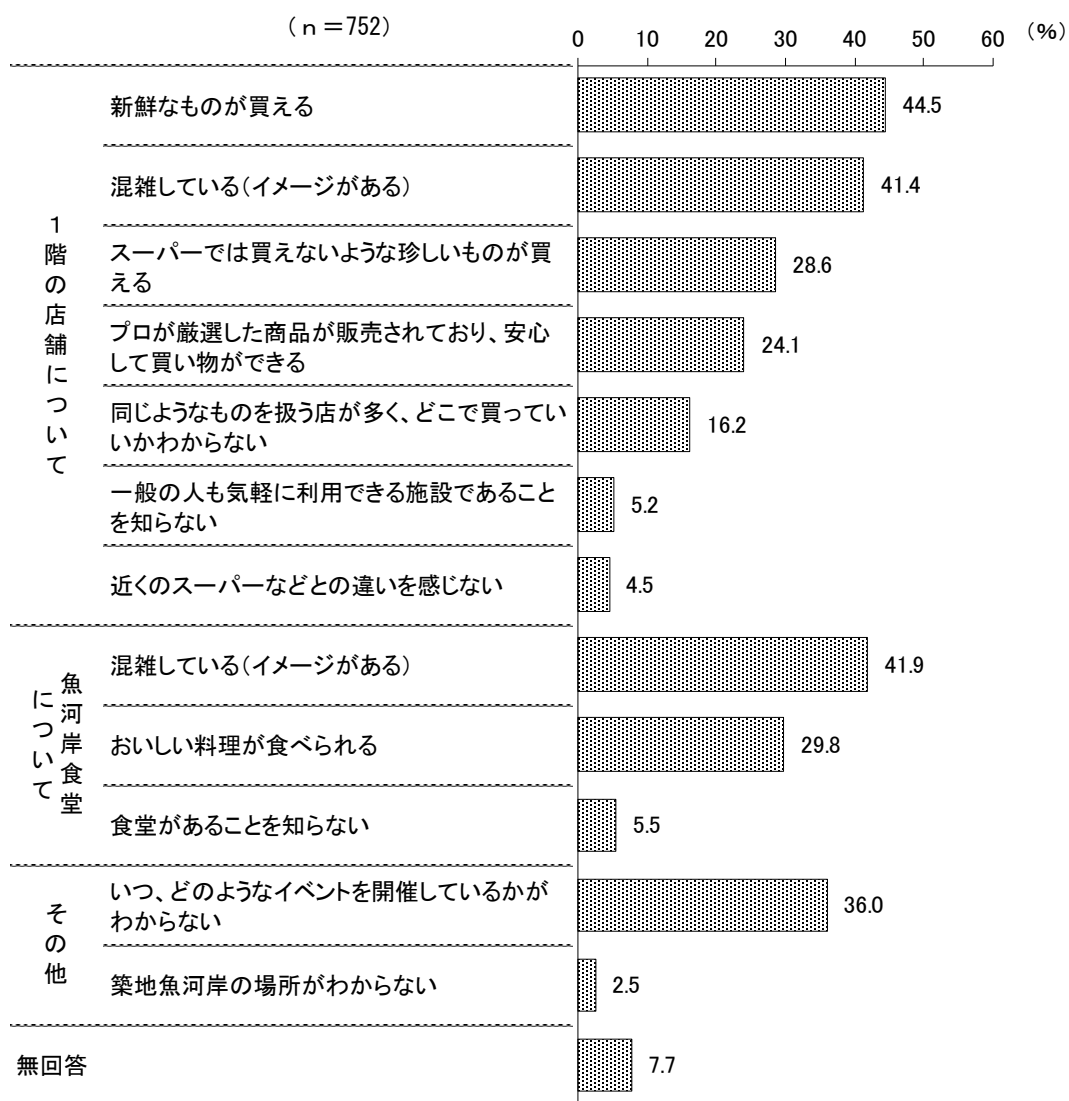
1	いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない	36.0
2	築地魚河岸の場所がわからない	2.5
	（無回答）	7.7

問22で、「よく行っている」「行ったことがある」「知っているが、行ったことがない」と回答した方の、「築地魚河岸」に対する印象やイメージは、＜1階の店舗について＞では、「新鮮なものが買える」（44.5%）が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「スーパーでは買えないような珍しいものが買える」、（28.6%）、「プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる」（24.1%）などとなっている。

＜魚河岸食堂について＞では、「混雑している（イメージがある）」（41.9%）が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「おいしい料理が食べられる」（29.8%）、「食堂があることを知らない」（5.5%）となっている。

＜その他＞では、「いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない」（36.0%）が3割台半ばで、「築地魚河岸の場所がわからない」（2.5%）は1割に満たない。（図表10－3－1）

図表10-3-1 「築地魚河岸」に対する印象やイメージ（複数回答）



【11 受動喫煙防止対策】

(1) 「中央区たばこルール」の認知度

◇「『中央区たばこルール』の内容も知っている」が2割超え

問23 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。
あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」※を知っていますか。(○は1つだけ)

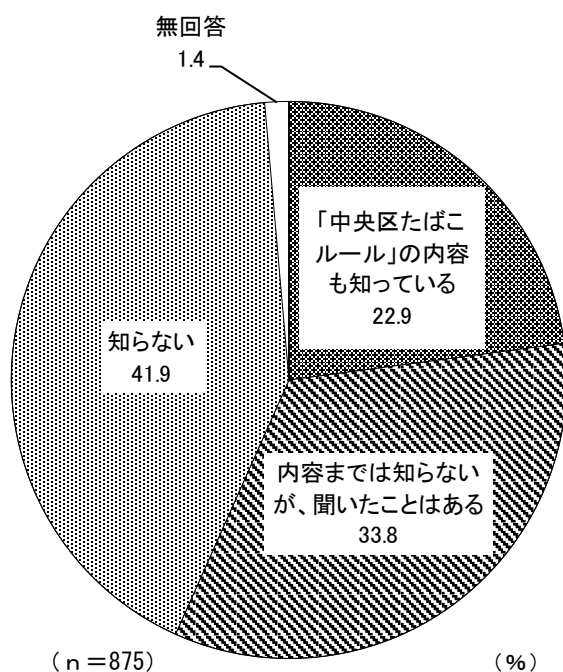
n = 875

1 「中央区たばこルール」の内容も知っている	22.9%
2 内容までは知らないが、聞いたことはある	33.8
3 知らない	41.9
(無回答)	1.4

(※) 中央区たばこルール 公共の場所(区内全域の道路、公園、広場)での受動喫煙を防止するため、「喫煙者が守るべきルール」および「灰皿を設置する事業者が守るべきルール」を設けました。ルールには加熱式たばこも含まれます。

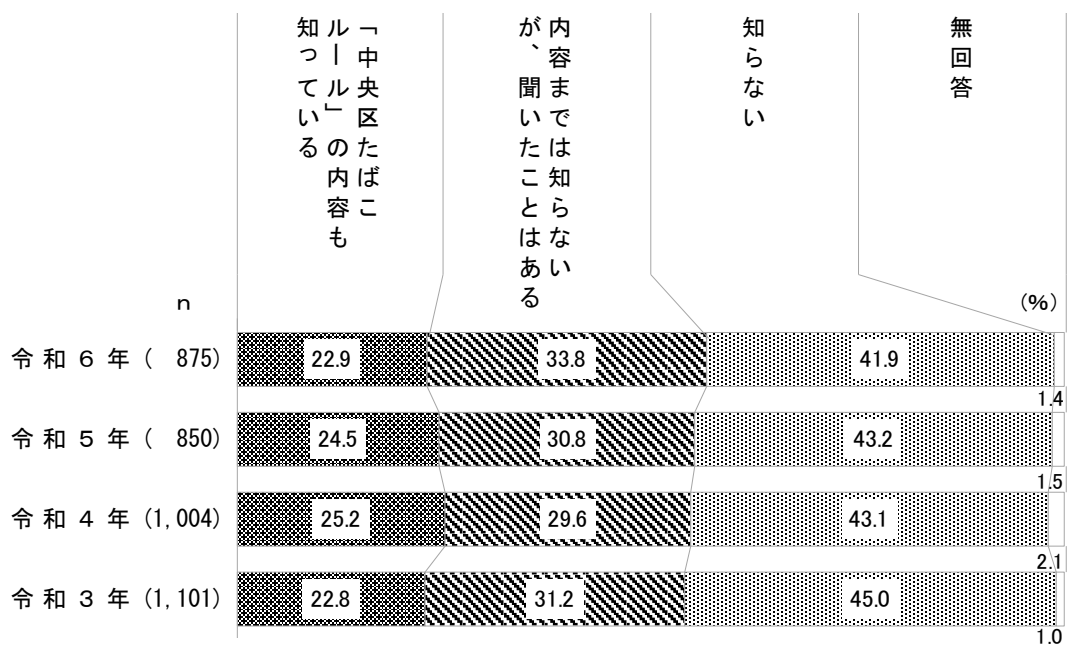
「中央区たばこルール」の認知度は、「『中央区たばこルール』の内容も知っている」(22.9%)が2割超えとなっている。「内容までは知らないが、聞いたことはある」(33.8%)は3割を超え、「知らない」(41.9%)は4割を超えている。(図表11-1-1)

図表11-1-1 「中央区たばこルール」の認知度



昨年の調査結果と比較すると、「内容までは知らないが、聞いたことはある」は3.0ポイント高くなっている。(図表11－1－2)

図表11－1－2 「中央区たばこルール」の認知度－過年度比較

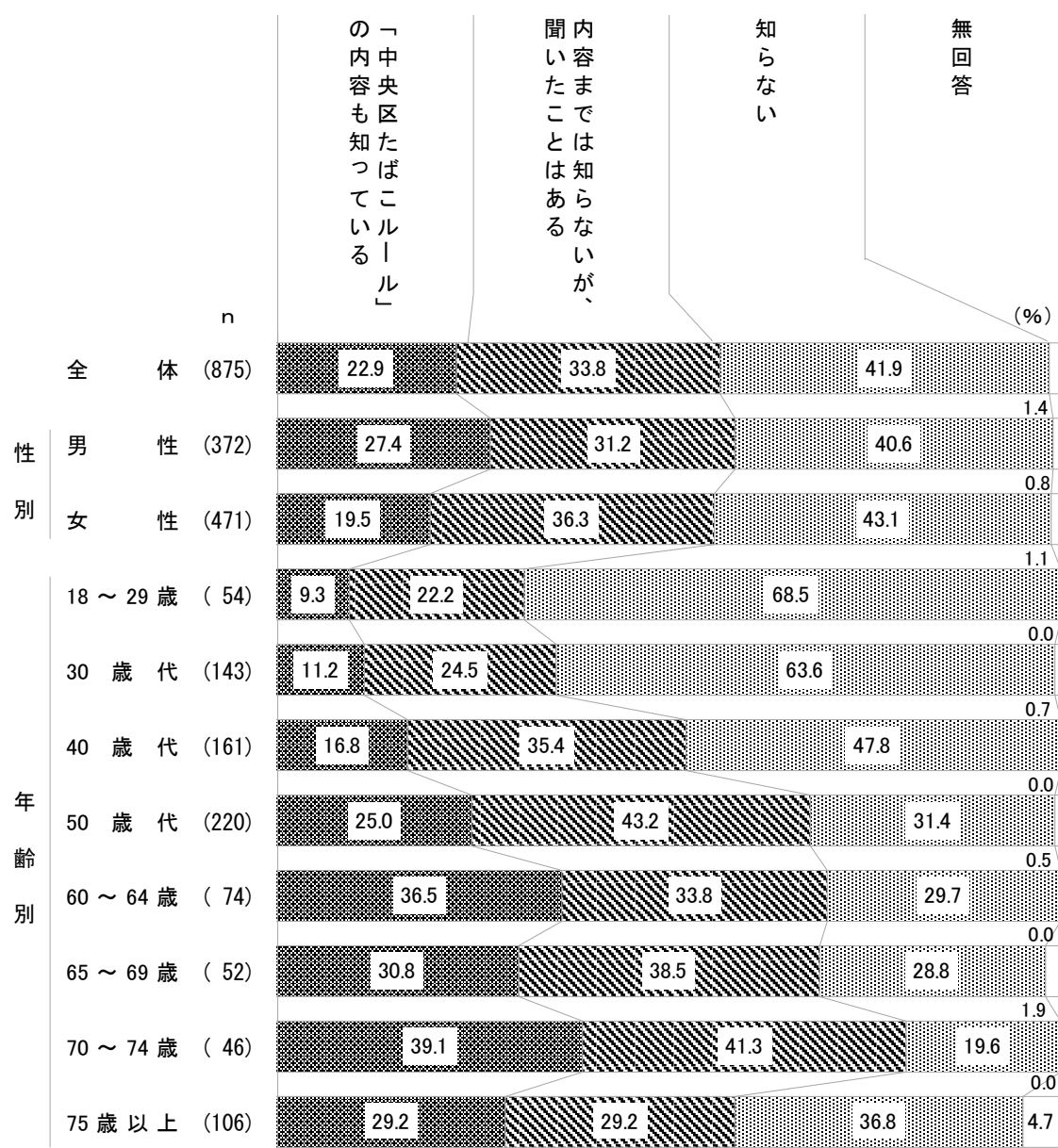


* 「内容までは知らないが、聞いたことはある」の選択肢は、令和5年以前は「聞いたことはあるが、内容は知らない」としていた。

性別でみると、男性の方が女性よりも『中央区たばこルール』の内容も知っている」で7.9ポイント高く、女性の方が男性よりも「知らない」で2.5ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「内容までは知らないが、聞いたことはある」で5.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『中央区たばこルール』の内容も知っている」は70～74歳で約4割と高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳で7割近く、30歳代も6割越えと高くなっている。(図表11－1－3)

図表11－1－3 「中央区たばこルール」の認知度－性別・年齢別



【12 デジタル技術を活用した区民サービス】

(1) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス

◇「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」が約6割

問24 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。(〇はいくつでも)

n = 875

1	窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大	35.8%
2	オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大	33.6
3	区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届出手続きの拡大	60.8
4	マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大	33.1
5	スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実	26.9
6	チャットボット*を活用した自動応答サービスの拡大	6.6
7	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	15.8
8	デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善※	19.8
9	オンライン対応可能な相談事業の拡大	11.1
10	区が開催する講座や説明会などのオンライン配信	12.2
11	区が保有するデータのオープンデータ化	11.2
12	パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術を十分に活用できない方への支援の充実	21.0
13	その他	2.7
14	特にない	10.2
	(無回答)	2.6

(※) チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

(※) デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善

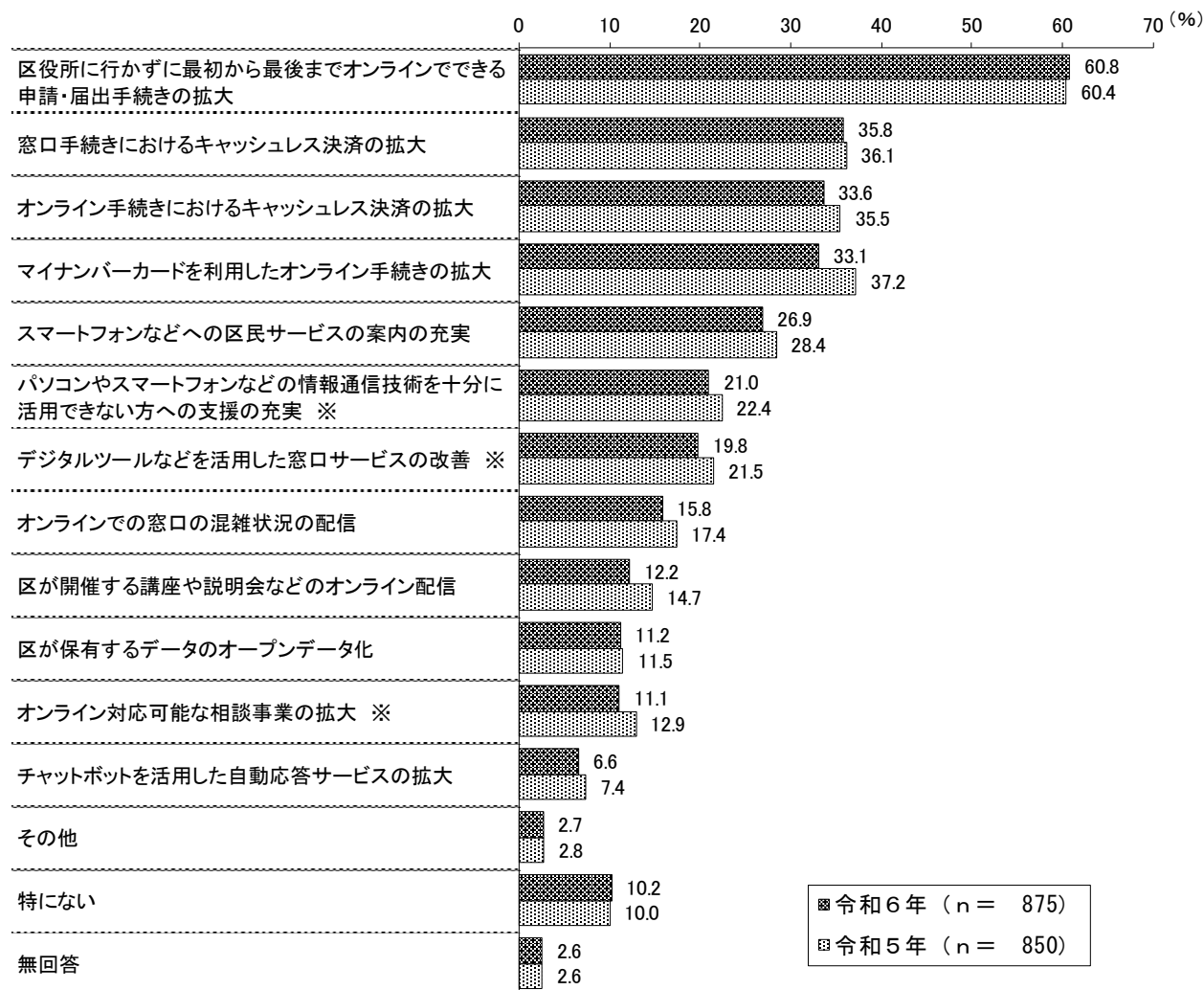
「区役所に行く前にインターネットで自分に必要な手続き、持ち物などの案内を受けられる」「窓口・相談予約ができる」「複数の申請書に何度も同じことを記入しなくてよい」などデジタルツールを活用し、区役所の窓口サービスの利便性を向上する取り組みです。

区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービスは、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」(60.8%)が約6割で最も高くなっている。次いで、「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」(35.8%)、「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」(33.6%)、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大」(33.1%)、「スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実」(26.9%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大」は4.1ポイント、「区が開催する講座や説明会等のオンライン配信」は2.5ポイント減少している。

(図表12-1-1)

図表12-1-1 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス（複数回答）



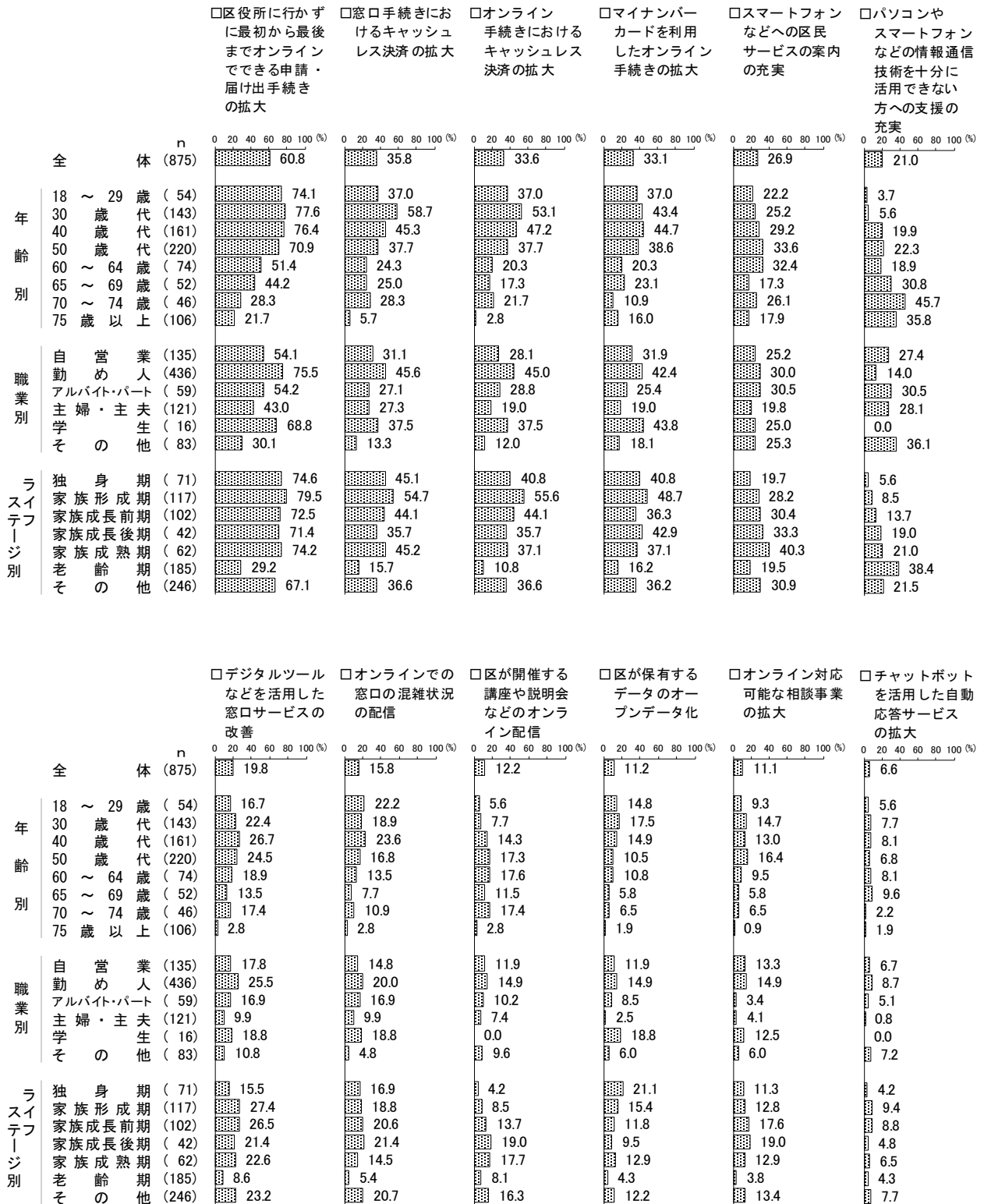
※「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」の選択肢は、令和5年では「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の導入」としていた。

年齢別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」は30歳代で8割近くと高くなっている。「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」は30歳で6割近くと高くなっている。

職業別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」は勤め人で7割台半ばと高くなっている。「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」は勤め人で4割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届け出手続きの拡大」は家族形成期で8割と高くなっている。「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大」は家族形成期で5割台半ばと高くなっている。(図表 12-1-2)

図表12－１－２ 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス
－年齢別・職業別・ライフステージ別（上位12項目）



【13 広報】

(1) 広報紙の閲覧状況

◇「読んだことがある」が7割台半ば

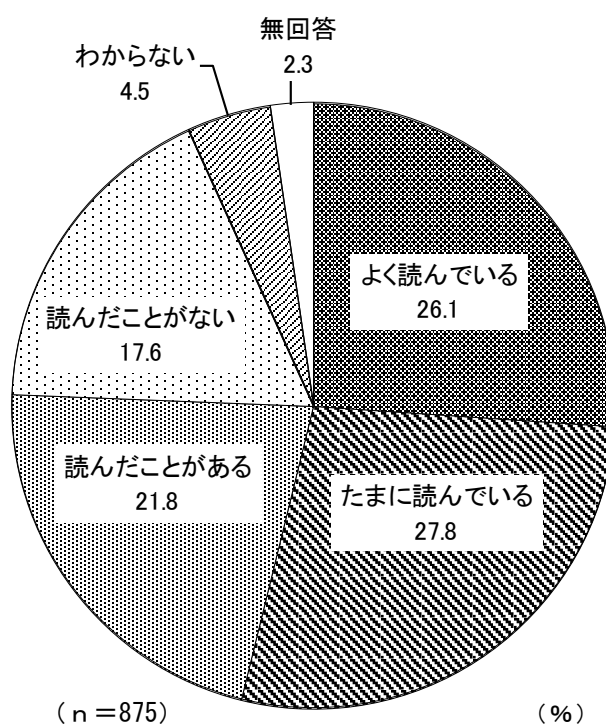
問25 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」は月3回発行しています。あなたは広報紙を読んだことがありますか。(○は1つだけ)

n = 875

1 よく読んでいる	26.1%
2 たまに読んでいる	27.8
3 読んだことがある	21.8
4 読んだことがない	17.6
5 わからない	4.5
(無回答)	2.3

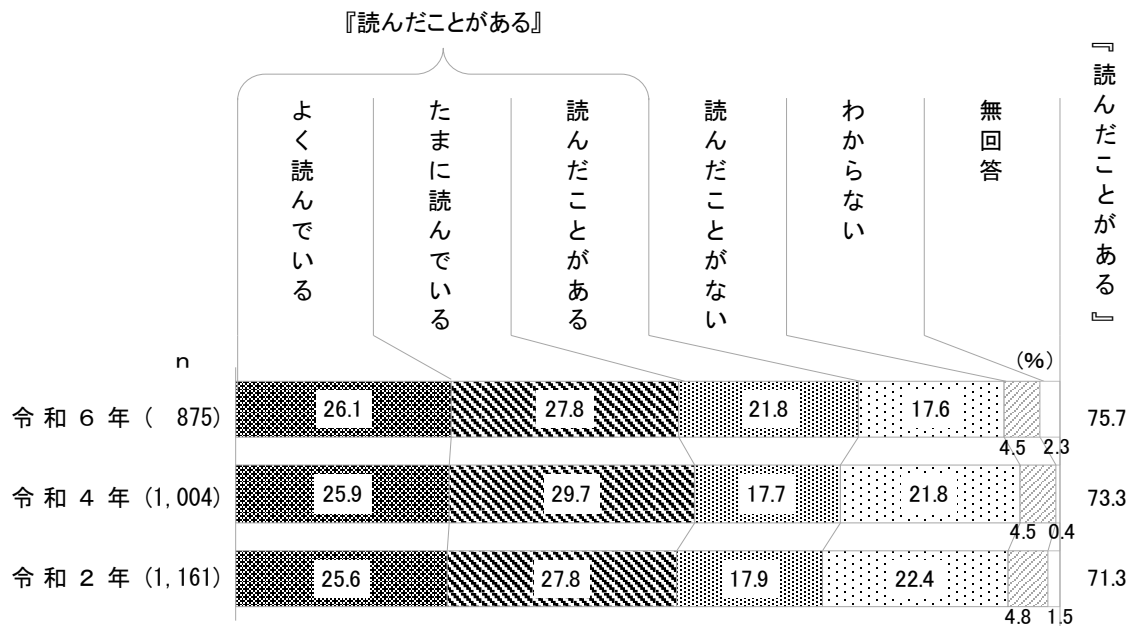
広報紙を読んだ経験は、「よく読んでいる」(26.1%)と「たまに読んでいる」(27.8%)、「読んだことがある」(21.8%)の3つを合わせた『読んだことがある』(75.7%)が7割台半ばとなっている。一方、「読んだことがない」(17.6%)は2割近くとなっている。(図表13-1-1)

図表13-1-1 広報紙の閲覧状況



令和4年の調査結果と比較すると、「よく読んでいる」、「たまに読んでいる」、「読んだことがある」を合わせた『読んだことがある』は2.4ポイント増加している。(図表13-1-2)

図表13-1-2 広報紙の閲覧状況一過年度比較



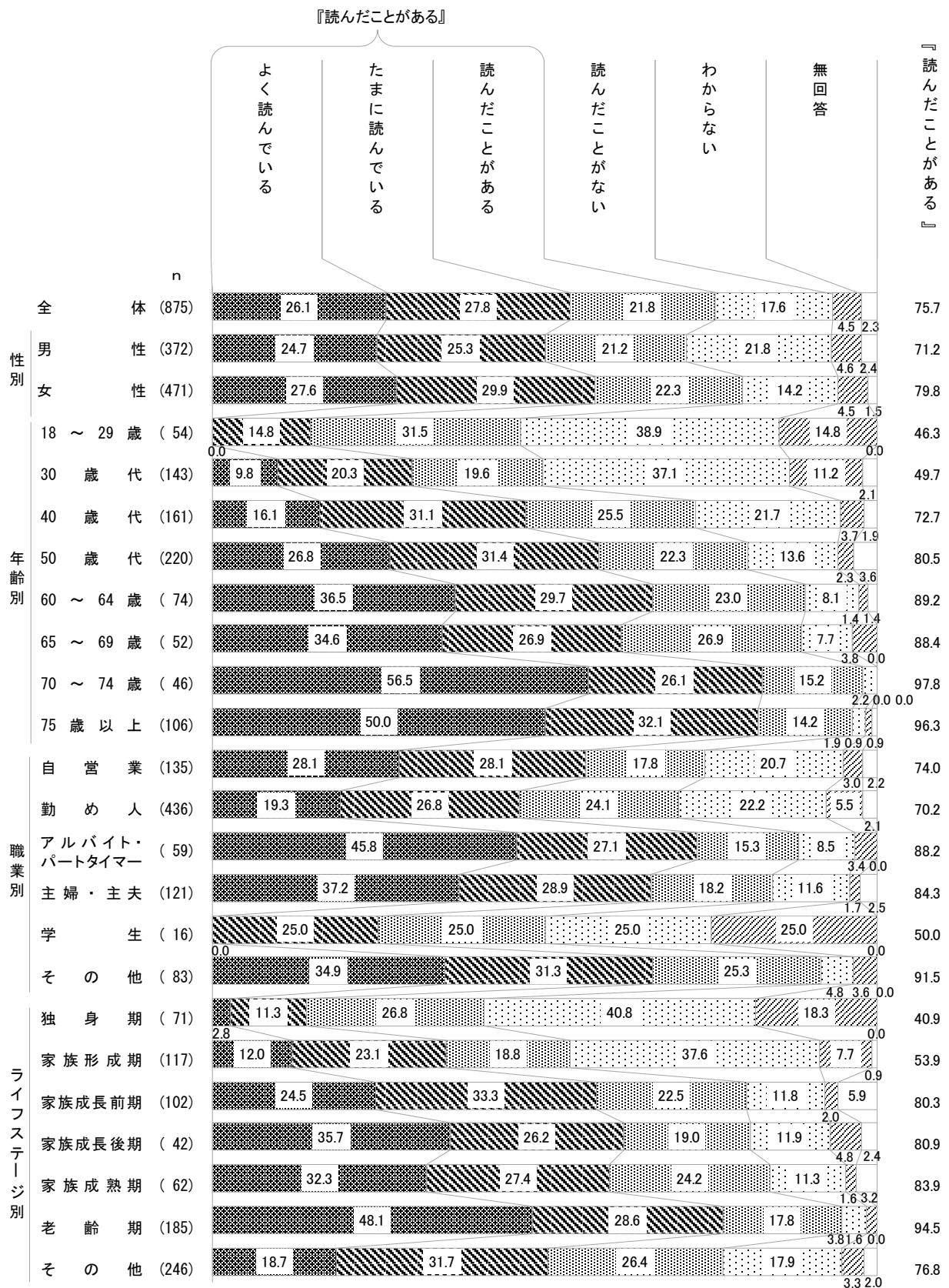
性別でみると、『読んだことがある』は女性の方が男性よりも8.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『読んだことがある』は70～74歳で10割近く、75歳以上で9割台半ばと高くなっている。一方、「読んだことがない」は18～29歳、30歳代で4割近くと高くなっている。

職業別でみると、『読んだことがある』はその他で9割を超え、アルバイト・パートタイマーは9割近く、主婦・主夫は8割台半ばと高くなっている。一方、「読んだことがない」は勤め人で2割を超え、自営業は約2割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、『読んだことがある』は高齢期で9割台半ばと高くなっている。一方、「読んだことがない」は独身期で約4割と高くなっている。(図表13-1-3)

図表13-1-3 広報紙の閲覧状況－性別・年齢別、職業別、ライフステージ別



(2) 区政情報を得る手段

◇「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含みます）」が6割近く

問26 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。
(○はいくつでも)

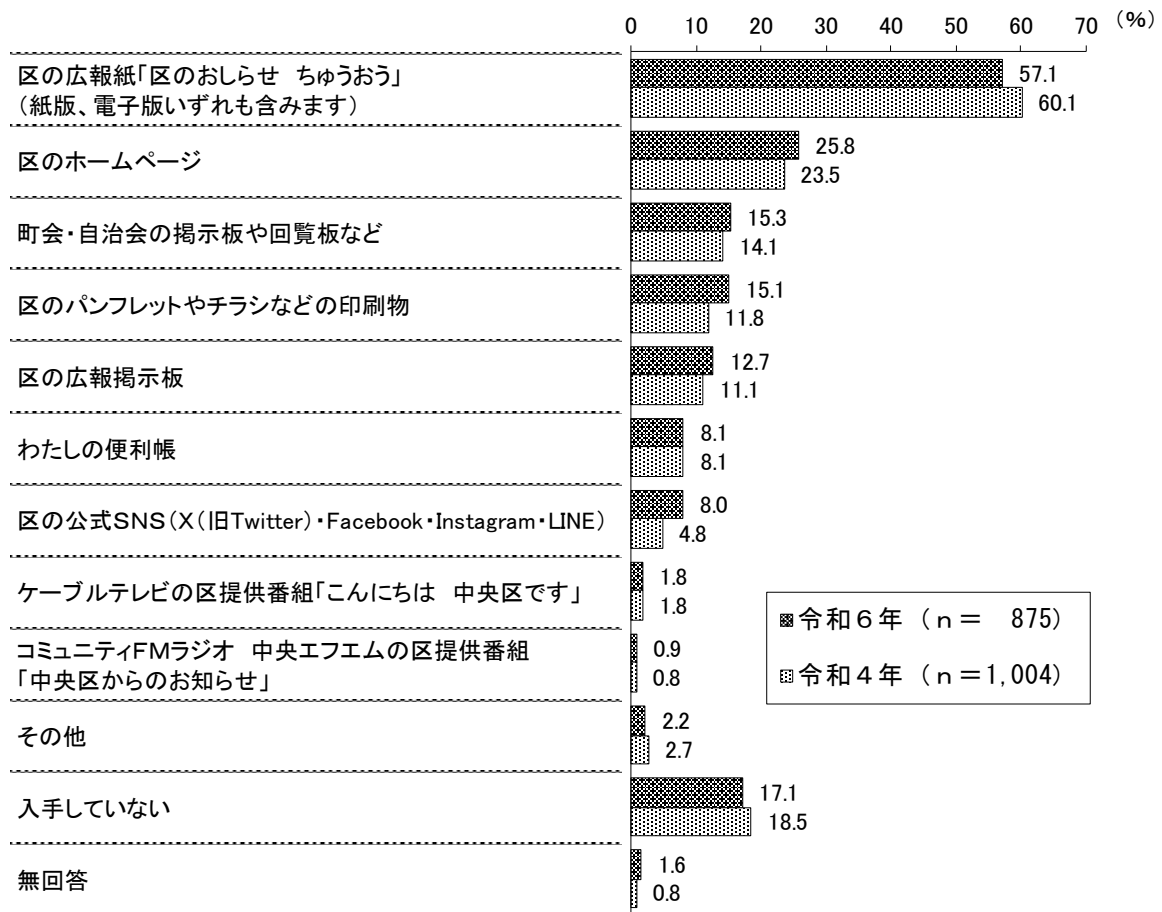
n = 875

1	区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」（紙版、電子版いずれも含みます）	57.1%
2	わたしの便利帳	8.1
3	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	15.1
4	区のホームページ	25.8
5	区の広報掲示板	12.7
6	町会・自治会の掲示板や回覧板など	15.3
7	ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」	1.8
8	コミュニティFMラジオ 中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」	0.9
9	区の公式SNS（X（旧Twitter）・Facebook・Instagram・LINE）	8.0
10	その他	2.2
11	入手していない	17.1
	(無回答)	1.6

区政情報を得る手段は、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含みます）」(57.1%) が6割近くで最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(25.8%)、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」(15.3%)、「区のパンフレットやチラシなどの印刷物」(15.1%) などとなっている。一方、「入手していない」(17.1%) は2割近くとなっている。

令和4年の調査結果と比較すると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含みます）」は 3.0 ポイント減少している。（図表 13－2－1）

図表13－2－1 区政情報を得る手段（複数回答）



※ 「区の公式SNS (X (旧Twitter)・Facebook・Instagram・LINE)」の選択肢は、令和4年では「区の公式SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン)」としていた。

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」と「区のホームページ」が平成 26 年以降引き続き上位 2 項目となっている。(図表 13-2-2)

図表 13-2-2 区政情報を得る手段一過年度比較

調 査 年	n	区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」 (紙版、電子版いずれも含まれます)	区のホームページ	町会・自治会の掲示板や回覧板など	区のパフレットやチラシなどの印刷物	区の広報掲示板	わたしの便利帳	区の公式 SNS (X (旧 Twitter)・Facebook・Instagram・LINE)	「これにテレビの提供番組は、中央区です」	区提供番組「中央区からのお知らせ」	その他	入手していない	無回答	(%) スマートフォン用アプリ「中央区版マイ広報紙」
令和 6 年	875	57.1	25.8	15.3	15.1	12.7	8.1	8.0	1.8	0.9	2.2	17.1	1.6	※
令和 4 年	1,004	60.1	23.5	14.1	11.8	11.1	8.1	4.8	1.8	0.8	2.7	18.5	0.8	※
令和 2 年	1,161	58.9	27.2	15.8	14.0	10.2	7.7	4.3	1.6	0.4	2.0	18.4	2.3	※
平成 30 年	1,056	70.2	27.2	16.6	21.9	9.7	10.3	2.0	2.7	1.3	2.5	※	7.2	1.9
平成 28 年	1,036	72.3	25.4	18.1	20.1	10.2	12.8	1.9	1.9	1.1	1.4	※	7.2	※
平成 26 年	1,041	75.0	28.0	19.1	20.2	10.3	18.7	※	4.1	1.2	1.5	※	5.8	※

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』(紙版、電子版いずれも含まれます)」の選択肢は、平成 30 年以前では「区」の広報紙「区のおしらせ 中央」としていた。

* 「区の公式 SNS (X (旧 Twitter)・Facebook・Instagram・LINE)」の選択肢は、令和 4 年では「区の公式 SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン)」、令和 2 年・平成 30 年では「区の公式 SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)」、平成 28 年では「区のツイッターやフェイスブック」としていた。

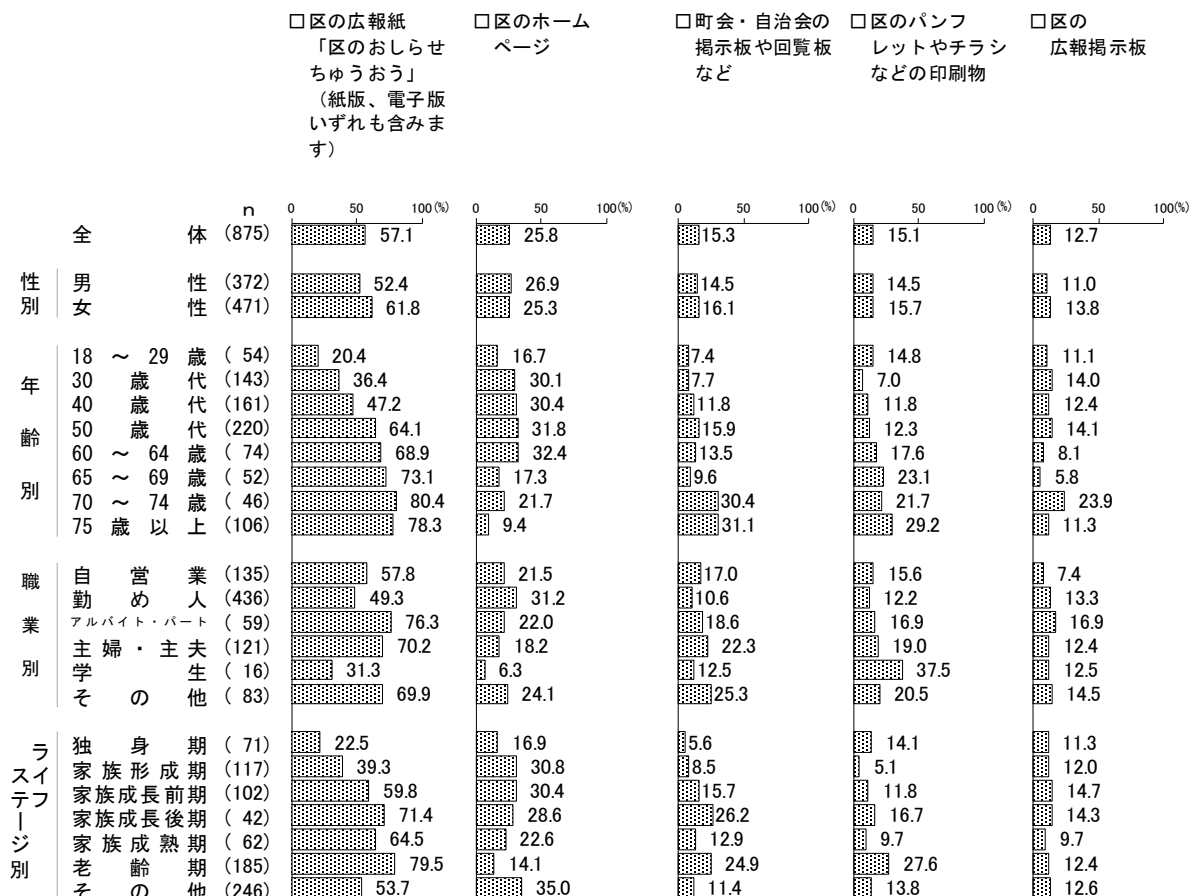
性別でみると、女性の方が男性よりも「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」で 9.4 ポイント、「わたしの便利帳」で 7.5 ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」はおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、70～74 歳で 8 割と高くなっている。また、「区のホームページ」は 30 歳代から 60～64 歳にかけて、3 割台と高くなっている。一方、「入手していない」は 18～29 歳で 5 割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」はアルバイト・パート、主婦・主夫で 7 割台と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」は老齢期で 8 割と高くなっている。(図表 13-2-3)

図表13－２－３ 区政情報を得る手段－性別・年齢別・職業別・ライフステージ別（上位10項目）



(3) 区政情報の望ましい入手方法

◇「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版）」が5割近く

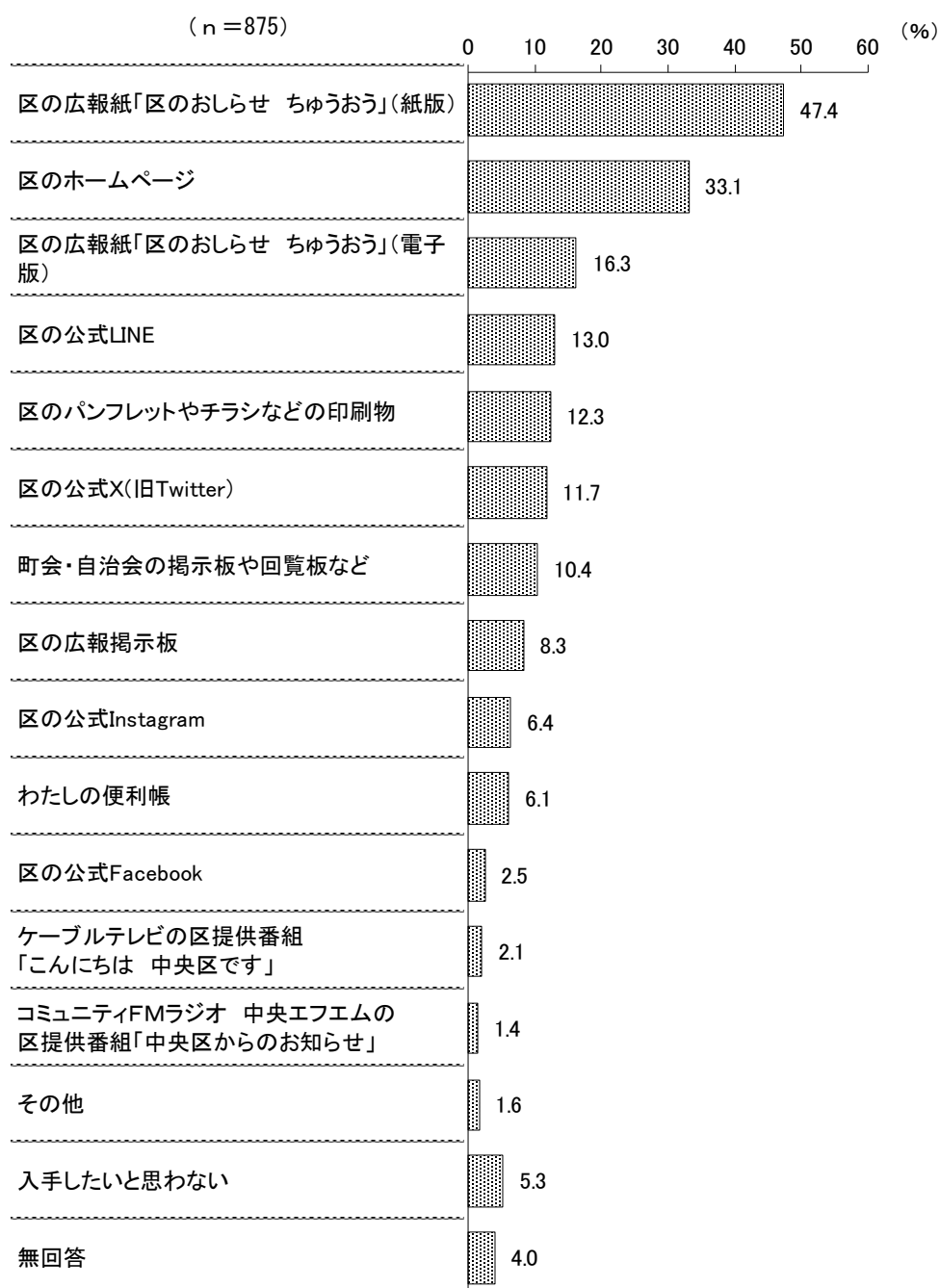
問27 あなたは、今後、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのような手段で入手したいと考えていますか。(〇は3つまで)

n = 875

1	区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」（紙版）	47.4%
2	区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」（電子版）	16.3
3	わたしの便利帳	6.1
4	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	12.3
5	区のホームページ	33.1
6	区の広報掲示板	8.3
7	町会・自治会の掲示板や回覧板など	10.4
8	ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」	2.1
9	コミュニティFMラジオ 中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」	1.4
10	区の公式X(旧Twitter)	11.7
11	区の公式Facebook	2.5
12	区の公式Instagram	6.4
13	区の公式LINE	13.0
14	その他	1.6
15	入手したいと思わない	5.3
	(無回答)	4.0

区政情報の望ましい入手方法は、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版）」(47.4%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(33.1%)、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（電子版）」(16.3%)、「区の公式LINE」(13.0%)などとなっている。一方、「入手したいと思わない」(5.3%)は1割未満となっている。(図表13-3-1)

図表13－3－1 区政情報の望ましい入手方法



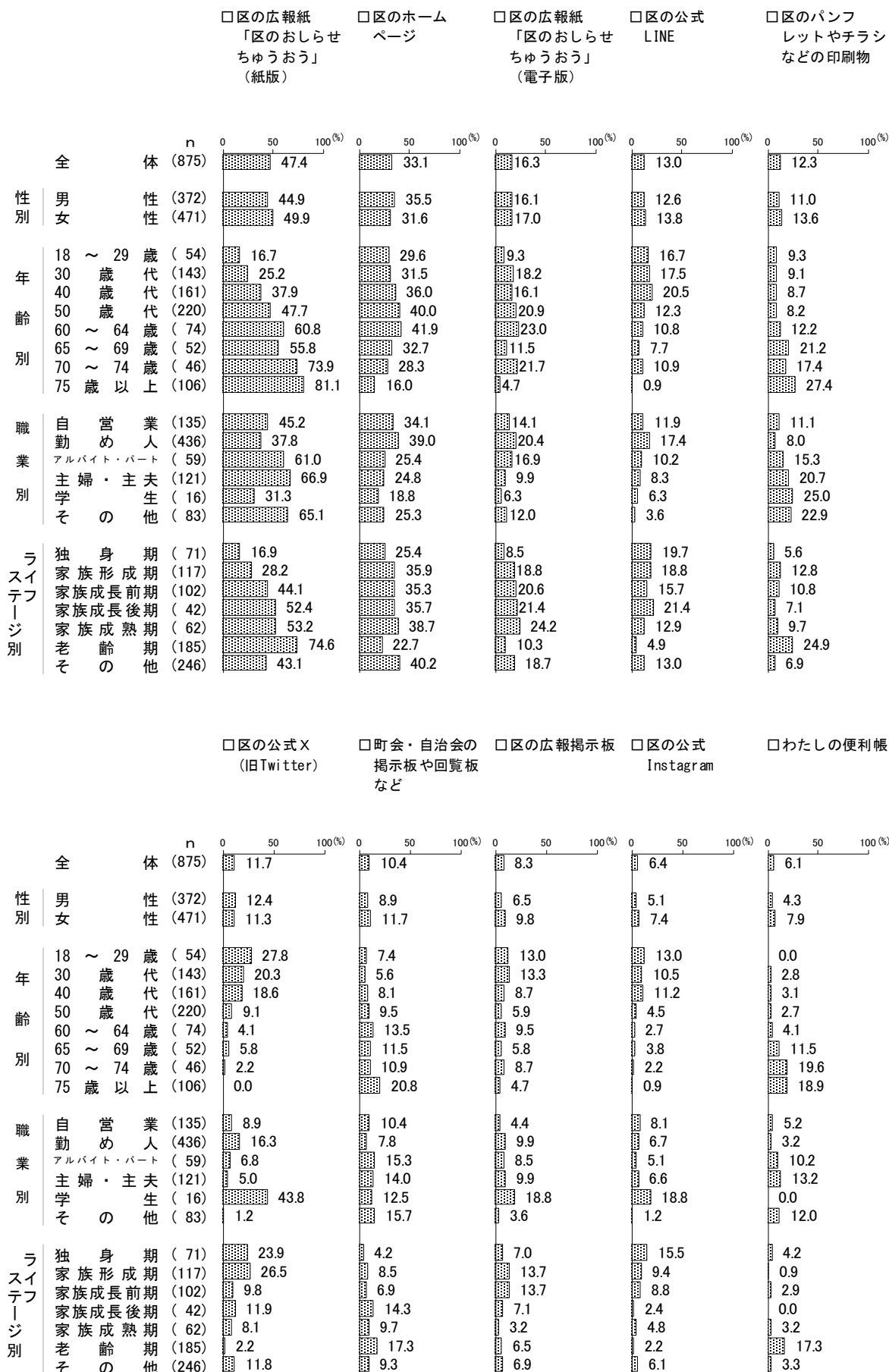
性別でみると、女性の方が男性よりも「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版）」で5.0ポイント高くなっている。また、男性の方が女性よりも「区のホームページ」で3.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版）」は、75歳以上で8割を超え、70～74歳で7割を超えて高くなっている。一方、「区のホームページ」は50歳代と60～64歳で4割台と高くなっている。

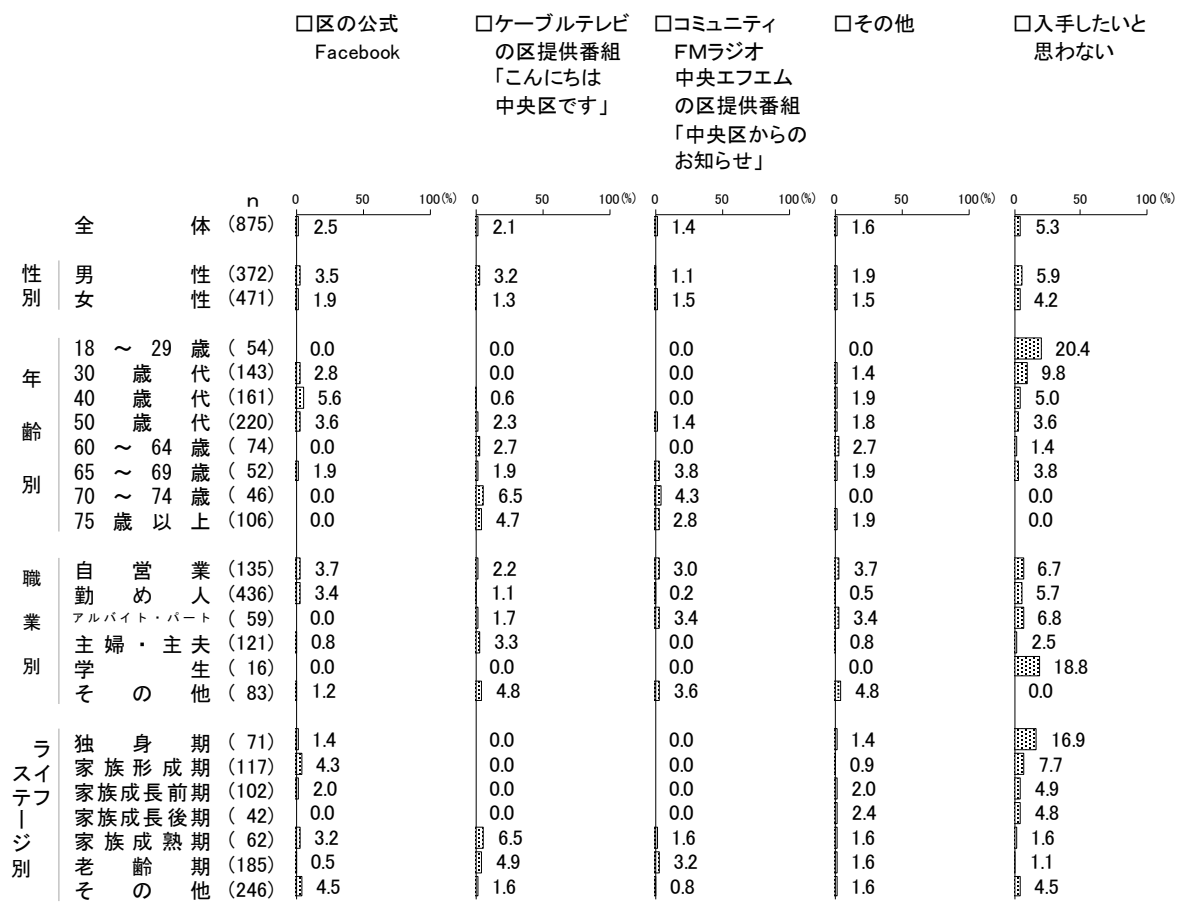
職業別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版）」はアルバイト・パートと主婦・主夫で6割台と高くなっている。また、「区のホームページ」は勤め人と自営業で3割台と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版）」は老齢期で7割台半ばと高くなっている。区の公式 X（旧 Twitter）は独身期と家族形成期で2割台と高くなっている。（図表 13－3－2）

図表13-3-2 区政情報の望ましい入手方法－性別・年齢別・職業別・ライフステージ別



図表13－3－2 区政情報の望ましい入手方法－性別・年齢別・職業別・ライフステージ別（続き）



【14 環境】

(1) 区内のみどり

◇「増えたと思う」が1割台半ば

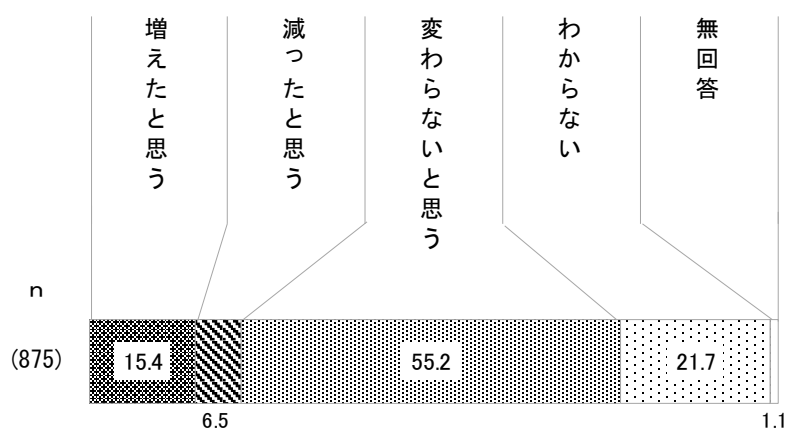
問28 あなたは、この1年間で区内のみどりが増えたと思いますか。(○は1つ)

n = 875

1 増えたと思う	15.4%	3 変わらないと思う	55.2
2 減ったと思う	6.5	4 わからない (無回答)	21.7 1.1

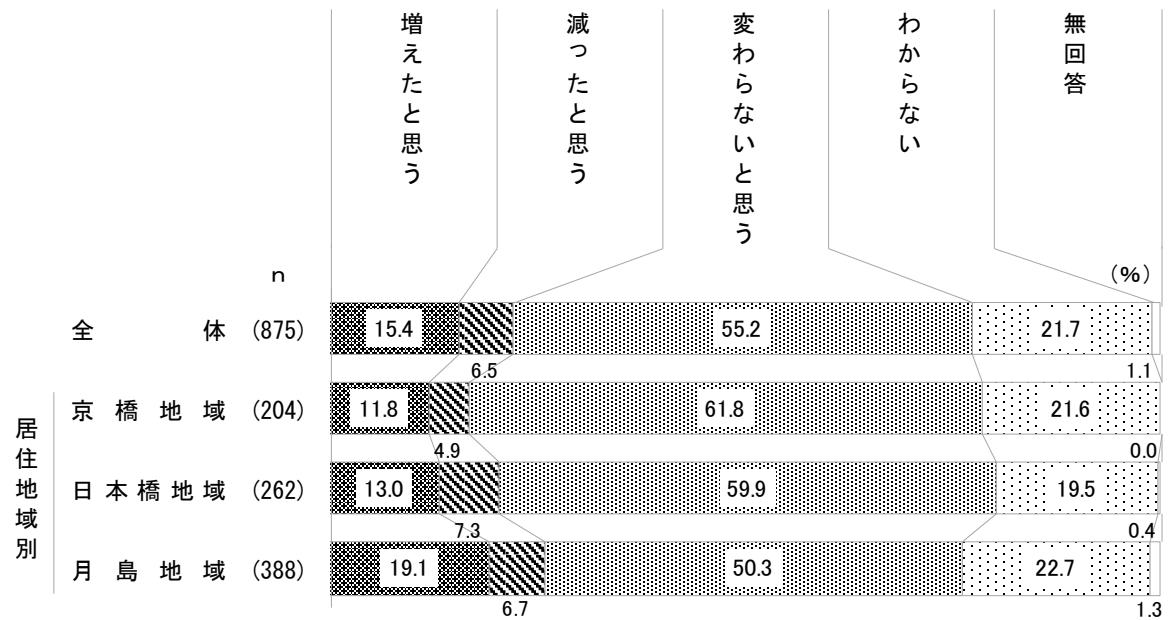
区内のみどりは、「増えたと思う」(15.4%)が1割台半ば、「減ったと思う」(6.5%)が1割未満、「変わらないと思う」(55.2%)が5割台半ばとなっている。(図表14-1-1)

図表14-1-1 区内のみどり



居住地域別でみると、「増えたと思う」は月島地域で約2割と高くなっている。「変わらないと思う」は京橋地域で6割を超えて高くなっている。(図表14－1－2)

図表14－1－2 区内のみどりー居住地域別



(2) 環境を守るための取り組み

◇「ごみ・資源の分別をしている」が8割を超える

問29 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。

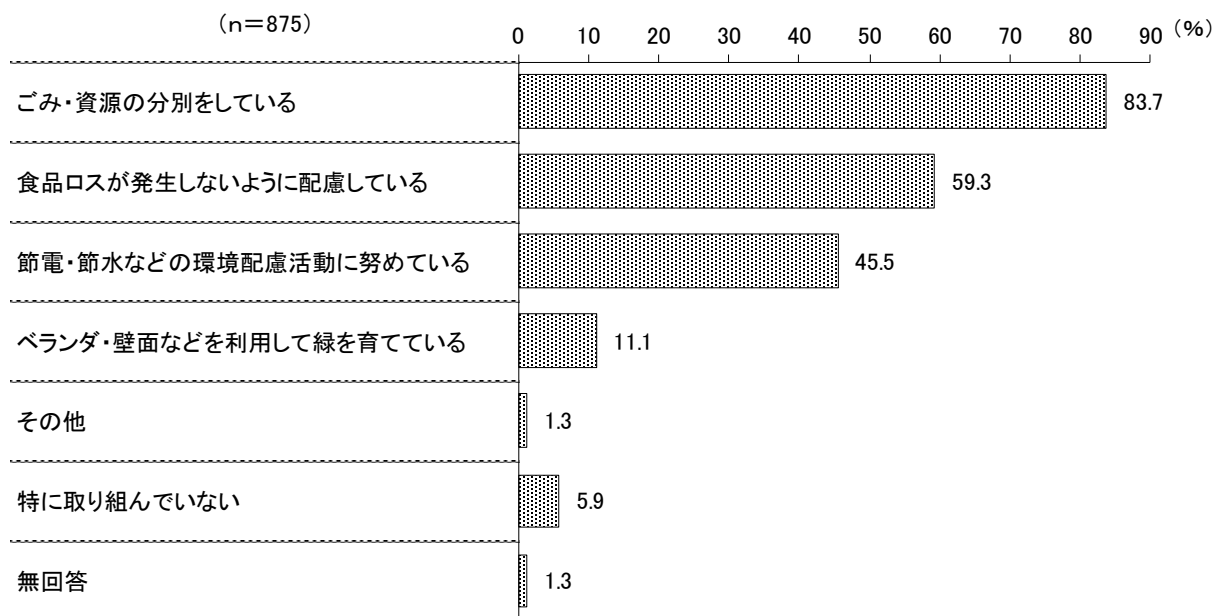
(○はいくつでも)

n = 875

1	節電・節水などの環境配慮活動に努めている	45.5%
2	ごみ・資源の分別をしている	83.7
3	ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている	11.1
4	食品ロスが発生しないように配慮している	59.3
5	その他	1.3
6	特に取り組んでいない	5.9
	(無回答)	1.3

環境を守るための取り組みは、「ごみ・資源の分別をしている」(83.7%)が8割を超えて最も高くなっている。次いで、「食品ロスが発生しないように配慮している」(59.3%)、「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」(45.5%)などとなっている。(図表14-2-1)

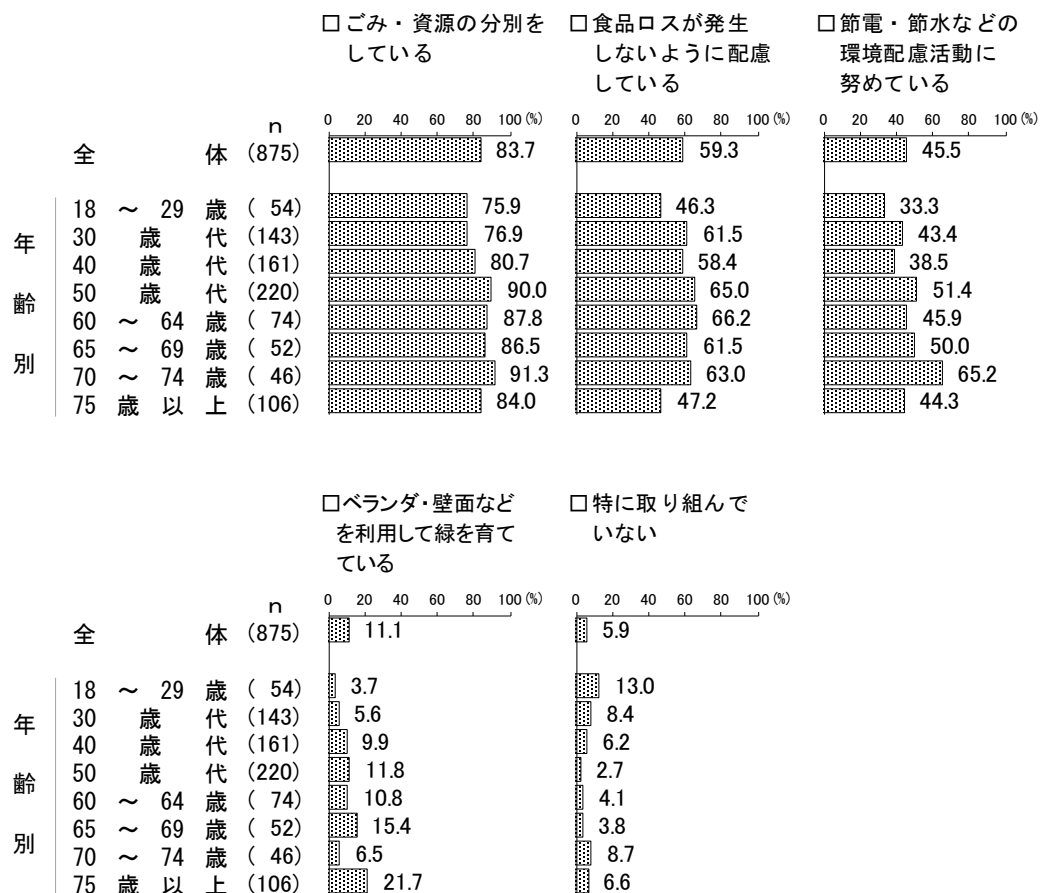
図表14-2-1 環境を守るための取り組み（複数回答）



年齢別でみると、「ごみ・資源の分別をしている」は70～74歳で9割を超えて高くなっている。「食品ロスが発生しないように配慮している」は50歳代と60～64歳で6割台半ばと高くなっている。「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」は70～74歳で6割台半ばと高くなっている。

(図表14－2－2)

図表14－2－2 環境を守るための取り組み－年齢別



(3) 企業の責任としての取り組み

◇「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」が5割台半ば

問30 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

n = 875

1	再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入	54.1%
2	建物のZEB※（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化	29.7
3	再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用	39.1
4	ZEV※（ゼロエミッション・ビークル）などの積極的な導入	22.9
5	建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減	41.0
6	森林整備の支援などによる環境活動への参加	28.3
7	社員等への環境教育による環境配慮への意識向上	28.3
8	その他	3.0
	(無回答)	6.2

(※) ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）

快適な室内環境を実現しながら、省エネや再生可能エネルギーを利用して建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のことです。

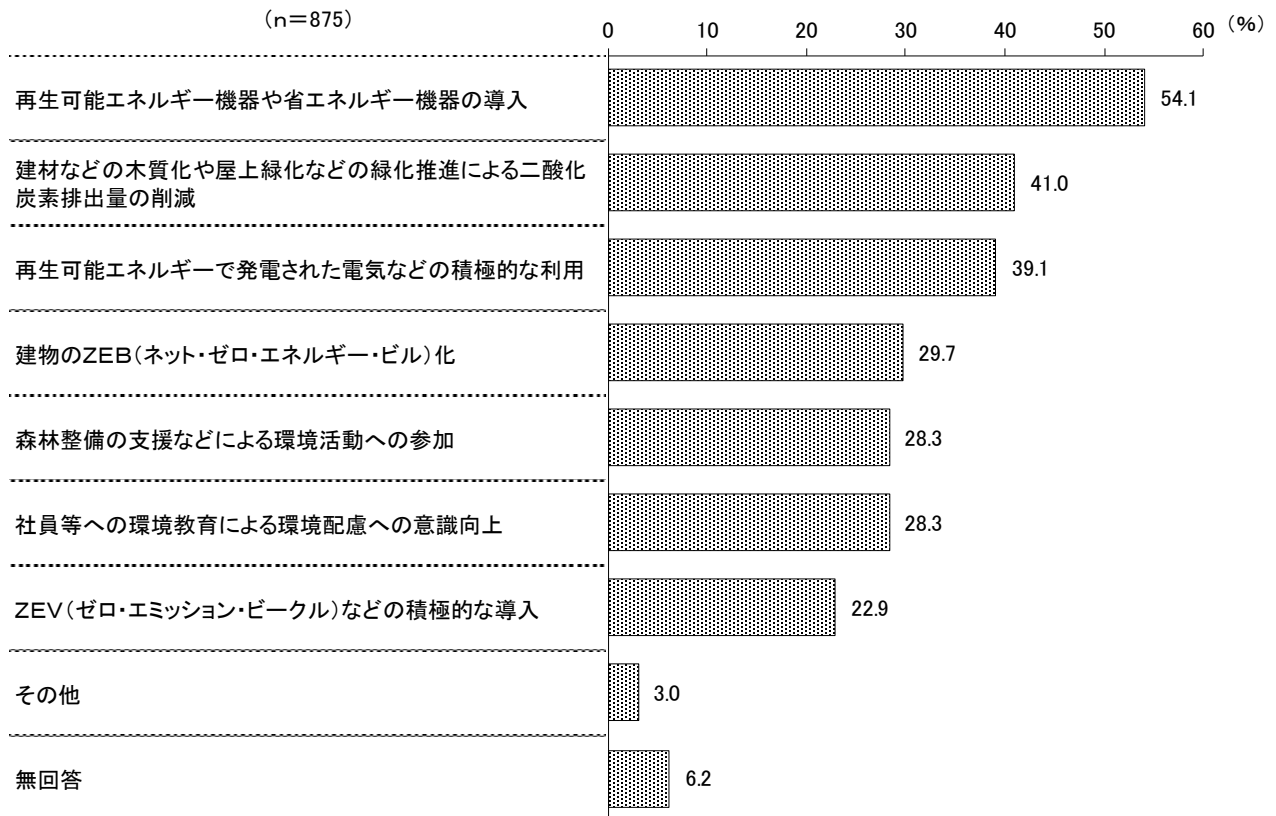
(※) ZEV（ゼロエミッション・ビークル）

走行時に二酸化炭素などの排出ガスを出さない電気自動車（EV）や燃料電池車（FCV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）のことです。

企業の責任としての取り組みは、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」(54.1%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減」(41.0%)、「再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用」(39.1%)、「建物のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化」(29.7%)などとなっている。

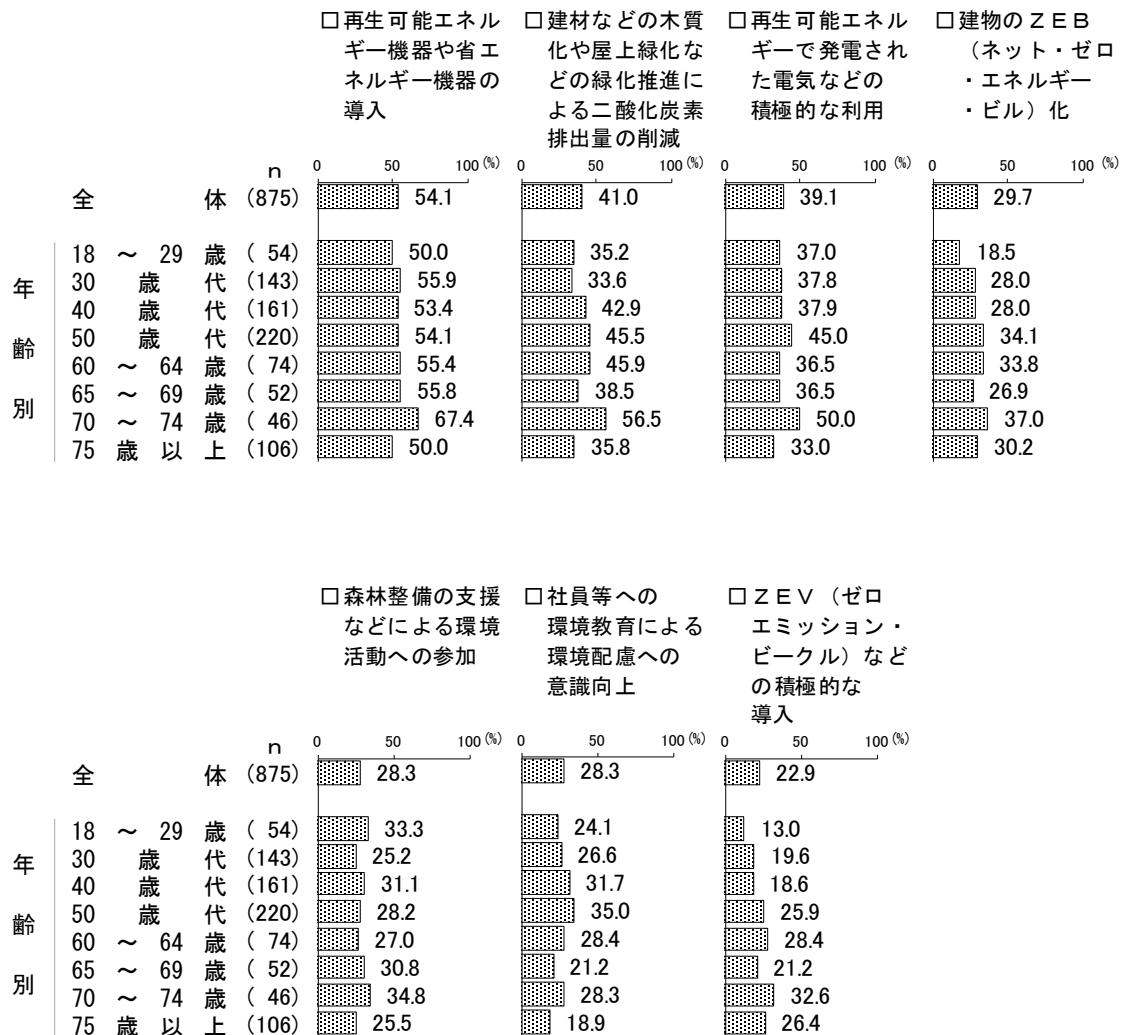
(図表14-3-1)

図表14－3－1 企業の責任としての取り組み（複数回答）



年齢別でみると、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」は70～74歳で7割近くと高くなっている。「建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減」は70～74歳で6割近くと高くなっている。「再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用」は70～74歳で5割と高くなっている。（図表14－3－2）

図表14－3－2 企業の責任としての取り組み－年齢別



【15 伝統と文化】

(1) 中央区ならではの伝統と文化

◇「歌舞伎や演劇などの伝統芸能」が7割

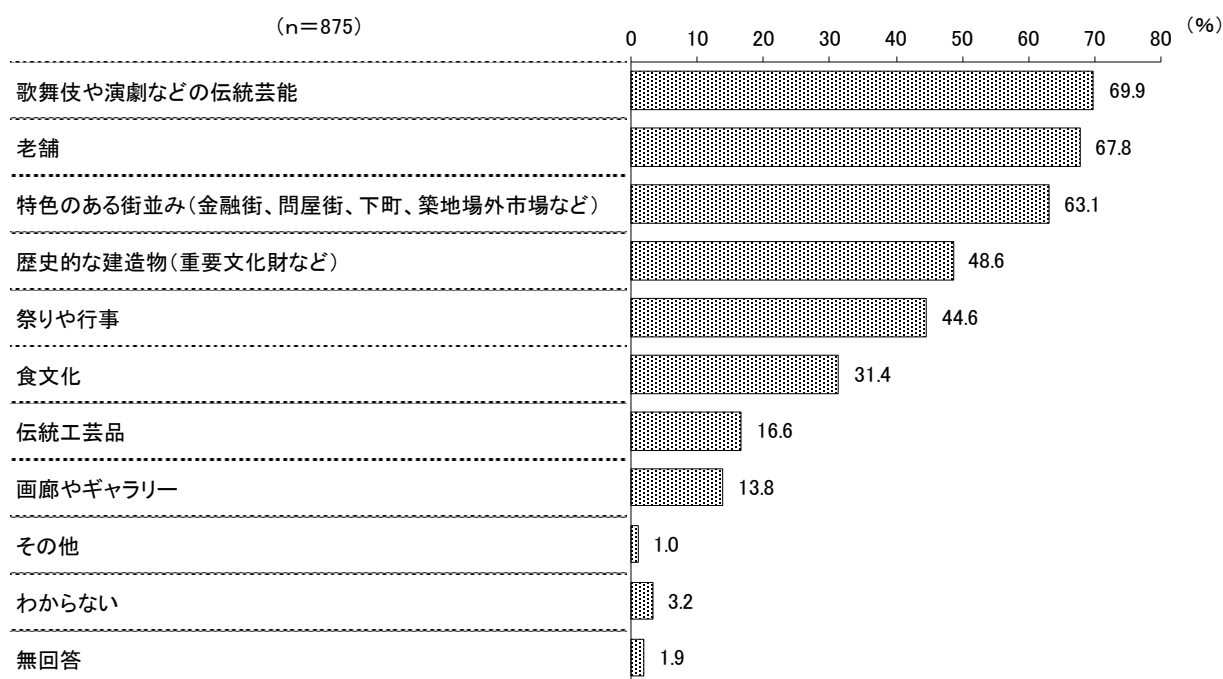
問31 江戸開府以来、東京の経済・文化の中心として発展を遂げてきた中央区の各エリアは、それぞれの歴史に裏打ちされた特色があり、数多くの有形・無形の文化資源を有しています。あなたが思う「中央区ならではの伝統と文化」とは、どのようなものですか。
(〇はいくつでも)

n = 875

1	歌舞伎や演劇などの伝統芸能	69.9%	6	画廊やギャラリー	13.8
2	伝統工芸品	16.6	7	食文化	31.4
3	老舗	67.8	8	祭りや行事	44.6
4	歴史的な建造物（重要文化財など）	48.6	9	その他	1.0
5	特色のある街並み（金融街、問屋街、 下町、築地場外市場など）	63.1	10	わからない (無回答)	3.2 1.9

中央区ならではの伝統と文化は、「歌舞伎や演劇などの伝統芸能」(69.9%)が7割と最も高くなっている。次いで、「老舗」(67.8%)、「特色のある街並み（金融街、問屋街、下町、築地場外市場など）」(63.1%)、「歴史的な建造物（重要文化財など）」(48.6%)、「祭りや行事」(44.6%)などとなっている。(図表15-1-1)

図表15-1-1 中央区ならではの伝統と文化（複数回答）



(2) 伝統と文化を身近に感じているか

◇『感じる』が8割近く

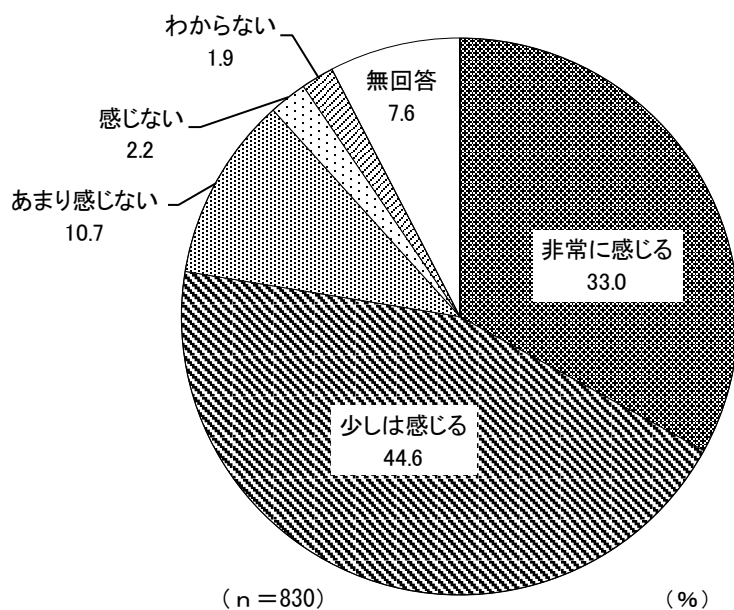
(問31で、「1 歌舞伎や演劇などの伝統芸能」から「9 その他」のいずれかにお答えの方に)
問31-1 あなたは、問31で選択した「中央区ならではの伝統と文化」について、身近に感じていますか。(〇は1つ)

n=830

1 非常に感じる	33.0%	4 感じない	2.2
2 少しは感じる	44.6	5 わからない	1.9
3 あまり感じない	10.7	(無回答)	7.6

伝統と文化を身近に感じているかについて、「非常に感じる」(33.0%)と「少しは感じる」(44.6%)を合わせた『感じる』(77.6%)は8割近くとなっている。一方、「あまり感じない」(10.7%)と「感じない」(2.2%)を合わせた『感じない』(12.9%)は1割を超えている。(図表15-2-1)

図表15-2-1 伝統と文化を身近に感じているか



【16 施策の要望・評価】

(1) 区の施策の満足度と重要度

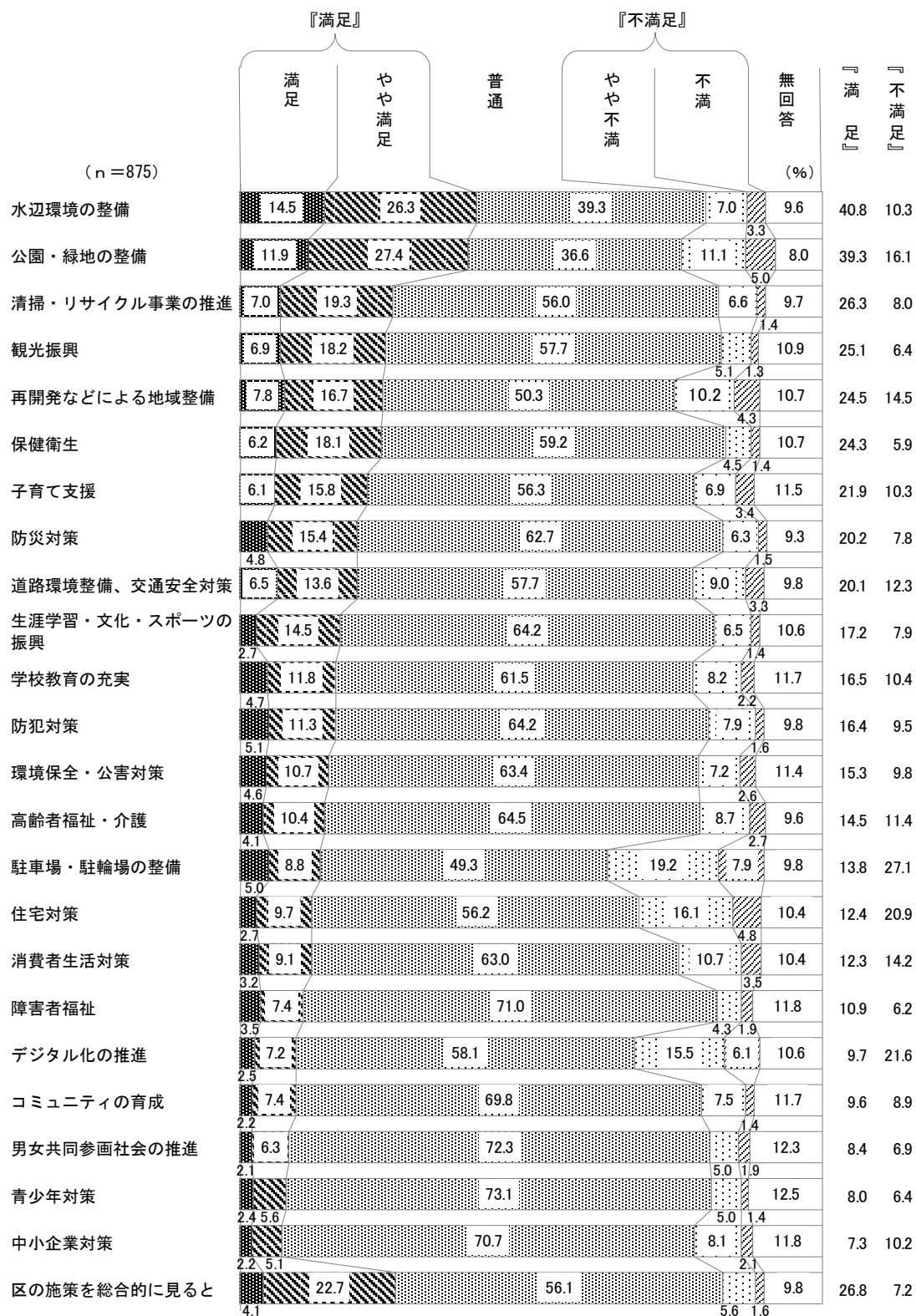
◇満足度が高いのは「水辺環境の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

◇重要度が高いのは「防災対策」、低いのは「中小企業対策」

問32 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)											
満足度						重要度 (%)					
1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	無回答	1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通	無回答		
n = 875											
(1) 子育て支援	6.1	15.8	56.3	6.9	3.4	11.5	52.6	19.5	15.1	12.8	
(2) 障害者福祉	3.5	7.4	71.0	4.3	1.9	11.8	33.4	28.8	24.8	13.0	
(3) 高齢者福祉・介護	4.1	10.4	64.5	8.7	2.7	9.6	46.2	24.3	18.4	11.1	
(4) 保健衛生	6.2	18.1	59.2	4.5	1.4	10.7	32.1	30.9	23.7	13.4	
(5) 男女共同参画社会の推進	2.1	6.3	72.3	5.0	1.9	12.3	15.5	30.3	40.0	14.2	
(6) 住宅対策	2.7	9.7	56.2	16.1	4.8	10.4	26.4	31.8	28.8	13.0	
(7) 公園・緑地の整備	11.9	27.4	36.6	11.1	5.0	8.0	31.1	36.8	20.2	11.9	
(8) 水辺環境の整備	14.5	26.3	39.3	7.0	3.3	9.6	28.6	36.7	21.9	12.8	
(9) 消費者生活対策	3.2	9.1	63.0	10.7	3.5	10.4	25.1	31.8	29.8	13.3	
(10) 環境保全・公害対策	4.6	10.7	63.4	7.2	2.6	11.4	29.5	32.5	24.8	13.3	
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	7.0	19.3	56.0	6.6	1.4	9.7	28.1	35.0	23.7	13.3	
(12) 駐車場・駐輪場の整備	5.0	8.8	49.3	19.2	7.9	9.8	19.3	33.5	33.8	13.4	
(13) 道路環境整備、交通安全対策	6.5	13.6	57.7	9.0	3.3	9.8	25.7	32.6	27.9	13.8	
(14) 防災対策	4.8	15.4	62.7	6.3	1.5	9.3	49.3	23.7	15.0	12.1	
(15) 防犯対策	5.1	11.3	64.2	7.9	1.6	9.8	41.9	28.8	16.7	12.6	
(16) 再開発などによる地域整備	7.8	16.7	50.3	10.2	4.3	10.7	22.2	35.2	29.4	13.3	
(17) 中小企業対策	2.2	5.1	70.7	8.1	2.1	11.8	15.0	28.7	42.2	14.2	
(18) 学校教育の充実	4.7	11.8	61.5	8.2	2.2	11.7	35.1	25.5	25.6	13.8	
(19) 青少年対策	2.4	5.6	73.1	5.0	1.4	12.5	22.9	28.1	33.3	15.8	
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	2.7	14.5	64.2	6.5	1.4	10.6	15.4	32.7	37.1	14.7	
(21) コミュニティの育成	2.2	7.4	69.8	7.5	1.4	11.7	12.0	32.1	40.9	15.0	
(22) 観光振興	6.9	18.2	57.7	5.1	1.3	10.9	17.0	31.5	37.6	13.8	
(23) デジタル化の推進	2.5	7.2	58.1	15.5	6.1	10.6	32.7	30.4	22.9	14.1	
(24) 区の施策を総合的に見ると	4.1	22.7	56.1	5.6	1.6	9.8					

次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「水辺環境の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(40.8%)が約4割で最も高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満足』(27.1%)が3割近くで最も高くなっている。(図表16-1-1)

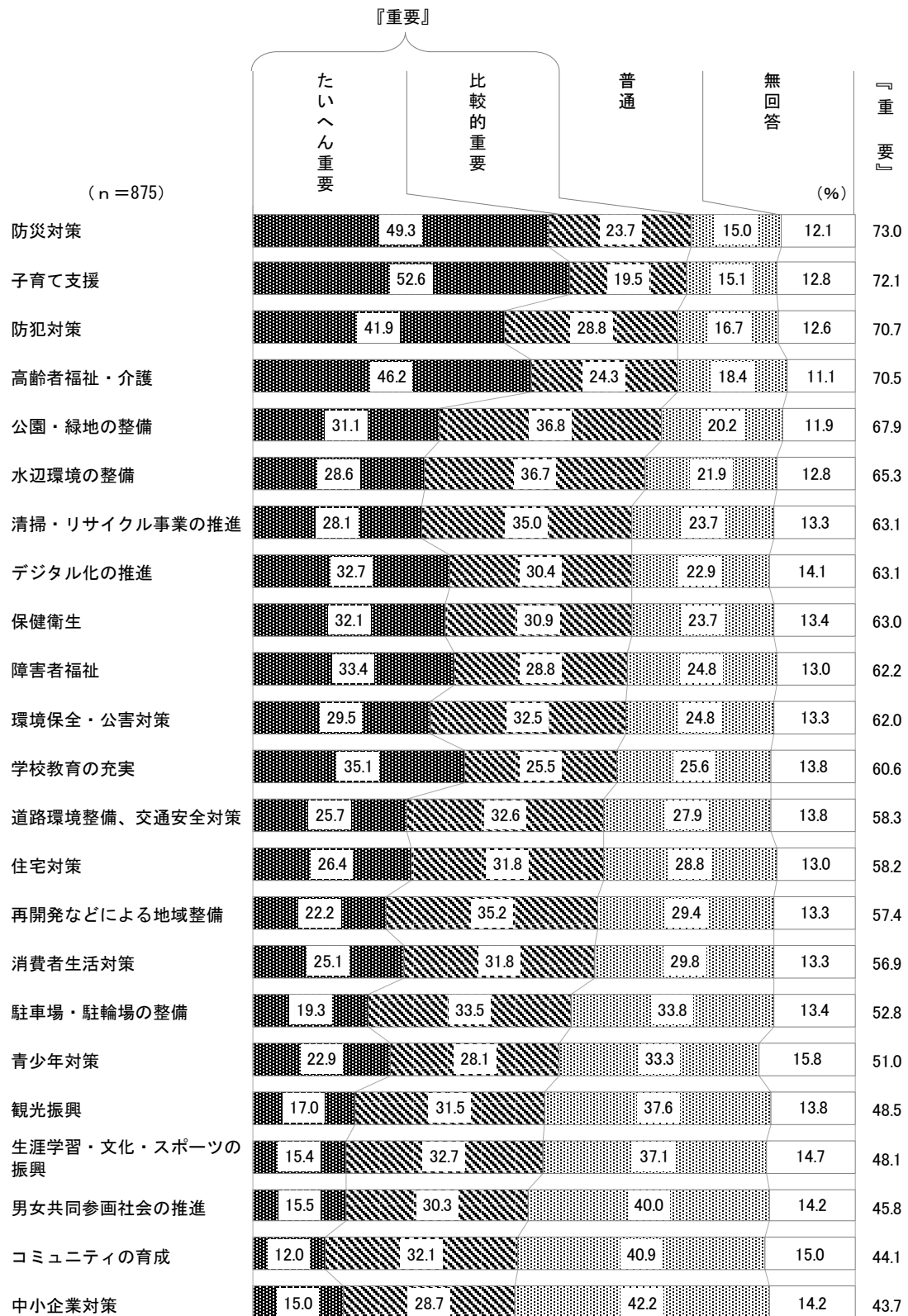
図表16-1-1 区の施策の満足度



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「防災対策」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』（73.0%）が7割を超えて最も高くなっている。また、「中小企業対策」は、「普通」（42.2%）が4割を超えて最も高くなっている。

（図表16－1－2）

図表16－1－2 区の施策の重要度



■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不満足』	
①水辺環境の整備	(40.8%)	①駐車場・駐輪場の整備	(27.1%)
②公園・緑地の整備	(39.3%)	②デジタル化の推進	(21.6%)
③清掃・リサイクル事業の推進	(26.3%)	③住宅対策	(20.9%)
④観光振興	(25.1%)	④公園・緑地の整備	(16.1%)
⑤再開発などによる地域整備	(24.5%)	⑤再開発などによる地域整備	(14.5%)

■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①防災対策	(73.0%)	①中小企業対策	(43.7%)
②子育て支援	(72.1%)	②コミュニティの育成	(44.1%)
③防犯対策	(70.7%)	③男女共同参画社会の推進	(45.8%)
④高齢者福祉・介護	(70.5%)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(48.1%)
⑤公園・緑地の整備	(67.9%)	⑤観光振興	(48.5%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点＝（「満足」の回答者数×10点＋「やや満足」の回答者数×5点＋「普通」の回答者数×0点＋「やや不満」の回答者数×－5点＋「不満」の回答者数×－10点）÷（回答者数－無回答者数）

重要度評価点＝（「たいへん重要」の回答者数×10点＋「比較的重要」の回答者数×5点＋「普通」の回答者数×0点）÷（回答者数－無回答者数）

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、＋10.00点～－10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、＋10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に－10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、＋10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

【満足度】

上 位		下 位	
①水辺の整備	(2.31)	①駐車場・駐輪場の整備	(－0.89)
②公園・緑地の整備	(1.63)	②デジタル化の推進	(－0.86)
③観光振興	(1.36)	③住宅対策	(－0.59)
④清掃・リサイクル事業の推進	(1.32)	④中小企業対策	(－0.16)
⑤保健衛生	(1.30)	⑤消費者生活対策	(－0.13)

【重要度】

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.15)	①コミュニティの育成	(3.30)
②防災対策	(6.95)	②中小企業対策	(3.42)
③高齢者福祉・介護	(6.56)	③男女共同参画社会の推進	(3.58)
④防犯対策	(6.44)	④生涯学習・文化・スポーツの振興	(3.73)
⑤公園・緑地の整備	(5.62)	⑤観光振興	(3.81)

居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「水辺環境の整備」(2.70)、「公園・緑地の整備」(2.49)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-1.02)、「住宅対策」(-0.68)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「水辺環境の整備」(1.40)、「保健衛生」(1.32)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-1.03)、「デジタル化の推進」(-0.98)が比較的低くなっている。

月島地域では、「水辺環境の整備」(2.72)、「公園・緑地の整備」(1.83)が比較的高くなっている。また、「デジタル化の推進」(-1.01)、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.75)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、「子育て支援」は全ての地域で第1位となっている。また「防災対策」についても全ての地域で第2位となっている。(図表16-1-3)

図表16-1-3 区の施策の満足度評価点と重要度評価点－居住地域別

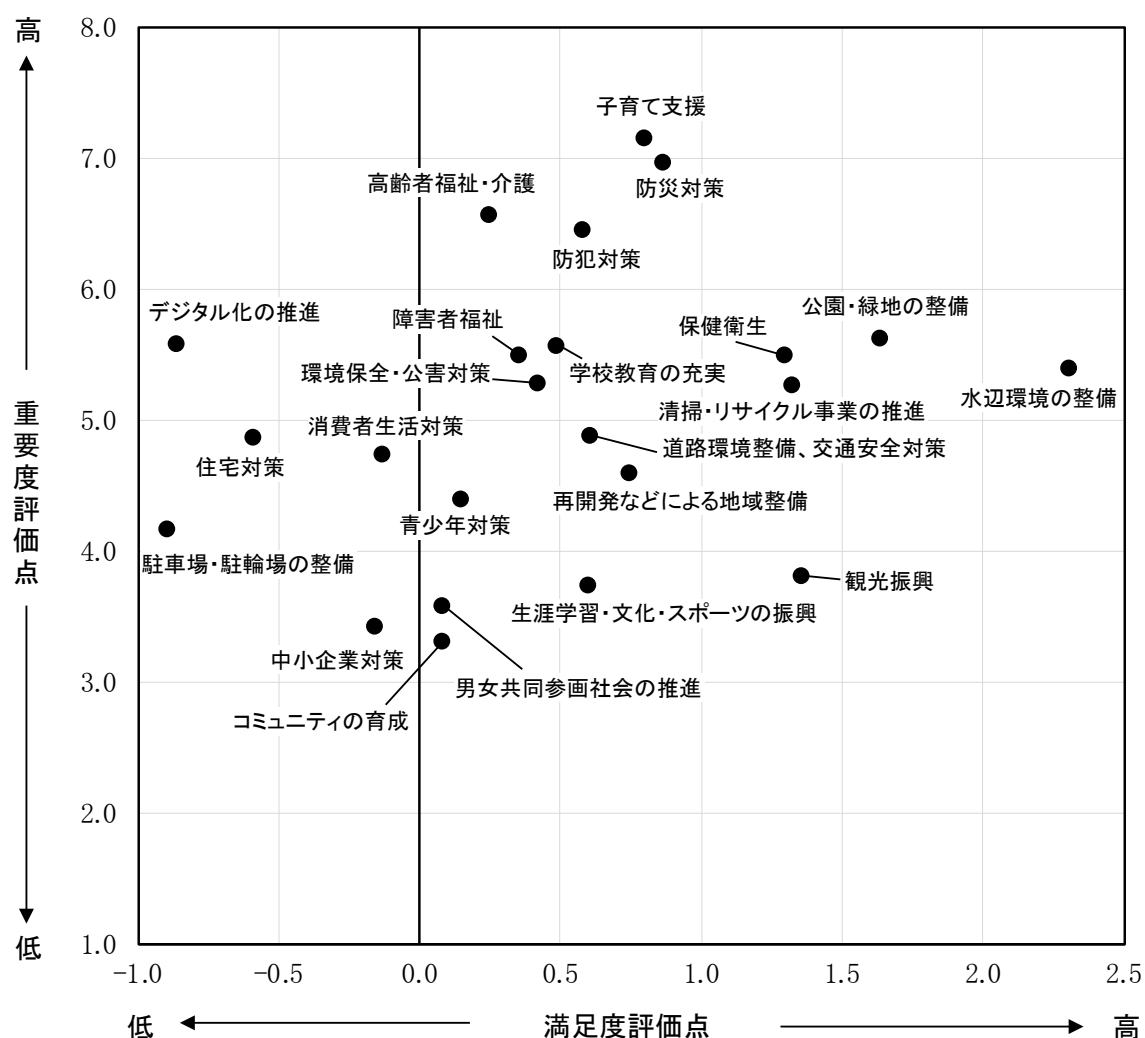
地 域 項 目	満足度				重要度			
	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域
(1) 子育て支援	0.80	0.37	1.07	0.82	7.15	7.02	7.32	7.14
(2) 障害者福祉	0.36	0.61	0.38	0.16	5.49	5.62	5.41	5.47
(3) 高齢者福祉・介護	0.25	0.17	0.21	0.27	6.56	6.54	6.51	6.65
(4) 保健衛生	1.30	1.33	1.32	1.26	5.49	5.17	5.88	5.42
(5) 男女共同参画社会の推進	0.08	0.23	0.23	-0.09	3.58	3.28	4.02	3.46
(6) 住宅対策	-0.59	-0.68	-0.56	-0.57	4.86	4.69	4.96	4.87
(7) 公園・緑地の整備	1.63	2.49	0.61	1.83	5.62	5.84	5.34	5.69
(8) 水辺環境の整備	2.31	2.70	1.40	2.72	5.38	5.57	4.94	5.56
(9) 消費者生活対策	-0.13	-0.38	-0.34	0.20	4.73	4.92	4.66	4.68
(10) 環境保全・公害対策	0.42	0.47	0.19	0.56	5.27	5.32	5.45	5.10
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	1.32	1.62	0.85	1.48	5.26	5.23	5.39	5.17
(12) 駐車場・駐輪場の整備	-0.89	-1.02	-1.03	-0.75	4.16	4.37	4.01	4.17
(13) 道路環境整備、交通安全対策	0.61	0.38	0.39	0.87	4.87	5.00	4.78	4.91
(14) 防災対策	0.87	1.08	0.77	0.87	6.95	6.95	7.04	6.86
(15) 防犯対策	0.58	0.78	0.43	0.65	6.44	6.56	6.64	6.18
(16) 再開発などによる地域整備	0.75	1.05	0.33	0.88	4.58	5.03	4.25	4.59
(17) 中小企業対策	-0.16	-0.14	-0.06	-0.22	3.42	3.49	3.33	3.39
(18) 学校教育の充実	0.49	0.51	0.48	0.49	5.55	4.91	5.67	5.77
(19) 青少年対策	0.15	0.08	0.15	0.18	4.38	3.76	4.44	4.58
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.60	0.55	0.81	0.49	3.73	3.55	3.67	3.85
(21) コミュニティの育成	0.08	0.03	0.15	0.06	3.30	3.06	3.53	3.25
(22) 観光振興	1.36	1.65	1.27	1.26	3.81	4.34	3.73	3.61
(23) デジタル化の推進	-0.86	-0.39	-0.98	-1.01	5.57	5.23	5.84	5.57

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

（図表16－１－４）

図表16－１－４ 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



(2) 区の施策への要望

◇「高齢者福祉・介護」が3割台半ば

問33 問32の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。

1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～23までの番号)

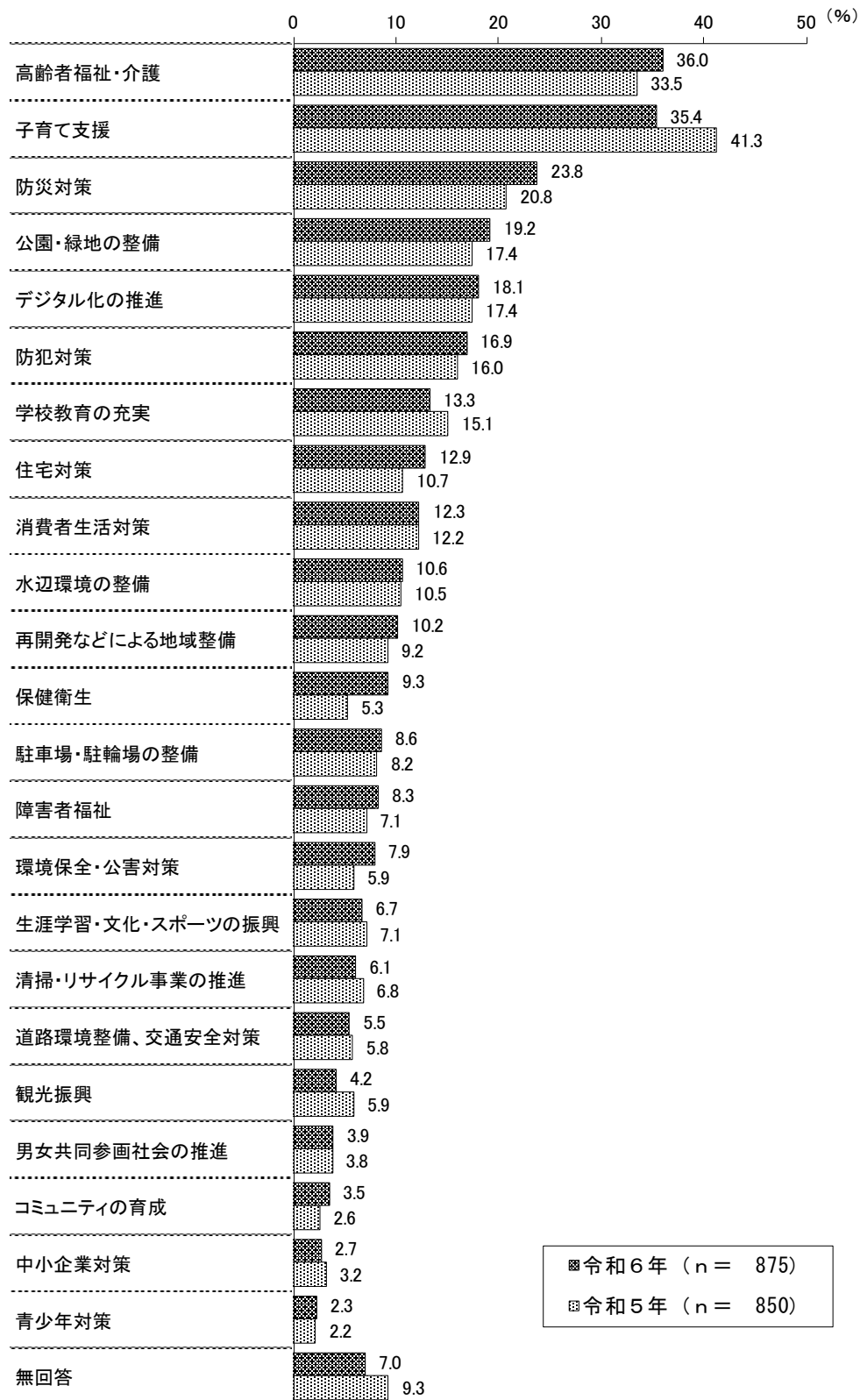
n = 875	(%)			
	第1位	第2位	第3位	全体
(1) 子育て支援	22.1	7.2	6.2	35.5
(2) 障害者福祉	1.9	4.0	2.4	8.3
(3) 高齢者福祉・介護	18.7	10.4	6.9	36.0
(4) 保健衛生	1.5	4.0	3.8	9.3
(5) 男女共同参画社会の推進	1.4	1.6	0.9	3.9
(6) 住宅対策	3.7	5.6	3.7	13.0
(7) 公園・緑地の整備	5.5	8.0	5.7	19.2
(8) 水辺環境の整備	1.7	4.8	4.1	10.6
(9) 消費者生活対策	2.9	4.2	5.3	12.4
(10) 環境保全・公害対策	2.2	2.7	3.0	7.9
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	1.7	1.4	3.0	6.1
(12) 駐車場・駐輪場の整備	2.1	3.4	3.1	8.6
(13) 道路環境整備、交通安全対策	1.3	1.6	2.6	5.5
(14) 防災対策	6.7	8.5	8.6	23.8
(15) 防犯対策	3.3	6.2	7.4	16.9
(16) 再開発などによる地域整備	1.9	3.5	4.7	10.1
(17) 中小企業対策	1.4	0.7	0.7	2.8
(18) 学校教育の充実	3.4	4.7	5.1	13.2
(19) 青少年対策	0.2	1.4	0.7	2.3
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1.0	2.1	3.7	6.8
(21) コミュニティの育成	0.9	0.6	2.1	3.6
(22) 観光振興	0.9	1.4	1.9	4.2
(23) デジタル化の推進	6.6	5.1	6.3	18.0
(無回答)	7.0	7.0	8.3	7.0

* 全体の無回答の割合は、第1位の割合とした。

区の施策への要望としては、「高齢者福祉・介護」(36.0%)が3割台半ばと高くなっている。次いで、「子育て支援」(35.5%)、「防災対策」(23.8%)、「公園・緑地の整備」(19.2%)、「デジタル化の推進」(18.0%)、「防犯対策」(16.9%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「保健衛生」は4.0ポイント、「防災対策」は3.0ポイント増加している。一方、「子育て支援」は5.9ポイント減少している。(図表16-2-1)

図表16-2-1 区の施策への要望（複数回答）



性別でみると、女性の方が男性よりも「防災対策」で6.5ポイント、「学校教育の充実」で4.2ポイント、「消費者生活対策」で2.4ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「子育て支援」と「デジタル化の推進」で7.7ポイント、「防犯対策」で5.0ポイント高くなっている。

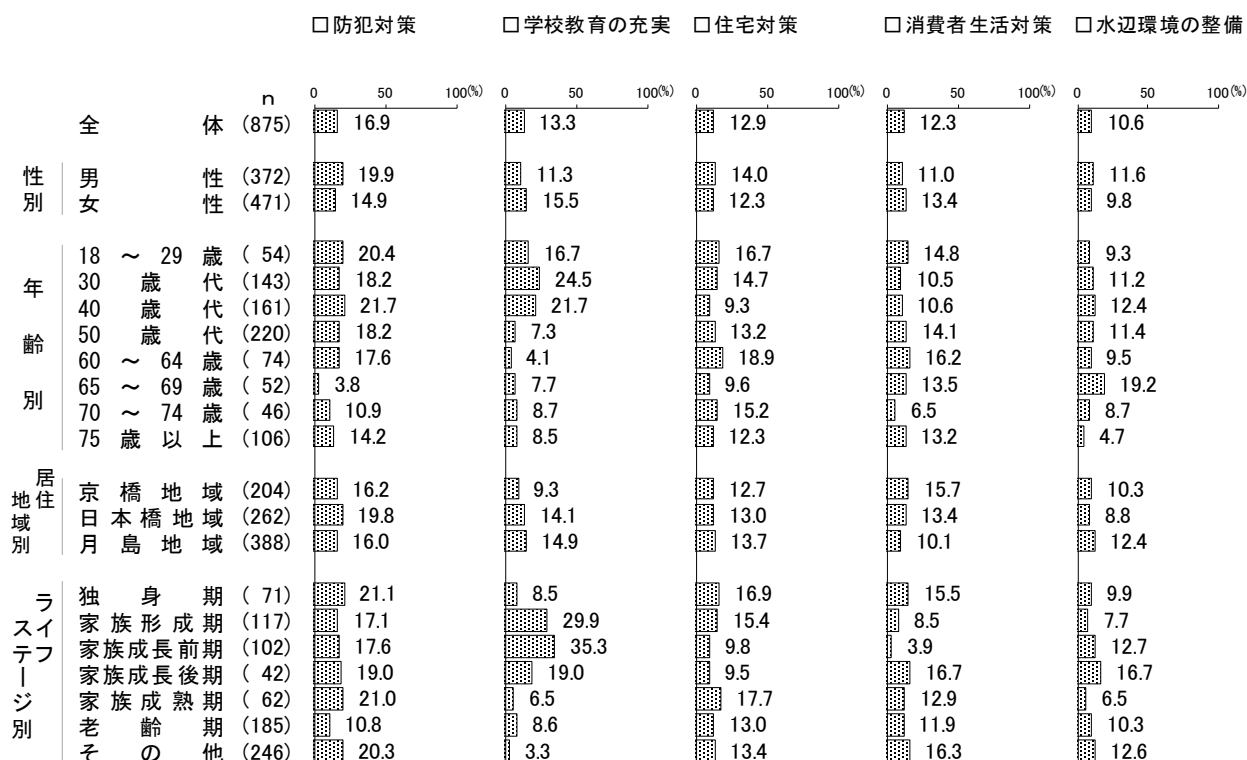
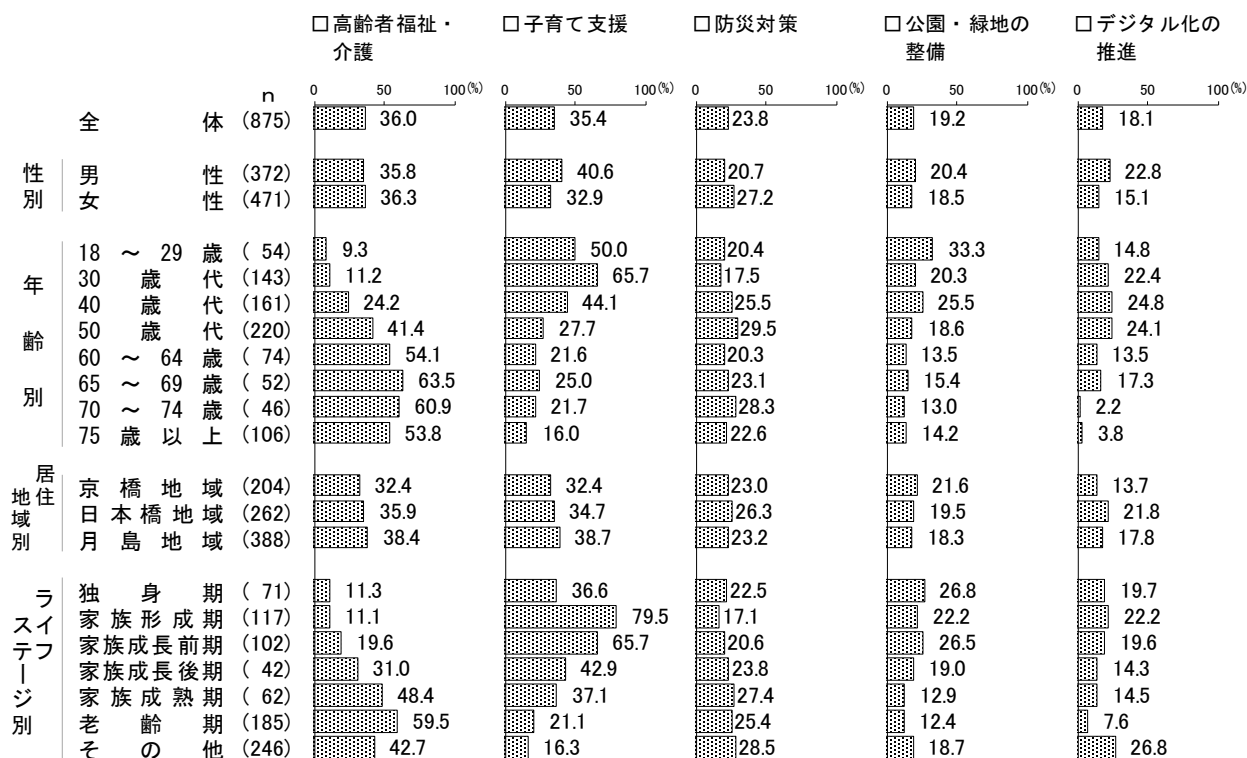
年齢別でみると、「高齢者福祉・介護」は65～69歳、70～74歳で6割を超えて高くなっている。「子育て支援」は30歳代で6割台半ばと高くなっている。「防災対策」は30歳代以外で2割台となっている。

居住地域別でみると、「高齢者福祉・介護」と「子育て支援」は月島地域で4割近くと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「高齢者福祉・介護」は老齢期で6割と高くなっている。「子育て支援」は家族形成期で8割と高くなっている。「防災対策」は家族形成期以外で2割台となっている。

(図表16－2－2)

図表 16-2-2 区の施策への要望－性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位 10 項目）



上位5項目にあげられた施策を性別でみると、男性では「子育て支援」、女性では「高齢者福祉・介護」が第1位となっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は40歳代以下の年代で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は50歳代以上の年代で第1位となっている。

居住地域別でみると、京橋地域では「子育て支援」と「高齢者福祉・介護」、日本橋地域では「高齢者福祉・介護」、月島地域では「子育て支援」が第1位となっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は独身期と家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で第1位となっている。「高齢者福祉・介護」は家族成熟期、老齢期、その他で第1位となっている。(図表16-2-3)

図表 16-2-3 区の施策への要望－性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位5項目）

		(%)						
属性		順位	n	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体			875	高齢者福祉・介護 36.0	子育て支援 35.4	防災対策 23.8	公園・緑地の整備 19.2	デジタル化の推進 18.1
性 別	男 性		372	子育て支援 40.6	高齢者福祉・介護 35.8	デジタル化の推進 22.8	防災対策 20.7	公園・緑地の整備 20.4
	女 性		471	高齢者福祉・介護 36.3	子育て支援 32.9	防災対策 27.2	公園・緑地の整備 18.5	学校教育の充実 15.5
年 齢 別	18～29歳		54	子育て支援 50.0	公園・緑地の整備 33.3	防災対策/防犯対策 20.4		保健衛生 18.5
	30 歳 代		143	子育て支援 65.7	学校教育の充実 24.5	デジタル化の推進 22.4	公園・緑地の整備 20.3	防犯対策 18.2
	40 歳 代		161	子育て支援 44.1	公園・緑地の整備/防災対策 25.5		デジタル化の推進 24.8	高齢者福祉・介護 24.2
	50 歳 代		220	高齢者福祉・介護 41.4	防災対策 29.5	子育て支援 27.7	デジタル化の推進 24.1	公園・緑地の整備 18.6
	60～64歳		74	高齢者福祉・介護 54.1	子育て支援 21.6	防災対策 20.3	住宅対策 18.9	防犯対策 17.6
	65～69歳		52	高齢者福祉・介護 63.5	子育て支援 25.0	防災対策 23.1	水辺環境の整備/再開発などによる 地域整備 19.2	
	70～74歳		46	高齢者福祉・介護 60.9	防災対策 28.3	障害者福祉 23.9	子育て支援 21.7	住宅対策 15.2
	75歳以上		106	高齢者福祉・介護 53.8	防災対策 22.6	子育て支援 16.0	公園・緑地の整備/防犯対策 14.2	
居 住 地 域 別	京橋地域		204	子育て支援/高齢者福祉・介護 32.4		防災対策 23.0	公園・緑地の整備 21.6	防犯対策 16.2
	日本橋地域		262	高齢者福祉・介護 35.9	子育て支援 34.7	防災対策 26.3	デジタル化の推進 21.8	防犯対策 19.8
	月島地域		388	子育て支援 38.7	高齢者福祉・介護 38.4	防災対策 23.2	公園・緑地の整備 18.3	デジタル化の推進 17.8
ラ イ フ ス テ ー ジ 別	独 身 期		71	子育て支援 36.6	公園・緑地の整備 26.8	防災対策 22.5	防犯対策 21.1	デジタル化の推進 19.7
	家族形成期		117	子育て支援 79.5	学校教育の充実 29.9	公園・緑地の整備/デジタル化の推進 22.2		防災対策 17.1
	家族成長前期		102	子育て支援 65.7	学校教育の充実 35.3	公園・緑地の整備 26.5	防災対策 20.6	高齢者福祉・介護 19.6
	家族成長後期		42	子育て支援 42.9	高齢者福祉・介護 31.0	防災対策 23.8	公園・緑地の整備/防犯対策 19.0	
	家族成熟期		62	高齢者福祉・介護 48.4	子育て支援 37.1	防災対策 27.4	防犯対策 21.0	住宅対策 17.7
	老 齢 期		185	高齢者福祉・介護 59.5	防災対策 25.4	子育て支援 21.1	障害者福祉 15.1	再開発などによる 地域整備 14.1
	そ の 他		246	高齢者福祉・介護 42.7	防災対策 28.5	デジタル化の推進 26.8	防犯対策 20.3	公園・緑地の整備 18.7

V 結果の数表

V 結果の数表

1 定住性

上段：件数
下段：%

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。（〇は1つ）

全 体	3 年 未 満	3 ～ 6 年 未 満	6 ～ 1 0 年 未 満	1 0 ～ 1 5 年 未 満	1 5 ～ 2 0 年 未 満	2 0 年 以 上	生 ま れ て か ら ず つ と	無 回 答	『短期居住者』	『中期居住者』	『長期居住者』
875 100.0	143 16.3	107 12.2	134 15.3	132 15.1	91 10.4	196 22.4	66 7.5	6 0.7	250 28.6	357 40.8	262 29.9

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。（〇は1つ）

全 体	非 常 に 感 じ る	少 し は 感 じ る	あ ま り 感 じ な い	感 じ な い	わ か ら な い	無 回 答
875 100.0	385 44.0	364 41.6	71 8.1	26 3.0	24 2.7	5 0.6

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。（〇は1つ）

全 体	住 み 続 け た い	で き れ ば 住 み 続 け た い	で き れ ば 転 出 し た い	転 出 し た い	わ か ら な い	無 回 答
875 100.0	472 53.9	307 35.1	16 1.8	5 0.6	70 8.0	5 0.6

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。（〇はいくつでも）

全 体	食料の備蓄 （1人1日3食分）	飲料水の備蓄 （1人1日3ℓ分）	簡易トイレの備蓄	家具類の転倒・落下・移動 防止やガラス飛散防止	消火器の備え	救急セットの備え	パールやハンマーなどの救 助用工具の備え	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	救命救助の講習会への参加	町会・自治会などの地域の 防災訓練への参加	避難方法、避難場所の確認	家庭での連絡方法などの話 し合い	建物の補強	その他	特 に な い	無 回 答
875 100.0	527 60.2	593 67.8	419 47.9	274 31.3	459 52.5	338 38.6	124 14.2	177 20.2	152 17.4	69 7.9	94 10.7	324 37.0	256 29.3	32 3.7	23 2.6	77 8.8	9 1.0

問5 区では発災後も自宅の安全が確保できる場合には「在宅避難」を推奨しています。
あなたは、このことを知っていますか。（〇は1つ）

上段：件数
下段：%

全 体	知 っ て い る	知 っ て い る が、 ど の よ う な 対 策	知 ら な い	無 回 答
875 100.0	379 43.3	175 20.0	317 36.2	4 0.5

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、災害時に火災や倒壊などにより自宅で継続して生活できない人が避難生活する場所として、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所のほか救護所などの機能を持っています。
また、「防災拠点」を運営するため、町会・自治会や防災区民組織が中心となり「防災拠点運営委員会」をつくり、災害に備えた協力体制をとっています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」および「防災拠点運営委員会」を知っていますか。
（〇は1～3で1つ、4～6で1つ）

	全 体	知 っ て い る し、 場 所 も 知 っ て い る	知 っ て い る が、 場 所 は わ か ら な い	知 ら な い	無 回 答
防災拠点	875 100.0	489 55.9	150 17.1	230 26.3	6 0.7
防災拠点運営委員会	875 100.0	59 6.7	219 25.0	575 65.7	22 2.5

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。（〇はいくつでも）

全 体	水・食料	トイレ	プライバシー	否 家族・友人・知人などの安	災害状況・対策などの情報	携帯電話などの充電設備	医療・医薬品	高齢者介護や乳幼児保育	スペースの確保	暑さ寒さ対策	ペットの世話	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
875 100.0	607 69.4	726 83.0	512 58.5	509 58.2	350 40.0	517 59.1	409 46.7	176 20.1	336 38.4	443 50.6	117 13.4	40 4.6	2 0.2	5 0.6	4 0.5

問8 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。（〇はいくつでも）

上段：件数
下段：%

無回答	その他	ケーブルテレビ	緊急告知ラジオ※	防災行政無線（屋外スピーカー）	X（旧Twitter）やFacebookなどSNS（ソーシャルネットワークやブログサービス）	インターネット	ちゅうおう安全・安心メール	防災マップアプリ	区のホームページ	全 体
20.3	1.4	4.0	26.1	31.3	40.5	55.1	18.2	25.6	38.5	100.0

3 健康診査

問9 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）

全 体	区で実施している健康診査を受けた	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他	健康診査は受けていない	無回答
875 100.0	204 23.3	400 45.7	91 10.4	103 11.8	18 2.1	40 4.6	133 15.2	17 1.9

（問9で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

問9-1 問9-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。（〇はいくつでも）

全 体	勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない	受診方法がわからない	必要がない	時間がない	面倒である	健康に自信がある	病気で医者にかかっている	検査がいや	病気と診断されるのが怖い	費用がかかる	その他	無回答
133 100.0	19 14.3	6 4.5	4 3.0	34 25.6	35 26.3	5 3.8	30 22.6	23 17.3	12 9.0	12 9.0	23 17.3	0 0.0

4 高齢者施策

上段：件数
下段：%

問10 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。
(もっとも近い考え1つに○)

全 体	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えながら暮らしたい	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
875 100.0	68 7.8	321 36.7	219 25.0	78 8.9	76 8.7	11 1.3	80 9.1	22 2.5

問11 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これから高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。(○はいくつでも)

無回答	特にない	低所得者への経済的支援	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	高齢者向け住宅の整備・誘致	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設整備・誘致	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	就労・社会参加の促進	健康づくり・介護予防の充実	全体
7 0.8	28 3.2	194 22.2	454 51.9	355 40.6	354 40.5	500 57.1	243 27.8	346 39.5	875 100.0

5 子育て支援

問12 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

無回答	子育てを経験していない	特に相談しない	その他	（健診時などで）保健所、保健センターの担当者	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の先生	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の保護者の仲間	隣近所の人、知人、友人	職場の人	その他の親族	配偶者・パートナー	全体
90	360	99	22	19	13	25	27	66	38	124	257	875
10.3	41.1	11.3	2.5	2.2	1.5	2.9	3.1	7.5	4.3	14.2	29.4	100.0

問13 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。（○は2つまで）
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。（○はいくつでも）

上段：件数
下段：%

重要と考えるもの（○は2つまで）

無回答	特にな い	経済的な支援	児童虐待防止対策	職業生活と家庭生活との両立の支援	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	情報の提供や相談サービス	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	保育園・認定こども園・地域型保育事業所※・幼稚園などの施設整備	全 体
92 10.5	79 9.0	130 14.9	63 7.2	170 19.4	18 2.1	103 11.8	34 3.9	110 12.6	73 8.3	41 4.7	345 39.4	246 28.1	875 100.0

さらに充実を図る必要があると考えるもの（○はいくつでも）

無回答	特にない	経済的な支援	児童虐待防止対策	職業生活と家庭生活との両立の支援	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	情報の提供や相談サービス	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	保育園・認定こども園・地域型保育事業所※・幼稚園などの施設整備	全体
136	87	187	154	245	104	219	125	221	187	94	334	265	875
15.5	9.9	21.4	17.6	28.0	11.9	25.0	14.3	25.3	21.4	10.7	38.2	30.3	100.0

6 男女共同参画社会

問14 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。
（○はそれぞれ1つずつ）

	全 体	女 性 が 優 遇 さ れ て い る	性 ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 に な っ て い る	性 ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	無 回 答
(1) 家庭では	875 100.0	29 3.3	63 7.2	446 51.0	205 23.4	81 9.3	51 5.8
(2) 職場では	875 100.0	26 3.0	70 8.0	297 33.9	305 34.9	108 12.3	69 7.9
(3) 学校教育の場では	875 100.0	12 1.4	37 4.2	544 62.2	131 15.0	41 4.7	110 12.6
(4) 政治の場では	875 100.0	12 1.4	21 2.4	80 9.1	278 31.8	423 48.3	61 7.0
(5) 法律や制度では	875 100.0	22 2.5	52 5.9	280 32.0	280 32.0	171 19.5	70 8.0
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	875 100.0	14 1.6	31 3.5	106 12.1	389 44.5	274 31.3	61 7.0
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	875 100.0	17 1.9	57 6.5	335 38.3	264 30.2	101 11.5	101 11.5
(8) 社会全体では	875 100.0	14 1.6	59 6.7	162 18.5	428 48.9	159 18.2	53 6.1

上段：件数
下段： %

無回答	21.4	その他	14.6	現在仕事をしていない	192	どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している	142	仕事と家庭生活を同じように両立させている	230	どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している	158	仕事を優先している	118	全体	875
	2.4		1.6	21.9	16.2	26.3	18.1	13.5	100.0						

7 防犯対策

問16 あなたの住む地域で不安に感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

無回答	特にない	その他	悪質な客引き	暴力団員による犯罪	子どもの誘拐・連れ去り	少年犯罪	痴漢・強制わいせつ	放火	傷害・暴行	特殊詐欺（振り込め詐欺など）	自動車（自転車）泥棒・車上ねらい	すり・置き引き	強盗	空き巣	ひったくり	全 体
16	245	26	9	12	88	29	97	41	54	292	87	43	127	155	30	875
1.8	28.0	3.0	1.0	1.4	10.1	3.3	11.1	4.7	6.2	33.4	9.9	4.9	14.5	17.7	3.4	100.0

問17 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。（〇はいくつでも）

無回答	特に何もしていない	その他	エンタランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	全体
8	166	15	538	132	108	141	101	183	7	875
0.9	19.0	1.7	61.5	15.1	12.3	16.1	11.5	20.9	0.8	100.0

問18 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。（〇は2つまで）

上段：件数
下段： %

無回答	特にない	その他	地域の防犯パトロール活動などへの支援	通学路や公園などの安全対策	学校や児童館などの子どもの安全対策	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込み詐欺防止対策	住まいの防犯設備整備費用の助成	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	全体
40	74	16	138	188	177	24	407	57	113	199	875
4.6	8.5	1.8	15.8	21.5	20.2	2.7	46.5	6.5	12.9	22.7	100.0

8 スポーツ

問18 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。（〇はいくつでも）

釣り	ボウリング	サイクリング	ゲートボール、ゴルフ、スポーツ吹き矢など	フットサル、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、フットサル、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール	ダンス（フォークダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
31	45	114	7	40	19	80	18	
3.5	5.1	13.0	0.8	4.6	2.2	9.1	2.1	

(問19で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)
 問19-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。
 (〇は1つ)

上段：件数
 下段：%

全 体	週 に 3 日 以 上	週 に 1 〜 2 日 程 度	月 に 1 〜 3 日 程 度	3 カ 月 に 1 〜 2 日 程 度 (年 に 4 〜 1 1 日 程 度)	年 に 1 〜 3 日 程 度	無 回 答
797 100.0	198 24.8	261 32.7	130 16.3	34 4.3	25 3.1	149 18.7

(問19で、「4 ウォーキング、散歩」とお答えの方に)
 問19-2 あなたは、この1年間に区内のどのような場所でウォーキングや散歩を
 しましたか。(〇はいくつでも)

全 体	水 辺 や 公 園 な ど の 屋 外 空 間	住 宅 街 や オ フ イ ス 街 、 商 業 エ リ ア な ど の 屋 外 空 間	ス ポ ー ツ ジ ム や 体 育 館 な ど の 屋 内 空 間	そ の 他	無 回 答
570 100.0	452 79.3	353 61.9	54 9.5	9 1.6	2 0.4

9 地域のコミュニティ活動

問20 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後に、あなたが再開した、
 または新たに始めたコミュニティ活動は何ですか。(〇は1つ)

無回答	特にない	その他	子どもに関する活動（青少年対策地区委員会、PTA、読み聞かせなど）	環境美化活動（まちかどクリーンデーへの参加、花壇・公園の清掃など）	福祉活動（子育ての手助け、高齢者の見守りへの協力など）	防災・防犯活動（防災訓練、交通安全、地域の見回りなど）	地域のスポーツ活動（体を動かす機会の提供、技術指導など）	地域の文化・生涯学習活動（伝統文化の普及啓発、団体での演奏など）	祭礼（おみこし・山車への参加など）	地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）	町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など）	全体
54 6.2	612 69.9	10 1.1	15 1.7	4 0.5	1 0.1	6 0.7	12 1.4	11 1.3	50 5.7	82 9.4	18 2.1	875 100.0

問21 新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行したことを踏まえ、
あなたがコミュニティに求めるものは何ですか。（〇はいくつでも）

上段：件数
下段： %

全 体	顔 を 合 わ せ た ら 挨 拶 で き る 近 所 付 き	地 域 イ ベ ン ト へ の 参 加 を 通 じ た 地 域 の 方 と の 交 流	町 会 ・ 自 治 会 活 動 を 通 じ た 地 域 の 方 と の 交 流	N P O や ボ ラ ン テ ィ ア 団 体 に よ る 地 域 課 題 の 解 決	情 報 発 信 や オ ン ラ イ ン 上 で の 交 流	自 分 の 知 識 ・ 技 術 を 向 上 さ せ る こ と が で き る 取 り 組 み	災 害 時 の 安 否 確 認 や 共 助	高 齢 者 に 対 す る 訪 問 や 声 掛 け	公 園 や 道 路 環 境 の 維 持 ・ 向 上 を 通 じ た 地 域 の 方 と の 交 流	子 ど も の 成 長 を 助 け 合 え る 協 力 関 係	そ の 他	特 に な い	無 回 答
875 100.0	290 33.1	168 19.2	109 12.5	52 5.9	68 7.8	140 16.0	207 23.7	137 15.7	100 11.4	161 18.4	7 0.8	237 27.1	22 2.5

10 築地魚河岸

問22 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。（〇は1つ）

全 体	よ く 行 っ て い る	行 っ た こ と が あ る	知 っ て い る が 、 行 っ た こ と が な い	「 築 地 魚 河 岸 」 を 知 ら な い	無 回 答
875 100.0	121 13.8	427 48.8	204 23.3	107 12.2	16 1.8

（問22で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に）

問22-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。（〇はいくつでも）

全 体	1 階 の 店 舗 で 買 い 物 を す る た め	魚 河 岸 食 堂 で 食 事 を す る た め	イ ベ ン ト に 参 加 す る た め	そ の 他	無 回 答
548 100.0	374 68.2	170 31.0	17 3.1	45 8.2	37 6.8

(問22で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に)
 問22-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

上段：件数
 下段： %

全 体	1階の店舗について							魚河岸食堂について			その他		無 回 答
	おり、 プロが 厳選し て買 い物 がで きる	新 鮮 な も の が 買 え る	ス ー パ ー で は 買 え な い よ う な 珍 し い も の が 買 え る	ど こ で 買 っ て い い か わ か ら な い	同 じ よ う な も の を 扱 う 店 が 多 く 、 ど こ で 買 っ て い い か わ か ら な い	近 く の ス ー パ ー な ど の 違 い を 感 じ な い	一 般 の 人 も 気 軽 に 利 用 で き る 施 設 あ る こ と を 知 ら な い	混 雑 し て い る (イ メ ー ジ が あ る)	お い し い 料 理 が 食 べ ら れ る	食 堂 が あ る こ と を 知 ら な い	混 雑 し て い る (イ メ ー ジ が あ る)	い っ つ 、 ど の よ う な イ ベ ン ト を 開 催 し て い る か が わ か ら な い	築 地 魚 河 岸 の 場 所 が わ か ら な い
752 100.0	181 24.1	335 44.5	215 28.6	122 16.2	34 4.5	39 5.2	311 41.4	224 29.8	41 5.5	315 41.9	271 36.0	19 2.5	58 7.7

11 受動喫煙防止対策

問23 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。
 あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。(〇は1つだけ)

全 体	容 も 知 っ て い る	一 中 央 区 た ば こ ル ー ル の 内 容 ま で は 知 ら な い が 、 聞 い た こ と は あ る	知 ら な い	無 回 答
875 100.0	200 22.9	296 33.8	367 41.9	12 1.4

12 デジタル技術を活用した区民サービス

問24 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。
 (〇はいくつでも)

無回答	特にな い	その他	パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術 を十分に活用できない方への支援の充 実	区が保有するデータのオープンデータ化	区が開催する講座や説明会などのオンライ ン配信	オンライン対応可能な相談事業の拡大	デジタルツールなどを活用した窓口サービ スの改善	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	チャットボットを活用した自動応答サービ スの拡大	スマートフォンなどへの区民サービスの案 内の充実	マイナンバーカードを利用したオンライン 手続きの拡大	区役所に行かずに最初から最後までオンラ インでできる申請・届出手続きの拡大	オンライン手続きにおけるキヤツシユレス 決済の拡大	窓口手続きにおけるキヤツシユレス決済の 拡大	全 体
23	89	24	184	98	107	97	173	138	58	235	290	532	294	313	875
2.6	10.2	2.7	21.0	11.2	12.2	11.1	19.8	15.8	6.6	26.9	33.1	60.8	33.6	35.8	100.0

上段：件数
下段： %

問26 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。
(〇はいくつでも)

[illegible]

	無回答	35 4.0
	入手したいと思わない	46 5.3
	その他	14 1.6
	区の公式LINE	114 13.0
	区の公式Instagram	56 6.4
	区の公式Facebook	22 2.5
	区の公式X（旧Twitter）	102 11.7
	コミュニティFMラジオの中央エフエムの提供番組「中央区からのお知らせ」	12 1.4
	ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは中央区です」	18 2.1
	町会・自治会の掲示板や回覧板など	91 10.4
	区の広報揭示板	73 8.3
	区のホームページ	290 33.1
	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	108 12.3
	わたしの便利帳	53 6.1
	区の広報紙「区のおしらせ」（電子版）	143 16.3
	区の広報紙「区のおしらせ」（紙版）	415 47.4
全体	区の広報紙「区のおしらせ　ちゅうおう」（紙版）	875 100.0

14 環境

上段：件数
下段：%

問28 あなたは、この1年間で区内のみどりが増えたと思いますか。（○は1つ）

全 体	増 え た と 思 う	減 つ た と 思 う	変 わ ら な い と 思 う	わ か ら な い	無 回 答
875 100.0	135 15.4	57 6.5	483 55.2	190 21.7	10 1.1

問29 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。（○はいくつでも）

全 体	動 電 ・ 節 水 な ど の 環 境 配 慮 活 動 に 努 め て い る	ご み ・ 資 源 の 分 別 を し て い る	ベ ラ ン ダ ・ 壁 面 な ど を 利 用 し て 緑 を 育 て て い る	食 品 ロ ス が 発 生 し な い よ う に 配 慮 し て い る	そ の 他	特 に 取 り 組 ん で い な い	無 回 答
875 100.0	398 45.5	732 83.7	97 11.1	519 59.3	11 1.3	52 5.9	11 1.3

問30 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。（○はいくつでも）

無回答	その他	社員等への環境教育による環境配慮への意識向上	森林整備の支援などによる環境活動への参加	建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減	ZEV※（ゼロ・エミツション・ビークル）などの積極的な導入	再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用	建物のZEB※（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化	再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入	全体
54 6.2	26 3.0	248 28.3	248 28.3	359 41.0	200 22.9	342 39.1	260 29.7	473 54.1	875 100.0

15 伝統と文化

上段：件数
下段：%

問31 江戸開府以来、東京の経済・文化の中心として発展を遂げてきた中央区の各エリアは、それぞれの歴史に裏打ちされた特色があり、数多くの有形・無形の文化資源を有しています。あなたが思う「中央区ならではの伝統と文化」とは、どのようなものですか。

(○はいくつでも)

全 体	歌舞伎や演劇などの伝統芸能	伝統工芸品	老舗	歴史的な建造物（重要文化財など）	問屋街、下町、築地場外市場など	特色のある街並み（金融街、画廊やギャラリー）	食文化	祭りや行事	その他	わからない	無回答
875 100.0	612 69.9	145 16.6	593 67.8	425 48.6	552 63.1	121 13.8	275 31.4	390 44.6	9 1.0	28 3.2	17 1.9

(問31で、「1 歌舞伎や演劇などの伝統芸能」から「9 その他」のいずれかにお答えの方に)

問31-1 あなたは、問27で選択した「中央区ならではの伝統と文化」について、身近に感じていますか。(○は1つ)

全 体	非常に感じる	少しは感じる	あまり感じない	感じない	わからない	無回答
830 100.0	274 33.0	370 44.6	89 10.7	18 2.2	16 1.9	63 7.6

16 施策の要望・評価

上段：件数
下段：%

問32 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	全 体	満 足	やや 満 足	普 通	やや 不 満	不 満	無 回 答	評 価 点 （点 数）
(1) 子育て支援	875 100.0	53 6.1	138 15.8	493 56.3	60 6.9	30 3.4	101 11.5	0.80
(2) 障害者福祉	875 100.0	31 3.5	65 7.4	621 71.0	38 4.3	17 1.9	103 11.8	0.36
(3) 高齢者福祉・介護	875 100.0	36 4.1	91 10.4	564 64.5	76 8.7	24 2.7	84 9.6	0.25
(4) 保健衛生	875 100.0	54 6.2	158 18.1	518 59.2	39 4.5	12 1.4	94 10.7	1.30
(5) 男女共同参画社会の推進	875 100.0	18 2.1	55 6.3	633 72.3	44 5.0	17 1.9	108 12.3	0.08
(6) 住宅対策	875 100.0	24 2.7	85 9.7	492 56.2	141 16.1	42 4.8	91 10.4	-0.59
(7) 公園・緑地の整備	875 100.0	104 11.9	240 27.4	320 36.6	97 11.1	44 5.0	70 8.0	1.63
(8) 水辺環境の整備	875 100.0	127 14.5	230 26.3	344 39.3	61 7.0	29 3.3	84 9.6	2.31
(9) 消費者生活対策	875 100.0	28 3.2	80 9.1	551 63.0	94 10.7	31 3.5	91 10.4	-0.13
(10) 環境保全・公害対策	875 100.0	40 4.6	94 10.7	555 63.4	63 7.2	23 2.6	100 11.4	0.42
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	875 100.0	61 7.0	169 19.3	490 56.0	58 6.6	12 1.4	85 9.7	1.32
(12) 駐車場・駐輪場の整備	875 100.0	44 5.0	77 8.8	431 49.3	168 19.2	69 7.9	86 9.8	-0.89
(13) 道路環境整備、交通安全対策	875 100.0	57 6.5	119 13.6	505 57.7	79 9.0	29 3.3	86 9.8	0.61
(14) 防災対策	875 100.0	42 4.8	135 15.4	549 62.7	55 6.3	13 1.5	81 9.3	0.87
(15) 防犯対策	875 100.0	45 5.1	99 11.3	562 64.2	69 7.9	14 1.6	86 9.8	0.58
(16) 再開発などによる地域整備	875 100.0	68 7.8	146 16.7	440 50.3	89 10.2	38 4.3	94 10.7	0.75
(17) 中小企業対策	875 100.0	19 2.2	45 5.1	619 70.7	71 8.1	18 2.1	103 11.8	-0.16
(18) 学校教育の充実	875 100.0	41 4.7	103 11.8	538 61.5	72 8.2	19 2.2	102 11.7	0.49
(19) 青少年対策	875 100.0	21 2.4	49 5.6	640 73.1	44 5.0	12 1.4	109 12.5	0.15
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	875 100.0	24 2.7	127 14.5	562 64.2	57 6.5	12 1.4	93 10.6	0.60
(21) コミュニティの育成	875 100.0	19 2.2	65 7.4	611 69.8	66 7.5	12 1.4	102 11.7	0.08
(22) 観光振興	875 100.0	60 6.9	159 18.2	505 57.7	45 5.1	11 1.3	95 10.9	1.36
(23) デジタル化の推進	875 100.0	22 2.5	63 7.2	508 58.1	136 15.5	53 6.1	93 10.6	-0.86
(24) 区の施策を総合的に見ると	875 100.0	36 4.1	199 22.7	491 56.1	49 5.6	14 1.6	86 9.8	1.23

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点＝（「満足」の回答者数×10点＋「やや満足」の回答者数×5点＋「普通」の回答者数×0点
＋「やや不満」の回答者数×－5点＋「不満」の回答者数×－10点）÷（回答者数－無回答者数）

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、＋10.00点～－10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、
＋10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に－10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問32 あなたは、区の施策についてどの程度重視していますか。重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

上段：件数
下段：%

	全 体	たい へん 重要	比較 的 重要	普 通	無 回 答	評価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	875 100.0	460 52.6	171 19.5	132 15.1	112 12.8	7.15
(2) 障害者福祉	875 100.0	292 33.4	252 28.8	217 24.8	114 13.0	5.49
(3) 高齢者福祉・介護	875 100.0	404 46.2	213 24.3	161 18.4	97 11.1	6.56
(4) 保健衛生	875 100.0	281 32.1	270 30.9	207 23.7	117 13.4	5.49
(5) 男女共同参画社会の推進	875 100.0	136 15.5	265 30.3	350 40.0	124 14.2	3.58
(6) 住宅対策	875 100.0	231 26.4	278 31.8	252 28.8	114 13.0	4.86
(7) 公園・緑地の整備	875 100.0	272 31.1	322 36.8	177 20.2	104 11.9	5.62
(8) 水辺環境の整備	875 100.0	250 28.6	321 36.7	192 21.9	112 12.8	5.38
(9) 消費者生活対策	875 100.0	220 25.1	278 31.8	261 29.8	116 13.3	4.73
(10) 環境保全・公害対策	875 100.0	258 29.5	284 32.5	217 24.8	116 13.3	5.27
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	875 100.0	246 28.1	306 35.0	207 23.7	116 13.3	5.26
(12) 駐車場・駐輪場の整備	875 100.0	169 19.3	293 33.5	296 33.8	117 13.4	4.16
(13) 道路環境整備、交通安全対策	875 100.0	225 25.7	285 32.6	244 27.9	121 13.8	4.87
(14) 防災対策	875 100.0	431 49.3	207 23.7	131 15.0	106 12.1	6.95
(15) 防犯対策	875 100.0	367 41.9	252 28.8	146 16.7	110 12.6	6.44
(16) 再開発などによる地域整備	875 100.0	194 22.2	308 35.2	257 29.4	116 13.3	4.58
(17) 中小企業対策	875 100.0	131 15.0	251 28.7	369 42.2	124 14.2	3.42
(18) 学校教育の充実	875 100.0	307 35.1	223 25.5	224 25.6	121 13.8	5.55
(19) 青少年対策	875 100.0	200 22.9	246 28.1	291 33.3	138 15.8	4.38
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	875 100.0	135 15.4	286 32.7	325 37.1	129 14.7	3.73
(21) コミュニティの育成	875 100.0	105 12.0	281 32.1	358 40.9	131 15.0	3.30
(22) 観光振興	875 100.0	149 17.0	276 31.5	329 37.6	121 13.8	3.81
(23) デジタル化の推進	875 100.0	286 32.7	266 30.4	200 22.9	123 14.1	5.57

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点＝（「たいへん重要」の回答者数×10点＋「比較的重要」の回答者数×5点
＋「普通」の回答者数×0点）÷（回答者数－無回答者数）

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、＋10.00点～0点の間に分布し、＋10.00点に近くなるほど重要度が高くなる。

17 フェイスシート

上段：件数
下段：%

F 1 性別（○は1つ）

全 体	男 性	女 性	回 答 し な い	無 回 答
875	372	471	16	16
100.0	42.5	53.8	1.8	1.8

F 2 年齢（○は1つ）

全 体	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以 上	無 回 答
875	54	143	161	220	74	52	46	106	19
100.0	6.2	16.3	18.4	25.1	8.5	5.9	5.3	12.1	2.2

性／年齢別

全 体	男 性								女 性								性 別 ま た は 年 齢 無 回 答
	男 性 1 8 ～ 2 9 歳	男 性 3 0 歳 代	男 性 4 0 歳 代	男 性 5 0 歳 代	男 性 6 0 ～ 6 4 歳	男 性 6 5 ～ 6 9 歳	男 性 7 0 ～ 7 4 歳	男 性 7 5 歳 以 上	女 性 1 8 ～ 2 9 歳	女 性 3 0 歳 代	女 性 4 0 歳 代	女 性 5 0 歳 代	女 性 6 0 ～ 6 4 歳	女 性 6 5 ～ 6 9 歳	女 性 7 0 ～ 7 4 歳	女 性 7 5 歳 以 上	
875	22	51	68	102	37	24	17	51	31	90	88	113	36	27	29	55	34
100.0	2.5	5.8	7.8	11.7	4.2	2.7	1.9	5.8	3.5	10.3	10.1	12.9	4.1	3.1	3.3	6.3	3.9

F 3 あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

全 体	自 営 業 （ 家 族 従 業 を 含 む ）	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 （ 主 婦 ・ 主 夫 ）	無 職 （ 学 生 ）	無 職 （ そ の 他 ）	無 回 答
875	135	436	59	121	16	83	25
100.0	15.4	49.8	6.7	13.8	1.8	9.5	2.9

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。（○は1つ）

上段：件数
下段：%

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答
875 100.0	204 23.3	262 29.9	388 44.3	21 2.4

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。（○は1つ）

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	9 人	1 0 人 以 上	「6人以上」に回答して 具体的な人数欄無回答	無 回 答
875 100.0	204 23.3	357 40.8	158 18.1	110 12.6	22 2.5	1 0.1	1 0.1	0 0.0	1 0.1	0 0.0	1 0.1	20 2.3

F 6 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

全 体	単 身 （ 本 人 の み ）	夫 婦 の み （ 1 世 代 世 帯 ）	親 と 子 （ 2 世 代 世 帯 ）	親 と 子 と 孫 （ 3 世 代 世 帯 ）	そ の 他 の 世 帯	無 回 答
875 100.0	181 20.7	307 35.1	317 36.2	18 2.1	22 2.5	30 3.4

F 7 あなた自身は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

全 体	独 身	子 ど も の い な い 夫 婦	入 学 前 一 番 上 の 子 ど も が 小 学 校	学 生 一 番 上 の 子 ど も が 小 ・ 中	大 学 生 一 番 上 の 子 ど も が 高 校 ・	業 一 番 上 の 子 ど も が 学 校 卒	そ の 他	無 回 答
875 100.0	222 25.4	223 25.5	60 6.9	102 11.7	42 4.8	112 12.8	69 7.9	45 5.1

F 8 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

上段：件数
下段： %

全 体	持 家		借 家						その他	無回答
	一戸建	分譲マンション	一戸建	公共住宅（区立、区営、都営、公社、都市再生機構（旧公団））	民間木造アパート	民間鉄筋アパート、マンション	社宅、官舎、寮	間借り、住込み		
875 100.0	58 6.6	427 48.8	6 0.7	62 7.1	2 0.2	251 28.7	21 2.4	3 0.3	10 1.1	35 4.0

（F 8で、「2 分譲マンション」「4 公共住宅」「5 民間木造アパート」「6 民間鉄筋アパート、マンション」「7 社宅、官舎、寮」とお答えの方に）

F 8－1 お住まいの階層

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	1 0 階 以上	無 回 答	1 ～ 5 階	6 ～ 9 階	1 0 階 以上
分譲マンション	427 100.0	1 0.2	20 4.7	12 2.8	22 5.2	22 5.2	27 6.3	29 6.8	27 6.3	19 4.4	161 37.7	87 20.4	77 18.0	102 23.9	161 37.7
公共住宅	62 100.0	0 0.0	3 4.8	3 4.8	4 6.5	2 3.2	1 1.6	0 0.0	2 3.2	2 3.2	22 35.5	23 37.1	12 19.4	5 8.1	22 35.5
民間木造アパート	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
民間鉄筋アパート、 マンション	251 100.0	2 0.8	14 5.6	15 6.0	17 6.8	29 11.6	18 7.2	17 6.8	13 5.2	14 5.6	75 29.9	37 14.7	77 30.7	62 24.7	75 29.9
社宅、官舎、寮	21 100.0	0 0.0	0 0.0	4 19.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0	2 9.5	1 4.8	1 4.8	1 4.8	11 52.4	5 23.8	4 19.0	1 4.8

F 9 あなたの国籍はどちらですか。（○は1つ）

全 体	日 本	日 本 以 外 （外 国 籍）	無 回 答
875	834	21	20
100.0	95.3	2.4	2.3

ライフステージ

全 体	独 身 期	家 族 形 成 期	家 族 成 長 前 期	家 族 成 長 後 期	家 族 成 熟 期	老 齡 期	そ の 他	無 回 答
875	71	117	102	42	62	185	246	50
100.0	8.1	13.4	11.7	4.8	7.1	21.1	28.1	5.7

Ⅵ 使用した調査票

区政世論調査ご協力のお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第 54 回 区政世論調査」を行うことといたしました

今回も、満 18 歳以上の区民の皆さま 2,000 人を対象に、防災対策、高齢者施策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政運営の参考資料とするために実施するものです。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人の回答内容やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

今回の調査票をお送りしましたのは、区の住民基本台帳から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。

調査の趣旨をご理解の上、ご回答くださいますようよろしくお願い申し上げます。

令和 6 年 5 月

中央区企画部広報課

<回答にあたってのお願い>

◎封筒宛名のご本人様がお答えください。

(記入が困難な場合は、本人同意の上で、別の方が回答を代筆しても構いません。)

◎質問によっては、○印は(1つ)や(3つまで)(いくつでも)などの指定がありますので、それに合わせて回答をしてください。

◎「その他」の番号を選んだ場合には、()内に具体的な内容をご記入ください。

◎回答は、**令和 6 年 5 月 29 日(水)**までに《**郵送**》または《**インターネット**》

いずれかの方法で、投函もしくは送信してください。

【調査受託事業者・お問い合わせ先(回答方法)】

株式会社ケー・デー・シー 担当：佐藤、佐久間
東京都港区虎ノ門4-2-12 虎ノ門4丁目 MT ビル2号館8階
電 話：03-5733-5111
受付時間：月～金曜日(祝日を除く)9:00～17:30

※外国語[英語、中国語(簡体)]で書かれた調査票が必要な方は、
上記へお問い合わせください。

※If you need a questionnaire written in a foreign language
(English, Chinese (simplified or traditional)), please contact us.

【調査主体・お問い合わせ先(調査内容)】

中央区役所 企画部広報課広聴係 担当：渡邊、白石
東京都中央区築地1-1-1
電 話：03-3546-5222(直通)
受付時間：月～金曜日(祝日を除く)8:30～17:00

郵送での回答方法

手順1 調査票に回答してください。

- ・あらかじめ設けてある選択肢の中から、当てはまる項目の番号に○を付けてください。
- ・ボールペン記載で誤った場合は、二重線で消し、正しい回答に○を付けてください。

手順2 調査票を郵送してください。

- ・回答が終わりましたら、同封の返信用封筒（中央区役所宛）に入れて令和6年5月29日（水）までに投函してください（切手は不要です）。
- ・調査票と返信用封筒への記名は不要です（無記名でご回答ください）。

インターネットでの回答方法

（パソコン、スマートフォン、タブレットから回答できます。）

手順1 中央区ホームページから該当ページへアクセスしてください。

※スマートフォン等から回答する場合は、「手順3」＜スマートフォン等で回答する場合＞へ中央区ホームページ（ ）の画面上部にある「ページID」の検索窓で『78』と入力し、検索してください。



手順2 区政世論調査のページから回答専用ページにアクセスをしてください。

「令和6年 第54回区政世論調査の実施について」の『回答専用ページ』を選択して、「回答専用ページ」にアクセスしてください。

調査期間	分類別で探す
令和6年5月8日（水曜日）～令和6年5月29日（水曜日）	＞ 暮らし・手続き ＞ 防災・安全 ＞ 健康・医療・福祉 ＞ 子育て・教育 ＞ 文化・観光・スポーツ ＞ まちづくり・環境 ＞ しごと・産業 ＞ 区政情報
郵送での回答	
・調査票に記入の上、同封の返信用封筒に入れて、5月29日（水曜日）までにポストに投函してください（切手は不要です）。	
インターネットでの回答	
・<u>回答専用ページ（外部サイトヘリンク）</u>からログインをしてください。 ・5月29日（水曜日）23時59分59秒まで回答が可能です。 ・回答できるのは、調査票が届いた方のみとなります。	

手順3 回答専用ページからログインをしてください。

「回答専用ページ」をクリックすると、ログインページが表示されるので、以下の ID とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンを選択してください。

<スマートフォン等で回答する場合>

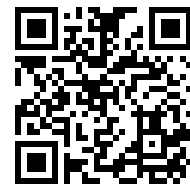
- ・以下の二次元コードを読み取るとログインページが表示されます。
- ・以下の ID とパスワードを入力して「ログイン」ボタンを選択し、順番に回答してください。

※二次元コードを読み取ることができない場合は、各端末から中央区ホームページにアクセスし、「区政世論調査」ページの中の『回答専用ページ』を選択してください。

インターネット回答用の
あなたの ID とパスワード

インターネット回答用
二次元コード

ID	Chuo2002
パスワード	



※ID、パスワードは、半角英数で計 8 文字です。
ID とパスワードは、個人を特定するものではありません。

手順4 順番に回答してください。

- ・選択肢の中から当てはまる項目の番号を選択し、「次へ」をクリックしてください。
- ・すべての回答が終わりましたら、回答終了の画面が表示されますので、その時点で回答は終了です。
- ・令和6年5月29日（水）までに回答を送信してください。

<注意事項>

- ・ブラウザ、スマートフォンの「戻る」機能は使えません。
- ・通信サービスの接続料金は利用者様の負担となります。
- ・回答を中断する際はブラウザ上のタブを閉じると自動的に回答が保存されますが、通信状況が悪かったり、回答の操作を長時間行わず放置するとページの再読み込みが行われ回答が保存されません。

第 54 回 区 政 世 論 調 査 票

1 定住性

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 3年未満 | 4 10～15年未満 | 6 20年以上 |
| 2 3～6年未満 | 5 15～20年未満 | 7 生まれてからずっと |
| 3 6～10年未満 | | |

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 非常に感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 少しは感じる | 4 感じない | |

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| 1 住み続けたい | 3 できれば転出したい | 5 わからない |
| 2 できれば住み続けたい | 4 転出したい | |

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1 食料の備蓄 → () 日分 (1人1日3食分) |
| 2 飲料水の備蓄 → () 日分 (1人1日3ℓ分) |
| 3 簡易トイレの備蓄 → () 日分 |
| 4 家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止 |
| 5 消火器の備え |
| 6 救急セットの備え |
| 7 バールやハンマーなどの救助用工具の備え |
| 8 貴重品を持ち出す準備 |
| 9 風呂などへの水のため置き |
| 10 救命救助の講習会への参加 |
| 11 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加 |
| 12 避難方法、避難場所の確認 |
| 13 家庭での連絡方法などの話し合い |
| 14 建物の補強 |
| 15 その他 () |
| 16 特にない |

問5 区では発災後も自宅の安全が確保できる場合には「在宅避難」を推奨しています。
あなたは、このことを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 1 知っている | 3 知らない |
| 2 知っているが、どのような対策をしてよいかわからない | |

問6 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、災害時に火災や倒壊などにより自宅で継続して生活できない人が避難生活する場所として、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所のほか救護所などの機能を持っています。

また、「防災拠点」を運営するため、町会・自治会や防災区民組織が中心となり「防災拠点運営委員会」をつくり、災害に備えた協力体制をとっています。

あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」および「防災拠点運営委員会」を知っていますか。
(○は1～3で1つ、4～6で1つ)

防災拠点	1 知っているし、場所も知っている	2 知っているが、場所はわからない	3 知らない
防災拠点運営委員会	4 知っているし、活動内容も知っている	5 知っているが、活動内容はわからない	6 知らない

問7 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 水・食料
2 トイレ
3 プライバシー
4 家族・友人・知人などの安否
5 災害状況・対策などの情報
6 携帯電話などの充電設備
7 医療・医薬品
8 高齢者介護や乳幼児保育
9 スペースの確保
10 暑さ寒さ対策
11 ペットの世話
12 その他 ()
13 特にな
14 わからない |
|---|

問8 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 区のホームページ
- 2 防災マップアプリ
- 3 ちゅうおう安全・安心メール
- 4 インターネット
- 5 X（旧Twitter）やFacebookなどSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
- 6 防災行政無線（屋外スピーカー）
- 7 緊急告知ラジオ※
- 8 ケーブルテレビ
- 9 その他（)

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

3 健康診査※

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

問9 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。(○はいくつでも)

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問9で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

→ 問9-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（)

4 高齡者施策

問10 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい
- 2 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい
- 3 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい
- 4 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい
- 5 介護付き有料老人ホームに入りたい
- 6 その他（
- 7 わからない

問11 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 健康づくり・介護予防の充実
- 2 就労・社会参加の促進
- 3 在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実
- 4 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致
- 5 高齢者向け住宅の整備・誘致
- 6 ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援
- 7 低所得者への経済的支援
- 8 特になし

問11-1 問11で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

5 子育て支援

問12 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

1	配偶者・パートナー	
2	その他の親族	
3	職場の人	
4	隣近所の人、知人、友人	
5	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の保護者の仲間	
6	保育園・認定こども園※・幼稚園・学校の先生	
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	
9	その他 ()	
10	特に相談しない	
11	子育てを経験していない	

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問13 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(○は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

	重要と考えるもの (○は2つまで)	さらに充実を図る必要 があるとするもの (○はいくつでも)
1 保育園・認定こども園・地域型保育事業所※・幼稚園などの施設整備	1	1
2 一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	2	2
3 子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	3	3
4 子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	4	4
5 放課後などにおける児童の遊びや生活の場	5	5
6 情報の提供や相談サービス	6	6
7 公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	7	7
8 母親と乳幼児などの健康の確保および増進	8	8
9 職業生活と家庭生活との両立の支援	9	9
10 児童虐待防止対策	10	10
11 経済的な支援	11	11
12 特にない	12	12

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問13－1 あなたが問13で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

6 男女共同参画社会※

※ 男女共同参画社会 男女が、その人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

問14 あなたは、次にあげる分野の男女の平等についてどのように感じていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	1 女性が優遇されている	2 どちらかといえば 女性が優遇されている	3 平等になっている	4 どちらかといえば 男性が優遇されている	5 男性が優遇されている
(記入例) (1) 家庭では	1	2	③	4	5
(1) 家庭では	1	2	3	4	5
(2) 職場では	1	2	3	4	5
(3) 学校教育の場では	1	2	3	4	5
(4) 政治の場では	1	2	3	4	5
(5) 法律や制度では	1	2	3	4	5
(6) 社会通念・慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5
(7) 自治会やPTAなどの地域活動では	1	2	3	4	5
(8) 社会全体では	1	2	3	4	5

問15 あなた自身のワーク・ライフ・バランス※(「仕事」と「家庭生活」の調和)について、現状は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

※ ワーク・ライフ・バランス

仕事と仕事以外の家庭生活とのバランスを図ることにより、家庭や地域活動などに参加できる時間を確保しながら充実した生活を送ることが重要であるという考え方です。

- | |
|--|
| 1 仕事を優先している
2 どちらかといえば家庭生活よりも仕事を優先している
3 仕事と家庭生活を同じように両立させている
4 どちらかといえば仕事よりも家庭生活を優先している
5 現在仕事をしていない
6 その他 () |
|--|

7 防犯対策

問16 あなたの住む地域で不安に感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

1 ひったくり	9 痴漢・強制わいせつ
2 空き巣	10 少年犯罪
3 強盗	11 子どもの誘拐・連れ去り
4 すり・置き引き	12 暴力団員による犯罪
5 自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	13 悪質な客引き
6 特殊詐欺(振り込め詐欺など)	14 その他
7 傷害・暴行	()
8 放火	15 特にない

問17 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

1 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している
2 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている
3 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている
4 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている
5 防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している
6 警備会社などのセキュリティシステムを利用している
7 エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている
8 その他 ()
9 特に何もしていない

問18 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

1 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信
2 住まいの防犯設備整備費用の助成
3 自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策
4 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進
5 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動
6 学校や児童館などの子どもの安全対策
7 通学路や公園などの安全対策
8 地域の防犯パトロール活動などへの支援
9 その他 ()
10 特にない

8 スポーツ

問19 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(○はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）
- 2 体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）
- 5 マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）
- 6 武道（柔道、剣道、空手など）
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）
- 9 屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴（遊水）
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）
- 19 ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）
- 20 その他（ ）
- 21 スポーツや運動はしなかった

→ (問19で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

→ 問19-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3カ月に1～2日程度（年に4～11日程度） |
| 2 週に1～2日程度 | 5 年に1～3日程度 |
| 3 月に1～3日程度 | |

(問19で、「4 ウォーキング、散歩」とお答えの方に)

→ 問19-2 あなたは、この1年間に区内のどのような場所でウォーキングや散歩をしましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 水辺や公園などの屋外空間 | 3 スポーツジムや体育館などの屋内空間 |
| 2 住宅街やオフィス街、商業エリアなどの屋外空間 | 4 その他（ ） |

9 地域のコミュニティ活動

問20 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後に、あなたが再開した、または新たに始めたコミュニティ活動は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など） | |
| 2 地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など） | |
| 3 祭礼（おみこし・山車への参加など） | |
| 4 地域の文化・生涯学習活動（伝統文化の普及啓発、団体での演奏など） | |
| 5 地域のスポーツ活動（体を動かす機会の提供、技術指導など） | |
| 6 防災・防犯活動（防災訓練、交通安全、地域の見回りなど） | |
| 7 福祉活動（子育ての手助け、高齢者の見守りへの協力など） | |
| 8 環境美化活動（まちかどクリーンデーへの参加、花壇・公園の清掃など） | |
| 9 子どもに関する活動（青少年対策地区委員会、PTA、読み聞かせなど） | |
| 10 その他（ | ） |
| 11 特になし | |

問21 新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行したことを踏まえ、あなたがコミュニティに求めるものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1 顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い | |
| 2 地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流 | |
| 3 町会・自治会活動を通じた地域の方との交流 | |
| 4 NPOやボランティア団体による地域課題の解決 | |
| 5 インターネットやSNSを活用した情報発信やオンライン上での交流 | |
| 6 自分の知識・技術を向上させることができる取り組み | |
| 7 災害時の安否確認や共助 | |
| 8 高齢者に対する訪問や声掛け | |
| 9 公園や道路環境の維持・向上を通じた地域の方との交流 | |
| 10 子どもの成長を助け合える協力関係 | |
| 11 その他（具体的に | ） |
| 12 特になし | |

※ NPO Non-Profit Organization または Not-for-Profit Organization の略称で、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。

10 築地魚河岸※

※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

問22 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

1 よく行っている

2 行ったことがある

3 知っているが、行ったことがない

4 「築地魚河岸」を知らない → 問23へ

(問22で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

→ 問22-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

1 1階の店舗で買い物をするため

3 イベントに参加するため

2 魚河岸食堂で食事をするため

4 その他 ()

→ (問22で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に)

→ 問22-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。(○はいくつでも)

<1階の店舗について>

- 1 プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる
- 2 新鮮なものが買える
- 3 スーパーでは買えないような珍しいものが買える
- 4 同じようなものを扱う店が多く、どこで買っていいかわからない
- 5 近くのスーパーなどとの違いを感じない
- 6 一般の人でも気軽に利用できる施設であることを知らない
- 7 混雑している(イメージがある)

<魚河岸食堂について>

- 8 おいしい料理が食べられる
- 9 食堂があることを知らない
- 10 混雑している(イメージがある)

<その他>

- 11 いつ、どのようなイベントを開催しているかわからない
- 12 築地魚河岸の場所がわからない

1 1 受動喫煙防止対策

問23 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。
あなたは条例で定めた「中央区たばこルール※」を知っていますか。(○は1つだけ)

- 1 「中央区たばこルール」の内容も知っている
- 2 内容までは知らないが、聞いたことはある
- 3 知らない

※ 中央区たばこルール 公共の場所（区内全域の道路、公園、広場）での受動喫煙を防止するため、「喫煙者が守るべきルール」および「灰皿を設置する事業者が守るべきルール」を設けました。ルールには加熱式たばこも含まれます。

1 2 デジタル技術を活用した区民サービス

問24 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。
(○はいくつでも)

- 1 窓口手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大
- 2 オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済の拡大
- 3 区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる申請・届出手続きの拡大
- 4 マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大
- 5 スマートフォンなどへの区民サービスの案内の充実
- 6 チャットボット※を活用した自動応答サービスの拡大
- 7 オンラインでの窓口の混雑状況の配信
- 8 デジタルツールなどを活用した窓口サービスの改善※
- 9 オンライン対応可能な相談事業の拡大
- 10 区が開催する講座や説明会などのオンライン配信
- 11 区が保有するデータのオープンデータ化
- 12 パソコンやスマートフォンなどの情報通信技術を十分に活用できない方への支援の充実
- 13 その他（ ）
- 14 特にない

※ チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

※ デジタルツールを活用した窓口サービスの改善

「区役所に行く前にインターネットで自分に必要な手続き、持ち物などの案内を受けられる」「窓口・相談予約ができる」「複数の申請書に何度も同じことを記入しなくてよい」などデジタルツールを活用し、区役所の窓口サービスの利便性を向上する取り組みです。

13 広報

問 25 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」は月3回発行しています。

あなたは広報紙を読んだことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|------------|
| 1 よく読んでいる | 4 読んだことがない |
| 2 たまに読んでいる | 5 わからない |
| 3 読んだことがある | |

問 26 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。

(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」(紙版、電子版いずれも含みます) |
| 2 わたしの便利帳 |
| 3 区のパンフレットやチラシなどの印刷物 |
| 4 区のホームページ |
| 5 区の広報掲示板 |
| 6 町会・自治会の掲示板や回覧板など |
| 7 ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」 |
| 8 コミュニティFMラジオ 中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」 |
| 9 区の公式SNS (X (旧Twitter)・Facebook・Instagram・LINE) |
| 10 その他 () |
| 11 入手していない |

問 27 あなたは、今後、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのような手段で入手したいと考えていますか。(○は3つまで)

- | |
|--|
| 1 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」(紙版) |
| 2 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」(電子版) |
| 3 わたしの便利帳 |
| 4 区のパンフレットやチラシなどの印刷物 |
| 5 区のホームページ |
| 6 区の広報掲示板 |
| 7 町会・自治会の掲示板や回覧板など |
| 8 ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」 |
| 9 コミュニティFMラジオ 中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」 |
| 10 区の公式X(旧 Twitter) |
| 11 区の公式 Facebook |
| 12 区の公式 Instagram |
| 13 区の公式 LINE |
| 14 その他 () |
| 15 入手したいと思わない |

14 環境

問28 あなたは、この1年間で区内のみどりが増えたと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------|------------|
| 1 増えたと思う | 3 変わらないと思う |
| 2 減ったと思う | 4 わからない |

問29 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------|
| 1 節電・節水などの環境配慮活動に努めている |
| 2 ごみ・資源の分別をしている |
| 3 ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている |
| 4 食品ロスが発生しないように配慮している |
| 5 その他 () |
| 6 特に取り組んでいない |

問30 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入 |
| 2 建物のZEB※(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化 |
| 3 再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用 |
| 4 ZEV※(ゼロ・エミッション・ビークル)などの積極的な導入 |
| 5 建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減 |
| 6 森林整備の支援などによる環境活動への参加 |
| 7 社員等への環境教育による環境配慮への意識向上 |
| 8 その他 () |

※ ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

快適な室内環境を実現しながら、省エネや再生可能エネルギーを利用して建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のことです。

※ ZEV(ゼロ・エミッション・ビークル)

走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)のことです。

15 伝統と文化

問31 江戸開府以来、東京の経済・文化の中心として発展を遂げてきた中央区の各エリアは、それぞれの歴史に裏打ちされた特色があり、数多くの有形・無形の文化資源を有しています。あなたが思う「中央区ならではの伝統と文化」とは、どのようなものですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 歌舞伎や演劇などの伝統芸能 |
| 2 | 伝統工芸品 |
| 3 | 老舗 |
| 4 | 歴史的な建造物（重要文化財など） |
| 5 | 特色のある街並み（金融街、問屋街、下町、築地場外市場など） |
| 6 | 画廊やギャラリー |
| 7 | 食文化 |
| 8 | 祭りや行事 |
| 9 | その他（ |
| 10 | わからない |

(問31で、「1 歌舞伎や演劇などの伝統芸能」から「9 その他」のいずれかにお答えの方に)

→ 問31-1 あなたは、問31で選択した「中央区ならではの伝統と文化」について、身近に感じていますか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|--------|---|---------|---|-------|
| 1 | 非常に感じる | 3 | あまり感じない | 5 | わからない |
| 2 | 少しは感じる | 4 | 感じない | | |

16 施策の要望・評価

問32 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満 足 度					重 要 度		
	1 満 足	2 やや 満 足	3 普 通	4 やや 不 満	5 不 満	1 たい へん 重 要	2 比 較 的 重 要	3 普 通
(記入例) (1) 子育て支援	①	2	3	4	5	①	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 水辺環境の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) デジタル化の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(24) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5	1	2	3

問33 問32の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。

1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～23までの番号)

第 1 位	第 2 位	第 3 位

<フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。

これからお聞きすることは、これまでのお答えの内容を統計的に分類するためのものです。
ご協力をお願いします。

なお、回答しにくいと感じる設問については、お答えいただかなくて結構です。

F 1 性別（○は1つ）

1 男性	2 女性	3 回答しない
------	------	---------

F 2 年齢（○は1つ）

1 18～29歳	3 40歳代	5 60～64歳	7 70～74歳
2 30歳代	4 50歳代	6 65～69歳	8 75歳以上

F 3 あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

1 自営業（家族従業を含む）	3 アルバイト・パートタイマー	5 無職（学生）
2 勤め人	4 無職（主婦・主夫）	6 無職（その他）

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1 京橋地域（八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川）
2 日本橋地域（本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町）
3 月島地域（佃、月島、勝どき、豊海町、晴海）

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。（○は1つ）

1 1人	3 3人	5 5人
2 2人	4 4人	6 6人以上（ 人）

F 6 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1 単身（本人のみ）	4 親と子と孫（3世代世帯）
2 夫婦のみ（1世代世帯）	5 その他の世帯
3 親と子（2世代世帯）	（ ）

F 7 あなた自身は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

※同居・別居を問わず、現在の状況をお答えください。

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 独身 |
| 2 | 子どものいない夫婦 |
| 3 | 一番上の子どもが小学校入学前 |
| 4 | 一番上の子どもが小・中学生 |
| 5 | 一番上の子どもが高校・大学生 |
| 6 | 一番上の子どもが学校卒業 |
| 7 | その他 () |

F 8 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | | | |
|----|---|---------------------------------------|--|
| 持家 | 1 | 一戸建 | |
| | 2 | 分譲マンション () 階 | |
| 借家 | 3 | 一戸建 | |
| | 4 | 公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) () 階 | |
| | 5 | 民間木造アパート () 階 | |
| 家 | 6 | 民間鉄筋アパート、マンション () 階 | |
| | 7 | 社宅、官舎、寮 () 階 | |
| | 8 | 間借り、住込み | |
| | 9 | その他 () | |

F 9 あなたの国籍はどちらですか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----|---|------------|
| 1 | 日本 | 2 | 日本以外 (外国籍) |
|---|----|---|------------|

===== ご協力ありがとうございました =====

■最後に

記入もれがないかご確認いただき、三つ折りにして返信用封筒に入れ、**5月29日(水)までに**ポストへ投函をお願いいたします。切手は貼らずにお出してください。お名前を記入する必要はありません。なお、インターネットで回答された方は、この調査票の返送は不要です。

■調査結果については、令和6年9月中旬に報告書にまとめるとともに、概要版を作成します。調査報告書および概要版は、図書館や情報公開コーナー (区役所地下1階) で閲覧できるほか、中央区ホームページに掲載します。



▲ 区ホームページ「区政世論調査」



調査報告書（本編）と概要版は
中央区ホームページでもご覧になれます。

第54回 中央区政世論調査 報告書

令和6年9月

刊行物登録番号
6-046

- 発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
電話 03（3546）5222（直通）
- 実施 株式会社ケー・デー・シー
港区虎ノ門4丁目2丁目12号
電話 03（5733）5111
-

